

石器

石器類その他の分類にあたっては、大きさを含む形態・技法・想定される機能などを考慮した。器種名・技法名などは通常行われているものを採用した。記述は形態、技法の順に行う。なお、主要剥離面を「背面」、他の面を「片面」と称している。両面加工のものについては適宜呼んでいる。各種計測値・材質などは一覧表にまとめた。(石器一覧表1～32)

1 石 鏃

第1類(第17図1～3、図版14-2)；無茎で基部が明瞭に内湾する。正三角形に近いもの若干と、縦長二等辺三角形多数とからなる。両面加工に近いものが主であるが、背面はトリミングのみ施し、中央部を平坦なままに残すものもまた多く存在する。これは各器種・各類に共通する特徴であり、記憶されてよい。いわゆる「片脚鏃」に近い例も散見できる。

第2a類(同4～5、図版14-3)；基部の内湾の度合が第1類より小さく、体長のやや短かめのものである。押圧剥離を多用する。

第2b類(同6～8、図版16-1・2)；2aに近いが、体長がやや長目のものである。

第3a類(同9・10、図版16-3)；基部が直線的かかすかに内湾する。正三角形に近い。押圧剥離によるものが多い。

第3b類(同11～13、図版18)；縦長二等辺三角形である。他は3aに同じである。

第3c類(同14・15、図版20-1)；胴膨らみに近い形をなす。他は3aに似る。

第4類(同16・17、図版20-2)；柳葉形ないし両端が尖るもので、大小二種ある。

第5類(同18、図版20-3)；有茎で、押圧剥離による両面加工が行われる。

第6類(同19・20、図版20-3)；基部に丸味をもち西洋梨形に近い。

2 石 槍

その一端が尖り、大きさ・重量・厚さなどで鏃を越えるものを一応槍形とした。剥離の技法は鏃に比しかなり粗である。

第1類(同21～24)；基部に丸味をもつ。両面加工に近いものと背面トリミングのみのものがある。扁平なカコボコ形の断面をもつ。

第2類(同25～28)；基部が直線的なもの。両面加工的・片面加工的・両面トリミング的なものの三種がある。

第3類(同29)；細身の柳葉形で、両面加工のものトリミングのみのものがある。前者の横断面は薄い菱形、後者のそれは三角形に近い。

第4類(同30・31)；大形・巾広の柳葉形である。3類に似る。

3 石 匙

第1類(同32、図版22-2)；いわゆる横形で、片面はトリミング、背面はつまみ基部周辺

にのみ加工が行われる。つまみ上端が加撃点で、調整打面を残すものが多い。

第2類以下はいわゆる縦形であるが、そのほとんどが縦長剥片を素材に利用し、横断面形は三角形と浅い台形をなす。第1類と同様に調整打面を残す例が多い。

第2類(同33、図版22-2)；体部に丸味をもつ。断面三角形で片面トリミング、背面つまみ基部周辺に剥離が行われる。

第3a類(同34~38、図版22-3・4)；つまみに対する辺が直線的か、かすかに丸味をもつものである。両側縁が直線的に併行するものと、いずれか一方の側縁が弧状をなすものがあるが一括した。前者の剥離は、片面トリミング、背面はつまみ基部周辺といずれかの側縁に加えられただけである。横断面は低平な台形で、つまみと加撃点が一致するものと、逆になるものがある。後者は片面はほぼ全面に剥離が行われ、背面は前述に同じものとトリミング的なものがある。横断面は三角形で、つまみと加撃点が一致するもの、逆のもの、横長剥片を用いるものなどがある。

第3b類(同39・40、図版24-1)；つまみに対する部分が尖る。いずれかの側縁が弧状をなし、全体形が左右非対称になる。剥離は3aに似る。縦長剥片を用いる例が多く、素材の横断面は三角形をなす。

第3c類(同41・42、図版24-2)；左右対称のものである。剥離技法は他に似る。横断面は三角形・低平台形があり、つまみと加撃点が一致する。

4 搔器

素材に比較的厚手の剥片を用い、片面にのみ部厚な刃部をつくり出す。刃部形成のための剥離は背面からの加撃によるのが原則である。背面には一切の剥離を行わない。片面あるいは周縁の一部に表皮(コーティング)を残す例も多い。なおここで搔器としたものは、いわゆるエンドスクレーパーないしラウンドスクレーパーの機能に近いと考えている。

第1類(第19図、図版24-3・4・26-1)；横断面が低平な台形で、刃部は台形の二斜面に剥片の厚さのすべてを利用してつくり出される。トリミング的なもの、いずれかの一端にのみ行なわれるもの、両端に加えられるもの、などがある。例外的なものとして、断面が低平な菱形をなし、その両端に「両面からの加撃」で刃部をつくり出すものも存在する(2・5)(I)。

第2類(第19図16~20図、図版26-2~4・28-1)；断面三角形である。刃部のつくり出しが三角形の裾部に限定されるもの、頂部にまでおよぶものなどがある。剥離のおよぶ面積、範囲の異同は第1類に同じである(II)。

以上の二種は形態・大きさにより細分しうるが、それは形態—①円形ないしそれに近いもの、②楕円形に近いもの ③不定形—、大きさ—④5 cm未満、⑤5~6 cm未満、⑥6~7 cm未満、⑦7 cm以上—などである。この組みあわせにより組分すると以下の組みあわせが考えられる。

I-a-あ (第19図1・2) I-a-い (同3~5) I-a-う

I-b-あ (同6・7) I-b-い (同8~12) I-b-う (同13~15) I-c-破片

II-a-あ (同16~19、第20図20~22) II-a-い、II-a-う

II-b-あ、II-b-い (同23~25) II-b-う (同26・27) II-b-え (同28~30)

II-b-破片、II-c-破片 (同31)

既にふれたようにI・IIタイプともにコーティングを残す例が多くある。それは素材の剥片剥離時の加撃点を上方としてすえると、それぞれ上(加撃点の直下)・右下方・下方(加撃点の反対側)・左下方に位置する。また、刃部形成のための剥離が行われる範囲に広狭の差が見られる。これらの現象は、搔器と分類した上記のものの中に未製品も含まれる可能性があることを示すと解釈できよう。なお、定形的なもの(a・b)と不定形的なもの(c)とが混在することは、それ自体として検討に値する問題であろうが、ここではそれに詳細にふれる余裕がないので、その可能性のある解釈例の一つを示すにとどめておく(図版24-3~28-1)。

5 トランシェ様石器 (第21図1~7、図版28-2・3)

後述の石筥状石器に類似するものの中でトランシェ様石器といわれるものの特徴に合致する形態・技法をもつものを一括した。すなわち、長台形ないし縦長二等辺三角形を呈し、下底辺のつくり出しが石器製作のかなり早い段階に行われ、二次的・三次的加工が施されないものである。下底辺が直線的なものや、やや内湾気味になるものなどがある。横断面が三角形に近く、片面加工的なものが多い。下底辺に使用によると思われる細破碎部をもつものもある。数種の形態があるが一括した。

6 石筥状石器 (第21~24図、図版30-1~38-2)

縦長と横長の両者があるが、細長いやや厚手の剥片を素材として用いる。剥離が周縁に限定されるもの、両面ともに全面に近く施されるもの、片面のみのものなど各種がある。分類は大きさ・技法・形態などを考慮し、第3-A表のように行う。これによるとかなり繁雑になるので若干整理すると以下の項目になる。

形態; a 長二等辺三角形(細分類項目あ・え)、b 長台形(同い・う)

剥片断面形態・技法

A 三角形(同a・b)・片面加工的

B-I 偏菱形(同c)・両面加工、B-II 菱形(同d)・両面加工

大きさ; 1~6(細分類基準に同じ)

以上の組みあわせの結果として第3-B表のようなグルーピングが可能となる。Iの構成要素がII・IIIより多いが、これはIに含めたものの中に未製品と思われるものも含まれていることによるのであろう。そのいい方を敷衍するならば、II・IIIは完成品的な色彩が濃いともいえ

A 細分

大	小	技		法		形態
		加工面	主要剥離面側	左の剥離の程度	剥離の方向	
I	5 cm 以下	片面加工	a 加工なし	① 部分	(下辺) 主要剥離面側より	長二等辺三角形
						長方形
						長方形 (長台形)
II	5~8	A	b 加工あり	② 全周縁	上の反対側より。範囲狭。	長方形
						長方形
III	8前後					
IV	8~10	両面加工	c 加工あるも比較的フラット	ハ	上より範囲広	長楕円形
						長楕円形
V	10前後	B	d 加工ありて稜の走るもの	ニ	(下辺) 殆ど加工のないもの	え
						え
VI	10以上					
備考	I、III、V、VIの集合が見られた故	縦長、横長のflakeの使用の別は考慮に入れなかった。	a, b, cの縦断面dの縦断面	イは両面加工。ロ、ハ、ニは片面加工の。		

※ (A-b-2-2-ニ-あ) や (B-C-2-ニ-い) などは「トランシェ様石器」として分離してある。

B 統合

タイプ	I	II	III	IV	V	VI	計
剥離面側	1	1	1	1	1	1	6
IIa	1	1	1	1	1	1	6
IIb	1	1	1	1	1	1	6
計	2	2	2	2	2	2	12

A-(1~6)-a

タイプ	I	II	III	IV	V	VI	計
剥離面側	1	1	1	1	1	1	6
IIa	1	1	1	1	1	1	6
IIb	1	1	1	1	1	1	6
計	2	2	2	2	2	2	12

B-I (1~6)-a

タイプ	I	II	III	IV	V	VI	計
剥離面側	1	1	1	1	1	1	6
IIa	1	1	1	1	1	1	6
IIb	1	1	1	1	1	1	6
計	2	2	2	2	2	2	12

B-II (1~6)-a

タイプ	I	II	III	IV	V	VI	計
剥離面側	1	1	1	1	1	1	6
IIa	1	1	1	1	1	1	6
IIb	1	1	1	1	1	1	6
計	2	2	2	2	2	2	12

A-(1~6)-b

タイプ	I	II	III	IV	V	VI	計
剥離面側	1	1	1	1	1	1	6
IIa	1	1	1	1	1	1	6
IIb	1	1	1	1	1	1	6
計	2	2	2	2	2	2	12

B-I (1~6)-b

タイプ	I	II	III	IV	V	VI	計
剥離面側	1	1	1	1	1	1	6
IIa	1	1	1	1	1	1	6
IIb	1	1	1	1	1	1	6
計	2	2	2	2	2	2	12

B-II (1~6)-b

タイプ	I	II	III	IV	V	VI	計
剥離面側	1	1	1	1	1	1	6
IIa	1	1	1	1	1	1	6
IIb	1	1	1	1	1	1	6
計	2	2	2	2	2	2	12

第3表 石鏡状石器の細分と統合表

る。

またⅠ～Ⅲまで、その大きさに各種類のものがほぼ揃う傾向も見られる。形態・技法が同一で大きさのみが異なる製品をいかに解釈すべきかは別個に検討すべき課題であろう。同一あるいは類似した機能・用途の中での使い分けとすべきか、全く別個のものを想定すべきか、などはにわかには断じがたいが、ここでは前者に近い立場をとり、具体的には広義の搔器の範疇に含めておく。

7 削器ないし剥片利用の不定形石器（第25図1～6、図版38—3）

剥片を素材に用い、その縁辺の一部に、両面あるいはいずれか一方からの加撃により刃部をつくり出す。刃部は搔器に比しやや薄手のものが多い。形態に規格性は看取できないが、内湾気味の刃部を有するものは、コンケイヴドスクレーパー的なものを想定してよいかもしれない。用途は削器または搔器的なものであろうか。

8 使用痕ある剥片（第25図7～9、図版40—1）

剥片の縁辺に何らの調整・加工も施さずに、そのまま縁辺を刃部として用いたものである。機能・用途は特定はできないが、削器的なものではあったろう。形態には規格性はない。

9 磨製石斧（第25図11・12、図版40—2・3）

二種ある。第一は刃部破片であるので全形は不明である。現存部の平面形は方形、横断面形は楕円形ないし長方形、縦断面形は楔形に近い。いわゆる両刃をなす。刃部表面に擦痕がある。擦切の技法でつくられた可能性がある。

第二は扁平な楕円形の小形礫の一端にチョッパー様の刃部をつくり出す。表面には一面に横・斜走する条痕（使用痕ではない）が見られるので磨製とした。横断面形は扁平なカマボコ形に近い。背面中央に黒色の物体が付着しているが、固定用の接着剤の使用の痕とも考えられる。前記の刃部様のものを刃部ではなく破損部とみなすならば、本例は斧ではなく、いわゆる縄文草創期などに見られる刻線礫の仲間とも考えられる。とくに青森県長七谷地からも類似例が出土しているので、その可能性は高いといえる。ここでは二つの可能性を提示しておく。

10 環状石器（第26～27図、図版41—2～43）

円盤状に整形した素材の中心に孔を穿ったもので、全周縁に刃部様の破砕部がある。断面は扁平なカマボコ形に近く、大・中・小の三種がある。得た資料はその製作の各段階を示すと思われるものであり、それを解釈すると以下ようになる。

- ①素材を円盤状に整形する。その場合背面は平坦にする（第26図1、図版41—2・3）。
- ②片面から穿孔をはじめめる。それは回転作業によると思われる（同2・同4）
- ③背面からも穿孔する。同上の作業と思われる（同3、図版42—1～7）
- ④貫通させ、表面を仕上げる（第27図4～7、図版42—8～43）。

なお、②・③・④の穿孔作業の段階において、回転に加えて敲打的作業も加えられていた可能性もある。得た資料は半折品が多い。用途は不明であるが、軸（柄）を装着しての「敲打器」的なものとも考えられる。

11 片刃石器ないしチョッパー様石器（第27図8・9、図版44-1）

偏平な礫ないし剥片を用い、その縁辺に一方からの加撃により刃部をつくり出した比較的大形の利器である。形態の規格性はあまりないが、当然長めのものが多い。使用材質は他に比し自由に選択されている。

12 両刃石器ないしチョッピングツール様石器（第27図10・11、図版44-2）

11と同様の素材の両面からの加撃で刃部をつくり出す。いわゆる石核石器と剥片石器の二者があるが一括した。

13 石錐様石器（第25図10、図版46-5）

素材の一端のみを尖らせたものであるが、通常石錐とされるものほど定形化していないので疑問があるが、一応こう呼ぶ。

14 槌石ないしハンマーストン様石器（第28図、図版44-3・4、45-5）

細長い礫ないし板状の石の稜をなす部分に打撃痕の見られるものである。半折したものが多く、また石材の選択も種類に富む。

15 磨石（図版46-1～4）

球形の礫で、表面が滑らかになっている。凹み石といわれるものも一部含めた。

16 石皿（図版46-6～8）

破片であり断定するにはやや躊躇するが、一応こう呼ぶ。厚い板状の石で、両面ともに平坦なものである。材質は限定されている。

17 石核（第25図13、図版47）

規則的な剥離痕を示す例は多くはないが、平坦な調整打面をつくり出しているものの存在が目立つ。稀に円錐形・円柱状に近いものがある。表皮（コーティング）を残す例も多い。なお石核としたものの一部の稜線部に、使用痕とも解釈できる細かい破砕部を観察できるものもあり、使用痕とすればコアスクレーパー的な用いられたかたをしたと思われる。

18 剥片

ダンボール箱7と大量に得た。詳細は今後の検討課題とする。

要約 石器群の組成他について

石器群も二次堆積層出土資料であるので、その厳密な組みあわせを云々するには不適當である。しかし、土器群の検討で明らかになったように、少なくとも最下層と上位二層は時間の経過を反映しているのであるから、その組成の層位別の検討もあながち無意味とはいえない。層

位毎の石器群の出土数（完全品中心）と比率を示すと第4・5表のようになる。一見して三層ともに類似した組成比を示しており、その内容が類似することを示唆している。最下層のⅡb層に、①片刃石器、②搔器Ⅰ-c-破片、③同Ⅱ-a-い、④石匙Ⅱ、⑤石槍Ⅰ、⑥石鏃Ⅴが欠落している。このうち①・②はその性格からして偶然の欠落とみなせる。④もその他のタイプは存在するのであるから偶然とされてよい。⑥は従来の知見に矛盾しない。③・⑤については今後の検討を要する。環状石器は最下層と本来的な対応関係をもつとみなしうる。以上の組成を当地域におけるムシリⅠ式相当期の石器組成と一応みなしておく。

次に他の類例と比較し、可能な限りその異同を検討する。類例には、①青森県ムシリ、②秋田県岩井堂洞穴Aトレンチ第8層、③同第9層、④同第5層、⑤同第2洞穴下層、⑥岩手県蛇王洞洞穴第Ⅶ層、⑦同第Ⅵ層、⑧同第Ⅴ層、⑨同第Ⅲ層、⑩同第Ⅰ層、⑪同崎山弁天第Ⅶ・Ⅵ層、⑫同第Ⅴ層、⑬同第Ⅳ・Ⅲ層、⑭同鶴ノ木住吉、⑮同竜泉新洞、⑯山形県日向洞穴最下層などの出土資料が該当する。これらの中には遺物量の少ないものもあるが、それらは組成の構成要素の個々の比較に用いる。当然ながら出土層位・共伴遺物の明らかなものを優先させた。

まず「条痕土器群」の伴出石器をみる。該当例は①・③・④・⑤・⑩・⑬などである。少量のものが多いが、本調査例と比較すると全般的に類似点が多く、とりわけ石鏃・石槍・トランシェ様石器などにそれがいえる。相異は環状石器を欠くこと、定形的搔器の存在と石鏃状石器の技法の異同、本調査例に石鏃が不明確なこと、などである。組成全体を示す例が無く、それについては対比しえない。①と近年知られた長七谷地の石鏃状石器は片面加工的なものが大半を占めている。⑩の縦形石匙はつまみの部分に加撃面を残さないが、本調査例では加撃面を平坦なままに残しているのが大部分である。⑬と本調査例の横形石匙には注目すべきである。林謙作氏によると宮城県地方においては横形石匙は素山Ⅱa式期から出現するとのことであるが、岩手県地方におけるその初現の時期は、少なくとも船入島下層までは下らないある時点に求めうる可能性が出てきたといえる。また⑬の報告者により「石鏃」とされているものの中には、トランシェ様石器類似のものがある。環状石器の類例はあまり多くを知らないが、青森県野口・同長七谷地などに見られる。ただし、長七谷地においては早稲田五類に共伴するとされている。環状石器と定形的搔器の存在・石鏃状石器と石鏃の異同については、それが地域差・時間差・製作の工程差のいずれを示すかについて検討されねばならないが、さらに類例の増加をまちたい。

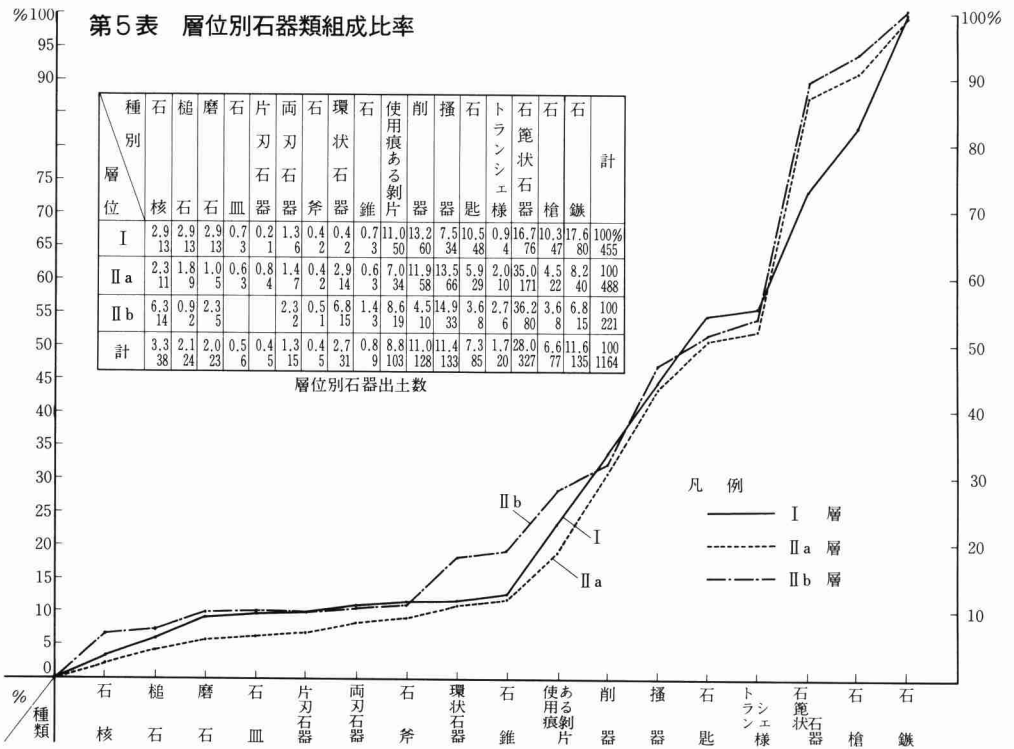
次に、条痕土器群以前についても見ておくと②・⑥～⑨・⑮・⑯などが該当する。いわゆる草創期のもも含める。概観すると、本調査例は一部を除いて草創期の組成に類似しないことは明らかで、早期のとりわけ貝殻沈線文盛行時以降の石器の基本的組成に近いといえる。ただし、本石器群中で「定形的な搔器」としたものに形態・技法ともに極似したものが⑮・⑯から出土している。⑮の「搔器」と本石器群のⅠb類、⑯の「ラウンドスクレーパー」とⅡa類

第4表 層位別石器概数（完全品を中心とするが、一部破片も含めてある）

層位	石										器										匙					石環															
	核	石	片	両	石	使用	削		撞		I c	II a	II b	II b	II c	計	I	II	III a	b	c	未	計																		
							器	片	あ	う														あ	う		破	あ	い	う	あ	い	う	え							
I	13	13	1	6	3	50	60	3	3	4	2	3	3	3	1	1	2	5	1					3	34		1	21	15	9	2	48	2	2							
II a	11	9	4	7	3	34	58	2	6	2	4	7	2	6	4	10	1									6	4	7	5	66	1	1	13	5	7	2	29	2	14		
II b	14	2		2	3	19	10	3	3	1	1	1	2		5											1	1	1	1	2	6	5	33	2		2	2	2	8	1	15
計	38	24	5	15	9	103	128	8	12	3	9	10	4	9	12	13	3	2	3	12	7	13	13	133	3	2	36	22	18	4	85	5	31								

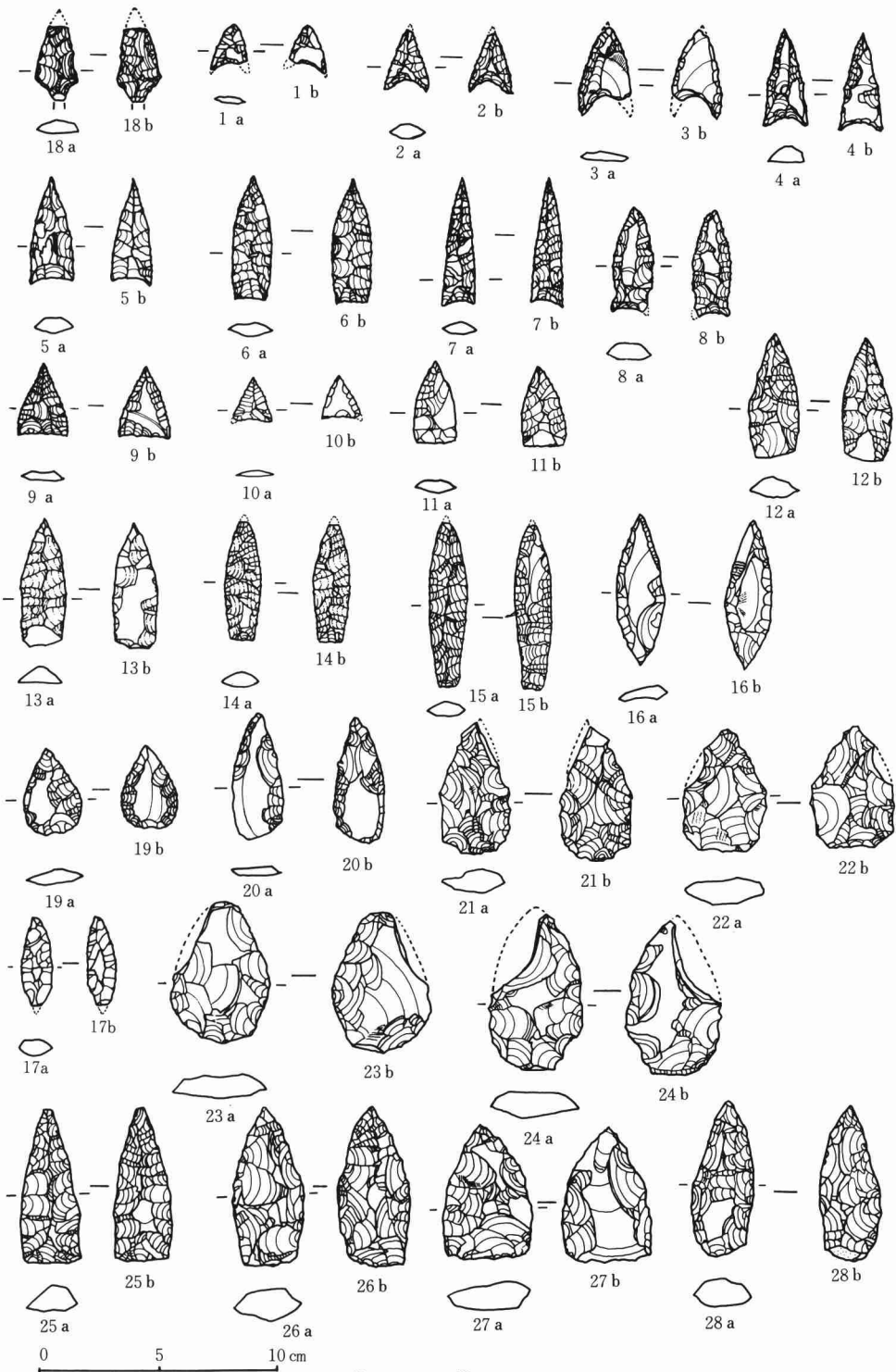
層位	石					鐵						石					石		石磨							
	I	II	III	IV	計	I	II a	b	III a	b	c	IV	V	VI	計	I	II	III a		b	計	辺	石			
																								槍	石	片
I	21	15	3	8	47	4	6	15	4	26	7	9	1	8	80	4	19	20	8	10	11	8	76	3	13	455
II a	9	6	2	5	22	3	2	6	2	16	5	3		3	40	10	24	43	18	31	24	31	171	3	5	488
II b	4	2	2	8	22	2	1	1	5	1	1			2	15	6	10	14	15	15	8	18	80		5	221
計	30	25	7	15	77	9	10	22	7	47	13	13	1	13	135	20	53	77	41	56	43	57	327	6	23	1161

第5表 層位別石器類組成比率

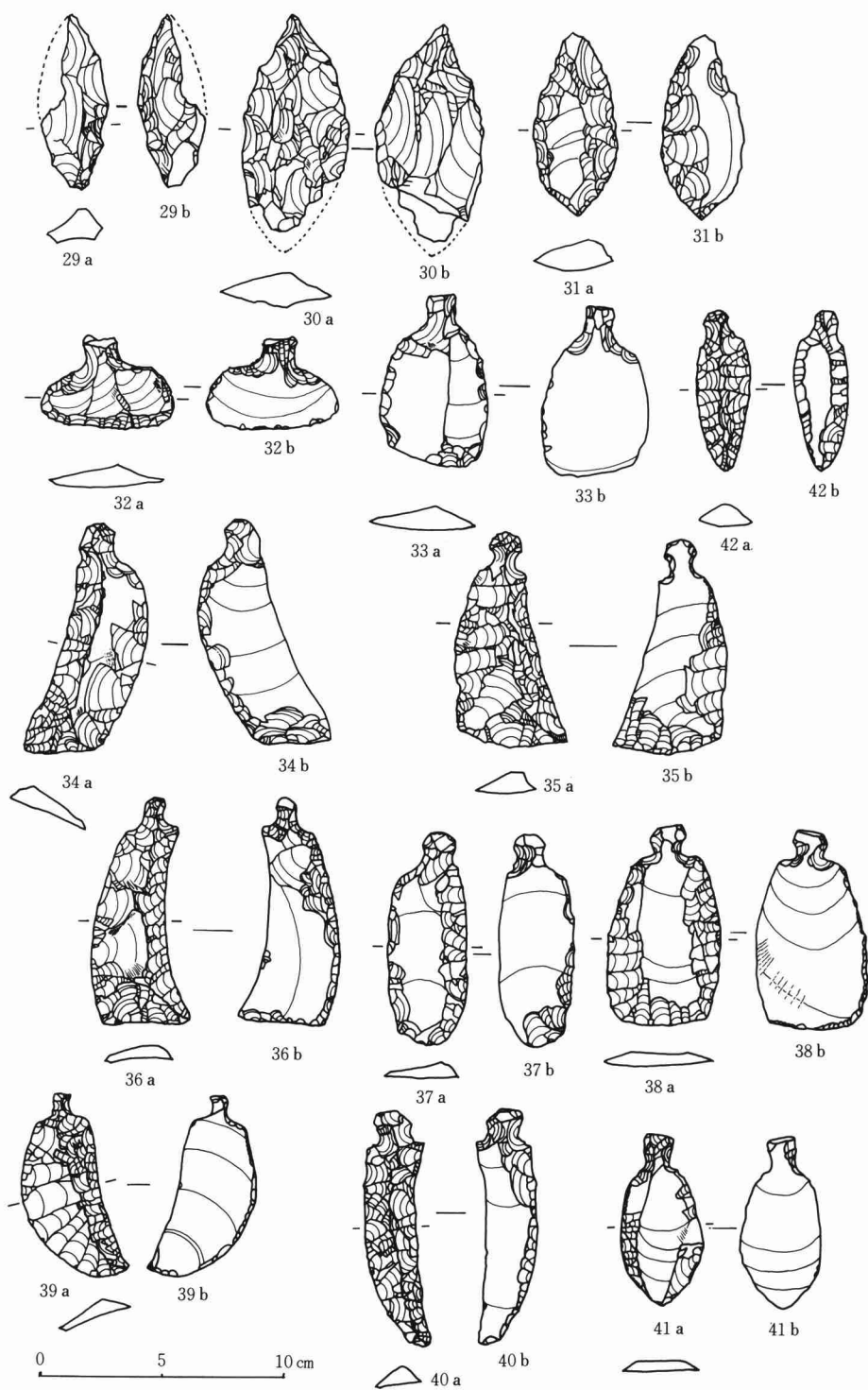


である。これらを同系統とみなしてよければ、この種の撞器は縄文時代草創期、早期の無文土器の段階から出現していたことになる。また、⑦の石筥状石器は実測図による限り片面加工と思われる。

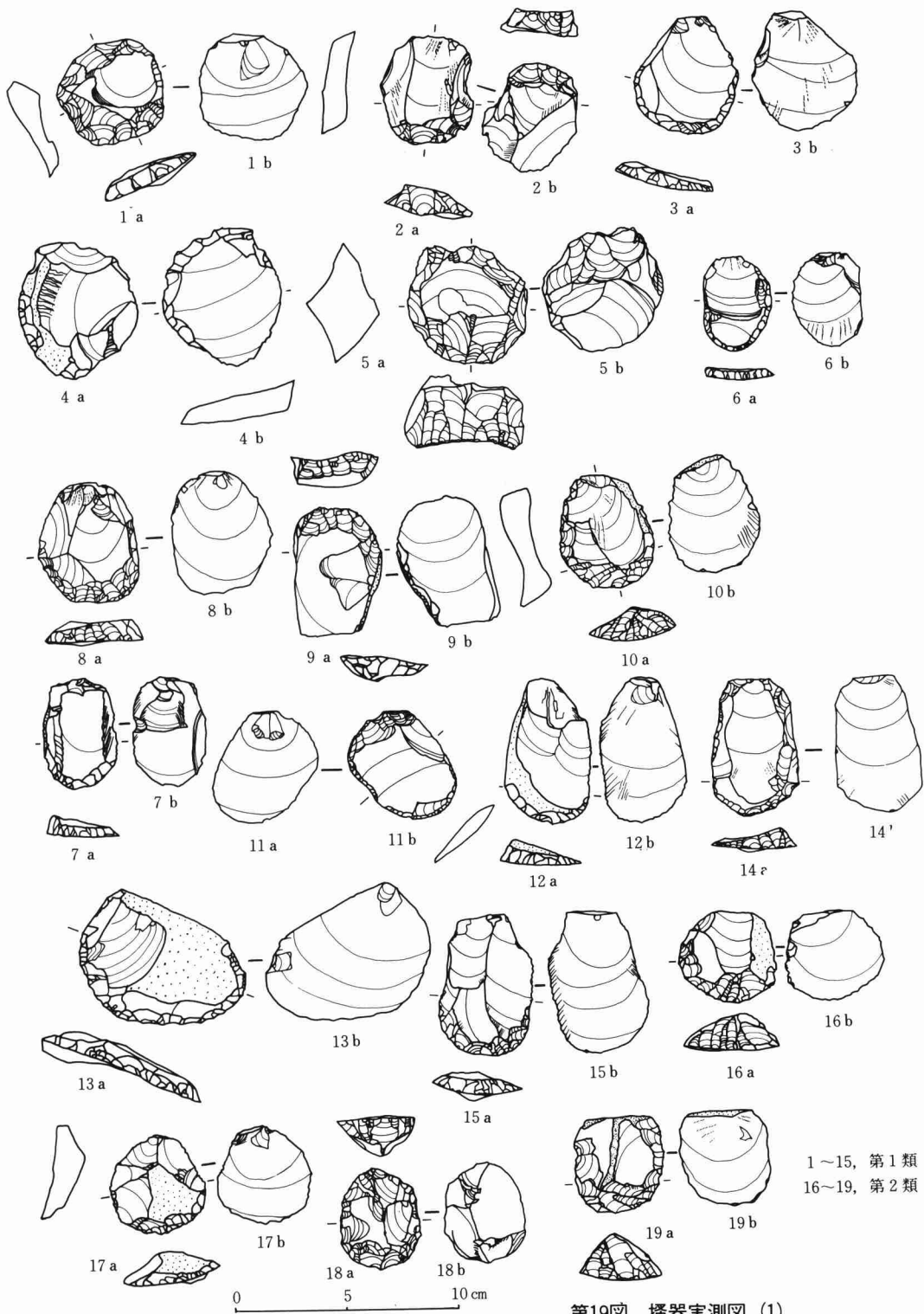
条痕文土器群以前の貝殻沈線文土器盛行時を中心とする石器群の地域差については、既に林謙作氏により以下の指摘がなされている。すなわち「東北半では尖頭器・石錘が主要な位置を占め不定形石器が乏しい。石斧には長大な擦削磨製石斧と小形の礫の先端をみがいたもの、



第17図 石鏃・石槍実測図

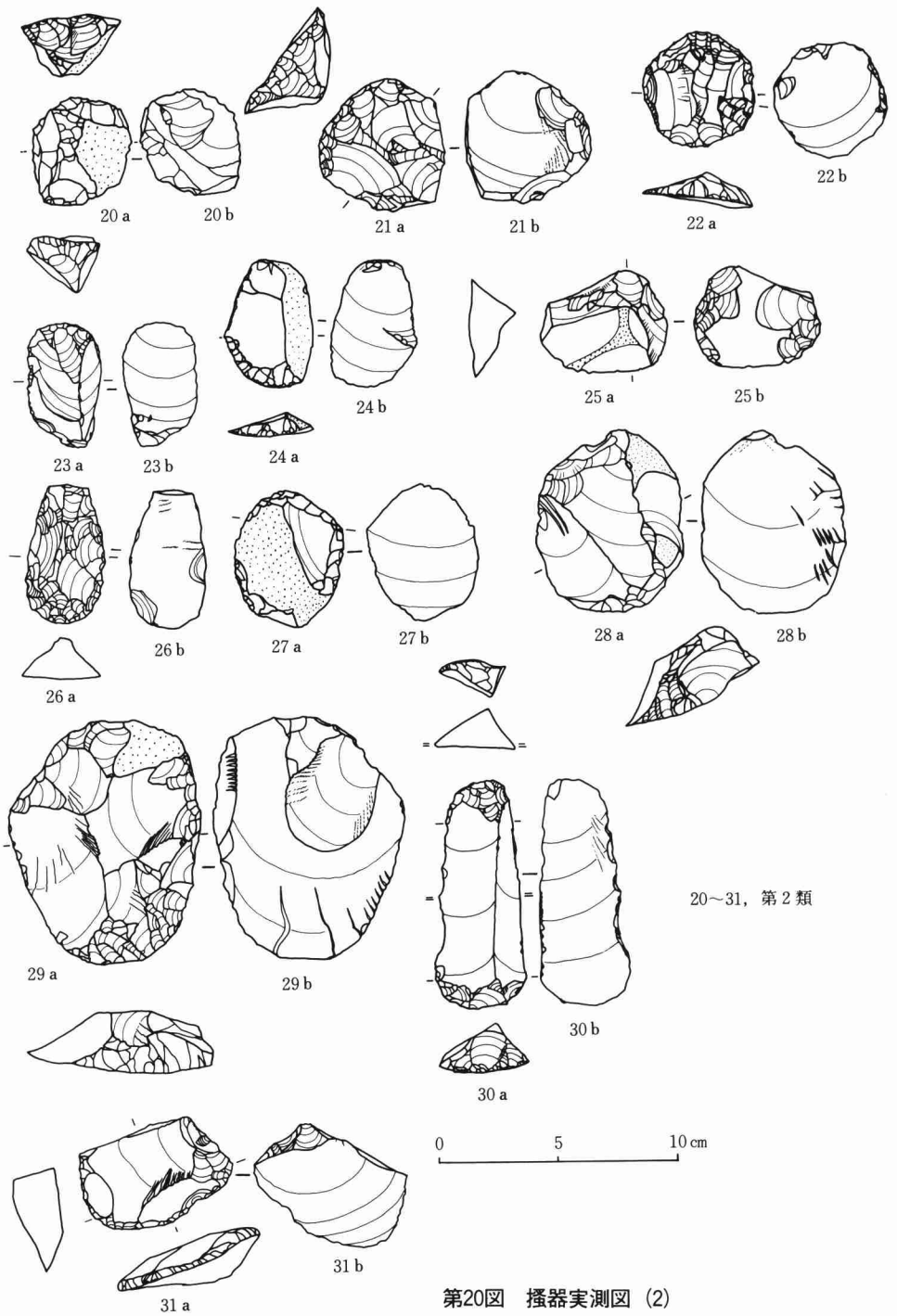


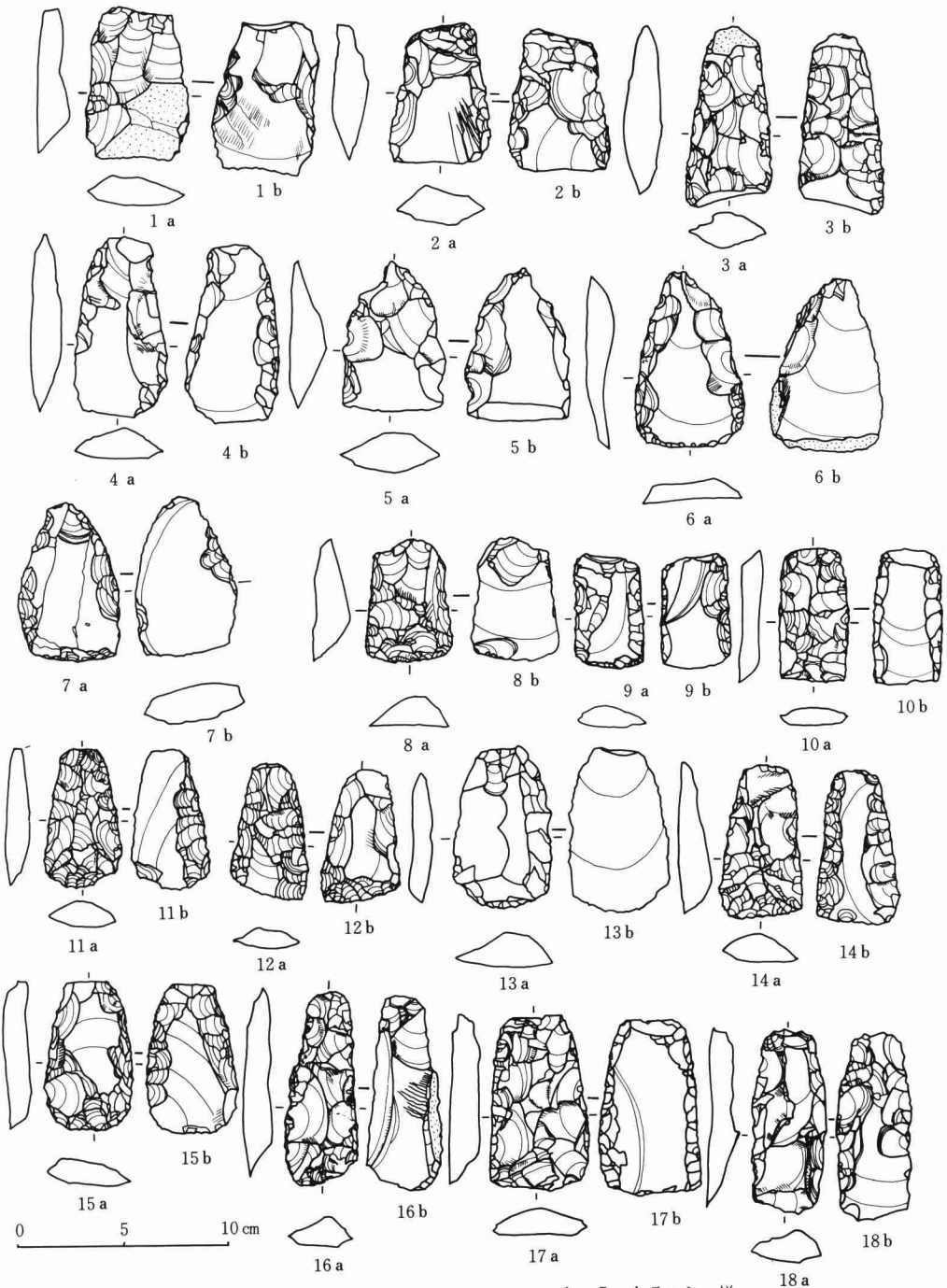
第18图 石槍・石匙実測図



1~15, 第1類
 16~19, 第2類

第19圖 搔器実測圖 (1)





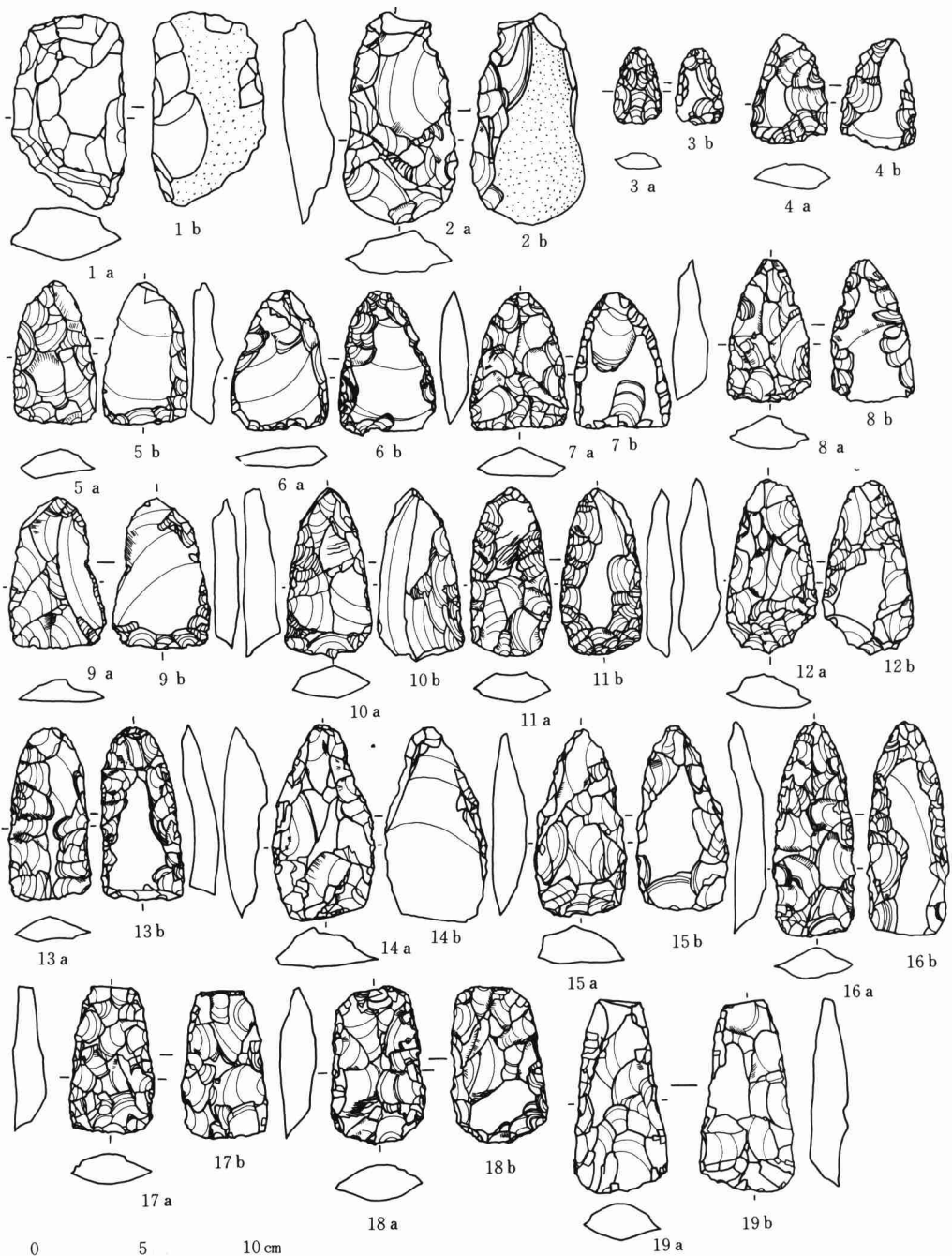
第21図 トランシェ様・石筥状石器実測図 (1)

1～7, トランシェ様

8・9, A-1-b類

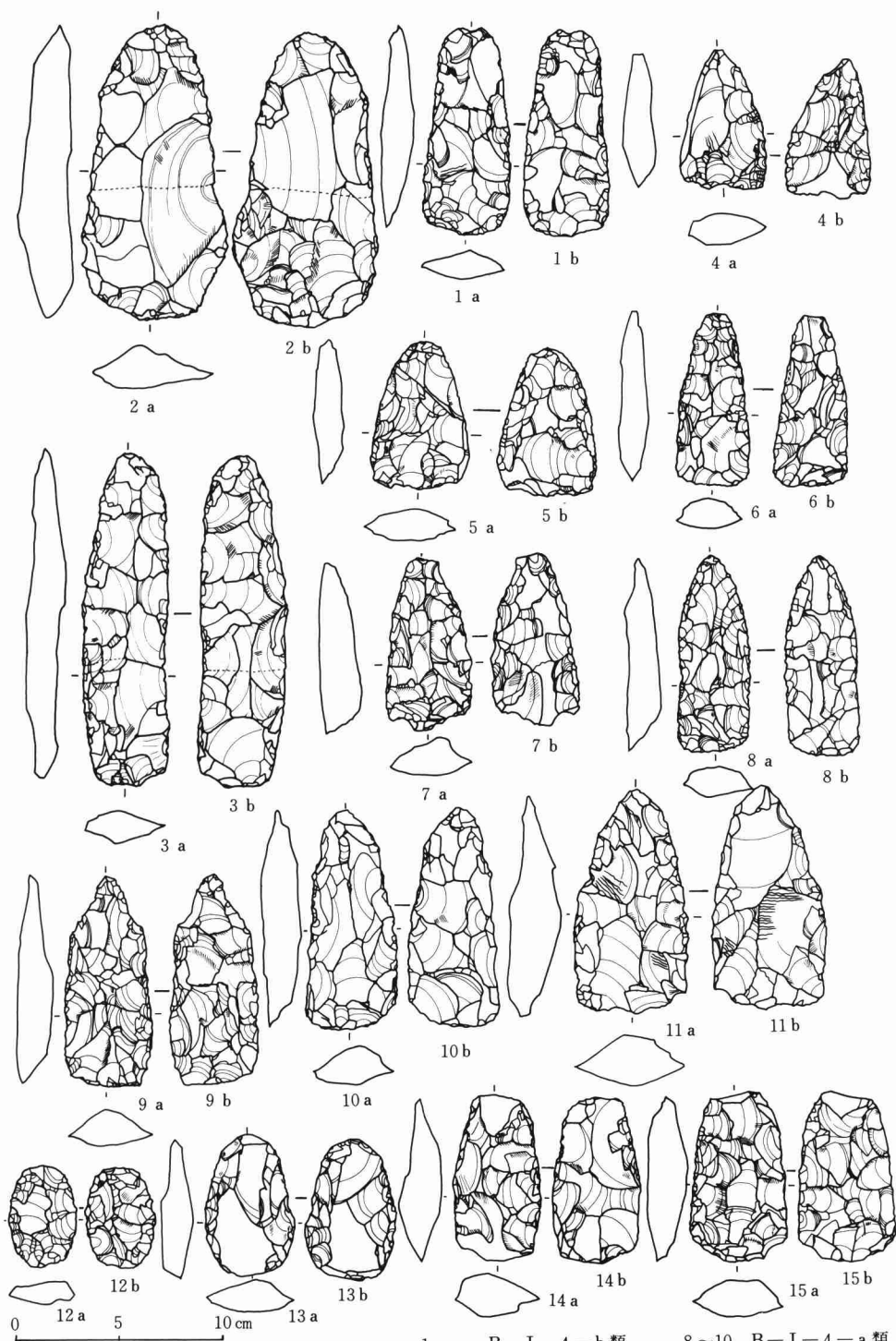
10～15, A-2-b類

16～18, A-3-b類



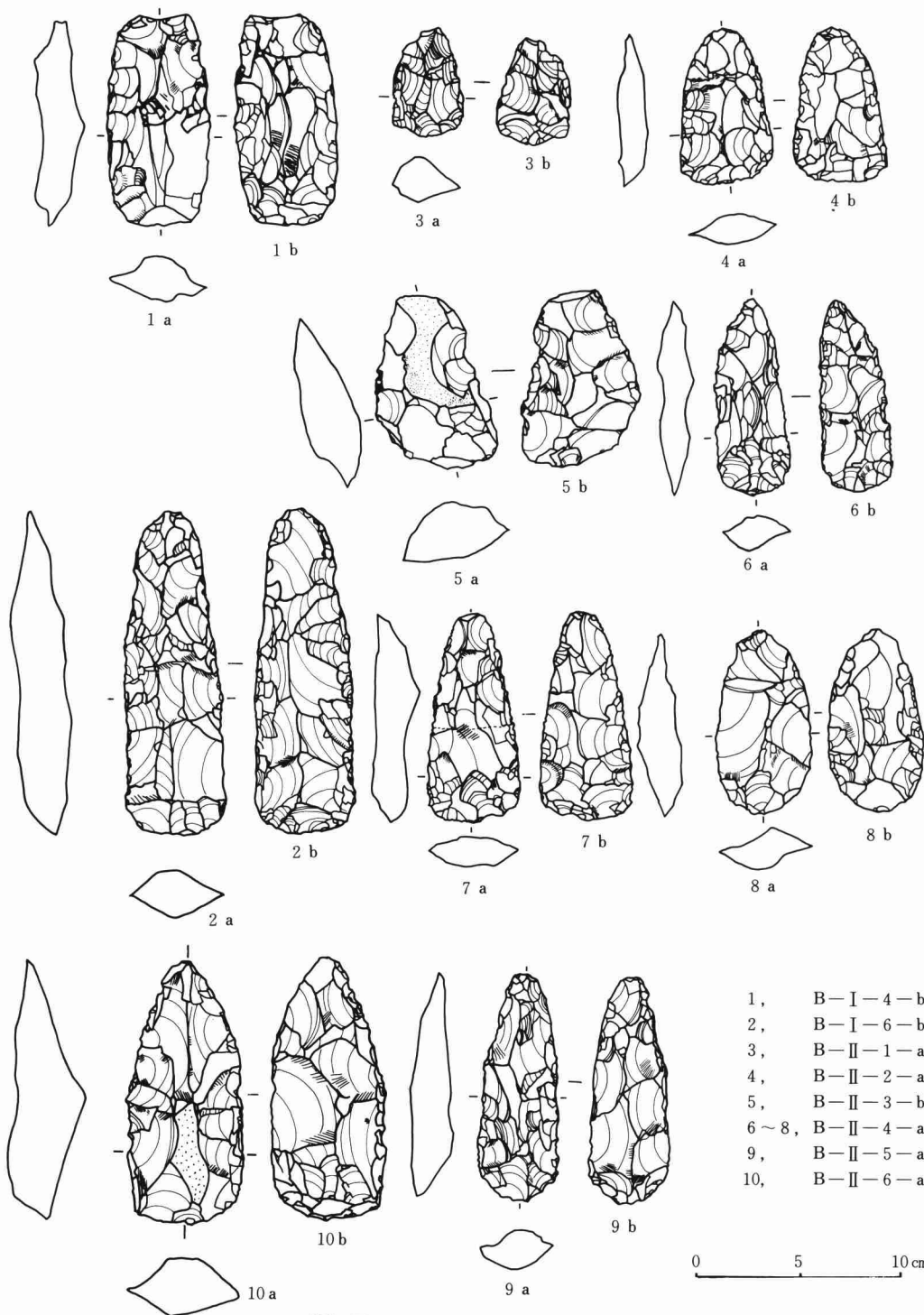
第22图 石筲状石器实测图 (2)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1·2, A-4-b類 | 13·14, A-4-a類 |
| 3·4, A-1-a | 15~16, A-5-a |
| 5~9, A-2-a | 17·18, B-I-2-b類 |
| 10~12, A-3-a | 19, B-I-4-b |



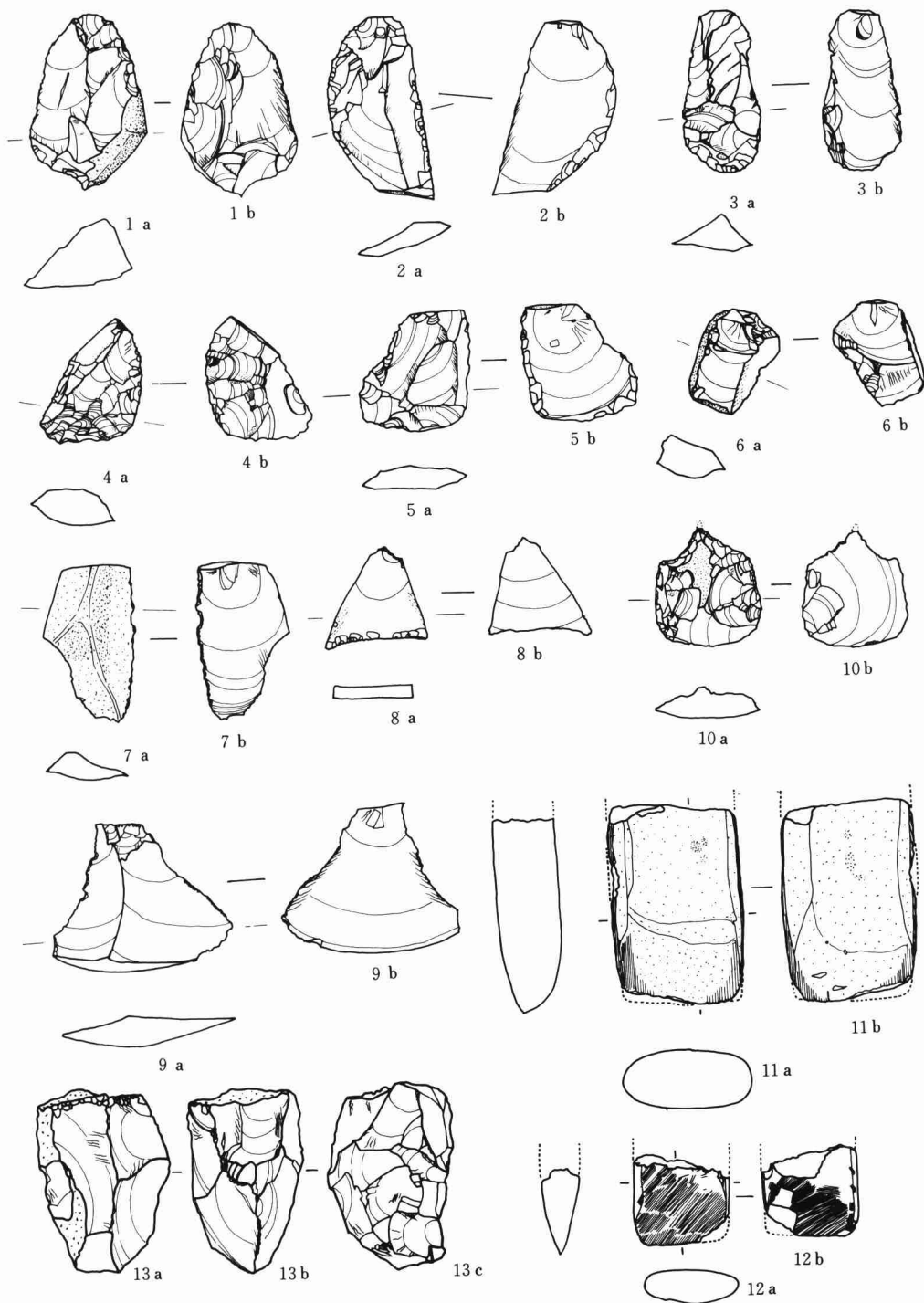
第23图 石筩状石器实测图 (3)

- | | | | |
|------|----------|--------|----------|
| 1, | B-I-4-b類 | 8~10, | B-I-4-a類 |
| 2·3, | B-I-6-b | 11, | B-I-5-a |
| 4·5, | B-I-2-a | 12, | B-I-1-b |
| 6·7, | B-I-3-a | 13, | B-I-2-b |
| | | 14·15, | B-I-3-b |



- 1, B-I-4-b類
- 2, B-I-6-b〃
- 3, B-II-1-a〃
- 4, B-II-2-a〃
- 5, B-II-3-b〃
- 6~8, B-II-4-a〃
- 9, B-II-5-a〃
- 10, B-II-6-a〃

第24図 石筩状石器実測図 (4)



第25図

1～6, 削器

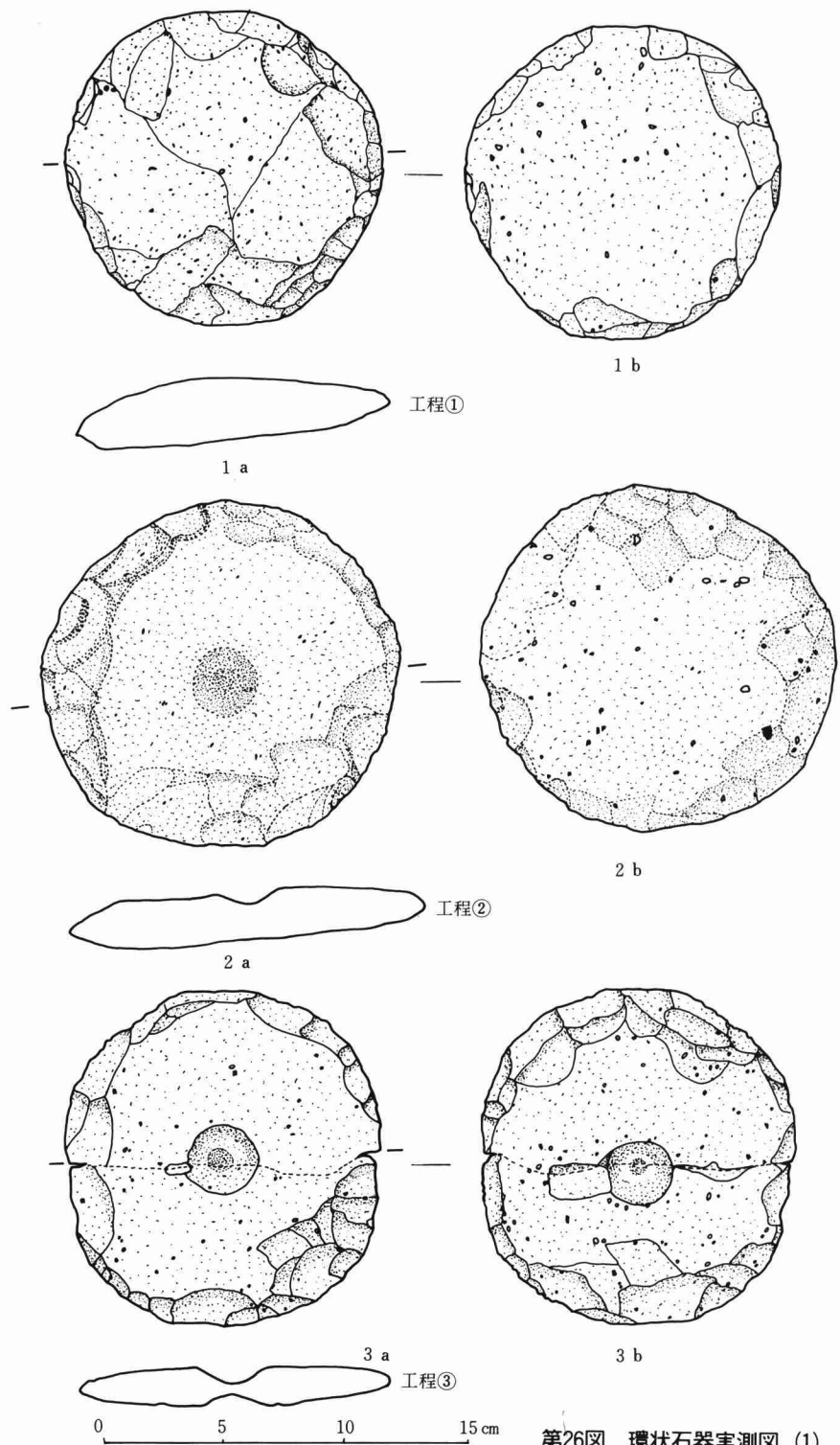
11・12, 石斧

7～9, 使用痕ある剥片

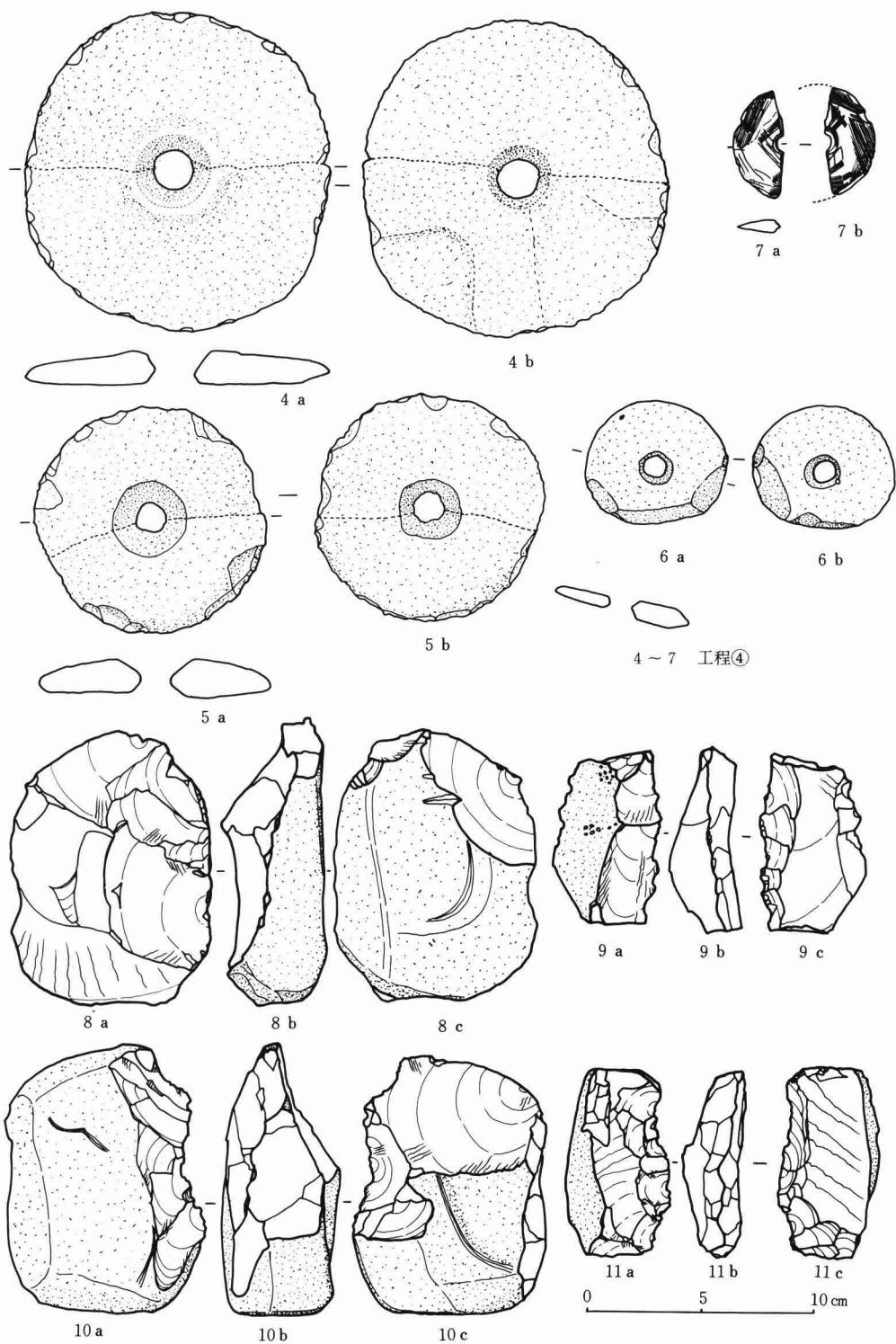
13, 石核

10, 石核

0 5 10 cm



第26图 環状石器実測図 (1)

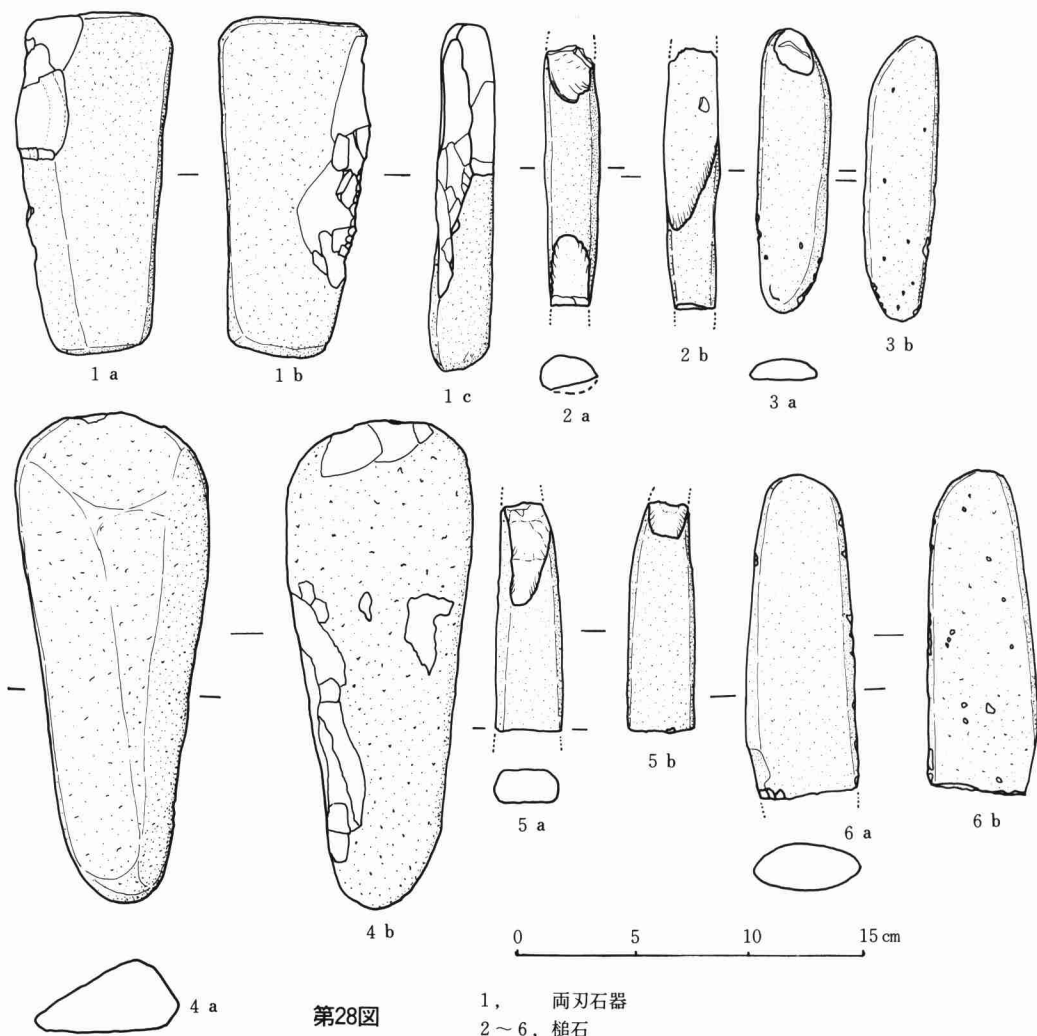


第27图

4~7, 环状石器

8·9, 片刃石器

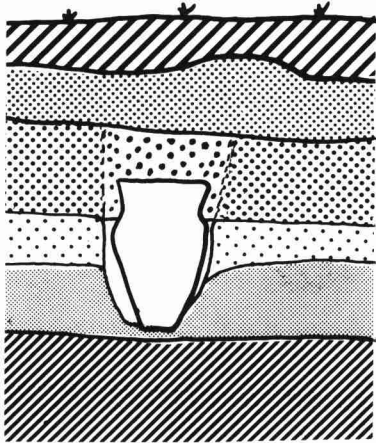
10·11, 两刃石器



第28図

1, 両刃石器
2~6, 槌石

(注; 石器類の材質・計測値等についてふれるべき紙数をもたないので、巻末の一覧表に掲げるとどめた。ちなみに頁岩が圧倒的多数をしめる。今後は原石産地の追求も必要であろう。)



客土 石鏃には長大な二等辺三角形と将棋駒形などがある。東北南半では蛇王洞Ⅱ式期に
耕作土 打製の不定形石器や礫器が多い。それ以降
Ⅰ においては定形化の傾向をたどり石篋・c
Ⅱ a、Ⅱ a' 字形搔器・擦切磨製石斧・二等辺三角形鏃
Ⅱ b ・「人」字形の鏃などがある。また大寺式、
Ⅲ 前後にいわゆる縦形石匙が出現する。」その
詳細な内容を示してはいないので正確な対
比は不可能であるが、この指摘の後段に本
石器群を位置づけられよう。これは土器に

第29図 Cb71埋設土器

おける傾向とは逆であり、新しい問題を提起することになるが、蛇王洞Ⅱ式以降条痕文土器群以前の石器群の具体相に不明な点が多い現状では、上記の可能性のみを一応あげておくにとどめる。いずれにせよ、基本的には貝殻沈線文土器盛行時に確立された縄文時代の骨格の反映として、縄文時代石器の基本的組成をほとんど完備した形（漁労貝の欠落は立地との関係であろう）で、本石器群は存在するとのべておく。つまり、条痕文土器群盛行時の石器組成は、それ以前に確立されたものをほとんどそのまま継承・維持した傾向が強いということになる。

最後に本石器群に関連した今後の検討課題をあげる。すべての基礎的分野に属する。

- ① 環状石器の初現・変遷・地域差
- ② 定形的搔器の初現・変遷・地域差（形態・技法）
- ③ 石篋状石器の “ ” “ （ 同 上 ）
- ④ 石器組成の変遷・地域差
- ⑤ トランシェ様石器の類例・共伴遺物

2 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代に属すると思われる遺構は調査地南半に検出された2箇所の埋設土器のみで、堅穴住居跡その他は調査地内には検出されなかった。以下順に記す。

Cb71埋設土器（第29図・第31図1、図版48-1、49-1）

〔検出地点〕； 調査地中央東縁の平坦部の現農道下部である。

〔検出面〕； 客土下位の旧表土（Ⅰ層）の下半部である。

〔残存状況〕； ほぼ完成品として遺存している。

〔器種・個体数〕； 甕形一個体のみである。なお北隣のⅠ層中から高杯形の脚部破片1ヶもほぼ同時に検出したが、両者に本来的な関係は認めない。

〔埋設状況〕； 正立位である。

〔埋設方法〕；口径 0.35 m・底径 0.15 m 程度の掘り込みをあらかじめ設けた後に土器を埋置したらしい。掘り込みは I 層からであろうが、その上面からかどうかは識別できなかった。また掘り込みに伴う施設も検出できない。したがって、埋設後の土器が地表から見える状態にあったか否かは不明である。仮に掘り込み面を I 層上面とすれば、掘り込みの深さは 0.55 m 程になる。

〔周辺の遺構〕；埋設土器に伴うとみなしうるピット類その他は一切検出できない。

〔その他〕；掘り込みの表面、その周囲にも火力を用いた痕跡は検出できない。

〔年代・性格等〕；本埋設土器は弥生時代中期に属するものと思われる。性格・機能等は不明であるが、観察できた項目を列挙しておく。

- ① 埋設には掘り込みを伴う。
- ② 埋設地点では火力を用いていない。
- ③ 土器体部下半表裏両面に煤様の炭化物の被膜が形成されているので、土器自体は二次的火力をうけたことがある。
- ④ 土器中に遺物類は存在しない。
- ⑤ 周辺に同時代と思われる遺構は存在しない。
- ⑥ 少なくとも調査域内には、現状では該期の他の遺構を検出できない。

ただし、⑤・⑥については、仮に限定された範囲内での調査結果を敷衍して「これがその他の遺構・集落と直接的な関係なしに単独に存在することに意味がある」との解釈もありうるが、今後の検討課題としておく。

遺物の特徴

〔概形〕；外傾気味に外反する口縁をもち、体部上半に最大径を有する平底の甕形。

〔成形〕；巻き上げと思われ、粘土紐の巾は 2.5～3.0 cm 程である。底部のつくりは不明である。

〔器面調整・施文等〕；

表面 口唇部には押圧により 3 ケー対の小波状部を 8 ケ所つくり出す。

口縁部；ヨコナデ風調整

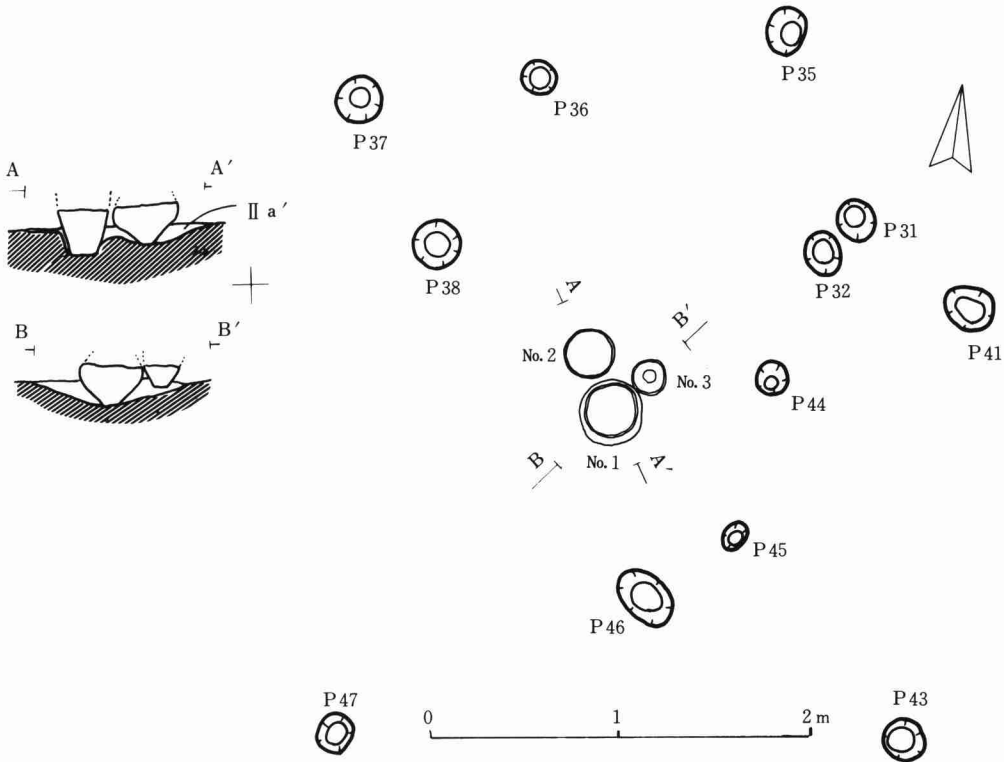
頸・肩部；地文にハケメ様の調整を施し、それに 4 本の横走沈線を加える。沈線の断面は角張る。

体部；全面ハケメ様の調整痕が縦位につく。下半に炭化物の被膜形成。

底面；判然としないが、網代痕様のものがあるらしい。

内面 口縁～肩部；ヨコナデ様の調整

体部；縦位のハケメ様の調整痕、のちにナデかミガキを加えそれを消す。



第30図 Cj18埋設土器他

体下端～底面 篋状工具によるナデツケ様のものが行われる。炭化物が付着。

Cj 18 埋設土器 (第30図・第31図2～4、図版48—3・49—2～4)

〔検出地点〕； 調査地西南隅近くの平坦部である。

〔検出面〕； Ⅲ層上面（ただし、既述の如く削平をうけていることと、障害物除去に重機械を使用した調査の不備から、掘り込み面は不明である）。

〔残存状況〕； 上述の理由から体部上半の大部分を欠く。

〔器種・個体数〕； 3個体。①壺形(南)、②不明(西北)、③不明(東)。②・③は甕形か深鉢形であろう。

〔埋設状況〕； すべて正立位である。

〔埋設方法〕； ①・②については、それぞれにみあった直径（①は径0.25～0.30 m、②は0.35～0.40 m）の掘り込みを設け、そこに土器を正立位に埋置する。底面のレベル差は①より②が0.05 m程深い。掘り込み面は上述の理由から不明である。③は少なくとも掘り込みが①のためのもと思われるものと区別できないこと、掘り込みの立ち上がり不明なことなどから、それ自体のための掘り込みをもつかどうかは疑問である。底面のレベルはもっとも高く、①より0.1 m程上位にある。

〔周辺の遺構〕；ピット③①・③②・③⑧・④①～④⑦などが周辺にあるが、明白な対応関係を指摘できるものはない。

〔その他〕；掘り込みの表面およびその周辺、掘り込み覆土中のいずれにも火力を用いた痕跡を検出できない。

〔年代・性格等〕；Cb 71 埋設土器に同じとしておく。観察事項も同様である。

土器の特徴 No①

〔器種〕；壺形、口頸・口縁を欠くが、無頸ではないと思われる。

〔概形〕；実測図は復元図であるが、底径が極端に小さい算盤玉形に近い。平底。

〔成形〕；巻き上げと思われ、素地の接ぎ手部で割れることが多いらしい。粘土紐は巾 2 cm 前後と薄い。底部は円盤の貼付によったと思われる。

〔器面調整・施文等〕；

外面；全面に縦・斜位のハケメ様の調整を行い、次にそれを消すかのように横・斜位の入念なヘラミガキを施す。ミガキは底面にまでおよぶ。ハケメ様の調整痕は、頸部周辺に顕著に残存している。

内面；体部全面に横位、底部近くは斜位のハケメ様の調整を行う。次に一部についてそれを消すが、大部分はそのままに残す。

現存破片から判然すると、体部文様帯は無く、口頸部のそれに限定される。頸下端部に三条の沈線をめぐらし、その下位に工具を左から右に移動させることによって生じさせたシュリッツを一行列付す。その後に赤色の塗彩を行う。沈線の断面形は角張り浅い。

体部下半表面に炭化物の被膜がつく。

No② 〔器種〕；粗製の甕形が深鉢形であろう。

〔概形〕；不明であるが、左右非対称になる。

〔成形〕；巻き上げと思われ、粘土紐の巾は 4.0～4.5 cm 前後になる。普通からやや厚手か。

〔器面調整・施文等〕；

外面；左撚り・二段の原体による縄文を施文。横・斜位の回転が多い。下半に施文が見られないが、施文後の擦消しか否かは不明である。

内面；ミガキが施される。内外ともに炭化物が付着する。

No③ 〔器種〕；②に同じ。ただし、口縁部様に見えるものが正しければ深鉢形となる。

〔概形〕；やや胴膨らみになる。平底。

〔成形〕；②に同じと思われ、粘土紐の巾は 3.5 cm 前後である。底部は円盤状のもの貼付である。

〔器面調整・施文等〕；内外両面にハケメ様の調整痕が見られる。

その他の弥生時代と思われる遺物（第31・32図、図版48-2・50）

上記の埋設土器以外には遺構と関連する遺物は無く、I層中に散在するものばかりである。それらについては、第7表にまとめた。なお、完全品も表に入れてある。明確な石器は得られなかった。

要約① 土器の編年上の位置について

東北地方北部の弥生式土器の編年研究は伊東信雄氏を中心とする諸先学により進められてきたが、現在では、それらを集大成するような形で伊藤玄三氏の見解が一般に行われているといえよう。須藤隆氏らによる詳細な研究の追加もあるが、大綱に改変を迫るものではない。本埋設土器他は、それらの中の秋田県宇津台出土例にもっとも近いと思われる。前記須藤氏によると、宇津台遺跡出土の土器は二群からなる。I群土器には磨消縄文手法・列点文・沈線文などが盛行し、壺・鉢・高杯・甕形などで構成される。東西南半の榊形罎式、裏日本の六野瀬Ⅱ式などに密接な関連を有するとされる。Ⅱ群土器はこれに後続し、沈線文・列点文・刷毛目手法・縄文・磨消縄文手法などをもち、鉢・壺・高杯・蓋・甕形などで構成される。田舎館式・志藤沢式・山草荷式などに関連を有するとされる。

本調査地出土の鉢形土器に盛行する磨消縄文の一部には、明らかに榊形罎式的なものが見られる。ただし、刺突文・列点文が併用される点は宇津台的といえる。

甕形・壺形は、宇津台Ⅱ群土器に類似する。ともに「刷毛目」手法ないし条痕文手法が顕著であり、その後のミガキの追加などはまったく同一とみなしうる。列点文・平行沈線文の使用も共通するところである。ただし本群には瓢形を欠く。このように、本出土例は宇津台Ⅰ・Ⅱ群のものの両者を含み、とくに埋設土器は後者に相当するとしておく。ただし、破片で得られた資料の一部、復元可能な鉢形はこれらより若干古いと思われるものもある（図版50-2）。

② 埋設土器の性格について

本調査例は、少なくとも現状では調査区域内に埋設土器としてだけ単独に検出されたが、この種のものは従来集落とのかかわりのもとに考察されることが多かったといえる。弥生時代集落の内部構造は、居住区域・生産労働区域・墓域・倉庫・井戸・屋外炉・通路・周溝その他から構成されることが西日本を中心に解明されつつある。東北地方においては総合的調査は未実施で、その構成要素の個別調査（とくに墳墓関連が多い）が行われてきたといえる。埋設土器と関連しそうなものとしてはまず埋葬施設がある。東北地方の弥生時代の葬制については、伊藤玄三氏により既に見通しが与えられているが、それによると、縄文時代以来の伝統たる土壙墓が優越する特徴がある、土壙墓には小竪穴状のものもある、その中に壺棺・甕棺・合口棺・単棺などが納置される、副葬品も見られる、墓域は集落近隣の特定期に限定される傾向をもつらしいこと、などが指摘されている。本県においても同様のものが既に水沢市常盤・金ヶ崎町

長坂下などにおいて検出されている。本調査例は、小堅穴などの土壌、副葬品、人骨などを欠き、埋葬施設を積極的に主張する根拠に乏しい。煤の付着に限定すれば、関東地方の棺として利用された条痕文土器にも見られた現象ではある。次に屋外炉的なものである可能性についても、器面に炭化物の付着に見られるが、掘り込みに火力使用の痕跡が見られないことは既にのべたとおりであり、先と同様積極的に主張はできない。

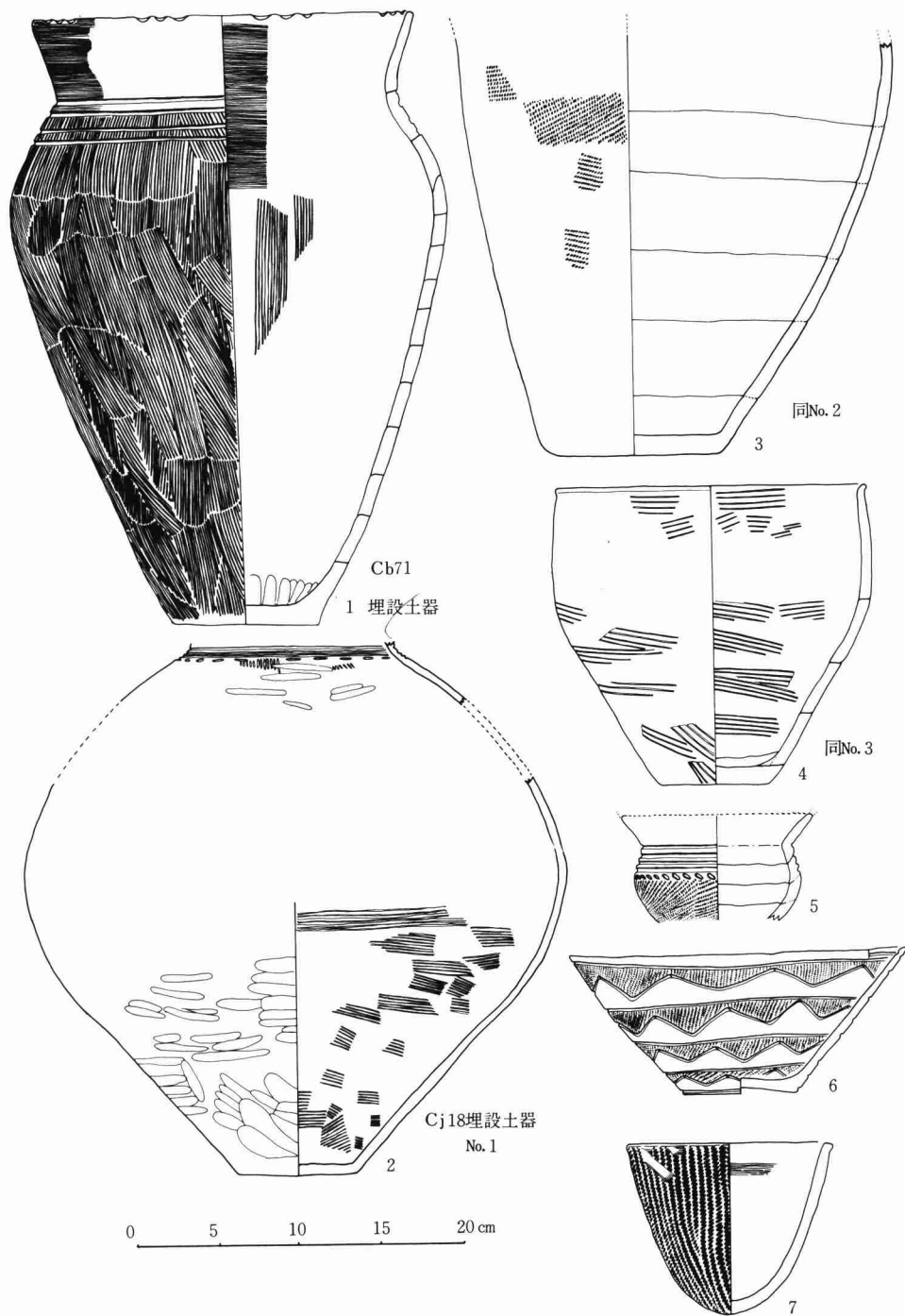
以上のように、現状ではその性格を推定することは困難である。したがって、先にあげた諸特徴を有することのみを示し、今後の類例の増加をまつこととする。ただし、本来的には集落内部あるいはその近隣に設けられたものではあったろう。

③ 今後の検討課題について

①集落の内容の把握。本県における該期の集落跡、なかでも住居跡の類例は、一部疑問はあるが水沢市常盤広町（隅丸長方形）、大船渡市長谷堂（円形）、未発表ではあるが可能性のあるものとして石鳥谷町大瀬川（長方形）、紫波町墳館（円形？）、などに見られた程度である。住居跡とその他の遺構の関連を示すような類例は皆無であり、資料の集積が急務である。

第7表

1	出土地点	調査地のほぼ全域に散在。埋設土器を除いては特定地点への集中は見られない。				
2	出土層位	大部分は第I層により出土。				
3	器種	甕形・鉢形・高坏形・壺形・不明。				
4	胎土・焼成	良好なものが多いが、縄文のみのもの、無文のものには精粗がある。これは器の大小にも関連か。				
5	成形	大半は巻きあげか。				
6	施文					
	表面×裏面	精粗	器種	底部外面	図版50-1	
	無文—無文	粗	カメ形、不明			
		精	壺・鉢形？			
	縄文—無文	粗	カメ？（埋設）	縄文 or 擦糸文、網代痕無文		
		精	カメ？			
	擦糸文—無文	粗	カメ？			
	縄文+沈線—無文	精	鉢？			
	磨消縄文—無文	精	鉢、高坏？	無文	12~17	
	沈線—無文	精	カメ、壺、高坏、不明		6~11	
	縄文・沈線—無文、刺突文	精	カメ、鉢、不明		1~5	
	沈線—無文、刺突文	精	壺（埋設）	無文		
	条痕文—条痕、沈線	精	カメ（埋設）	無文		
	条痕文—条痕	粗	カメ？（埋設）	無文		
7	その他	平底が多いが、稀に揚げ底風のものがある。				



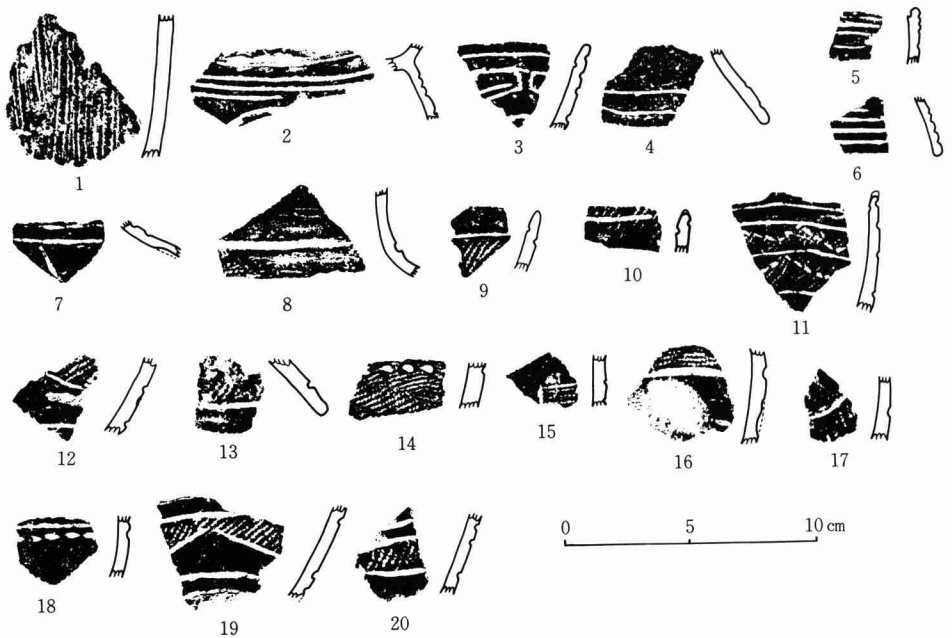
第31図 土器実測図

5・6, I層出土弥生式土器

7, 第3群土器

第6表 土器実測図説明

番号	胎土	焼成	色調	口径	座径	最大胴径	頸部径	口縁部高	器高
1	粗(砂粒)	普通	褐色~茶褐色	23.3 ^{cm}	9.0	26.7	20.8	4.8	37.0
2	精良	良好・光沢	黄褐色・赤色代部	12.5(推)	7.2	32.4			
3	粗(砂)	不良・脆弱	暗灰褐色		11.0	26.3			
4	"	"	"・黒斑	19.0(推)	6.5(推)	19.5(推)			
5	"	良好	黒褐色・煤						
器面調整他 口端部無文。肩部に4本の沈線。その下に、斜方向に刺突された一条の列点文。体部はLR原体を、横・斜位回転。									
6	良好	良好・硬い	明茶褐色・赤色塗彩	20.5	7.0				8.5
器面調整 内外ともにミガキ、光沢。									
施文 外面全面に施文。横走る5本の沈線で4本の文様帯を形成。そこにLR縄文を付す。次に錐齒状に沈線を加え、それと下位の横線とで区画される部分の縄文を磨り消す。内面 口唇直下に沈線1をめぐらす									
7	粗・繊維	不良	赤褐色	12.4(?)					10.4(?)



第32図 弥生式土器拓影図

実測図 番号	出土地点	出土 層位	器 種	部位	外		面		内		焼成	胎		土		その他
					色	調	調整・施文	調整・施文	色	調		調整・施文	調整・施文	色	調	
1	Ci15	I	甕?	体部	淡茶褐色	条痕	調整・施文	調整・施文	暗褐色	ナデかミガキ、 煤	不良	灰褐色	石英粗粒、粗			
2	Cb71	II a	高坏	脚部	茶褐色	ミガキ、沈線			茶褐色	ミガキ	良好	"	雲母片、石英粒、精			
3	Cbc71	I	鉢?	口縁	淡赤褐色	"	"	"	明赤褐色	"	"	"	白色粒、石英粗粒、粗			
4	Ca18	"	蓋?	"	暗茶褐色	"	煤	"	暗茶褐色	"	"	"	"		あるいは 鉢か脚	
5	BjCa77	"	高坏?	"	灰茶褐色	"	"	"	灰茶褐色	"	"	"	白色粒子、精			
6	Ca68	"	高坏	脚	赤茶色	"	"	"	赤茶色	"	"	"	"			
7	BjCa77	"	壺?	肩部	灰褐色	ミガキ、鋸齒状沈線			灰褐色	"、剥落	不良	灰褐色	"	粗		
8	Ca71	"	甕	肩部	淡茶褐色	沈線、体部LR<			淡茶褐色	ナデかミガキ	良好	淡茶褐色	雲母片、石英粒、粗			
9	Cd06	"	鉢?	口縁	灰褐色	磨消縄文、LR<			灰褐色	ミガキ	"	灰褐色	石英粒子、精		裏面沈線	
10	BjCa68	"	"	"	赤褐色	"	"	"	赤茶色	"	"	赤茶色	"	粗	"	
11	BjCa77	"	"	"	淡茶褐色	磨消縄文、LR<			淡茶褐色	"	"	淡茶褐色	"	精	突起2ヶ 一對	
12	Da24	"	"	体部	肌色	"	"	"	淡赤褐色	"	"	灰褐色	"	粗	多孔質	
13	BjCa74	"	高坏	脚部	"	"	"	"	肌色	ナデかミガキ	不良	肌色	"	"		
14	BjCa68	"	鉢?	体部	灰褐色	磨消縄文、LR<			灰黒色	ミガキ	良好	灰褐色	"	"		
15	Cbc21	"	"	"	肌色	"	"	"	赤褐色	"	"	"	白色細粒、精			
16	Ah53	"	"	"	"	"	"	"	黄褐色	"	不良	黄褐色	石英粗粒、粗			
17	Aij06	"	"	"	"	"	"	"	暗褐色	"	"	茶褐色	白色粒子、粗			
18	Bc53	"	"	"	灰黒色	磨消縄文、LR<			茶褐色	"	良好	"	雲母片、石英粒、粗			
19	BjCa68	"	"	"	赤茶色	"	"	"	赤茶色	"	"	赤茶色	小石、石英粒、粗			
20		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	

⑥東北北半の弥生時代集落の立地論的・生業論的観点からの検討。集落の立地については、「低位集落・高位集落」などの範型の設定が行われているが、本県の該期の遺跡の立地にも現象的には四種を指摘できる。即ち、⑦縄文時代晩期以来の河岸の低地（一関市谷起島）、⑧沖積地に臨む微高地（江刺市沼の上・兔、水沢市常盤広町・橋本）、⑨台地・低位段丘上の平坦部（杉の堂、大船渡市長谷堂、石鳥谷町大明神）、⑩山腹などの比較的高地（石鳥谷町大瀬川・紫波町墳館）などである。これらに生業論でのべられる稲作・畑作・狩猟・漁撈・鉱工業その他の社会的分業の諸類型（単一あるいは複数）をも加えて検討すべきであろう。東北北半の弥生文化の内容に種々の疑問が依然として提示されている現状においてはとくに必要であろう。たとえば、いわゆる「天王山式」類似の土器を出土する遺跡には稲作を想定せしめる立地と、そうでないものが存する。前者は常盤広町、兔などである。常盤広町は当然、兔においては、沖積地を臨む微高地上に居住区域が設定されているが、その占地は稲作可耕地を選択しているといえよう。さらに決定的には、天王山式より若干古いとも思われる粘痕土器も検出されている。後者については、その系統にあるとされるものを含めて山腹などから検出される例の多い事実である（既述の墳館など）。したがって「天王山式」なる「型式」の内容と型式名比定の当否の点検を含め、先の観点での検討が必要である。同様に古代において東北北半に散見するいわゆる「北海道的」とされる土器群の解釈にあたって、性急に人種論的観点に終始することなく上述の観点をもつけ加えるべきであろう。もちろん、縄文時代の項でものべたごとく、微地形への配慮を欠いてはいけないのは当然である。たとえば、低位段丘上にのる遺跡も段丘崖近くあるいは河川の後背湿地近くに位置するものが多い、あるいは冠水を避けうる微高地にのるものがある、などのように。

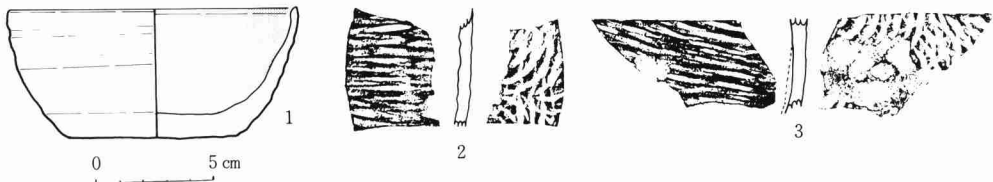
3 歴史時代の遺物

本調査において古代に関連する遺構は検出できず、若干の遺物を得た。その概略は第33図・第8表にまとめた。

本調査地周辺には歴史時代ことに古代の遺跡も存在したらしい。とくに、調査地東方の0.5 kmには、本調査地の北限を画した沢の傾斜面に、須恵器の窯跡が存在した由であるし（現在は圃場整備事業関連工事で盛土が施され地下に埋没しているらしい）。また東隣の畑地からも須恵器・土師器を採集できる。したがって、調査地周辺に古代の窯業関連の集落が存在した可能性が強い。ちなみに南方の紫波町杉の上にはヘラ切・無調整の須恵器坏他を出す窯跡が存在する。

要約 歴史時代の土器の年代等

本調査地出土の古代の土器は、いわゆる須恵器・土師器・赤褐色の土器などからなるが、これらはおおむね平安時代に位置づけられてよいものであろう。東北地方の平安時代の土師器の編年については不明な点が多い。従来の「型式」編年観を援用すれば、本調査例の内黒杯はい



第33図 歴史時代の土器

1. 土師器

2・3. 須恵器

第8表

土 師 器	坏	完全品	ロクロ形成	ヘラ切り? 内黒
	甕	破片	巻きあげ?	口縁2、体部5
		〃	ロクロ成形	口縁2、体部5
赤褐色の土器	坏	破片	ロクロ成形	回転糸切、無調整
	不明	〃	〃	
須 恵 器	甕	破片	〃	内外に叩き目

いわゆる「表杉ノ入式」の仲間であろう。表杉ノ入式については、岡田・桑原両氏によって9世紀後半から11世紀後半までという存続期間が推定されている。また、本調査例の赤褐色の土器が両氏ののべるいわゆる「須恵系土器」の仲間であるとすれば、その存続期間は、10世紀末から11世紀後半を推定されている。本調査例では、上記二者の共伴関係は不明であるので、ここでは上記の年代にまたがる遺物が出土した、とのみのべておく。

4 時代不明の遺構

共伴遺物が得られない他の理由で時代不明としたものは、焼土集積部・掘り込み・ピット類である。覆土の状況からして大半は現代に近いものと思われるので、その概略のみを第9表にまとめ、詳細は省略した。

5 まとめ

遺跡の性格に関する項目を再述し、まとめとする。

(1)本調査地は、縄文時代早期後半の集落の一部と思われる。それは竪穴住居跡・屋外炉穴・遺物包含層から構成される。

(2)本調査地は弥生中期の集落にかかわる可能性がある。

(3)本調査地周辺には、平安時代の窯業集落その他が存在した可能性がある。

6 出土土器の胎土分析について

本課において考古学的資料の自然科学的処理・分析・データの蓄積・提示をその整理テーマの一つとしていることは既にふれたところであるが、その一環として本調査地出土土器の一部に、X線回折法による胎土分析を実施した。日程その他の関係でX線回折のみの単一の分析法・定性分析しか実施できなかったのは遺憾であり、今後は各種の改良を加え、より精密なデー

第9表

番 号	概 形	東西径×南北径 cm	深 さ	備 考
1	円 形	42 × 46	14.7	
2	〃	46 × 40	16.4	2・3 重複
3	〃	20 × 25	25.1	3が新
4	〃	35 × 40	31.5	
5	〃	29 × 27	6.9	5・6 重複
6	〃	15 × 17	3.5	6が新
7	〃	18 × 17	6.0	
8	〃	29 × 27	12.7	
9	ダ ル マ 形	70 × 92	13.4	Cb 53と重複、9が新
10	円 形	26 × 24	19.9	
11	〃	22 × 24	18.5	
12	〃	27 × 27	23.4	
13	〃	34 × 36	12.5	
14	〃	28 × 23	17.0	
15	楕 円 形	38 × 28	7.7	
16	楕 円 形	36 × 36	44.2	
17	〃	27 × 26	40.5	斜 行
18	〃	30 × 31	12.0	
19	〃	15 × 17	21.1	
20	〃	29 × 27	9.0	
21	〃	24 × 25	10.7	
22	〃	28 × 30	7.2	
23	〃	20 × 21	7.5	
24	楕 円 形	35 × 25	12.0	
25	楕 円 形	22 × 22	14.7	
26	〃	35 × 37	10.3	
27	〃	19 × 22	14.3	
28	〃	25 × 22	21.5	
29	〃	19 × 19	19.5	
30	〃	20 × 22	16.2	
31	〃	20 × 21	8.6	C j 18に近接
32	〃	18 × 20	12.1	〃
33	〃	22 × 25	8.9	
34	〃	22 × 22	11.3	
35	〃	22 × 20	17.7	
36	〃	19 × 18	8.8	
37	〃	25 × 25	25.9	
38	〃	26 × 26	29.0	C j 18に近接
39	〃	60(推) × 52	9.0	39・40 重複
40	〃	40 × 42	18.0	40が新
41	楕 円 形	28 × 23	17.5	
42	楕 円 形	18 × 18	17.4	
43	〃	21 × 22	19.8	
44	〃	16 × 18	6.3	C j 18に近接
45	〃	13 × 14	9.0	〃
46	楕 円 形	31 × 22	12.1	〃
47	楕 円 形	18 × 21	8.0	〃

タの蓄積に努めたい。試料は細分した各土器の代表例・調査地下層（Ⅲ層より下位）の粘土二種（未焼成）である。分析は岩手県工業試験場に依頼した。ここにその結果を示す。なお、すべての結晶についての同定を実施してはいないし、また、同定に疑問のあるものについては、〔？〕を付してある。試料を分析前にバインダー17に含浸させてしまったのが不明瞭になった原因と考えられ、本課にその責任がある。

結晶構造の変化と温度・焼成焔の性質は密接な関連をもつし、上述の不備があるので、結果の解釈には慎重さを要す。しかし、考古学上の常識によれば、少なくとも試料1～23は焼成温度、焼成焔の性質には共通性があるとみなすことができ、その意味では、試料相互の組成を比較することもまったく無意味とはいえない。試料24はロクロ成形のものであり、その焼成方法に若干の疑義が表明されている段階なので、ここでは除外する。もっとも顕著な相違は22・23の両者とそれ以外のものの組成であり、次には19～21と1～18との相違であろう。なお、25のムライトの存在は、該試料の高温焼成（1000℃以上）を裏づけるものであろう。いずれにしてもこの結果の解釈は、今後さらに慎重に進めていきたい。

第10表

測定条件
X-Ray Diffractometer

測定資料

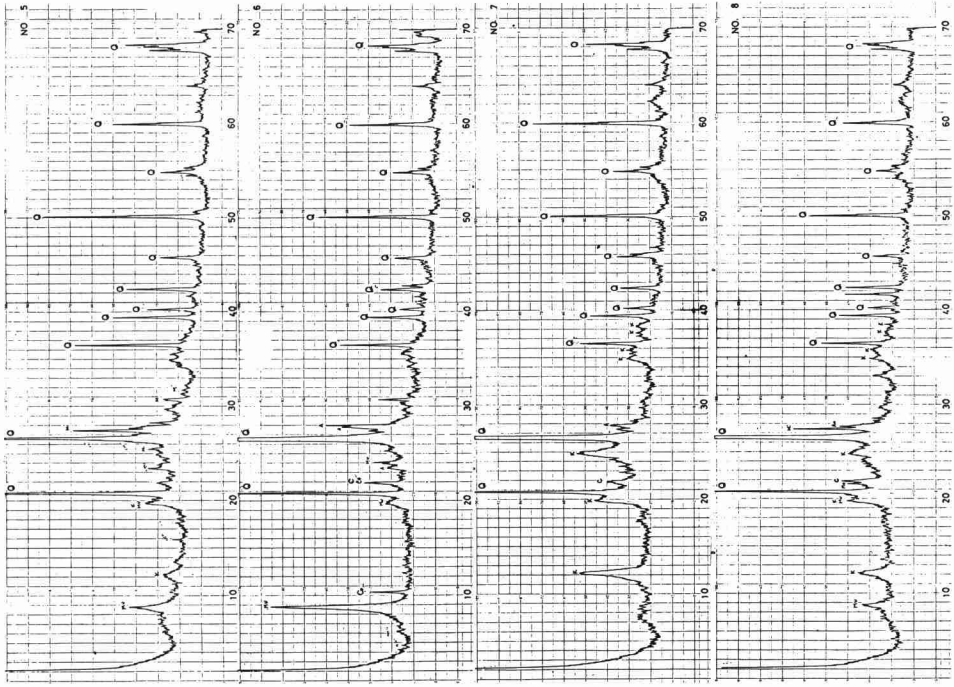
Target	Cu	Na	分類	地点	層位	考古学的年代	Na	分類	地点	層位	考古学的年代
Filter	Ni	1	1-a	B d 03	II a	縄文早期（ムシリ I）	16	3-c-2	B c 53	I	縄文早期（早稲田五）
Voltage	40 kv	2	1-b-2	A h i 62	II b	〃	17	3-d-2	A i 62	II a	〃
Current	30 mA	3	1-b-3	B d 50	II a	〃	18	4-a-2	B a b 53	I	縄文早期（船入島下層）
Count Full Scale	1,000 C/S	4	1-b-4	B c 03	II a	〃	19	4-a-4	B c 50	II a	〃
Time Constant	2 sec	5	1-c-1	B d 50	II a	〃	20	4-a-5	B a 06	II a	〃
Scanning Speed	1°/min	6	1-c-2	A h i 59	II a	〃	21	4-b	B c 03	II a	〃
Chart Speed	10 cm/min	7	2-a-1	B b 06	II b	縄文早期（早稲田四）	22	弥生壺	C j 18	埋設	弥生中期（字津台）
Divergency	1°	8	2-b-1	B c 09	II b	〃	23	鉢	B j-Ca68	I	〃
Receiving Slit	0.15 mm	9	2-c	B d 03	II a	〃	24	土師器	B b 53	II a	ロクロ成形
Detector	P.C	10	2-d	C d 09	I	〃	25	須恵器	B b 50	I	大ガメ
		11	2-e	B c 03	II b	〃	26	粘土		上	橙色
		12	3-a	B a b 53	I	縄文早期（早稲田五）	27	〃		下	灰色
		13	3-b-1	B c 50	II a	〃					
		14	3-b-2	B c 06	II b	〃					
		15	3-b-3	B c 53	II a	〃					

第11表

資料	結晶										タイプ	編 年
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		1-a	ムシリ I 式
2	○	○	○				○	○			1-b-2	
3	○	○	○	○	○	○	○	○			1-b-3	
4	○	○	○	○	○		○	○			1-b-4	
5	○		○		○		○				1-c-1	
6	○	○				○	○	○			1-c-2	
7	○	○			○			○			2-a-1	早稲田四類
8	○		○	○	○		○	○			2-b-1	
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○		2-c	
10	○	○	○	○		○	○	○	○		2-d	
11	○	○	○			○	○	○			2-e	
12	○	○				○	○	○			3-a	早稲田五類
13	○	○	○	○		○	○	○			3-b-1	
14	○		○		○		○	○	○		3-b-2	
15	○	○	○	○	○	○		○			3-b-3	
16	○	○	○			○	○	○			3-c-2	
17	○	○	○				○	○			3-d-2	船入島下層式
18	○		○		○	○		○	○		4-a-2	
19	○	○				○	○	○	○		4-a-4	
20	○	○				○	○	○			4-a-5	
21	○	○				○	○	○	○		4-b	
22	○	○						○			弥 生	宇津台式
23	○	○						○			"	"
24	○			○				○	○		土 師 器	ロクロ使用
25	○									○	須 恵 器	"
26	○	○			○			○	○		素地粘土	} 未焼成
27	○	○			○			○	○	○	"	

第12表

① Alpha Quartz	α 石 英	SiO_2	Silicon Oxide
② Albite	曹 長 石	$\text{NaAlSi}_3\text{O}_8$	(Low Temp.) Sodium Aluminium Silicate
③ Microcline	微 斜 長 石	KAlSi_3O_8	Potassium Aluminium Silicate
④ Anorthite	灰 長 石 (?)	$\text{CaAl}_2\text{Si}_2\text{O}_8$	Calcium Aluminium Silicate
⑤ Kaolinite	カ オ リ ナ イ ト	$\text{Al}_2\text{Si}_2\text{O}_5(\text{OH})_4$	Aluminium Silicate Hydroxide
⑥ Cordierite	竜 青 石 (?)	$\text{Mg}_2\text{Al}_3(\text{Si}_4\text{Al}_2)\text{O}_{18}$	Magnesium Silicate
⑦ Muscovite	白 雲 母 (?)	$\text{KAl}_2(\text{AlSi}_3)\text{O}_{10}(\text{OH})_2$	Potassium Aluminium Silicate Hydroxide
⑧ Low or Alpha cristobalite	ク リ ス ト バ ラ イ ト	SiO_2	Silicon Oxide
⑨ Montmorillonite	モンモリロナイト	$\text{Al}_{1/3}\text{Mg}_{1/3}\text{Si}_4\text{O}_{10}(\text{OH})_2 \cdot \text{W}_{1/3} \cdot \text{mH}_2\text{O}$	Basic Aluminium Silicate
⑩ Mullite	ム ラ イ ト	$3\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot 2\text{SiO}_2 \sim 2\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot \text{SiO}_2$	Aluminium Silicate

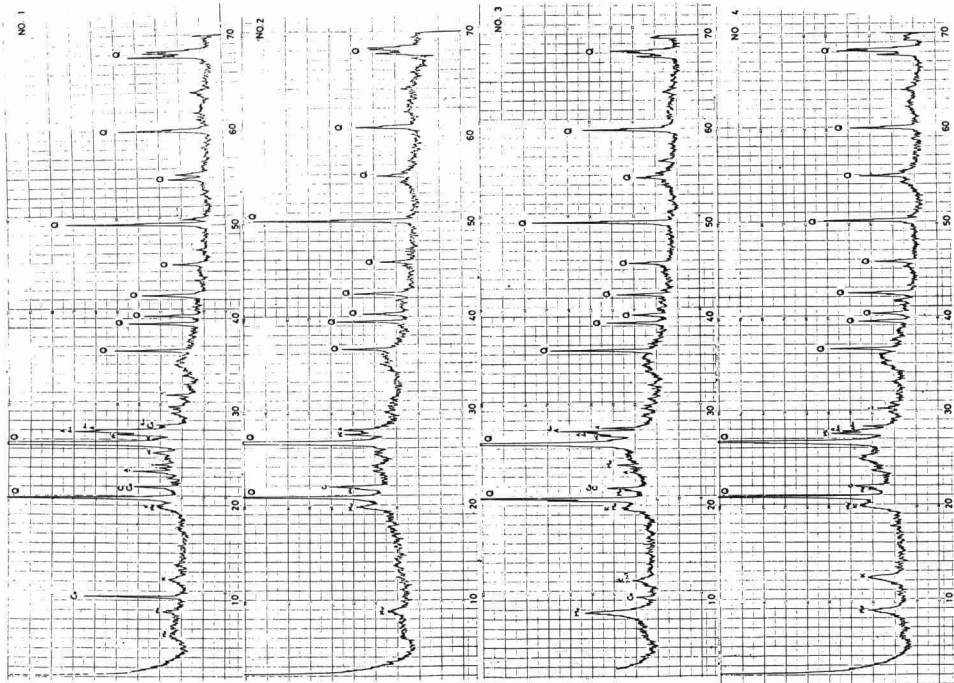


No. 5

No. 6

No. 7

No. 8

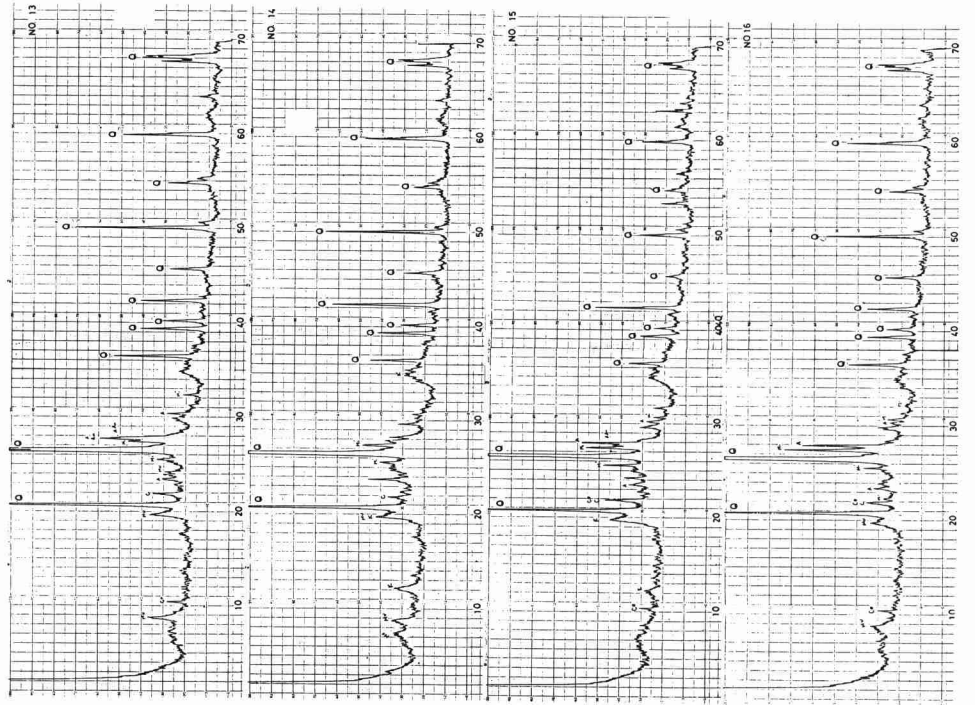


試料
No. 1

No. 2

No. 3

No. 4

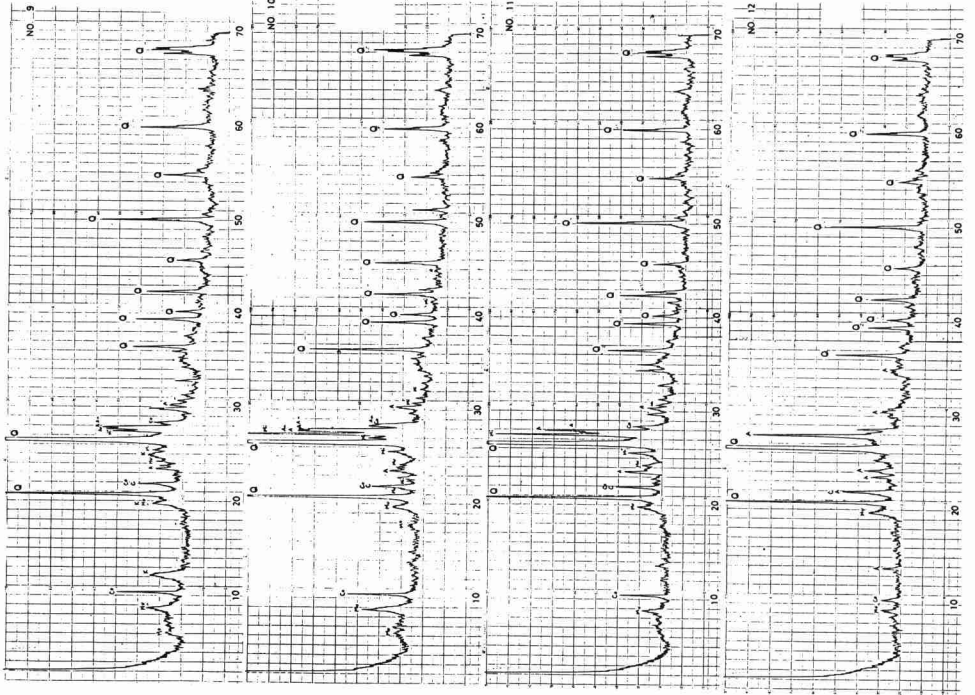


No. 13

No. 14

No. 15

No. 16

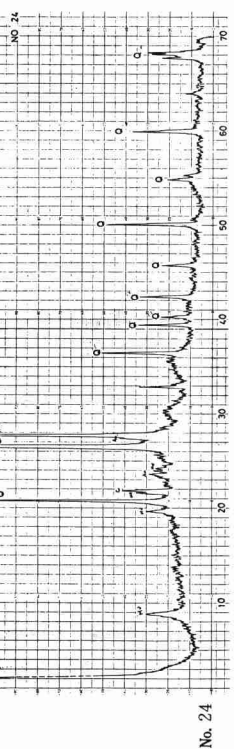
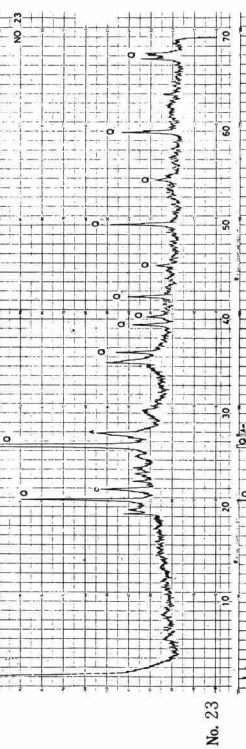
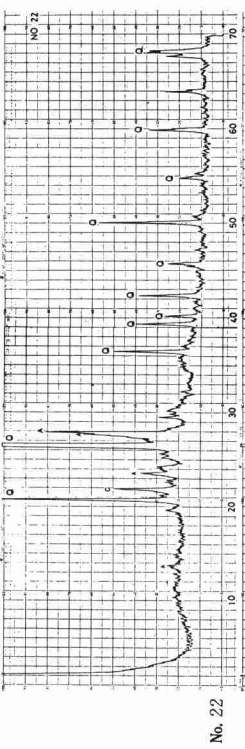
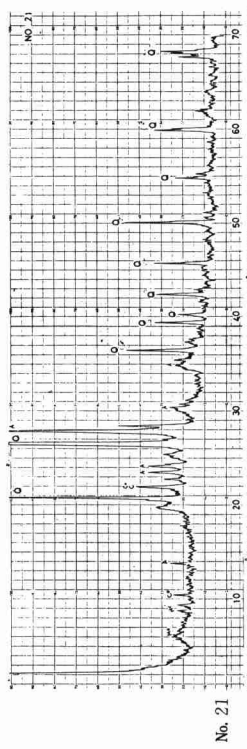
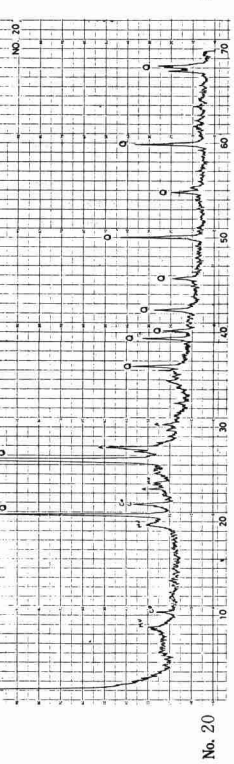
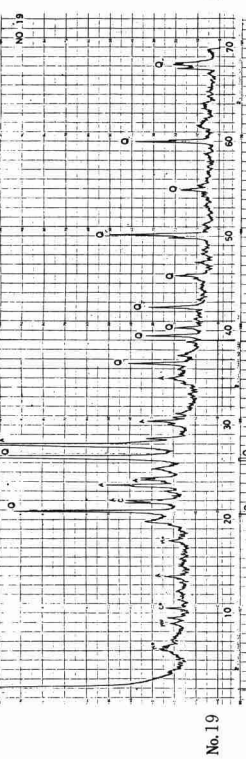
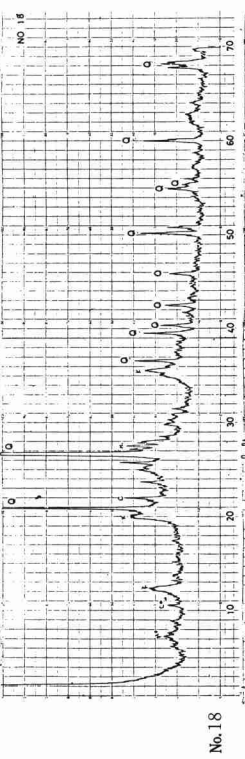
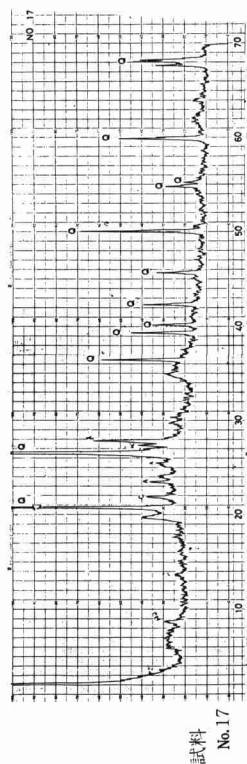


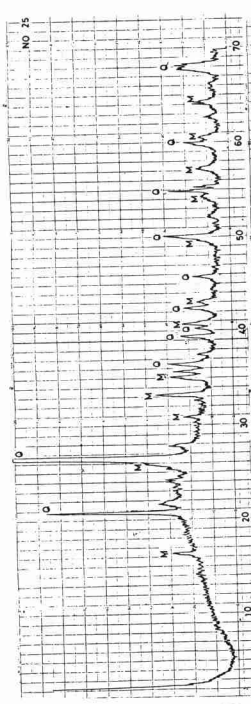
試料
No. 9

No. 10

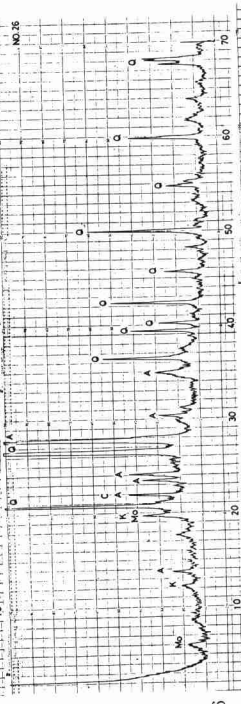
No. 11

No. 12

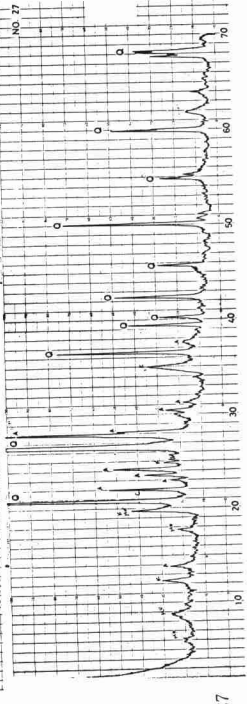




試料
No. 25



No. 26



No. 27

分 類	No	通 算 号 番	登 録 号 番	出 土 地 点	出 土 層 位	最 大 長 寸 cm		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
						縦	横				
I	1	1	6	Ahi59	I	2.0	1.8	0.5	1.1	凝灰質硬質頁岩	17-1 17-3 17-2 17-8 17-4 17-5 17-7 17-6
	2	2	51	Ci15(3)	II a	1.9	1.2	0.3	1.5	石質凝灰岩	
	3	3	124	Bd50	"	1.4	1.0	0.1	0.4	同上	
	4	4	147	Bc50	"	2.4	1.5	0.3	0.6	凝灰質硬質頁岩	
	5	5	17	Bc6	I	2.6	1.5	0.2	1.0	同上	
	6	6	175	"	II b	1.9	1.3	0.3	0.6	硬質頁岩	
	7	7	184	Bc50	"	1.7	1.0	0.2	0.5	同上	
	8	8	185	Bc53	I	1.5	1.2	0.2	0.5	硬質頁岩	
	9	9	193	Cgh15	"	2.3	1.2	0.2	0.5	同上	
	10	10	1	Ag59	I	3.0	1.0	0.3	1.8	硬質頁岩	
II-a	2	11	3	Ahi56	"	2.7	1.0	0.4	1.4	同上	
	3	12	34	Ccd9	"	2.6	1.0	0.3	1.4	同上	
	4	13	55	Bab50	"	2.0	1.4	0.3	0.7	同上	
	5	14	56	"	"	2.3	0.7	0.3	1.0	同上	
	6	15	57	"	"	2.5	1.1	0.3	2.1	硬質頁岩	
	7	16	78	Bb53	II a	2.7	0.9	0.3	1.0	凝灰質硬質頁岩	
	8	17	80	Bb3	"	2.7	1.0	0.3	0.9	同上	
	9	18	84	"	II b	3.2	1.2	0.5	1.5	同上	
	10	19	87	Bb6	"	2.3	1.3	0.5	2.0	同上	
	11	20	190	Ca68	I	4.2	1.5	0.6	4.0	石質凝灰岩	
II-b	1	21	10	Ahi62	II a	3.3	0.8	0.3	1.2	硬質頁岩	
	2	22	21	Cbc68	I	1.6	1.0	0.2	0.5	同上	
	3	23	24	"	"	1.7	1.1	0.2	0.5	同上	
	4	24	25	"	"	3.3	0.9	0.2	1.1	硬質頁岩	
	5	25	32	Cb68	"	3.8	0.9	0.3	1.5	珪質頁岩	
	6	26	36	Cd53	"	2.5	1.1	0.2	1.1	同上	
	7	27	53	Bab50	"	3.7	1.0	0.2	1.0	硬質頁岩	
	8	28	61	Bab53	"	2.5	0.9	0.2	1.0	同上	
	9	29	65	Ba69	"	3.1	1.0	0.3	1.2	同上	
	10	30	72	"	II a	2.5	1.1	0.3	1.1	凝灰質硬質頁岩	
	11	31	83	Bb3	"	2.7	0.8	0.3	1.1	硬質頁岩	
	12	32	101	BjCa68	I	2.1	0.9	0.3	0.9	同上	
	13	33	103	"	"	3.7	1.5	0.3	1.3	硬質頁岩	
	14	34	125	Bd50	II a	1.4	1.1	0.2	0.5	同上	

分 類	No	通 算 番 号	登 録 番 号	出 土 地 点	出 土 層 位	最 大 長 度		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
						縦	厚				
II - b	15	35	128	Bd3	I	2.4	0.9	0.2	0.6	凝灰質硬質頁岩	
	16	36	137	Bc50	"	2.1	1.3	0.2	1.1	同上	
	17	37	153	"	II b	3.4	1.2	0.3	2.0	硬質頁岩	
	18	38	155	Bc53	I	1.6	0.9	0.2	0.6		
	19	39	162	"	"	2.6	0.7	0.2	0.9	硬質頁岩	
	20	40	163	"	I	2.5	1.0	0.3	0.7	同上	
	21	41	176	Bc6	II a	2.3	1.1	0.3	1.0		
	22	42	177	"	"	1.9	1.1	0.2	0.6		
	23	43	186	Bd50	"	3.4	0.8	0.3	1.1	硬質頁岩	
	24	44	14	Aj12	I	2.3	1.5	0.3	1.0	凝灰質硬質頁岩	
III - a	2	45	27	Cbc68	I	2.0	1.1	0.2	0.5	硬質頁岩	
	3	46	41	Cc6	II a	2.4	1.3	0.2	0.6	同上	
	4	47	79	Bb3	I	2.2	1.2	0.2	0.6	同上	
	5	48	93	Bb9	II b	2.2	1.5	0.2	1.0	凝灰質硬質頁岩	17-9
	6	49	105	BjCa68	I	1.9	1.8	0.3	0.6	硬質頁岩	17-10
	7	50	187	Bd50	II a	1.3	1.1	0.1	0.3	同上	17-11
	8	51	4	Ahi56	I	2.3	1.3	0.3	0.4	同上	
	9	52	9	Ahi59	"	2.6	1.5	0.3	1.5	同上	
	10	53	35	Cd50	"	2.1	1.0	0.3	0.9	同上	
	11	54	59	Bab50	II a	2.7	1.3	0.2	1.5	凝灰質珪質頁岩	
III - b	12	55	91(7)	Bb9	"	1.9	1.0	0.2	0.6	硬質頁岩	
	13	56	102	BjCa68	I	2.3	1.1	0.4	1.5	同上	
	14	57	134	Bd3	II b	2.0	1.3	0.3	0.7	同上	
	15	58	141	Bc50	I	2.3	1.3	0.3	1.0	凝灰質硬質頁岩	17-13
	16	59	17	Dd24	"	3.7	1.3	0.5	2.3	同上	
	17	60	18	Cab56	遺構床	3.2	1.1	0.3	1.5		
	18	61	23	Cbc68	I	1.8	1.8	0.4	2.5	1.0	
	19	62	28	"	"	1.8	1.2	0.3	1.0	1.5	
	20	63	31	"	"	3.1	1.1	0.3	1.4	2.8	凝灰質硬質頁岩
	21	64	39	Cc6	II a	2.4	1.0	0.2	0.7	2.4	同上
22	65	62	Bab3	"	2.5	1.1	0.3	1.0	2.2	硬質頁岩	
23	66	63	Bab6	"	2.2	1.2	0.3	1.4	1.8		
24	67	66	Ba3	II b	2.5	1.6	0.5	2.6	1.5		
25	68	76	Bab53	I	2.2	1.1	0.4	1.5	2.0		
26	69	82	Ba3	II a	3.8	1.4	0.5	3.2	2.7	硬質頁岩	

分 類	No	通 算 番 号	登 録 番 号	出土地点	出土 層 位	最 大 長 cm		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
						縦	横				
III - b	20	70	85	Bb 56	II a(?)	2.2	1.4	0.3	1.6	珪質頁岩	17-12
	21	71	86	Bb 6	II a	3.1	1.2	0.3	1.5	硬質頁岩	
	22	72	89 (6)	"	II b	2.9	1.2	0.3	1.5	2.4	
	23	73	90	Bb 9	I	2.8	1.2	0.4	2.1	凝灰質硬質頁岩	
	24	74	100	BjCa 68	"	3.3	1.3	0.5	2.4	硬質頁岩	
	25	75	117	Bcd 53	II a	2.4	1.1	0.3	1.5	凝灰質硬質頁岩	
	26	76	120	Bb 9	I	3.1	1.4	0.5	2.2	硬質頁岩	
	27	77	129	Bd 3	"	3.3	1.4	1.6	3.0	同上	
	28	78	140	Bc 50	"	3.2	1.2	0.2	0.9	同上	
	29	79	150	"	II a	2.4	1.0	0.3	0.5	2.4	
	30	80	161	Bc 53	I	3.8	1.2	0.5	2.7	石質凝灰岩	
	31	81	167	Bc 3	"	2.1	1.1	0.3	1.1	硬質頁岩	
	32	82	168	"	"	2.5	0.9	0.3	0.8	同上	
	33	83	174	Bc 6	II a	2.2	1.0	0.4	1.5	凝灰質硬質頁岩	
	34	84	171	"	I	3.1	1.4	0.5	2.6	硬質頁岩	
	35	85	178	"	"	2.9	1.2	0.3	1.5	凝灰質硬質頁岩	
	36	86	192	Ce 6	II a	3.0	1.0	0.3	0.8	2.2	
	37	87	205	Bb 9	II b	1.5	1.2	0.2	0.6	硬質頁岩	
	38	88	7	Ahi 59	I	2.5	1.2	0.2	1.2	2.0	
	39	89	22	Cbc 68	"	1.9	1.0	0.3	1.0	1.9	
	40	90	64	Bab 6	"	2.7	1.3	0.3	1.7	2.0	
	41	91	68	Ba 50 (2)	II b	2.6	1.5	0.4	2.2	1.7	
	42	92	92	Bb 9 (8)	II a	2.5	1.2	0.3	1.5	2.0	
	43	93	114	Bcd 53	I	2.5	0.8	0.3	1.0	3.1	
	44	94	30	Cb 53	Pit埋土	2.8	1.1	0.3	1.4	2.5	
	45	95	48	Cij 21	I	2.4	0.9	0.3	1.0	2.6	
	46	96	96	Bb 12	II a	2.9	1.1	0.3	1.4	2.6	
	47	97	135	Bd 6	I	2.4	1.2	0.3	1.6	2.0	
	48	98	151	Bc 50	II a	2.7	1.2	0.5	1.6	2.2	
	49	99	164	Bc 53	"	2.3	1.1	0.4	1.5	2.0	
	1	100	5	Ahi 56	I	1.7	0.9	0.3	0.6	1.8	
	2	101	11	Ahi 62	II b	2.0	1.4	0.2	1.0	1.4	
	3	102	13	Aj 56	I	2.7	1.2	0.2	1.3	2.2	
	4	103	16	Db 24	"	3.2	0.8	0.4	1.3	4.0	
	5	104	35	Cd 50	"	3.0	1.1	0.2	1.4	2.7	

分 類	No	通 算 番 号	登 録 番 号	出土地点	出 土 層 位	最 大 長 度		比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図		
						縦	厚					
III-c	6	105	44	Cgh 15	I	2.6	0.9	0.2	硬質頁岩	17-15		
	7	106	47	Cgh 21	"	4.9	1.1	0.3	2.6		4.4	
	8	107	49	Cj 21	II a	3.0	1.5	1.3	2.0		2.0	
	9	108	60	Bab 53	I	3.2	1.2	0.3	1.6		2.6	
	10	109	116	Bcd 53	II a	1.4	0.8	0.2	0.5		1.7	
	11	110	126	Bd 53	"	2.0	0.9	0.2	0.6		2.2	
	12	111	136	Bd 6	"	2.7	0.9	0.3	0.5		3.0	
	13	112	191	Ce 6	"	3.5	1.2	0.2	1.5		2.9	
	IV	1	113	54	Bab 50	I	4.3	1.5	1.4		2.7	2.8
		2	114	58	"	II a	2.7	1.1	0.7		2.6	2.4
		3	115	71	Ba 69	I	2.6	0.9	0.3		0.9	2.8
		4	116	73	Bb 50	"	3.4	1.0	0.3		1.7	3.4
		5	117	94	Bb 9	II b	4.3	1.1	0.4		3.1	3.9
6		118	106	BjCa 71	I	2.7	0.9	0.4	1.6	3.0		
7		119	127	Bd 8	"	3.7	1.2	0.6	3.0	3.0		
8		120	132	Bd 3	II a	5.0	1.3	0.5	3.3	3.8		
9		121	138	Bc 50	I	3.8	1.1	0.6	3.1	3.4		
10		122	144	"	"	2.7	0.8	0.3	1.0	3.3		
V	11	123	149	"	II a	3.7	1.6	0.5	2.8	2.3		
	12	124	154	Bc 53	I	4.5	1.0	0.5	2.5	4.5		
	13	125	104	BjCa 68	"	3.1	1.4	0.4	2.4	2.2		
	1	126	45	Cgh 15	"	2.1	1.1	0.3	1.0	1.9		
	1	127	46	Cgh 15	"	2.3	1.7	0.4	3.0	1.3		
	2	128	67	Ba 3	II b	2.4	1.7	0.5	3.5	1.4		
	3	129	107	BjCa 71	I	3.5	1.6	0.3	3.6	2.1		
	4	130	108	BjCa 74	II a	2.8	1.5	0.7	3.6	1.8		
	5	131	133	Bd 3	II b	2.5	1.6	0.4	1.6	1.5		
	6	132	152	Bc 50	II a	3.6	1.7	0.3	2.6	2.1		
	7	133	157	Bc 53	I	2.8	1.4	0.5	2.9	2.0		
	8	134	180	Ahi 62	II a	3.9	1.5	0.3	2.1	2.6		
	9	135	195	Bbc 77	I	3.7	1.5	0.6	5.5	2.4		
VI	10	136	198	Bc 53	"	3.7	2.0	0.3	3.5	1.8		
	11	137	206	Ba 6	"	2.9	1.8	0.3	2.5	1.6		
	12	138	210	Bbc 77	"	2.7	1.5	0.4	3.0	1.8		
	13	139	212	Cef 15	"	3.0	2.0	0.3	2.9	1.5		
									硬質頁岩			

分 類	No.	通 算 番 号	登 録 番 号	出 土 地 点	出 土 層 位	最 大 長 寸		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
						縦	横				
II	5	35	109	BjCa77	I	4.9	2.5	7.1	1.9	硬質頁岩	17-26
	6	36	111	Bcd53	"	4.6	2.0	8.5	2.3	同上	
	7	37	119	Bcd9	"	2.7	1.6	3.1			
	8	38	130	Bd3	"	4.4	1.9	7.3	1.6		
	9	39	142	Bc50	"	4.0	1.7	5.5	2.3	硬質頁岩	
	10	40	159	Bc53	"	3.9	2.0	5.6	1.9	同上	
	11	41	160	"	"	3.9	1.6	6.5	2.4	同上	
	12	42	170	Bc3	IIb	4.1	1.6	0.7	2.5	同上	
	13	43	189	Ca50	I	4.7	1.7	0.6	5.8	同上	
	14	44	209	Cbc68	"	2.9	1.7	0.4	4.7		
	15	45	1	Ahi59	"	3.3	1.4	0.4	3.6		
	16	46	12	Cbc74	"	4.0	1.8	0.5	5.5	2.3	
	17	47	19	Bab50	IIa	3.0	2.0	0.5	5.6	1.5	
	18	48	23	Bab12	"	4.3	1.8	0.7	5.7	2.3	
	19	49	24	Bb3	IIb	3.7	2.5	0.6	8.1	1.4	
	20	50	26	Bcd53	IIa	3.6	2.3	0.5	5.5	1.5	
	21	51	28	Bc50	I	4.0	2.5	0.6	7.7	1.6	
22	52	37	Bd9	I(客土)	5.0	2.5	0.7	10.5	2.0		
23	53	59	Cij18	I	4.2	2.0	0.7	9.2	2.1		
24	54	69	Bc9	IIb	4.4	2.2	0.6	6.5	2.0		
25	55	71	Bc6	"	4.8	2.2	0.5	9.1	2.1		
III	1	56	9	Cbc68	I	7.2	2.1	1.5	2.5	3.4	
	2	57	14(2)	Cb77	IIa	4.2	2.8	0.8	9.0		
	3	58	29	Bc50	IIb	7.3	2.3	0.8	21.5	3.1	
	4	59	31	Bc3	IIa	5.5	1.4	0.9	11.0	3.9	
	5	60	33	Bc6	IIb	5.3	1.7	0.6	5.9		
	6	61	51	BjCa68	I	6.5	1.9	0.6	8.9	3.4	
	7	62	64	Bab50	"	5.4	1.5	0.5	6.9		
	1	63	6(1)	Ca77	IIa						
	2	64	7	Cbc68	I						
	3	65	10	Cc6	"	5.5	2.6	0.8	12.0	2.1	
IV	4	66	15	Cg21	"	4.2	1.8	0.7	5.7	2.3	
	5	67	17	Bab50	"						
	6	68	21	Bc50	IIa						
	7	69	27	"	I	18.1	4.9	3.2	19.6		
										省 略	
										硬質頁岩 斜長石流紋岩	
										省 略	

分類	No.	通番	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長cm		重量g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図	
							縦	横					
IV	8	70	35	Cc3	I	4.8	2.5	0.6	10.0	1.9	泥質石質凝灰岩 硬質頁岩		
	9	71	42	Bc50	II a	}	}省略	7.6					
	10	72	47	Bc6	"								
	11	73	48	"	II b	5.2	2.7	1.5	24.0	1.9			
	12	74	58	Cgh15	I	3.0	2.6	1.2	8.8				
	13	75	63	Aij53	"	}省略	}省略						
	14	76	73	BjCa74	II a								4.8
	15	77	75	Bb9	II b								

石 匙

分類	No.	通番	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長cm		重量g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
							縦	横				
I	1	1	3	Ahi59	II a	4.0	2.8	0.4	7.0	1.4	硬質頁岩 フリント	18-32
	2	2	110	Bc3	II b	4.9	3.4	0.4	10.0	1.4		
	3	3	120	Bc6	"	5.4	2.9	0.8	19.0	1.8		
II-a	1	4	33	Cij21	I	5.3	3.3	0.7	11.9	1.5	硬質頁岩 同上	18-33
	2	5	116	Bc6	II a	5.6	4.5	1.1		1.2		
III-a	1	6	61	Bab3	I	6.5	2.3	0.4	7.9	2.8	石質凝灰岩	18-37
	2	7	89	Bc50	II a	8.3	2.6	0.7	26.5			
	3	8	6(2)	Ai62	"	6.6	2.6	0.6	13.4	2.5		
	4	9	65	Bab3	"	3.4	2.1	0.3	3.4	1.6		
	5	10	91	Bc50	"	6.1	3.3	0.3	12.0	1.8		
	6	11	99	Bc53	I	6.6	2.3	0.4	7.5	2.8		
	7	12	105	"	II a	5.1	2.5	0.5	8.5	2.0		
	8	13	9	Ag56	"	4.2	1.6	0.4	4.9	2.6		
	9	14	30	Cgh21	I	7.1	1.8	0.7	14.0	3.9		
	10	15	52	Bb50	I	7.7	1.8	0.5	15.5	4.2		
	11	16	59	Bab53	II a	4.2	1.7	0.6	8.6			
	12	17	60	"	"	8.4	1.9	1.6	13.2	4.4		
13	18	80	Bc50	I	3.6	1.7	0.4	4.5				
14	19	82	"	"	4.2	1.9	0.6	7.5				
15	20	103	Bc53	"	7.8	2.0	0.6	14.1	3.9			
16	21	117(5)	Bc6	II a	5.9	1.6	0.5	8.4				
17	22	118	"	"	7.3	1.7	0.7	13.0	4.2			
18	23	124	Ba50	I	4.4	1.5	0.4	4.6	2.8			
19	24	126	"	"	5.7	1.8	0.5	8.5				
20	25	14	Ca59	II a	6.8	2.4	0.6	13.0	2.8			

分	類	No.	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 番号	最大長cm		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実測 図			
							縦	横							
III-a		21	26	19	Cd 50	I	6.6	2.2	13.4	3.0	硬質頁岩	18-34			
		22	27	39	BjCa 68	I	6.0	2.4	13.0	2.5	同上				
		23	28	56	Bb 50	II b	7.1	2.5	15.0	2.8	泥質石質凝灰岩				
		24	29	101	Bc 53	I	4.6	1.9	4.0	2.4	硬質頁岩				
		25	30	127	Bd 50	"	8.0	2.5	17.5	3.2	同上				
		26	31	135	Bc 3	"	7.6	2.2	15.6	3.4	泥質石質凝灰岩				
		27	32	132	Bd 3	"	8.0	2.1	11.1	3.8	硬質頁岩				
		28	33	111	Bc 6	"	7.2	2.3	14.5	3.1	同上				
		29	34	130	Bd 3	"	4.8	2.0	5.5	2.4	泥質石質凝灰岩				
		30	35	34	BjCa 68	"	5.5	2.5	10.5	3.8	硬質頁岩				
		31	36	47	Bab 50	"	5.5	3.0	11.1	2.1	同上				
		32	37	50	Ba 50	"	6.3	3.0	12.0	2.2	同上				
		33	38	55	Bb 50	"	6.7	3.0	17.0	2.2	泥質石質凝灰岩				
		34	39	63	Bab 3	"	5.1	2.4	8.0	2.1	同上				
		35	40	137	Cd 6	I	5.7	2.0	7.4	2.8	硬質頁岩				
		36	41	140	Bc 50	"	5.5	2.7	9.0	2.0	同上				
		III-b		1	42	10	Aij 6	I	5.6	2.2	11.0		2.5	石質凝灰岩	18-35
				2	43	46	Bab 50	"	6.6	2.4	12.6		2.7	硬質頁岩	
				3	44	48	"	"	5.7	2.4	13.6		2.3	珪質頁岩	
4	45			69	Bb 3	II a	6.0	2.1	9.4	2.8	硬質頁岩				
5	46			87	Bc 50	I	5.2	2.4	9.6	2.1	同上				
6	47			100	Bc 53	"	5.0	2.5	9.4	2.0	同上				
7	48			11	Aij 9	"	4.2	3.6	18.0						
8	49			23	Ce 9	"	4.5	1.4	4.6						
9	50			24	Cef 24	"	5.0	1.8	9.5						
10	51			37	BjCa 68	"	5.3	1.7	7.5						
11	52			44(5)	Bj 77	II a	6.1	2.3	13.0						
12	53			49	Bab 50	"	8.9	2.3	19.5	3.8	硬質頁岩				
13	54			51(2)	Ba 50	II b	9.5	2.1	21.5	4.5	同上				
14	55			67	Bb 3	I	5.3	2.0	5.6	2.6	同上				
15	56			72	Bab 9	"	4.7	1.5	4.6	4.0	凝灰質硬質頁岩				
16	57			81	Bc 50	"	7.2	1.8	9.0		硬質頁岩				
17	58			84	"	"	4.7	1.8	6.6						
18	59			86	"	"	7.6	1.9	10.6	4.0	硬質頁岩				
19	60			94	"	II b	7.1	1.5	9.6	4.7	凝灰質硬質頁岩				

分	類	No.	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材	質	実測 図
							縦	横					
III-b		20	61	98	Bc 53	I	7.2	2.0	12.0	3.6	凝灰質硬質頁岩	18-41	
		21	62	104	"	II a	7.1	1.8	11.0	3.9	同上		
		22	63	128	Bd 50	"	4.7	1.4	5.5		珪質頁岩		
		23	64	131	Bd 3	I	11.5	2.1	11.0				
		1	65	7	Ai 62	II a	5.0	1.8	6.4	2.0	硬質頁岩		
		2	66	21	Ce 6	I	5.8	2.8	7.5	2.6	同上		
		3	67	29	Cgh18	"	6.5	2.4	9.4	2.1	同上		
		4	68	66	Ba 3	II a	5.1	2.4	5.5	2.5	硬質頁岩		
		5	69	68	Bb 3	I	3.9	1.8	5.0	2.6	硬質頁岩		
		6	70	70	Bab 6	"	5.0	2.0	5.6	2.5	硬質頁岩		
未製品		7	71	78	Bc 50	"	4.3	1.6	13.5	2.3	同上	18-42	
		8	72	79	"	"	6.5	2.6	13.5	2.2	硬質頁岩		
		9	73	83	"	"	7.4	2.5	7.4	4.1	硬質頁岩		
		10	74	97	Bc 53	"	6.2	3.3	13.5	3.9	珪質頁岩		
		11	75	106	Bc 3	"	6.5	1.5	9.0	2.8	凝灰質珪質頁岩		
		12	76	115	Bc 6	II a	5.0	2.1	6.4	3.5	珪質頁岩		
		13	77	136	Bc 3	II b	7.8	3.5	19.9	1.8	石質凝灰岩		
		14	78	22	Cef?	II a	5.6			2.1			
		15	79	40	BjCa 74	"	5.0	1.2	5.9				
		16	80	41	"	"	5.9	2.1	9.5				
I-a-あ		17	81	76	Bab12	"	7.8	2.0	17.5	4.1	凝灰質珪質頁岩	19-1	
		18	82	95	Bc 50	II b	4.6	1.6	4.5				
		1	83	20	Cd 50	I	7.1	2.0	8.0				
		2	84	128 (d)	Bd 50	II a	6.1	3.3	13.0				
		3	85	43	Bj 77	"	4.3	2.8	6.0				
		4	86	57	Bab 53	I	5.9	2.7	7.0				
		1	130 (2)		Bb 53	II b	4.0	4.9	31.0				
		2	207		Bc 53	I	3.7	3.6	17.5				
		3	372		Cf 12	"	3.5	3.3	14.5				
		4	185		Bc 50	II b	4.7	4.2	32.9				
5	285		Bd 50	II a	5.4	4.6	69.0						
6	286		Bc 6	II b	3.3	4.4	25.0						

撞器

分	類	No.	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材	質	実測 図
							縦	横					
I-a-あ		1	1	130 (2)	Bb 53	II b	4.0	4.9	31.0		硬質頁岩	19-1	
		2	2	207	Bc 53	I	3.7	3.6	17.5		同上		
		3	3	372	Cf 12	"	3.5	3.3	14.5		同上		
		4	4	185	Bc 50	II b	4.7	4.2	32.9		同上		
		5	5	285	Bd 50	II a	5.4	4.6	69.0		同上		
		6	6	286	Bc 6	II b	3.3	4.4	25.0		硬質頁岩		

分	類	No	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実測図
							縦	厚				
I-a-あ	I-a-あ	7	7	297	Bb 3	II a	4.4	1.1	27.5		硬質頁岩	19-5
		8	8	206	Bc 5	I	4.5	0.8	24.0		同上	
		1	9	224	Bc 3	II a	5.4	2.8	88.6		フリント	
		2	10	409	B jCa 74	"	5.3	1.8	55.3		硬質頁岩	
		3	11	376	Cg 15	I	5.2	0.5	23.2		凝灰質硬質頁岩	
		4	12	246	Bc 3	II b	4.5	1.3	43.2		硬質頁岩	
		5	13	465	Bc 50	II a	4.6	1.1	35.9		同上	
		6	14	83	Bab 50	"	5.5	0.8	46.5		同上	
		8	15	225	Bc 3	"	4.7	1.3	46.6		同上	
		9	16	241	Bc 3	II b	6.2	1.7	59.2		同上	
I-a-う	I-a-う	10	17	290	Bd 50	II a	5.4	6.1	47.5		同上	19-3 19-4
		1	18	211	Bc 53	"	6.4	1.2	61.5		硬質頁岩	
		2	19	268	Bc 09	I			23.6			
		1	20	475	Bb 9	II a	4.2	3.1	19.6		粘板岩	
		2	21	162	Bc 50	I	4.2	2.9	15.6		硬質頁岩	
		3	22	52 (5)	Ca 77	II a	3.8	2.7	14.2		鉄石英	
		4	23	244	Bc 3	II b	4.1	3.1	10.1		硬質頁岩	
		5	24	474	Bb 9	II a	3.9	3.5	10.5		硬質頁岩凝灰岩	
		6	25	510	Bab 50	"	3.1	3.0	18.0		硬質頁岩	
		7	26	347	A j 59	I	4.9	2.4	16.4		同上	
I-b-い	I-b-い	8	27	412	B jCa 77	"	3.8	2.4	8.6		硬質頁岩	19-6 19-7 19-11 19-8 19-10 19-12 19-9 19-14 19-15 19-13
		9	28	119	Bh 53	"	4.8	3.3	17.6		同上	
		1	29	172	Bc 50	II a	6.1	4.0	24.0		同上	
		2	30	179	"	"	5.2	3.8	15.0		同上	
		3	31	370	Cc 6	"	6.1	4.3	34.0		同上	
		4	32	261	Bc 6	"	5.4	4.6	33.1		同上	
		5	33	430	Bc 9	I	3.7	5.7	37.5		同上	
		6	34	383	Cgh 15	"	4.7	4.2	31.5		同上	
		7	35	445	Bc 3	II a	5.0	4.4	28.0		同上	
		8	36	411	B jCa 74	"	6.0	3.7	47.0		同上	
I-b-う	I-b-う	9	37	451	Bc 3	II b	5.7	3.5	32.0		同上	
		1	38	140 (2)	Bb 3	II a	6.1	4.0	24.0		砂質硬質頁岩	
		2	39	436	Bc 6	"	6.1	4.1	30.5		同上	
		3	40	273	Bc 9	II b	7.5	6.1	146.0		同上	
4	41	189	Bc 50	I	5.8	6.9	63.0		同上			

分類	No.	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比率 (たて/よこ)	材 質	実測図
						縦	横				
I - c	1	43	306	Bd 3	II a	17.1	5.0	1.3	95.1	珪質頁岩	
	2	44	88(13)	Bc 50	"	6.5	3.6	0.9	30.0	硬質頁岩	
	3	45	133	Bb 3	"	4.9	3.6	0.8	15.2	同上	
	4	46	168	Bc 50	I	4.1	3.7	1.3	21.0	同上	
	5	47	180	"	II a	7.6	5.3	1.5	81.0	珪質頁岩	
	6	48	419	BjCa 77	I	4.0	5.0	1.7	32.5	粘板岩	
	7	49	305	Bd 3	II a	6.1	8.6	1.3	126.0		
II - a - あ	1	50	269	Bc 9	II a	4.6	3.7	1.8	34.1		19-18
	2	51	420	BjCa 77	I	3.0	3.8	1.2	24.8		
	3	52	12	Ahi 62	II a	2.7	3.0	0.9	11.2		
	4	53	88	Bab 53	"	3.5	3.3	1.7	25.9		
	5	54	190	Bc 50	II b	5.0	4.3	2.5	55.8		20-20
	7	56	91	Ba 3	"	3.9	4.3	1.2	29.0		19-16
	8	57	265	Bc 6	"	4.3	4.4	1.3	22.0		19-17
	9	58	296	Bd 50	II a	2.7	2.2	0.9	6.9		
	10	59	503	Bab 53	"	4.3	4.0	1.4	20.5		
	11	60	23	Ahi 62	"	4.7	4.1	0.8	19.0		
	12	61	275	Bc 9	II b	4.6	3.7	1.2	36.1		
	II - a - い	1	62	76	Gi 21	I	5.3	3.3	1.5	33.0	
3		64	419	BjCa 77	"	5.4	4.9	1.8	67.6		
4		65	293	Bd 50	II a	5.3	4.7	1.5	49.8		
5		66	470	Bc 50	"	4.7	4.5	1.1	30.0		
6		67	280	Bc 6	"	5.1	5.4	2.1	77.1		
8		69	56(6)	Cb 77	"	5.3	4.4	1.3	26.5		
9		70	302	Bd 3	"	4.8	3.7	0.8	21.9		
10		71	423	Bcd 3	"	5.6	5.0	2.2	7.2		
11		72	468(28)	Bc 50	"	4.2	5.5	1.9	49.9		
12		73	53	Cb 77	"	5.3	5.0	1.4	41.9		
II - a - う	13	74	20	Ahi 62	II b	5.3	4.1	1.3	31.6		
	1	75	173	Bc 50	II a	6.1	6.3	1.5	59.9		
	2	76	272	Bc 9	II b	6.9	6.7	1.7	71.0		
	3	77	340	Ai 62	I	6.2	5.2	3.2	130.0		
II - b - あ	1	78	397	Bd 6	I	4.3	3.4	0.8	18.1		
	2	79	371	Cf 12	"	3.3	2.5	0.8	8.5		
	3	80	237	Bc 3	II b	4.4	3.3	1.2	23.1		

分	類	No	通 番 号	登 録 番 号	出土地点	出土 層 位	最 大 長 寸		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
							縦	横 厚				
II-b-あ	II-b-あ	4	81	332	Ahi62	I	5.0	3.4	0.8	20.5	硬質頁岩	
		1	84	石蔵355	Cbc77	I	5.5	4.0	1.1	25.6	硬質頁岩	
		2	85	" 364	Cef18	"	5.1	3.3	0.7	17.2	同上	
		3	86	" 107	Bb50	"	5.2	4.0	1.0	23.2	同上	
		4	87	175(1)	Bc50	IIa	5.4	3.1	1.8	34.0	同上	20-23
		5	88	111	Bb50	"	5.4	3.8	1.1	25.0	珪質頁岩	
		7	90	263	Bc6	"	5.1	4.5	1.0	36.8	硬質頁岩	
		8	91	495	Bab53	I	5.1	3.4	1.5	18.0	同上	
		9	92	69	Cef21	IIa	5.2	3.6	0.7	22.1	同上	
		10	93	147	Bb6	"	4.0	5.2	1.3	31.5	同上	
		11	94	242	Bc3	IIb	5.8	4.5	1.5	42.9	同上	
		12	95	428	Bcd6	IIa	4.2	5.3	1.8	39.9	同上	20-25
		13	96	C4	Bc50	IIb	6.2	5.0	2.1	57.0	硬質頁岩	
		14	97	C6	Bc53	I	5.2	4.4	3.0	3.0	同上	
II-b-う	II-b-う	1	98	石蔵385	Cgh18	"	5.7	3.2	1.5	29.9	緑灰質石質頁岩	20-26
		2	99	396	Bd50	IIa	6.3	4.3	1.3	45.0	硬質頁岩	
		3	100	26	Ahi62	IIb	5.9	5.1	1.7	81.0	黒色粘板岩	
		4	101	214	Bc53	IIa	4.2	5.9	1.3	40.5	緑灰質硬質頁岩	
		5	102	262	Bc6	"	6.5	3.7	0.7	28.9	硬質頁岩	
		1	103	425	Bcd6	IIa	6.7	5.1	1.8	61.0	硬質頁岩	
		2	104	467	Bc50	"	14.5	3.7	1.9	66.1	同上	20-30
		3	105	456(5)	Bc53	IIb	6.5	7.0	2.0	9.5	同上	
		4	106	271	Bc9	"	8.3	10.0	2.1	23.7	輝緑凝灰岩質砂質粘板岩	20-29
		5	107	186	Bc50	"	6.5	4.8	1.2	63.0	淡緑色石質粘板岩	
II-b-え	II-b-え	6	108	285	Bd50	IIa	5.9	7.3	1.7	86.0	黒色粘板岩	
		7	109	427	Bcd6	"	8.0	4.6	2.5	68.9		
		8	110	223	Bc3	"	7.6	5.5	1.0	66.1	硬質頁岩	
		1	111	石蔵167	Bc50	I	4.0	3.7	0.8	16.2		
		2	112	228	Bc3	IIb	4.5	5.8	0.8	30.5		
		1	113	249	Bc6	I				17.6		
		2	114	26	Ahi62	IIb						
		3	115	96	Bab3	IIa						
		4	116	166	Bc50	I						
		5	117	171	"	IIa						
II-c-破	II-c-破	1	111	石蔵167	Bc50	I	4.0	3.7	0.8	16.2	硬質頁岩	
		2	112	228	Bc3	IIb	4.5	5.8	0.8	30.5	同上	

分	類	No	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比率 (たて/よこ)	材 質	実測 図
							縦	厚				
II-c-破		6	118	219	Bc 53	II a	6.4	4.2	1.6	49.0	硬質頁岩 同上	20-31
		7	119	303	Bd 3	"	6.7	2.2	84.0			
		8	120	484	Bb 53	II b	4.1	3.3	0.4	13.1	黑色粘板岩 同上	
		9	121	31	Ai 62	I	3.5	5.1	1.3	28.6		
		10	122	250	Bc 6	II a	2.6	3.5	0.9	11.6		
		11	123	257	"	"	3.6	3.1	0.7	11.5		
		12	124	283	Bd 50	II b	4.1	3.9	1.9	43.6		
		13	125	312	Bd 3	"	7.5	4.3	2.6	124.0		
		14	126	270	Bc 9	"	7.8	6.1	2.6	54.0		
		15	127	274	"	"	3.2	3.1	0.8	11.1	硬質頁岩	
		16	128	148	Bb 9	I	4.5	3.2	1.5	20.5		
		17	129	187	Bc 50	II b	6.1	5.9	0.7	28.1		
		18	130	264	Bc 6	"	7.8	5.3	0.7	50.9		
		19	131	80	Ba 56	I	5.0	8.9	1.9	130.1	輝緑凝灰岩砂質粘板岩 砂質硬質頁岩	
		20	132	433	Bc 9	II a	7.2	3.6	1.6	48.8		
		21	133	488	Bb 50	II b	5.6	5.4	0.8	32.0		
		22	134	146	Bb 6	II a	4.6	4.9	1.9	46.5		
		23	135	443	Bc 3	"	5.0	5.7	1.5	65.0	硬質頁岩	
		24	136	477	Bb 3	II b	4.5	4.7	1.4	51.0		
		追加		7	15	85	Bab53	II a	3.3	4.0	1.4	
6	55			68	Cbc77	I	4.8	4.6	1.1	36.1		
2	63			177	Bc 50	II a	5.5	5.0	1.6	41.5	硬質頁岩	
7	68			339	Ai 62	I	3.2	2.3	0.6	4.8		
5	82			363	Cd 3	"	7.2	6.1	1.1	48.4		
6	83			379 (13)	Ch 15	"	5.2	3.7	0.8	18.6	硬質頁岩	
6	89	77	Ci 18	"							20-24	

トランシエ様

分	類	No	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比率 (たて/よこ)	材 質	実測 図
							縦	厚				
		1	1	17	Ahi 62	II a	5.6	3.8	1.0	20.0	硬質頁岩柱質	21-5 21-3
		2	2	46	"	"	7.3	4.7	1.7	58.0	硬質頁岩	
		3	3	9	Aj 59	I	6.7	4.6	1.7	47.3	凝灰質硬質泥岩若干柱化している	
		4	4	20	Aj 68	II a	8.2	3.8	1.7	45.0	"	
		5	5	513	Ba 9	I	7.2	4.3	1.0	27.3	柱質頁岩 (生痕を含む)	
		6	6	164	Ba 50	II b	5.5	3.3	1.1	18.3	砂質硬質泥岩	

分	類	No	通 番 号	登 録 号	出 土 地 点	出 土 位	最 大 長 寸		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
							縦	横				
		7	7	194	Bab50	II a	6.8	4.6	52.0		砂質硬質泥岩	21-1
		8	8	229	Bb53	II b	7.5	4.3	46.5		硬質頁岩	
		9	9	223	"	II a	7.3	4.3	42.1		凝灰質硬質泥岩若干珪化している	
		10	10	225	"	"	7.0	3.4	32.5		硬質頁岩珪化している	
		11	11	432	Bc03	II b	7.8	4.1	53.1		凝灰質硬質泥岩若干珪化している	
		12	12	468	Bc06	II a	7.6	4.8	69.3		石質凝灰岩(白色)	
		13	13	481	"	II b	6.3	4.1	34.0		砂質硬質泥岩	
		14	14	174	Bc50	II a	3.8	2.2	4.4		硬質頁岩	
		15	15	349	"	II b	8.1	4.3	52.0		同上	
		16	16	379	Bc53	"	8.6	3.9	41.5		同上	
		17	17	688	Bd03	II a	7.9	4.9	44.8		砂質硬質泥岩	21-6
		18	18	586	Bd50	"	7.7	5.0	63.8		凝灰質硬質泥岩若干珪化している	
		19	19	617	"	"	6.2	4.3	29.0		砂質硬質泥岩	21-7
		20	20	537	BjCa68	I	7.2	4.6	44.5		硬質頁岩	
		21	21	138	Bgh18	"	6.3	4.4	49.7		同上やや凝灰質	21-2

石籠様石器

分	類	No	通 番 号	登 録 号	出 土 地 点	出 土 位	最 大 長 寸		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
							縦	横				
I-A-a-	ハ-イ	1	1	151	Cg21	I	5.5	4.0	30.0	1.3	凝灰質硬質頁岩	21-8
	b-2-	1	2	458	Bc6	II a	5.0	3.0	20.0	1.6	フリント	21-9
	b-2-	2	3	41	Ahi59	"	5.0	3.0	20.0	1.6	細粒石質凝灰岩	22-4
	"	3	4	44	Ahi62	I	3.5	2.8	0.8	1.7	硬質頁岩	22-3
	"	4	5	100	ci15	"	4.5	3.0	10.0	1.5	同上	
	"	5	6	211	Bab9	"	4.0	3.0	11.0	1.3	同上	
I-B-c-	あ	1	7	184	Bab50	I	4.5	3.0	11.0	1.5		
	d-	2	8	286	Bc50	"	4.5	3.0	10.0	1.5	珪質頁岩	23-12
	d-	3	9	478	Bc6	II a	4.5	3.0	30.0	1.5	硬質頁岩	24-3
	c-	4	10	515	Bcd53	"	4.5	3.0	20.0	1.5		
	"	5	11	521	Bcd3	"	5.0	3.0	30.0	1.6	硬質頁岩	
	"	6	12	610	Bd50	I	5.0	3.5	20.0	1.4	同上	
II-A-a-1	ハ-イ	1	13	80(1)	Cc71	II a	5.0	3.0	20.0	1.6	硬質頁岩	
	1	2	14	139	Cgh18	I	7.5	4.0	50.0	1.8	同上	
	"	3	15	616	Bd50	II a	5.5	4.0	30.0	1.3	凝灰質硬質頁岩	
	1	4	16	198	Ba50	II b	7.0	4.5	60.0	1.5	流紋岩	21-13

分	類	No	通算 番 号	登 録 番 号	出土地点	出土 層 位	最 大 長 cm		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図	
							縦	横					
II-A-a-1-ハ-イ	"	5	17	244(13)	Bb3	II a	6.5	4.0	50.0	1.6	硬質頁岩	22-9	
		6	18	368	Bc53	I	6.5	3.5	30.0	1.8	同上		
II-A-b-1-イ-イ	"	7	19	460	Bc6	II a	6.0	4.5	40.0	1.3	硬質頁岩	22-10	
		1	20	567	BjCa77	I	6.5	4.0	40.0	1.6	硬質頁岩		
I-ハ-オ	"	1	21	37	Ai62	II a	5.5	3.5	30.0	1.5	硬質頁岩	21-11	
		2	22	74	Cb68	"	7.5	3.5	1.6	50.0	2.1		緑灰質硬質頁岩
"	"	3	23	133	Cij21	I	7.5	3.5	1.3	40.0	2.1	硬質頁岩	22-6
		4	24	369	Bc53	II a	7.5	3.5	1.6	40.0	2.1	硬質頁岩	
"	"	5	25	491	Bc6	II b	6.5	2.0	1.1	30.0	3.2	硬質頁岩	21-11
		6	26	571	Bef50	I	7.5	3.5	1.8	50.0	2.1	硬質頁岩	
I-ハ-イ	"	1	27	95	Ce6	II a	6.0	3.5	1.2	30.0	1.7	同上	22-11
		2	28	108	Ci18	I	6.5	4.0	2.1	50.0	1.6	同上	
2-イ-オ	"	3	29	238(1)	Bb53	II b	7.0	4.0	1.6	50.0	1.7	泥質細粒凝灰岩	22-5
		4	30	364	Bc53	I	5.5	3.5	1.4	40.0	1.5	硬質頁岩	
"	"	1	31	3	Ai53	II a	6.0	3.0	1.1	20.0	2.0	同上	21-12
		2	32	338(25)	Bc50	"	7.5	3.5	1.3	40.0	2.1	同上	
"	"	3	33	479	Bc6	"	6.0	3.5	1.6	30.0	1.7	同上	22-6
		4	34	226(5)	Bb53	II b	6.5	3.5	1.4	40.0	1.8	同上	
2-イ-イ	"	5	35	638	Bd3	II a	6.5	3.0	1.8	40.0	2.1	珪質頁岩	21-11
		6	36	669	Bc50	"	6.0	3.5	1.1	30.0	1.7	同上	
"	"	1	37	24	Aj12	II	6.0	3.5	1.3	30.0	1.7	硬質頁岩	22-6
		2	38	376	Bc53	II a	7.0	3.5	1.6	50.0	2.0	同上	
2-ロ-オ	"	3	39	519	Bcd3	I(答)	6.5	4.0	2.0	50.0	1.6	硬質頁岩	22-6
		1	40	47	Ahi62	II a	5.5	3.5	1.5	10.0	1.5	細粒石灰質凝灰岩	
"	"	2	41	64	Cbc77	I	7.0	5.0	2.8	90.0	1.4	硬質頁岩	22-6
		3	42	96	Ce6	II a	7.5	4.0	1.4	50.0	1.8	同上	
"	"	4	43	129	Cij18	I	6.0	3.0	1.3	30.0	2.0	同上	22-6
		5	44	214	Bb50	II a	6.5	4.0	1.2	40.0	1.6	珪質頁岩	
"	"	6	45	238(3)	Bb53	II b	6.0	3.5	1.1	30.0	1.7	硬質頁岩	22-6
		7	46	256	Bb3	"	6.0	3.5	1.7	30.0	1.7	同上	
"	"	8	47	265	Bb6	"	6.5	4.0	1.5	30.0	1.6	同上	22-6
		9	48	315(2)	Bc50	II a	7.0	3.5	1.5	40.0	2.0	同上	
"	"	10	49	435	Bc3	II b	7.0	3.5	1.7	40.0	2.0	同上	22-6
		11	50	524	Bcd3	II a	6.0	3.0	1.2	20.0	2.0	硬質頁岩	
"	"	12	51	591	Bd53	II b	7.0	4.0	1.1	40.0	1.7	砂質硬質頁岩	22-6

分 類	№	通 算 号 番 号	登 録 号 番 号	出 土 地 点	出 土 層 位	最 大 長 寸		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
						縦	厚				
II-A-b-1-1-i-i	13	52	666	Bab50	II a	5.0	1.1	10.0	2.5	硬質頁岩	22-7
	14	53	630(6)	Bd50	"	6.0	3.5	30.0	1.7	硬質頁岩	
	1	54	49(2)	Cab8	"	6.0	3.5	30.0	1.7	泥質石質凝灰石	
	2	55	54.0	BjCa68	I	7.0	4.5	40.0	1.5	硬質頁岩	
	1	56	11	Aj59	II b	6.0	3.5	30.0	1.7	同上	
	2	57	15	Ai56	II a	7.0	4.0	40.0	1.7	同上	
	3	58	70	Cb68	I	6.5	3.5	30.0	1.8	凝灰質硬質頁岩	
	4	59	118(1)	Cj15	II a	6.0	4.0	30.0	1.5	珪化質石質凝灰石	
	5	60	142	Ggh24	I	6.0	4.0	40.0	1.5	硬質頁岩	
	6	61	172(4)	Ba53	II b	6.5	4.0	40.0	1.6	同上	
	7	62	188	Bab50	II a	6.5	3.5	40.0	1.8	同上	
	8	63	189	"	"	5.5	3.0	20.0	1.8	同上	
	2-1-1-1-a	9	64	250	Bb3	II a	6.5	4.0	30.0	1.6	
10		65	287	Bc50	I	6.5	4.0	40.0	1.6	同上	
11		66	436	Bc3	II b	6.0	3.0	30.0	2.0	同上	
12		67	525	Bcd6	II a	5.0	3.5	20.0	1.4	同上	
13		68	526	Bcd9	I	6.5	3.5	30.0	1.8	同上	
14		69	575	Bd50	I	6.0	3.5	20.0	1.7	細粒石質凝灰石	
15		70	611	"	"	6.5	3.5	30.0	1.8	硬質頁岩	
16		71	641(3)	Bd3	II a	7.0	4.0	40.0	1.7	同上	
1		72	48	Aij9	I	5.5	4.5	40.0	1.2	泥質粒石質凝灰石	
2		73	110	Ci18	"	5.5	4.0	30.0	1.3	硬質頁岩	
3		74	119	Cj21	"	7.0	3.5	40.0	2.0	珪質頁岩	
4		75	174(3)	Ba3	II a	7.5	4.0	50.0	1.8	凝灰質硬質頁岩	
5		76	183	Bab50	I	7.0	3.5	40.0	2.0	硬質頁岩	
6	77	227(12)	Bb53	II b	7.5	3.5	30.0	2.1	同上		
7	78	241	Bb3	I	5.5	3.0	20.0	1.8	同上		
8	79	270(1)	Bb9	II a	6.0	3.0	20.0	2.0	同上		
9	80	276(9)	"	II b	6.0	3.0	30.0	2.0	同上		
10	81	363	Bc53	I	5.5	4.0	30.0	1.3	同上		
11	82	450	Bc6	II a	7.5	4.5	50.0	1.6	同上		
12	83	609	Bde71	"	7.0	4.0	40.0	1.7	同上		
13	84	645	Bd3	"	6.5	4.0	50.0	1.6	硬質頁岩		
II-B-C-a	1	85	26	Ai59	"	6.0	4.0	40.0	1.5	同上	
	2	86	40	Ahi59	I	6.0	3.5	20.0	1.7	同上	

分類	No	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長 ^{cm}		重量 ^g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図	
						縦	横					
II-B-c-あ	3	87	92	Ce 3	I	5.5	3.5	1.4	30.0	1.5	流紋岩	23-5 23-4
	4	88	145	Cg12	II a	6.0	4.0	1.6	30.0	1.5	凝灰質硬質頁岩	
	5	89	310 (60)	Bc50	"	7.5	4.5	2.1	70.0	1.6	硬質頁岩	
	6	90	426	Bc 3	II b	6.5	4.5	1.7	50.0	1.4	同上	
	7	91	429	"	"	7.0	4.0	1.5	40.0	1.7	同上	
	8	92	459	Bc 6	II a	6.0	3.5	1.6	30.0	1.7	珩質頁岩	
	9	93	531 (1)	Bj77	"	7.0	4.0	2.1	60.0	1.7	硬質頁岩	
	10	94	162	Ba50	I	6.0	3.0	1.1	20.0	2.0	石質凝灰岩	
	11	95	202	Bab53	"	6.0	3.0	1.5	30.0	2.0	硬質頁岩	
	12	96	345 (58)	Bc50	II a	7.0	3.5	1.5	40.0	2.0	珩質頁岩	
d-あ	13	97	382 (4)	Bc53	II b	7.0	3.0	1.3	30.0	2.3	流紋岩	24-4
	14	98	410	Bc 3	II a	7.0	3.0	1.8	30.0	2.3	硬質頁岩	
	15	99	603	Bd 6	"	7.0	3.0	1.5	30.0	2.3	同上	
	1	100	192	Bab50	"	7.0	3.5	1.7	50.0	2.0	同上	
	2	101	242 (12)	Bb 3	"	7.0	4.0	1.5	40.0	1.7	砂質硬質頁岩	
	3	102	334 (64)	Bc50	"	7.5	3.5	1.7	50.0	2.1	硬質頁岩	
	4	103	348 (24)	"	"	6.0	3.0	1.2	30.0	2.0	同上	
	5	104	371 (10)	Bc53	II b	7.0	3.5	1.5	40.0	2.0	硬質頁岩	
	6	105	391	Bc 3	I	7.5	3.0	1.8	40.0	2.5	同上	
	7	106	473	Bc 6	II a	6.5	3.5	1.6	40.0	1.8	硬質頁岩	
d-あ	8	107	534	BjCa77	I	7.0	3.5	1.4	40.0	2.0	珩質頁岩	24-4
	9	108	563	"	"	5.5	2.5	1.1	20.0	2.2	珩質頁岩	
	10	109	161	Ci15	"	6.0	3.0	1.5	20.0	2.0	同上	
	11	110	185	Bab50	"	7.0	3.0	1.4	30.0	2.3	凝灰質硬質頁岩	
	12	111	204	Bab53	"	6.0	3.5	1.3	30.0	1.7	同上	
	13	112	1	Da24	"	6.5	4.0	1.6	40.0	1.6	同上	
	14	113	303	Bc50	II a	7.0	3.0	1.3	30.0	2.3	硬質頁岩	
	15	114	396 (14)	Bc 3	"	7.0	3.5	1.9	40.0	2.0	同上	
	16	115	457	Bc 6	"	7.5	4.0	1.6	40.0	1.8	硬質頁岩	
	17	116	482	"	II b	6.5	3.0	1.9	40.0	2.1	同上	
18	117	486	"	"	7.5	3.5	1.7	40.0	2.1	同上		
19	118	555	BjCa77	II a	"	"	"	"	省略	"		
20	119	580	Bd50	"	7.5	3.5	1.8	40.0	2.1	同上		
21	120	592 (4)	Bd 3	"	6.5	3.0	1.8	40.0	2.1	同上		
22	121	601	"	II b	7.0	3.5	1.7	40.0	2.0	同上		

分	類	No	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実測 図	
							縦	横					
d-あ	c-い	23	122	647	Bd 3	II a	7.0	3.5	1.5	30.0	2.0	22-18 22-17	
		24	123	648 (6)	"	II b	6.5	3.5	1.6	30.0	2.1		
		1	124	635	Bd53	"	"	7.5	5.0	2.3	90.0		1.5
		1	125	169	Ba53	"	"	6.5	3.5	1.5	20.0		1.8
		2	126	206	Ba b53	I	I	7.5	4.0	1.7	40.0		1.8
		3	127	215	Bb50	II b	II b	7.0	4.5	1.9	50.0		1.5
		4	128	284	Bc50	I	I	7.0	3.5	1.6	30.0		2.0
		5	129	308 (68)	"	II a	II a	6.5	3.5	1.3	30.0		1.8
		6	130	359	Bc53	I	I	5.5	3.0	1.5	20.0		1.8
		7	131	381 (2)	"	II b	II b	7.0	4.0	1.7	50.0		1.7
		8	132	422	Bc 3	"	"	6.5	3.5	1.6	40.0		1.8
		9	133	430	"	"	"	6.5	4.0	1.9	50.0		1.6
		10	134	467	Bc 6	II a	II a	6.5	3.5	1.5	30.0		1.8
11	135	518	Bcd53	"	"	7.0	4.0	1.7	30.0	1.7			
12	136	625 (57)	Bd50	"	"	7.0	3.5	1.5	40.0	2.0			
13	137	51	Ca77	"	"	7.5	3.5	2.1	40.0	2.1			
d-い	d-い	1	138	58	Cbc68	I	6.0	4.0	1.8	40.0	1.5	23-14	
		2	139	97	Ce 6	II a	II a	6.5	4.5	2.2	70.0		1.4
		3	140	344 (62)	Bc50	"	"	5.5	4.5	1.5	30.0		1.2
		4	141	439	Bc 3	II b	II b	7.5	4.5	2.6	70.0		1.6
		5	142	473	Bc 6	II a	II a	7.0	3.5	1.8	40.0		2.0
		6	143	507 (4)	Bc 9	"	"	7.5	4.0	2.2	50.0		1.8
		7	144	522	Bcd 3	"	"	7.5	4.0	2.7	60.0		1.8
		8	145	566	BjCa77	I	I	6.0	3.5	1.5	30.0		1.7
		9	146	623 (55)	Bd50	II a	II a	7.0	4.5	2.2	60.0		1.5
		10	147	628 (61)	"	"	"	7.0	4.0	2.0	40.0		1.7
		11	148	653	Bd 3	II b	II b	6.0	3.5	1.7	30.0		1.7
		1	149	66	Cbc77	I	I	8.0	4.5	2.2	90.0		1.7
		2	150	99	Cf12	"	"	6.5	4.5	2.5	60.0		1.4
3	151	114	Ci21	"	"	5.5	4.0	2.1	50.0	1.3			
4	152	127	Cij18	"	"	6.5	4.0	1.9	40.0	1.6			
5	153	131	"	"	"	5.0	3.5	1.6	30.0	1.4			
6	154	182	Ba 6	II b	II b	6.5	4.0	1.5	40.0	1.6			
7	155	329 (4)	Bc50	II a	II a	7.5	5.5	3.5	160.0	1.3			
8	156	612	Bd50	I	I	6.5	4.5	1.8	40.0	1.4			

分	類	No	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実測 図	
							縦	横					
Ⅲ-A-a-	う 口一あ ハ一あ	9	157	663	Bd 6	Ⅱ a	6.0	4.0	30.0	1.5	凝灰質硬質頁岩	21-16	
		1	158	665	"	Ⅰ (客)	8.0	4.5	50.0	1.8	硬質頁岩		
		1	159	72	Cb 68	Ⅰ	9.0	3.5	50.0	2.5	石質凝灰岩		
		2	160	115 (2)	Ci 21	Ⅱ a	8.0	4.5	80.0	1.7	硬質頁岩		
		1	161	191	Bab 50	Ⅱ a	8.5	4.0	60.0	2.1	砂質硬質頁岩		
		2	162	489	Bc 6	Ⅱ b	8.0	4.0	50.0	2.0	硬質頁岩		
		3	163	498	"	"	8.0	3.5	40.0	2.2	珪質頁岩		
		1	164	53 (7)	Ca 77	Ⅱ a	8.5	3.5	50.0	2.4	硬質頁岩		
		2	165	90	Cef 18	Ⅰ	8.0	4.0	60.0	2.0	同上		
		3	166	290	Bc 50	"	8.0	4.0	40.0	2.0	砂質硬質頁岩		
Ⅲ-B-c-	あ	4	167	306 (65)	"	Ⅱ a	8.0	4.0	40.0	2.2	同上	21-18	
		5	168	307 (96)	"	"	8.0	3.5	40.0	2.2	同上		
		6	169	608	Bd 9	Ⅰ	7.5	4.0	40.0	1.8	珪質頁岩		
		1	170	243 (6)	Bb 3	Ⅱ a	8.0	4.0	50.0	2.0	砂質硬質頁岩		
		2	171	583 (7)	Bd 50	"	8.0	4.5	70.0	1.7	硬質頁岩		
		1	172	146	Cg 15	Ⅰ	8.0	3.0	50.0	2.6	硬質頁岩		
		2	173	632	"	"	8.0	5.0	90.0	1.6	同上		
		1	174	222 (3)	Bb 50	Ⅱ b	9.0	3.5	50.0	2.5	硬質頁岩		
		2	175	395 (19)	Bc 3	"	8.0	3.5	40.0	2.2	砂質硬質頁岩		
		3	176	232 (7)	Bb 53	"	8.5	3.5	50.0	2.4	硬質頁岩		
Ⅲ-B-c-	い	1	177	7	A j 59	Ⅰ	8.0	4.0	50.0	2.0	同上	23-6	
		2	178	19	" 62	Ⅱ a	8.0	4.0	1.7	50.0	2.0		同上
		3	179	132	Ci j 21	Ⅰ	8.0	4.0	1.7	50.0	2.0		同上
		4	180	141	Cg h 21	"	7.5	3.0	1.4	30.0	2.5		同上
		5	181	438	Bc 3	Ⅱ b	8.0	4.0	1.6	50.0	2.0		同上
		6	182	584 (1)	Bd 50	Ⅱ a	8.0	4.0	1.0	60.0	2.0		同上
		7	183	629 (2)	"	"	8.0	4.0	1.8	50.0	2.0		凝灰質硬質頁岩
		1	184	448	Bc 6	Ⅱ a	9.0	6.0	2.2	80.0	1.5		硬質頁岩
		2	185	624 (61)	Bd 50	"	8.0	4.5	1.9	60.0	1.7		石質凝灰岩
		3	186	661	" 6	"	8.0	5.5	2.2	90.0	1.4		硬質頁岩
Ⅲ-B-c-	あ	1	187	251 (11)	Bb 3	Ⅱ a	8.0	4.5	2.4	90.0	1.7	24-5	
		2	188	626 (64)	Bd 50	"	8.0	4.0	1.6	50.0	2.0		
		1	189	176	Ba 3	Ⅱ b	8.0	3.5	2.0	50.0	2.2		
		2	188	570 (4)	B j 77	Ⅱ a	8.0	3.5	1.5	50.0	2.2		
Ⅲ-B-c-	い	3	189	633	Bd 53	Ⅱ b	8.5	4.5	70.0	1.8	砂質硬質頁岩		

分	No	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長 cm		重量 g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	横				
d-	4	190	400 (7)	Bc 3	II a	7.5	4.5	70.0	1.6	凝灰質硬質頁岩	23-15
	5	191	595 (13)	Bd 3	II b	8.0	4.5	80.0	1.7	砂質硬質頁岩	
	1	227	266	Bb 6	II b	9.5	5.0	120.0	1.9	安山岩	
	2	228	283	Bc 50	I	9.5	4.0	70.0	2.3	石質凝灰岩	
	3	229	314 (59)	"	II a	9.0	4.5	80.0	2.0	硬質頁岩	
	4	230	355	"	II b	8.5	4.0	60.0	2.1	同上	
	5	231	585 (8)	Bd 50	II a	9.0	4.5	80.0	2.0	砂質硬質頁岩	
	6	232	520	Bcd 3	I (客)	9.0	5.0	90.0	1.8	硬質頁岩	
	1	233	105 (8)	Ci 15	II a	8.5	5.0	80.0	1.7	同上	
	2	234	271	Bb 9	"	9.0	5.0	2.4	120.0	1.8	
2-1-あ	3	235	493	Bc 6	II b	8.5	4.0	1.1	30.0	2.1	22-1
	4	236	539	BjCa 68	I	9.0	6.5	1.9	130.0	1.3	
	1	237	175 (7)	Ba 3	II b	8.5	4.5	1.5	70.0	1.8	
	2	238	375	Bc 53	II a	9.0	3.5	1.5	50.0	2.5	
	1	239	578	Bd 50	II a	8.5	4.5	1.4	50.0	1.8	
	1	240	517	Bcd 53	"	8.5	4.0	1.7	70.0	2.1	
	2	241	582 (9)	Bd 50	"	8.5	4.5	1.6	60.0	1.8	
	1	242	154 (11)	Ch 15	I	9.0	4.5	1.7	60.0	2.0	
	2	242	335 (14)	Bc 50	II a	8.5	4.5	1.8	60.0	1.8	
	3	243	550	BjCa 74	"	9.5	4.5	2.1	80.0	2.1	
2-1-い	1	244	77 (8)	Cb 77	II a	9.5	5.5	2.6	150.0	1.7	22-15
	2	245	112 (2)	Ci 18	"	7.5	5.0	1.8	60.0	1.5	
	3	246	126	Ci j 18	I	8.5	5.5	1.6	100.0	1.5	
	4	247	205	Ba 53	"	9.5	4.0	1.7	70.0	2.3	
	5	248	228 (17)	Bb 53	II b	9.5	5.5	2.2	110.0	1.7	
	6	249	383	Bc 3	I	9.5	3.0	1.7	60.0	3.1	
	7	250	462 (1)	Bc 6	II a	8.5	4.5	1.7	50.0	1.8	
	1	251	12	Aj 56	II b	9.0	4.5	1.7	70.0	2.0	
	2	252	31	Ai 62	I	8.5	3.5	1.9	50.0	2.4	
	3	253	397 (16)	Bc 3	II a	8.5	4.5	1.8	70.0	1.8	
c-	4	254	528	Bi j 18	I	8.0	3.5	1.5	50.0	2.2	22-19
	5	255	587 (15)	Bd 50	II a	8.0	4.5	1.9	80.0	1.7	
	1	256	413	Bc 3	II a	8.5	3.0	1.5	40.0	2.8	
	2	257	433	"	II b	9.0	3.5	1.7	50.0	2.5	
	3	258	469	Bc 6	II a	9.0	4.0	2.0	70.0	2.3	

分	類	No	通 算 番 号	登 録 番 号	出土地点	出 土 層 位	最 大 長 cm			重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材	料	実 測 図
							縦	横	厚					
c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c-	c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c- c-	4	259	564	BjCa 77	I	9.0	4.0	1.9	60.0	2.2	凝灰質硬質頁岩	23-1	
		1	260	32	Ai 62	I	8.5	4.0	1.8	60.0	2.1	硬質頁岩		
		2	261	93	Cc 6	"	9.0	4.0	1.6	60.0	2.2	同上		
		3	262	168 (3)	Ba 53	II b	9.0	5.0	1.5	70.0	1.8	砂質硬質頁岩		
		4	263	171 (8)	"	"	8.0	4.0	1.5	60.0	2.0	石質凝灰岩		
		5	264	218 (5)	Bb 50	"	9.0	4.5	1.4	60.0	2.0	流紋岩		
		6	265	281	Bb 12	II a	9.5	4.0	1.6	60.0	2.3	硬質頁岩		
		7	266	<33	Ah 66	I a	9.5	4.0	1.4	60.0	2.3	同上		
		8	267	122 (1)	Cj 24	"	9.0	4.0	1.5	60.0	2.2	同上		
		9	268	273 (6)	Bb 53	II b	9.0	3.5	1.5	60.0	2.5	砂質硬質頁岩		
		10	269	320 (6)	Bc 50	II a	9.5	4.0	1.7	70.0	2.3			
		11	270	406	Bc 3	"	8.5	4.5	1.8	60.0	1.8	硬質頁岩		
		12	271	424	Bc 53	II b	8.5	4.5	1.8	70.0	1.8			
		13	272	443 (20)	Bc 3	"	8.5	4.5	2.3	70.0	1.8			
		14	273	503	Bc 6	"	9.0	3.5	1.8	70.0	2.5	凝灰質硬質頁岩		
		15	274	554	BjCa 74	II a	9.5	4.5	2.0	80.0	2.1	同上		
		d- d- d- d-	d- d- d- d-	16	275	590 (1)	Bd 53	"	8.5	3.5	1.5	50.0		2.4
17	276			650 (5)	Bd 3	II b	10.0	5.0	2.2	100.0	2.0			
1	277			87	Cd 50	I	10.0	4.0	2.6	40.0	2.5			
2	278			431	Bc 3	II b	10.0	5.5	2.6	120.0	1.8			
d- d- d- d- d- d- d- d- d- d-	d- d- d- d- d- d- d- d- d- d-	3	279	173 (6)	Ba 53	"	9.0	3.0	1.6	50.0	3.0	硬質頁岩	24-1	
		4	280	220 (6)	Bb 50	"	8.0	4.5	2.0	60.0	1.7			
		1	281	65	Cbc 77	I	8.5	4.0	1.7	40.0	2.1			
		2	282	219 (5)	Bb 50	II b	8.5	3.5	2.1	40.0	2.4			
		3	283	323 (72)	Bc 50	II a	9.5	4.5	2.3	70.0	2.1	凝灰質硬質頁岩		
		4	284	370	Bc 53	"	8.5	4.0	1.7	50.0	2.1			
		1	285	199 (4)	Ba 50	II b	8.5	4.5	1.7	60.0	1.8	硬質頁岩		
		2	286	305 (20)	Bc 50	II a	9.0	4.0	2.5	70.0	2.2	同上		
		3	287	508 (5)	Bc 9	"	10.0	4.0	2.3	70.0	2.5			
		4	288	541	Bc 68	I	9.5	3.5	2.7	100.0	2.7			
d- d- d- d- d-	d- d- d- d- d-	5	289	596 (10)	Bd 3	II b	9.5	3.5	1.6	50.0	2.5	硬質頁岩	24-6	
		6	290	660	Bd 6	II a	10.0	5.5	2.3	90.0	1.8			
		7	291	476	Bc 6	"	8.5	4.0	2.0	60.0	2.1			
		8	292	196	Bab 50	"	9.5	4.0	1.9	50.0	2.3	硬質頁岩		
		9	293	261 (2)	Bb 6	"	10.0	4.5	2.4	80.0	2.2			

分	類	No	通 番 号	登 録 番 号	出土地点	出 土 層 位	最 大 長 cm			重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図		
							縦	横	厚						
d-	あ	10	284	267(4)	Bb 6	II b	9.5	3.5	1.7	40.0	2.7	24-7			
		11	285	275	Bb 9	"	8.0	3.5	1.7	30.0	2.2				
		12	296	336(3)	Bc 50	II a	9.5	4.0	1.9	50.0	2.3				
				346(1)	Bc 50	"									
				403(5)	Bc 3	II a	8.5	3.5	2.0	50.0	2.4				
				502	Bc 6	II b	9.5	4.0	2.0	80.0	2.3				
				288	597(7)	Bd 3	"	9.0	4.0	1.9	40.0		2.2		
				289	(214)	表 採	I	10.0	5.5	1.9	100.0		1.8		
			V-A-a	(1)	214	15	Aj 59	II b	10.0	4.5	2.9		100.0	2.2	
				1	215	148	Cg 15	II a	10.0	3.5	1.6		60.0	2.8	
			b-2-ハ-あ	1	216	13	Ai 59	II b	10.0	5.0	2.6		110.0	2.0	22-16
			V-B-c	あ		16									
d-	あ	2	217	29	Ai 62	I	9.5	4.0	1.8	80.0	2.3	23-9			
		3	218	102(7)	Ci 15	II a	10.0	4.0	1.7	60.0	2.5				
		4	219	117(1)	Ci 21	"	10.0	4.0	1.4	70.0	2.5				
		5	220	341(63)	Bc 50	"	10.0	4.0	1.6	70.0	2.5				
		6	221	420	Bc 3	II b	9.5	3.5	1.7	60.0	2.7				
		7	222	664(1)	Bd 6	II a	10.0	4.0	2.0	90.0	2.5				
				223	221(1)	Bb 50	II b	10.0	3.5	2.0	60.0	2.8			
				224	579	Bd 50	II a	9.5	4.5	3.3	140.0	2.1			
				225	248(8)	Bb 3	II a	10.0	4.0	2.1	90.0	2.5			
					589(59)	Bb 50	"								
				226	330(57)	Bc 50	II a	10.0	3.0	1.6	60.0	3.3			
		VI-A-b-1-ニ-い	あ	1	302	160(11)	Ch 21	I	10.7	6.5	2.4	160.0	1.6		
2	303			642	Bd 3	II a	10.9	5.6	2.0	110.0	1.9				
1	304			76(1)	Cb 74	II a	12.5	5.5	2.8	160.0	2.2				
2	305			101(6)	Ci 15	"	11.5	5.0	2.5	120.0	2.3				
3	306			373(1)	Bc 53	"	11.5	5.0	2.0	120.0	2.3				
4	307			414	Bc 3	"	11.5	3.0	1.9	70.0	3.8				
5	308			63(3)	Bd 50	"	11.5	5.0	2.9	120.0	2.3				
				309	30	Ai 62	II a	12.0	4.0	2.1	80.0	3.0			
					45	Ahi 62									
				2	310	106(4)	Ci 15	"	10.5	4.5	1.7	90.0	2.3		
				3	311	170	Ba 53	II b	10.5	4.0	2.1	90.0	2.6		
				4	312	240(21)	Bb 53	"	11.5	4.0	2.3	90.0	2.8		

分	類	No	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 ^{cm}		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実測 図									
							縦	横													
VI-B-c-あ		5	313	311 (75)	Bc 50	II a	12.0	3.5	2.2	80.0	3.4	23-2									
		6	314	313 (33)	"	II a	14.0	4.5	2.6	150.0	3.1		23-2								
		7	315	354 214 (3)	"	II b	13.5	4.5	2.3	120.0	3.0			23-2							
		8	316	319 (10) 327 (6)	Bc 50	II a	13.5	6.5	2.4	200.0	2.0				23-2						
		9	317	357 337 (73)	"	II b	10.5	4.5	2.4	110.0	2.3					23-2					
		10	318	627 (59)	Bd 50	"	12.0	4.0	2.3	90.0	3.0						23-3				
		11	319	347 (23) 324 (32)	Bc 50	II a	15.5	4.0	1.9	100.0	3.8							23-3			
		12	320	358 398 (9)	"	II b	10.0	4.5	2.5	120.0	2.2								23-11		
		13	321	Bc 3	II a	10.5	4.0	2.3	100.0	2.6	23-11										
		14	322	461 (5)	Bc 6	"	12.0	4.0	1.8	80.0										3.0	23-11
		15	323	640 (2)	Bd 3	"	10.5	5.0	2.5	110.0										2.1	
d-あ		1	324	351 (52)	Bc 50	"	11.3	5.7	3.4	160.0		1.9								24-10 24-2	
		2	325	159 (1)	Ch 18	II a	5.8	5.5	3.0	135.0		1.0	24-10 24-2								
		3	326	342 (29)	Bc 50	"	14.7	5.0	2.4	160.0		2.9		24-10 24-2							
		4	327	419 569	BjCa74 Bc 3	II a II b	12.5	5.1	2.8	160.0		2.4			24-10 24-2						
		5	328	499	Bc 6	II b	14.5	4.5	2.6	150.0		3.2				24-10 24-2					
		6	329	18	Aj 59	"	11.0	4.0	2.0	110.0		2.7					24-10 24-2				
		7	330	55 (4)	Ca 77	II a	12.0	4.0	2.4	100.0		3.0						24-10 24-2			
		8	331	197	Ba 50	"	14.0	6.5	2.9	230.0		2.1							24-10 24-2		
		9	332	316 (5)	Bc 50	"	10.5	3.5	1.8	60.0	3.0	24-10 24-2									
		10	333	318 (53)	"	"	10.5	5.0	3.3	180.0	2.1										24-10 24-2
		11	334	325 (54)	Bc 50	"	12.0	4.0	2.5	100.0	3.0										
d-い		8	335	389	Bc 3	I	12.0	4.5	2.6	110.0	2.6									中粒凝灰質硬質頁岩	
		9	336	404 (12)	"	II a	15.0	7.5	3.4	330.0	2.0		中粒凝灰質硬質頁岩								
		10	337	494	Bc 6	II b	10.5	3.5	2.1	70.0	3.0			中粒凝灰質硬質頁岩							
		11	338	656 (11)	Bd 3	"	11.0	5.0	2.4	110.0	2.2				中粒凝灰質硬質頁岩						
																中粒凝灰質硬質頁岩					
										中粒凝灰質硬質頁岩											

削器

分類	No.	通算番号	登録番号	出土地点	出土位	最大長 cm		重量 g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図	
						縦	厚					
完全品	1	384	Bc 03	I	7.8	5.7	1.5	56.6		硬質頁岩	25-3	
	2	415	"	II a	7.4	4.2	3.0	94.5		フリント		
	3	352	Cb 77	"	4.8	3.5	1.3	19.2		硬質頁岩		
	4	469	Bc 50	"	7.7	6.1	1.9	94.5		珪質頁岩		
	5	107	Ci 18	I	7.4	5.5	1.8	54.3		硬質頁岩		
	6	141	Bb 03	II a	5.0	4.9	1.4	34.2		同上		
	7	59	Cbc 68	I	4.5	4.0	0.8	20.5		同上		
	8	516	Bcd 53	II a	7.0	3.4	1.3	28.3		同上		
	9	192	Bc 50	II b	4.8	3.9	1.5	29.0		同上		
	10	399	Bef 50	I	5.8	4.6	1.6	42.3		同上		
	11	492	Bab 03	II a	4.7	3.3	1.1	15.0		同上		
	12	394	Bd 50	I	5.4	5.2	1.3	28.3		同上		
	13	210	Bc 53	"	4.1	2.9	0.8	8.8		同上		
	14	197	"	"	5.0	3.9	1.4	22.2		同上		
	15	15	424	Bcd 03	II a	4.2	4.1	1.2	24.9			同上
	16	16	458	Bc 50	I	6.0	5.7	1.5	45.2			珪質頁岩
	17	17	10	Ai 56	"	5.0	4.1	1.3	23.6			硬質頁岩
	18	18	406	BjCa 74	"	6.8	5.4	1.0	32.5			同上
	19	19	238	Bc 03	II b	5.6	4.3	2.2	41.5			同上
	20	20	321	BjCa 68	I	3.2	3.2	1.2	12.1			同上
	21	21	218	Bc 53	II a	5.8	4.3	1.1	32.2			同上
	22	22	360	Cc 77	"	3.1	2.9	1.0	8.6			同上
	23	23	140	Cgh 18	I	5.8	3.5	1.5	21.0			同上
	24	24	316	Bj 68	"	4.1	2.7	0.9	8.0			同上
	25	25	353	Bc 50	II b	4.2	4.1	1.6	29.1			同上
	26	26	498	Bab 53	I	7.6	5.0	2.8	73.2			同上
	27	27	292	Bd 50	II a	4.5	3.6	0.6	10.2			同上
	28	28	496	Bab 53	I	8.3	4.0	1.8	55.5			同上
	29	29	365	Cef 21	II a	8.3	4.0	1.1	37.3			同上
	30	30	501	Bab 53	"	7.2	5.7	1.8	73.7			同上
	31	31	212	Bc 53	"	4.0	4.0	1.1	16.0			同上
	32	32	18	Ahi 62	"	4.4	4.3	1.4	13.9			同上
	33	33	139	Bb 03	" (8)	5.6	4.8	1.1	25.8			同上
	34	34	184	Bc 50	"	4.5	2.8	1.1	9.7			同上

分類	№	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長 cm		重量 g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	横				
完全品	35	35	361	Cd 50	I	7.0	3.2	16.9		凝灰質硬質頁岩	
	36	36	41	Ai 62	II a	5.8	3.8	17.7		硬質頁岩	
	37	37	138	Bb 03	II a(4)	5.8	3.2	11.8		同上	
	38	38	87	Bab 53	I	2.9	2.5	4.8		同上	
	39	39	491	Bab 03	"	5.1	4.0	21.3		同上	
	40	40	493	Bab 12	II a	7.7	4.9	61.5		同上	
	41	41	1	Ag 56	"	5.0	4.8	23.5		同上	
	42	42	79	Ba 53	"	4.0	3.2	7.1		同上	
	43	43	301	Bc 50	"	5.5	3.9	20.8		同上	
	44	44	247	Bc 06	I	3.5	2.9	5.5		同上	25-2
	45	45	121	Bc 09	"	8.3	4.1	38.2		同上	
	46	46	46	Cbc 77	"	5.4	4.2	52.1		同上	
	47	47	485	Bb 50	II a	4.1	3.4	19.0		同上	
	48	48	243	Bc 03	II b	5.6	5.2	29.2		同上	
	49	49	49	Aj 59	I	6.1	4.7	36.3		同上	25-5
	50	50	304	Bd 03	II a	6.2	5.5	60.4		硬質頁岩	
	51	51	416	Bc 03	"	9.6	3.0	45.5		同上	
	52	52	35	Ai 62	"	6.3	4.4	47.0		同上	
	53	53	268	Bc 09	I	5.4	3.5	23.7		同上	
	54	54	278	Bb 09	II b	5.5	3.0	20.4		同上	
	55	55	222	Bb 03	II a	5.8	4.8	46.2		同上	
	56	56	366	Bc 53	I	6.1	4.9	47.1		同上	
	57	57	1014	"	"	5.1	3.7	24.7		同上	
	58	58	37	Ai 62	II a	5.9	4.0	31.0		珪質頁岩	25-4
	59	59	136	Bb 03	II a(1)	5.3	3.4	24.3		硬質頁岩	
	60	60	102	Bab 12	II a	3.3	2.9	7.5		同上	
	61	61	442	Bc 03	I	4.1	3.4	10.7		同上	
	62	62	121	Bc 09	"	7.6	4.1	38.1		同上	
	63	63	309	Bd 03	II b	3.4	3.5	27.2		同上	
	64	64	203	Bc 53	I	5.8	2.1	11.0		同上	
	65	65	391	Cj 21 (2)	"	5.1	3.3	13.2		同上	
	66	66	139	Bb 03	II a	4.1	5.3	26.0		同上	
	67	67	218	Bc 53	"	4.2	5.3	32.5		同上	
	68	68	238	Bc 03	II b	5.5	4.3	41.5		同上	
	69	69	69	BjCa 68	I	2.8	3.1	12.0		同上	

分	類	No.	通 番 号	算 号	登 録 号	出土地点	出 土 位	最 大 長 cm		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材	質	実 測 図
								縦	横					
	完 全 品	70	欠 番			Bab 12	I	2.8	3.1	0.5				
		71		102		BjCa 77	"	6.0	5.1	1.6				
		72		415		Bc 03	II b	5.1	4.6	1.0				
		73		243		Cb 56	I	5.8	4.1	1.3				
		74		I.S.(1)		Bc 09	II a	9.1	6.8	2.0				
		75		I.S.(5)		Bc 03	"	4.9	4.2	1.6				
		76		I.S.(6)			"	5.3	2.9	0.8				
		77		I.S.(8)			"	3.9	2.9	1.1				
	破 片	1	1	108		Bb 50	I	2.8	2.4	0.5				
		2	2	57		Cbc 68	"	4.9	2.9	1.5				
		3	3	112		Bb 50	II a	5.7	4.1	1.4				
		4	4	367		Ce 6	I	4.3	4.0	2.1				
		5	5	161		Bc 09	"	3.5	2.7	0.7				
		6	6	401		Bj 08	"	3.7	3.6	1.2				
		7	7	289		Bd 50	II a	3.5	2.2	0.6				
		8	8	320		BjCa 68	I	2.2	1.5	0.6				
		9	9	15		Ahi 62	II a	4.4	4.1	1.4				
		10	10	153		Bb 09	"	3.6	2.3	0.9				
		11	11	463		Bc 50	"	5.3	2.3	0.5				
		12	12	99		Bab 12	"	3.8	3.0	1.0				
		13	13	203		Bc 53	I	3.7	2.7	0.7				
		14	14	95		Bab 03	II a	4.5	2.9	0.9				
		15	15	256		Bc 06	"	4.4	3.0	1.1				
		16	16	511		Bcd 53	I	5.8	4.2	1.6				
		17	17	466		Bc 50	II a	4.1	3.5	1.1				
		18	18	505		Bab 50	I	3.0	3.0	0.6				
		19	19	63		Cbc 71	"	3.3	1.8	0.6				
		20	20	42		Aij 09	"	4.3	3.4	0.9				
		21	21	364		Cbc 71	"	5.4	3.5	1.1				
		22	22	391		Cj 21	I (2)	3.7	3.0	1.2				
		23	23	307		Bd 03	II a	2.8	2.1	0.8				
		24	24	51		Ca 77	"	4.0	1.7	0.6				
		25	25	11		Ai 62	I	4.3	2.1	0.7				
		26	26	5		Ahi 59	"	4.2	3.6	1.0				
		27	27	66		Cbc 71	"							

分	類	No	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm	重量 g	比率 (たて/よこ)	材	質	実測図
		28	28	400	Bj 8	I	縦 3.7 横 2.5 厚 0.5	5.7				
		29	29	40	Ai 62	II a	4.0 2.2 1.1	6.5				
		30	30	116	Bb 50	II b	4.2 3.3 0.9	12.5				
		31	31	213	Bc 53	II a	3.2 3.2 0.7	7.2				
		32	32	200	"	I	2.5 1.6 0.5	2.5				
		33	33	455	"	II a	3.5 3.2 1.2	14.6				
		34	34	636	Bd 03	I	3.9 2.7 0.9	8.5				
		35	35	490	Bab 03	"	4.0 2.8 0.7	6.8				
		36	36	159	Bcd 03	"	2.0 1.8 0.3	1.1				
		37	37	37	Cd 09	"	3.2 2.1 0.5	3.3				
		38	38	295	Bc 50	II a	5.4 3.9 1.2	21.7				
		39	39	230	Bc 03	II b	3.3 2.1 0.5	3.0				
		40	40	348	Cab 68	I	5.2 3.9 1.0	16.1				
		41	41	464	Bc 06	II a	4.4 2.5 0.8	8.2				
		42	42	486	Bb 50	"	3.4 2.1 0.7	5.7				
		43	43	319	BjCa 68	I	4.2 2.2 1.0	9.0				
		44	44	19	Ahi 62	II a	2.8 1.5 1.0	3.1				
		45	45	64	Cbc 71	I	3.3 2.0 0.7	6.0				
		46	46	334	Ahi 62	II a	2.7 2.0 0.7	4.5				
		47	47	253	Bc 06	I	2.6 1.1 0.4	1.5				
		48	48	327	Bb 53	"	2.9 1.2 0.7	1.4				
		49	49	154	Bb 09	II b	3.7 2.1 0.6	4.9				
		50	50	109	Bb 50	II a	2.6 1.6 1.2	4.2				
		51	51	178	Bc 50	"	2.4 1.9 0.6	2.7				
		52	52	104	Ba 69	I	2.8 1.3 0.5	1.9				
		53	53	131	Bb 53	II b	3.5 3.3 1.3	10.5				
		54	54	110	Bb 50	II a	3.7 1.6 0.5	4.4				
		55	55	199	Bc 53	I	2.1 1.6 0.6	1.7				
		56	56	323	BjCa 77	"	3.1 2.7 1.1	8.8				
		57	57	279	Bd 50	II a	3.0 0.9 0.2	1.0				
		58	58	278	"	I	3.0 2.8 1.0	6.7				
		59	59	6	Ahi 59	"	3.1 2.7 0.9	8.5				
		60	60	487	Bb 50	II a	2.5 2.1 0.6	3.7				
		61	61	319	BjCa 68	I	} 省略					
		62	62	463	Bc 50	II a						

分	類	№	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材	質	実測 図
							縦	厚					
		63	63	498	Bab 53	I	3.1	1.1	7.5				
		64	64	I.S ②	Bc 09	II b	3.0	1.0	12.2				
		65	65	I.S ③	Bab 03	II a	5.0	3.2	1.0	5.0			
		66	66	I.S ④	Cb 56	I	3.0	1.9	0.7	5.0			
		67	67	I.S ⑦	Bc 50	II a	6.5	3.7	1.0	18.9			

使用瓶ある剥片

分	類	№	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比 率 (たて/よこ)	材	質	実測 図
							縦	厚					
		1	1	539	BjCa 68	I	8.7	2.2	24.9		硬質頁岩		
		2	2	129	Bb 53	II b	6.6	4.5	1.3	45.4		同上	
		3	3	533	BjCa 77	I	7.2	4.0	2.2	52.0		同上	
		4	4	280	Bd 50	II a	5.6	3.5	0.9	12.2		凝灰質頁岩	
		5	5	259	Bb 3	II b	7.4	5.0	2.0	69.5		硬質頁岩	
		6	6	120	Ci 21	I	6.1	4.7	2.3	72.9		同上	
		7	7	132	Bb 3	II a	6.6	5.5	1.9	51.0		同上	
		8	8	407	BjCa 74	"	6.3	4.1	1.6	27.3		硬質頁岩	
		9	9	471	Bc 50	" (10)	6.4	5.0	1.6	44.3		同上	
		10	10	229	Bc 3	II b	6.8	5.2	1.9	64.2		同上	
		11	11	657	Bd 3	"	7.3	3.7	2.0	46.9		同上	
		12	12	393	Ci j	I	6.9	3.9	1.4	26.0		同上	
		13	13	259 (1)	Bb 3	II b	7.6	5.3	1.9	67.3		同上	
		14	14	259 (2)	Bc 6	II a	6.6	2.9	1.2	22.2		斜長石流紋岩	25-7
		15	15	346	Aj 59	I	9.4	4.4	1.7	60.0		硬質頁岩	
		16	16	341	Ai 62	"	8.1	3.6	2.2	43.0		同上	
		17	17	452	Bc 3	II b	6.5	4.6	2.1	58.4		同上	
		18	18	75	Ci 18	I (12)	10.6	2.4	2.3	78.5		同上	
		19	19	204	Bc 53	"	4.6	3.8	1.4	27.6		同上	
		20	20	388	Ci 15	II a (2)	7.8	6.5	1.3	49.0		硬質頁岩	25-9
		21	21	449	Bc 3	II a	4.1	3.0	1.1	16.2		同上	
		22	22	373	Cf 18	I (1)	7.0	4.6	1.4	42.0		硬質頁岩	
		23	23	135	Bb 3	II a	5.2	3.3	1.2	20.1		同上	
		24	24	459	Bc 50	I	3.6	3.1	1.3	16.3		同上	
		25	25	236	Bc 3	II b	3.9	3.6	1.2	14.5		同上	
		26	26	351	Cb 77	II a (4)	4.0	3.5	1.4	20.9		同上	
		27	27	48	Aj 59	I	6.1	4.4	1.4	37.9		硬質頁岩	

分 類	No.	通 算 番 号	登 録 番 号	出 土 地 点	出 土 層 位	最 大 長 寸		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
						縦	横				
	28	28	36	Ai 62	II a	3.9	3.8	1.6	18.0	硬質頁岩	
	29	29	408	BjCa 74	"	6.2	3.4	1.0	18.4	同上	
	30	30	80	Ba 56	I	7.9	6.7	1.2	50.5	同上	
	31	31	342	Ai 62	II a	6.0	4.0	1.8	41.6	同上	
	32	32	457	Bc 53	II b(6)	10.5	4.5	1.7	53.2	層緑凝灰岩	
	33	33	326	BjCa 77	I	5.9	4.9	1.2	26.2	硬質頁岩	
	34	34	34	Ai 62	II a	7.1	5.3	1.6	37.7	同上	
	35	35	508	Bab 50	"	5.6	3.6	1.1	22.4	同上	
	36	36	70	Cef 21	"	5.6	3.9	2.5	40.9		
	37	37	170	Bc 50	"	5.0	3.8	1.1	12.5		
	38	38	258	Bc 6	"	4.5	2.8	1.2	12.5		
	39	39	201	Bc 53	I	3.2	2.2	0.8	5.3		
	40	40	318	BjCa 68	"	4.5	3.1	1.0	10.7		
	41	41	124	Bb 53	"	4.2	2.4	0.6	5.4		
	42	42	252	Bc 6	II a	4.4	3.5	0.9	11.0		
	43	43	134	Bb 3	"	4.3	2.5	1.5	11.7	珪質頁岩	
	44	44	22	Ah i 62	"	4.9	3.6	0.7	11.0		
	45	45	235	Bc 3	II b	4.3	2.9	1.2	15.9		
	46	46	84	Bab 53	I	3.8	3.0	0.4	5.5		
	47	47	38	Ai 62	II a	6.6	5.0	1.1	34.5	硬質頁岩	
	48	48	477	Bb 3	II b	6.6	5.2	2.2	65.0	同上	
	49	49	386	Cgh 24	I	7.3	5.8	1.0	32.5	同上	
	50	50	125	Bb 53	II	6.2	5.8	2.1	73.5		
	51	51	67	Cbc 77	I	5.4	5.3	1.8	44.8	硬質頁岩	
	52	52	39	Ai 62	II a	5.6	2.8	0.8	12.8		
	53	53	322	BjCa 77	I	5.3	4.9	2.0	41.5	珪質頁岩	
	54	54	294	Bd 50	II a	6.0	1.5	0.9	7.7		
	55	55	245	Bc 3	II b	5.1	3.2	1.1	16.8		
	56	56	375	Cg 12	II a	5.8	4.5	0.9	17.5		
	57	57	417	BjCa 77	I	4.5	4.3	1.5	29.5	石質凝灰岩	
	58	58	24	Ah i 62	II b	3.9	3.3	1.0	14.5		
	59	59	422	Bcd 53	I	4.3	4.1	1.5	19.5		
	60	60	300	Bd 3	II a	4.6	4.1	1.2	19.2		
	61	61	434 (1)	Bc 9	II b	4.5	3.2	1.5	26.5	珪質頁岩	
	62	62	434 (2)	Bc 3	"	4.7	3.5	1.2	26.6		

分 類	No.	通 算 番 号	登 録 番 号	出 土 地 点	土 層 位	最 大 長 cm		重 量 g	比 率 (たて/よこ)	材 質	実 測 図
						縦	横 厚				
	63	63	404	BjCa 68	I	5.2	3.4	1.0	13.0		
	64	64	208	Bc 53	"	4.2	2.3	1.0	11.3		
	65	65	152	Ch 15	"	4.5	2.0	1.2	14.5		
	66	66	374	Cf 18	"(1)	4.6	4.1	1.4	25.3		
	67	67	78	Ba 53	"	4.1	2.9	0.9	8.4		
	68	68	81	Ba 56	"	3.5	2.3	0.8	6.5		
	69	69	416	BjCa 77	"	3.5	2.1	0.7	4.3	挂質頁岩	
	70	70	494	Bab 9	"	4.5	2.1	1.4	8.5		
	71	71	155	Bb 9	II b	2.3	1.8	0.7	2.5		
	72	72	353	Cbc 68	I	3.7	2.8	1.2	7.7		
	73	73	221	Bc 3	II a	3.5	2.9	0.9	11.0		
	74	74	311	Bd 3	II b	5.1	2.5	1.2	16.7		
	75	75	483	Bi 53	"	4.7	3.6	2.0	19.7	石質凝灰岩	
	76	76	3	Ahi 59	I	4.1	2.2	0.6	7.0		
	77	77	336	Ahi 62	"	3.6	2.2	0.4	3.3		
	78	78	328	Da 24	"	2.8	2.3	0.7	4.8		
	79	79	205	Bc 53	"	3.6	2.1	0.6	5.2		
	80	80	2	Afg 59	"	2.9	2.5	1.3	6.5		
	81	81	21	Ahi 62	II a	2.8	2.6	0.8	5.7		
	82	82	434	Bc 9	II b	4.6	3.2	1.4	26.5		
	83	83	462	Bc 50	II a	3.8	3.7	1.4	23.9		
	84	84	359	Cbc 77	I	5.5	4.0	1.3	26.2		
	85	85	378	Cg 15	II a	3.2	2.7	1.2	5.0		
	86	86	398	Bef 50	I	3.4	2.7	0.9	7.8		
	87	87	333	Ahi 62	"	4.0	2.6	0.7	7.8		
	88	88	200	Bc 53	"	4.7	1.9	0.5	4.7		
	89	89	313	Bd 6	"	3.3	3.1	0.6	6.3		
	90	90	163	Bc 50	"	3.6	2.7	1.4	14.0		
	91	91	158	Bab 50	II a	3.6	1.4	0.7	3.4		
	92	92	315	Bi 50	II b	5.1	4.5	0.6	31.7		
	93	93	512	Ba 53	I	3.7	3.1	1.0	11.8		
	94	94	317	Bj 68	"	4.6	2.6	1.0	10.0		
	95	95	114	Bb 50	II a	2.7	2.6	1.1	8.3		
	96	96	14	Ahi 62	"	2.3	2.3	0.6	3.7		
	97	97	196	Bc 53	I	3.9	1.6	0.4	3.3		

分類	No.	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長		重量g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	横				
	98	98	403	BjCa 68	I	3.2	3.1	10.8			
	99	99	157	Bb 9	II b	3.4	2.1	0.6	5.2		
	100	100	405	BjCa 71	I	4.4	3.1	0.5	8.7		
	101	101	202	Bc 53	"	3.7	3.1	0.9	9.7		
	102	102	34	Ai 62	II a	7.5	4.5	1.6	60.0		
	103	103	125	Bb 53	"	6.8	5.7	1.9	13.2		
	104	104	313	Bd 06	I	3.9	3.2	0.6	6.1		
	105	105	378	Cg 15	II a	2.9	2.5	1.0	9.0		
	106	106	67	Cbc 77	I	5.3	5.6	1.4	36.0		
	107	107	236	Bc 03	II b	4.9	3.5	1.0	14.5		
	108	108	152	Bh 09	II a	7.5	2.7	0.2	24.5		
	109	109	434	Bc 09	II b	4.5	3.1	1.8	26.8		
	110	110	I.S 9	Cb 56	I	4.4	2.9	1.0	16.4		
	111	111	10	Ai j 53	"	6.3	3.0	1.2	16.4		
	112	112	11	Cd 03	"	3.9	3.8	1.3	22.2		
	113	113	12	Bc 09	II b	4.2	3.6	0.7	8.9		
	114	114	13	Bc 06	"	5.8	5.7	1.2	30.0		25-6

環状石器

分類	No.	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	半径	厚さ	重量g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
完全	1	1		Bc 50	II a	3.0	0.9	40		濃緑色グリーンタフ砂質 奥羽山地の下部グリーンタフ層	27-6
"	2	2		Bj 77	II a	2.0	0.7	20		石質凝灰岩	
	3	3		Aj 59	"	2.0	0.5	0.6		硬質砂質泥岩	27-7
	4	4		Ba 9	II b	5.5	1.9	80		濃緑色グリーンタフ砂質 奥羽山地の下部グリーンタフ層	
完全	5	5		Bc 9	I					輝石安山岩	26-1
"	6	6		Bb 6	II b	6.5	3.1	620		複輝安山岩	26-2
	7	7		Bc 50	"	7.5	2.4	700			
接合	8	8		"	II a						
	9	9		Bc 3	II b	6.5	1.9	220		石英安山岩	
	10	10		"	"	7.0	2.0	220		濃緑色グリーンタフ砂質 奥羽山地の下部グリーンタフ層	
	11	11		Bb 9	"	4.5	1.4	180		プロピライト	
完全(接合)	12	12		Bb 50	"	5.5	2.4	340		石英安山岩	27-4
	13	13		Bc 3	"	6.5	1.6	200			
	14	14		Bb 50	"	7.5	1.7	220		同上	

分類	No.	通算番号	登録番号	出土地点	出土位	半径	厚さ	重量g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
完全(接合)	15	15		Bb3	II b	5.0	1.8	100		石英安山岩	27-5
	16	16		"	"	5.0	1.8	140		同上	
	17	17		Bd3	II a	5.5	1.5	120		濃緑色グリーンタフ砂質 奥羽山地の下部グリーンタフ層	
完全(接合)	18	18		Bb9	II b	7.0	2.1	260		榎嶺安山岩	28-3
	19	19		Bb6	"	7.0	2.2	280		同上	
	20	20		Bb53	II a	6.0	1.4	140		石英安山岩	
	21	21		Bj74	"	5.5	1.9	160		同上	
	22	22		Bc3	II b	6.0	1.8	140		濃緑色グリーンタフ砂質 奥羽山地の下部グリーンタフ層	
	23	23		Bc50	II a	5.5	1.5	120		同上	
	24	24		Bj77	"	5.5	1.9	160		同上	
	25	25		Bd50	"	6.0	2.0	140		石英安山岩	
	26	26		Ba53	II b	5.5	2.4	160		濃緑色グリーンタフ砂質 奥羽山地の下部グリーンタフ層	
	27	27		Bb50	"	5.5	2.0	120		同上	
完全(刻線)	28	28		Bb3	II a	5.0	1.8	120		同上	25-11
	29	29		Bd3	"	5.5	1.3	100		同上	
	30	30		Cde12	I	7.0	1.5	160		同上	
	31	31		Aj59	II a	4.0	1.5	60		同上	

磨製石斧

分類	No.	通算番号	登録番号	出土地点	出土位	最大長cm		重量g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	厚				
完全(刻線)	1	1		Bb9	II a	8.3	5.6	220		石質凝灰質砂岩	25-11
	2	2		Bc53	"	4.5	5.1	50		硬質頁岩	
	3	3		Bc3	"	3.7	4.1	20		珪化された凝灰岩	

チャップラー様

分類	No.	通算番号	登録番号	出土地点	出土位	最大長cm		重量g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	厚				
完全	1	1	33	Ai62	IIa	7.0	4.5	80		硬質頁岩	27-9
	2	2	165	Bc50	I	6.9	6.2	90.5		同上	
	3	3	326	"	IIa(26)	6.2	5.4	60.9		同上	
	4	4	401	Bc03	IIa(4)	6.7	5.8	81.9		同上	
	5	5	394	"	IIa	12.2	6.3	430.0		珪質頁岩	
	6	6			表探品	9.6	9.1	282.1		同上	

分	No	類	通算番号	登録番号	出土地点	出層位	最大長 cm			重量 g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
							縦	横	厚				
	1		1	45	Aj59	I	7.5	5.0	3.3	160		硬質頁岩	
	2		2	47	"	"	8.5	5.5	3.1	240		めのう	
	3		3	127	Bb53	II a o	8.0	5.5	3.5	100		硬質頁岩	
	4		4	145	Bb6	II a	7.0			80		同上	
	5		5	330	Ani56	I	6.5	4.5	2.6	80		同上	
	6		6	500	Bab53	"	12.0	9.0	4.8	540		同上	27-10
	7		7	337	Ai59	II a	14.0	5.5	2.6	320		石質凝灰岩	28-1
	8		8	331	Ahi56	I	20.0	5.5	1.2	220		粘板岩	
	9		9	372	Bc53	II a(2)	6.1	5.4	2.0	64.2		珪質頁岩	
	10		10	149	Cg21	I	8.8	6.3	2.4	79.2		硬質頁岩	
	11		11	310	Bd03	II b	8.8	4.4	1.8	65.0		同上	
	12		12	255	Bc06	II a	5.6	5.5	1.6	45.7		凝灰質硬質頁岩	
	13		13	502	Bab53	"	8.7	5.6	1.6	97.0		硬質頁岩	
	14		14	439	Bc06	II b	6.3	4.7	2.0	55.6		同上	
	15		15	479	Bb53	II a	8.3	4.5	2.3	96.5		同上	27-11
	16		16	329	Da18	"							
	17		17	489	Bb50	II							
	18		18	502	Bab53	II a	7.6	5.3	1.4	97.1		同上	

石雜

分	No	類	通算番号	登録番号	出土地点	出層位	最大長 cm			重量 g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
							縦	横	厚				
	1		1	61	Cbc68	I	7.5	2.5	2.0	30		硬質泥岩	
	2		2	82	Bab50	II a	6.5	5.0	1.7	40		砂質硬質頁岩	
	3		3	227	Bc3	II b	8.0	7.0	2.9	30		硬質頁岩	
	4		4	291	Bd50	II a	5.0	3.5	1.3	20		砂質硬質頁岩	
	5		5	350	Cb56		5.5	3.5	1.2	20		硬質頁岩	
	6		6	426	Bcd6	II a	5.5	4.0	1.7	40		同上	
	7		7	453	Bc3	II b	6.0	5.5	1.9	60		珪質頁岩	
	8		8	460	Bc50	I	5.0	3.5	1.2	20		硬質頁岩	
	9		9	480 (15)	Bb53	II b	5.0	4.5	1.2	30		同上	25-10
	10		10	499	Bab53	I	4.5	5.5	1.7	40		砂質硬質頁岩	

分類	No	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長 cm			重量 g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	横	厚				
完全	1	1	磨石1	Bc53	II b	8.8	6.6	5.2	410.0		輝石安山岩	
	2	2	"	"	"	7.1	6.7	5.8	372.2		同上	
	3	3	"	Bab53	"	8.1	7.4	6.6	262.8		白色細粒凝灰岩	
	4	4	"	Bd03	II a	13.2	6.7	3.7	476.8		輝石安山岩	
	5	5	"	Aj59	I	14.1	5.3	4.2	381.0		同上	
	6	6	"	Bd03	II a	16.4	7.5	4.8	940.2		同上	
	7	7	"	Bc53	"	9.5	4.6	3.0	106.6		角礫安山岩	
	8	8	"	Aj59	I	11.0	7.3	4.9	451.0		同上	
	9	9	"	Bc50	"	10.2	9.0	6.1	710.0		輝石安山岩	
	10	10	"	Ai62	"	10.9	6.9	2.8	195.0		同上	
完全	11	11	"	Bc50	"	9.7	6.5	2.7	142.0		輝石安山岩	
	12	12	"	Bcd53	II a	9.8	7.5	7.5	575.0		角礫安山岩	
	13	13	"	Bc50	"	10.5	9.8	2.7	301.2		輝石安山岩落岩	
	14	14	"	Ba53	II b	12.1	10.7	6.0	612.0		同上	
	15	15	"	Ai62	"	10.2	6.5	4.5	396.5		輝石安山岩	
	16	16	"	Bb50	II b	14.6	10.5	6.2	779.0		輝石安山岩落岩	
	17	17	"	Bb50	"	17.5	4.9	2.0	266.5		流紋岩	
	18	18	"	Bc50	"	12.2	11.2	6.0	1,120.0		輝石安山岩	
	19	19	"	Bc50	"	7.1	4.7	2.9	115.0		輝石安山岩落岩	
	20	20	"	Bc50	I	9.0	8.0	4.0	372.5		輝石安山岩	
完全	21	21	"	Bc50	"	6.5	5.7	4.5	237.0		ツツ輝石安山岩	
	22	22	"	Bc53	"	8.7	7.1	3.0	307.7		輝石安山岩	
	23	23	"	Bc53	"	7.7	7.3	3.0	218.4		石英安山岩	
	24	24	"	Bc53	II a	8.4	7.2	6.0	445.0		同上	

石皿

分類	No	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長 cm			重量 kg	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	横	厚				
破片	1	1	石皿1	Bc53	I	22.8	18.0	4.0	2.36		輝石安山岩	
	2	2	"	Bd03	II a	26.8	11.3	6.4	2.19		同上	
	3	3	"	"	"	30.2	20.4	2.7	3.20		同上	
	4	4	"	"	II a	20.6	15.1	8.5	2.68		輝石安山岩落岩	
	5	5	"	"	"	19.8	15.0	8.6	4.17		輝石安山岩	
	6	6	"	"	"	19.1	11.8	7.6	0.73		複輝石安山岩落岩塊	

燧石

分類	No	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長 cm			重量 g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	横	厚				
完全	1	1	P.S 1	Ai 59	II a(3)	10.7	5.8	1.9	86.5		斜長石流紋岩	
"	2	2	"2(515)	Bc 50	I	14.7	3.4	2.4	173.1		淡緑色凝灰岩	
"	3	3	" 3	Bc 50	II b	15.4	2.0	1.9	123.6		緻密質安山岩	
"	4	4	" 4	Bab 53	I	16.5	3.8	2.0	171.2		淡緑色粗粒凝灰岩	
完全	5	5	" 5	Ba 03	II a(4)	12.3	5.3	3.2	211.6		石英安山岩質凝灰岩	
"	6	6	" 6	Bd 03	II a	8.4	5.3	3.3	147.5		白色安山岩質凝灰岩	
	7	7	" 7	Bc 53	I	12.8	4.1	2.0	135.5		石質凝灰岩	
完全	8	8	" 8	Bc 53	"	9.7	5.9	1.6	144.0		同上	
	9	9	" 9	Bc 53	"	15.1	4.7	1.8	231.8		同上	
完全	10	10	" 10	Bc 53	"	5.9	4.9	1.8	92.2		同上	
	11	11	" 11	Bc 53	"	8.9	4.9	1.8	92.0		石英安山岩質凝灰岩	28-4
完全	12	12	" 12	Ba 50	II b	21.2	8.1	3.4	650.5		同上	
	13	13	" 13	Bab 53	II a	9.1	7.2	2.8	211.0		中粒石質凝灰岩	
完全	14	14	"14(394)	Aj 53	"	10.7	6.1	1.6	100.5		石質凝灰岩	
	15	15	"15(514)	Bc 50	" (7)	15.0	5.9	1.6	179.8		石英安山岩質凝灰岩	
完全	16	16	"16(338)	Ai 59	" (5)	17.3	7.2	1.8	328.5		石質凝灰岩	
	17	17	" 17	Cij 18	I	13.7	4.7	2.6	252.4		同上	28-6
完全	18	18	" 18	Cij 18	"	15.7	5.9	2.8	381.6		石英安山岩質凝灰岩	
	19	19	" 19	Cij 18	"	7.5	3.7	1.7	79.9		石質凝灰岩	
完全	20	20	" 20	Bc 06	"	11.1	2.4	1.3	44.6		硬質頁岩	28-2
"	21	21	" 21	Ci 18	" (6)	12.0	3.1	1.1	69.8		硬砂岩	28-3
	22	22	" 22	Bab 03	II a	18.6	4.4	2.4	303.1		淡緑色凝灰岩	
完全	23	23	" 23	Bc 06	"	9.6	2.8	1.7	74.0		石質凝灰岩	28-5
	24	24	" 24	BjCa 77	I	8.2	3.0	1.8	55.5		同上	
完全	25	25	" 25	Bc 50	"	11.0	1.6	1.8	60.0		同上	

石核

分類	No	通算番号	登録番号	出土地点	出土層位	最大長 cm			重量 g	比率 (たて/よこ)	材質	実測図
						縦	横	厚				
完全	1	1	16	Ahi 62	II a	5.0	2.5	1.7	30		硬質頁岩	
	2	2	101	Bab 12	II b	4.5	2.5	1.8	20		同上	
	3	3	121	Bb 53	I	5.5	3.5	2.4	50		同上	
	4	4	142	Bb 3	II b	5.5	5.0	2.5	60		同上 凝灰質	
完全	5	5	181	Bc 50	II a	6.5	4.5	2.5	60		珪質頁岩	

分	No	通算 番号	登録 番号	出土地点	出土 層位	最大長 cm		重量 g	比率 (たて/よこ)	材	質	実測 図
						縦	横					
	6	6	183	Bc50	II a	4.0	3.0	2.0		フリント		
	7	7	188	"	II b	7.5	4.5	2.7		硬質頁岩		
	8	8	191	"	"	6.5	4.0	3.0	110	同上		
	9	9	215	Bc53	II a	4.5	4.0	2.6	60	同上		
	10	10	232	Bc3	II b	6.5	5.0	2.9	120	同上		
	11	11	277	Bd50	I	5.5	5.5	3.3	120	同上		
	12	12	284(12)	"	II a	4.0	4.5	2.6	60	同上		
	13	13	308	Bd3	"	5.5	4.0	2.2	50	珪質頁岩		
	14	14	349	Cb53 pit	"	3.0	3.5	1.3	20	同上		
	15	15	384	Cgh18	"	6.5	4.0	2.4	60	硬質頁岩		
	16	16	387	Ci15	I	3.0	3.0	1.8	20	珪質頁岩		
	17	17	392	Cij18	"	5.5	4.0	1.8	40	同上		
	18	18	432	Bc9	II b	5.5	4.0	2.3	60	硬質頁岩		
	19	19	450	Bc3	"	8.0	6.0	3.0	120	珪質頁岩		
	20	20	481(16)	Bb53	"	3.5	4.5	2.0	40	硬質頁岩		
	21	21	482(9)	"	"	6.5	6.5	3.9	80	同上		
	22	22	418	BjCa77	I	7.0	5.5	3.3	160	珪質頁岩		
	23	23	504	Bab50	"	5.5	5.0	2.6	60	硬質頁岩		
	24	24	60	Bbc68	"	7.0	3.5	3.8	80	同上		
	25	25	89	Bab53	II a	8.0	4.0	3.2	70	フリント		
	26	26	444	Bc3	"	4.5	5.0	2.7	50	石質凝灰岩		
	27	27	C1	"	I	5.8	5.4	4.4	161.0	同上		
	28	28	C2	"	"	8.1	5.7	5.5	245.8	硬質頁岩		
	29	29	C3	"	"	6.8	5.4	3.3	131.5	同上		
	30	30	C5	Bc50	II b	4.9	3.1	2.2	27.8	フリント		
	31	31	C7	Bc53	"	5.2	4.4	2.1	55.0	珪化された凝灰岩		
	32	32	C8	"	I	4.0	3.9	1.8	17.9	乾紋岩		
	33	33	C9	Ahi62	II b	8.1	4.7	2.8	131.2	硬質頁岩		
	34	34	C10	Ai62	II a	8.1	4.7	2.7	52.5	同上		

25-13

みや 田 (A) 遺 跡

遺 跡 名：宮田A (略号MT-A74)

遺 跡 所 在 地：紫波郡矢巾町広宮沢第6地割字宮田

調 査 期 間：昭和49年9月10日～9月30日

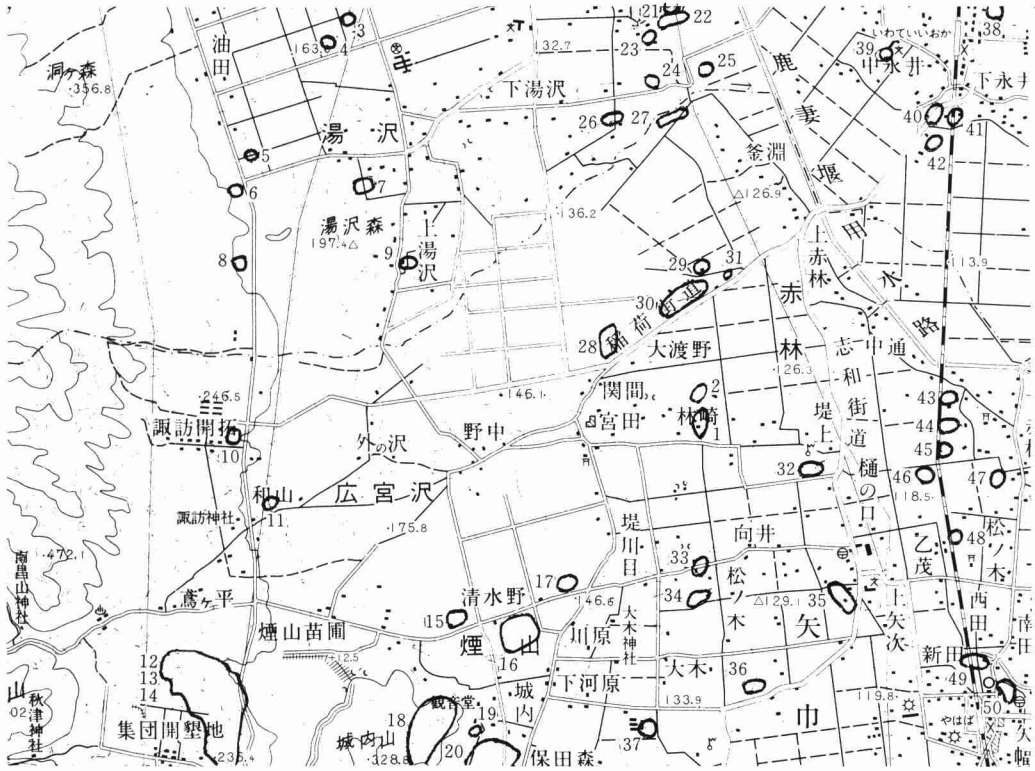
調 査 対 象 面 積：1,150m²

発 掘 調 査 面 積：1,150m²

1 宮田 A・B 遺跡の位置と環境

宮田 A・B 遺跡は、紫波郡矢巾町広宮沢第 6 地割字宮田に位置している。東北本線矢巾駅の北西約 2.8 km の地点である。なお、両遺跡は近接して、その距離は約 200 m である。

両遺跡は、北上川中流域の金ヶ崎段丘に相当する花巻段丘の東縁近くの平坦面上に立地している。⁽¹⁾



第 1 図 宮田 A・B 遺跡の位置と周辺の遺跡 (日誌 5 万)

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. 宮田 A 遺跡 | 26. 大館遺跡 (土師、須恵、中世) |
| 2. 宮田 B 遺跡 | 27. 一本松遺跡 (平安) |
| 3. 油田遺跡 (平安) | 28. 野田野田遺跡 (縄文中期) |
| 4. 福千代遺跡 (土師) | 29. 大渡野 I 遺跡 (平安) |
| 5. 由衣遺跡 (縄文晩期) | 30. 大渡野 II 遺跡 (縄文早期末、前期、弥生) |
| 6. 由衣経塚 | 31. 上赤林・六甲田一里塚 |
| 7. 後島 A 遺跡 (縄文後・晩期) | 32. 南野遺跡 |
| 8. 後島 B 遺跡 (縄文中期) | 33. 大瀧遺跡 (縄文前・中・晩期) |
| 9. 高遺跡 | 34. 煙山 I 遺跡 |
| 10. 橋木立遺跡 (縄文中期) | 35. 工矢次 I 遺跡 (平安) |
| 11. 和山遺跡 (平安) | 36. 工矢次 II 遺跡 (縄文) |
| 12. 月ヶ森森塚遺跡 (縄文) | 37. 田屋遺跡 (縄文後期) |
| 13. 月ヶ森 I 遺跡 (縄文) | 38. 永井経塚 |
| 14. 月ヶ森 II 遺跡 (縄文中期) | 39. 永井小学校アール用地遺跡 (土師) |
| 15. 谷地高橋遺跡 (縄文後期) | 40. 勢田遺跡 (平安) |
| 16. 清水野遺跡 (縄文後・晩期) | 41. 下赤井遺跡 |
| 17. 山王茶屋遺跡 (縄文晩期) | 42. 神田塚 |
| 18. 煙山館跡 (中世) | 43. 下赤林 II 遺跡 (縄文) |
| 19. 町遺跡 (縄文中期) | 44. 下赤林 III 遺跡 (平安) |
| 20. 石切茶屋遺跡 (縄文前・中・後期、平安) | 45. 下赤林 I 遺跡 (縄文、平安) |
| 21. 下沼遺跡 (平安) | 46. 茨垣遺跡 (縄文、弥生、平安) |
| 22. 湯沢 A 遺跡 (平安) | 47. 欠塚遺跡 (縄文後期、平安) |
| 23. 湯沢 B 遺跡 (平安) | 48. 高畑遺跡 |
| 24. 稲荷遺跡 | 49. 又兵衛新田遺跡 (平安) |
| 25. 大島遺跡 | 50. 南矢巾遺跡 |

※ 埋蔵文化財分布地図、岩手県教育委員会 昭和 49 年 3 月号を引用

宮田A遺跡の地目は畑地で、標高が約 130 m である。遺跡の周辺は大部分水田になっている。宮田B遺跡の地目はやはり畑地で、標高が約 130 m、北側の一段下がった水田との比高が約 2 m である。

両遺跡の周辺には多数の遺跡が分布している。西方には、月ヶ森 I・II 遺跡等縄文時代の遺跡が目立って分布している。宮田B遺跡の北方約 700 m 地点に、縄文時代早期末から前期初頭弥生時代の大渡野 II 遺跡がある。さらに北方には、一本松遺跡・湯沢 A・B 遺跡・下羽場遺跡等、平安時代の遺跡が分布している。



第2図 地形図と調査区域 (1:1000)

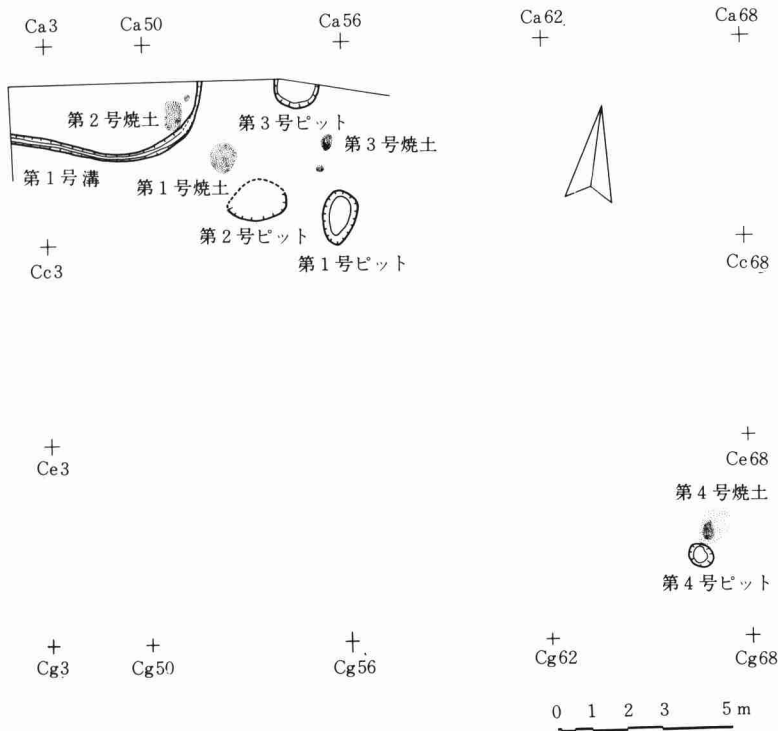
2 調査経過

路線にかかる遺跡の範囲約1500㎡を発掘調査した。路線の中心杭 597 + 80と 598 + 20を結ぶ線を基準とし、それに直交する線を設け、3 mグリットを組んだ。中心杭 598 + 00の地点を、Ca 50グリットとし、東西南北にそれぞれ延長してグリット名を付した。

遺跡の基本的層序は、第Ⅰ層黒色土（表土）、第Ⅱ層黒色土（クロボク）、第Ⅲ層黄褐色シルト、第Ⅳ層灰白色粘土となっている。

表土の除去は、全面をブルドーザーで行ない、除々に掘り下げていった。

その結果、町道をはさんで、焼土遺構4・ピット4・溝1が検出された。町道の両側を除いては湿地となっている。



第3図 遺構配置図

3 調査結果

(1) 発見された遺構 (第3図)

第1号焼土遺構 (Cb 50焼土)

第Ⅱ層黒色土の中間で確認された。平面形は、南北90cm、東西80cmのほぼ円形である。深さは、湧水のため完掘できず不明であるが、30cm以上あり、壁がほぼ垂直である。焼土の厚さは約15cmで、レンズ状になっている。焼土の下は黒色土（クロボク）で、遺物は含まない。

焼土からの出土遺物は、土師器の坏1個体(第5図6)・甕3個体(第5図7・10)・B類の坏3個体(第5図15・17・18)・須恵器の坏2個体(第6図3・4)・甕5個体(第6図6・7・8)・壺1個体(第6図9)である。なお、同一個体の遺物が、第2号焼土遺構及びその周辺から出土している。

第2号焼土遺構(Ca50焼土)

第Ⅱ層黒色土の中間で確認された。平面形は、南北90cm、東西50cmの長方形である。焼土が黒色土(クロボク)の上に薄くのっている。

出土遺物は、縄文片・土師器の小形甕・須恵器の坏(第6図5)である。また、この遺構の周辺から、土師器の甕4個体(第5図11・12・14)・B類の坏2個体(第5図16・19)・須恵器の皿1個体(第6図1)が出土している。

第3号焼土遺構(Ca53焼土)

第Ⅱ層黒色土の中間で確認された。平面形は、南北50cm、東西30cmの楕円形である。木炭を含む焼土の厚さは約4cmで、黒色土(クロボク)の上のっている。

この遺構から、遺物は出土していない。

第4号焼土遺構(Cf65焼土 第4図)

第Ⅲ層黄褐色シルト上面で確認された。焼土の密なる部分の平面形は、長軸長80cm、短軸長60cmの不整楕円形で、まばらに分布している。

出土遺物は、土師器の小形甕2個体(第5図8・9)である。

第1号ピット(Cb53ピット)

第Ⅲ層黄褐色シルト上面で確認された。平面形は、南北160cm、東西100cmの楕円形である。深さは、南壁で約30cm、北壁ではほとんどない。堆積土は黒色土(クロボク)である。遺物は出土していない。

第2号ピット(Cb50ピット)

第Ⅲ層黄褐色シルト上面で確認された。平面形は、東西180cm、南北120cmの不整楕円形である。深さは東壁で約7cm、西壁ではほとんどない。堆積土は焼土混りの黒色土である。

遺物は出土していない。

第3号ピット(Ca53ピット)

第Ⅲ層黄褐色シルト上面で確認された。ピットの北半分は不明であるが、直径120cm(推定)の円形と思われる。深さは約10cmで、堆積土は黒色土(クロボク)である。

遺物は出土していない。

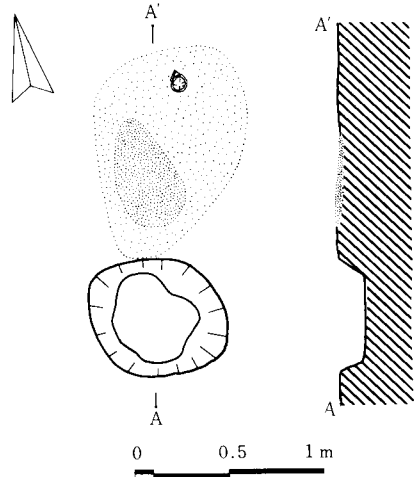
第4号ピット (Cf 65ピット 第4図)

第Ⅲ層黄褐色シルト上面で確認された。平面形は、南北75cm、東西70cmのほぼ円形である。深さは約10cm、壁が傾斜していて、底部は平坦である。堆積土は黒色土(クロボク)である。

出土遺物は、縄文片(第5図1)・土師器の甕(第5図13)・須恵器坏(第6図2)である。

第1号溝 (Ca 06)

第Ⅲ層黄褐色シルト上面で確認された。東西に走り、第2号焼土遺構付近でゆるやかにカーブして北の方にのびている。上幅が20cm前後で、深さが約10cmである。底部は、東が高く、西にいくにしたがって低くなる。堆積土は黒色土(クロボク)である。遺物は出土していない。



(2) 出土遺物

遺物は、第1号・第2号・第4号焼土遺構・第4号 第4号焼土遺構と第4号ピット 第4号ピットの各遺構から出土したものが大部分である。その内容は、縄文土器・剥片石器・土師器・B類・須恵器である。

坏型土器の中に、土師器・須恵器の範疇に含めがたい一群のものが目立って存在するので、A類・B類・C類と三つに分類した。

A類 (須恵器)

還元炎により焼かれたもので、灰色等の色調を呈し、胎土が密で、比較的硬質の土器である。

B類

酸化炎により焼かれたもので、橙色、赤褐色を呈し、A類に比較して軟質であり、胎土が全体的に粗であるが、技法がA類と似た一群の土器である。

C類 (土師器)

ロクロ使用のもので、内面にヘラミガキ調整、黒色処理を施した土器である。

・縄文土器 (第5図1)

縄文時代の土器片が2片出土している。2片とも胎土に繊維を含む体部の破片で、器質が比較的硬く、内面は平滑である。外面は、斜行縄文(R-L、不明)が施されている。

・剥片石器 (第5図2)・剥片 (第5図3・4・5)

剥片を利用した石器の破片で剥離の痕跡が観察される。石質は硬質頁岩である。

剥片は3点出土しているが、いずれも調整は認められない。石質は硬質頁岩である。

・土師器

坏（C類 第5図6）

口縁部と体部下半～底部の破片が1個体分出土している。体部は、底部から内彎しながら上方にのびて口縁部に至るようである。内面はヘラミガキ、黒色処理されている。外面は口縁部のみヘラミガキされている。切り離し技法は回転糸切りで、その後の調整は不明である。

甕

11個体分出土しているが、破片が多く、全体を復元実測できるものはなかった。ロクロ未使用のもの1個体、ロクロ使用のもの5個体、ロクロ使用不明のもの5個体である。

ロクロ未使用の甕（第5図10）

口縁部が外反し、内外に横ナデ調整が施されている。底部破片の内面には黒色物が付着している。胎土が非常に粗な土器である。

ロクロ使用の甕（第5図8・9・10・11・12）

口縁部破片2点とも外反し、口唇部が立ち上がる。内・外面にロクロ調整が施されている。小型甕は、3個体分出土している。（第5図8・9）いずれも切り離し技法は回転糸切りで、調整は施されていない。ただし、第5図8は、内面にロクロを使用して工具による調整がみられ、外面の巻き上げ痕が明瞭である。

ロクロ使用不明の甕（第5図7・13・14）

ロクロ調整か横ナデ調整か不明の口縁部破片が3個体、内・外面にヘラミガキ調整を施した体部破片が1個体、内面にナデ調整、外面にヘラケズリ調整を施した体部～底部の破片が1個体出土している。

・B類坏（第5図15・16・17・18・19）

5個体分出土しているが、いずれも破片のため、全体を復元実測できるものはなかった。口縁部・体部破片の内・外面にロクロ痕が観察される。底部破片は3個体分あるが、いずれも切り離し技法が回転糸切りで、調整は施されていない。

・須恵器

皿（第6図1）

口径10cm、器高2.4cm、底径10cmと小形の皿である。体部がわずかに内彎しながら外上方にのびて口縁部に至る。口縁部は、仕上げの段階で外方から強いロクロナデが加えられて、内方に立ち上がる

坏（A類 第6図2・3・4・5）

4個体分出土しているが、破片のため全体の器形がわかるものはない。口縁部形態は、外傾するものと、やや外反するものがある。底部破片は1片だけで、回転糸切り痕をもっている。

甕（第6図6・7・8）

5個体あるうち口縁部のあるものは3個体である。

第6図6の甕は、肩部が張り、頸部はやや外反しながら口縁部に至る。口縁部は上下につまみ出されて断面は三角形状を呈している。体部には、内面アテ目（青海波文）、外面タタキ目が施されている。

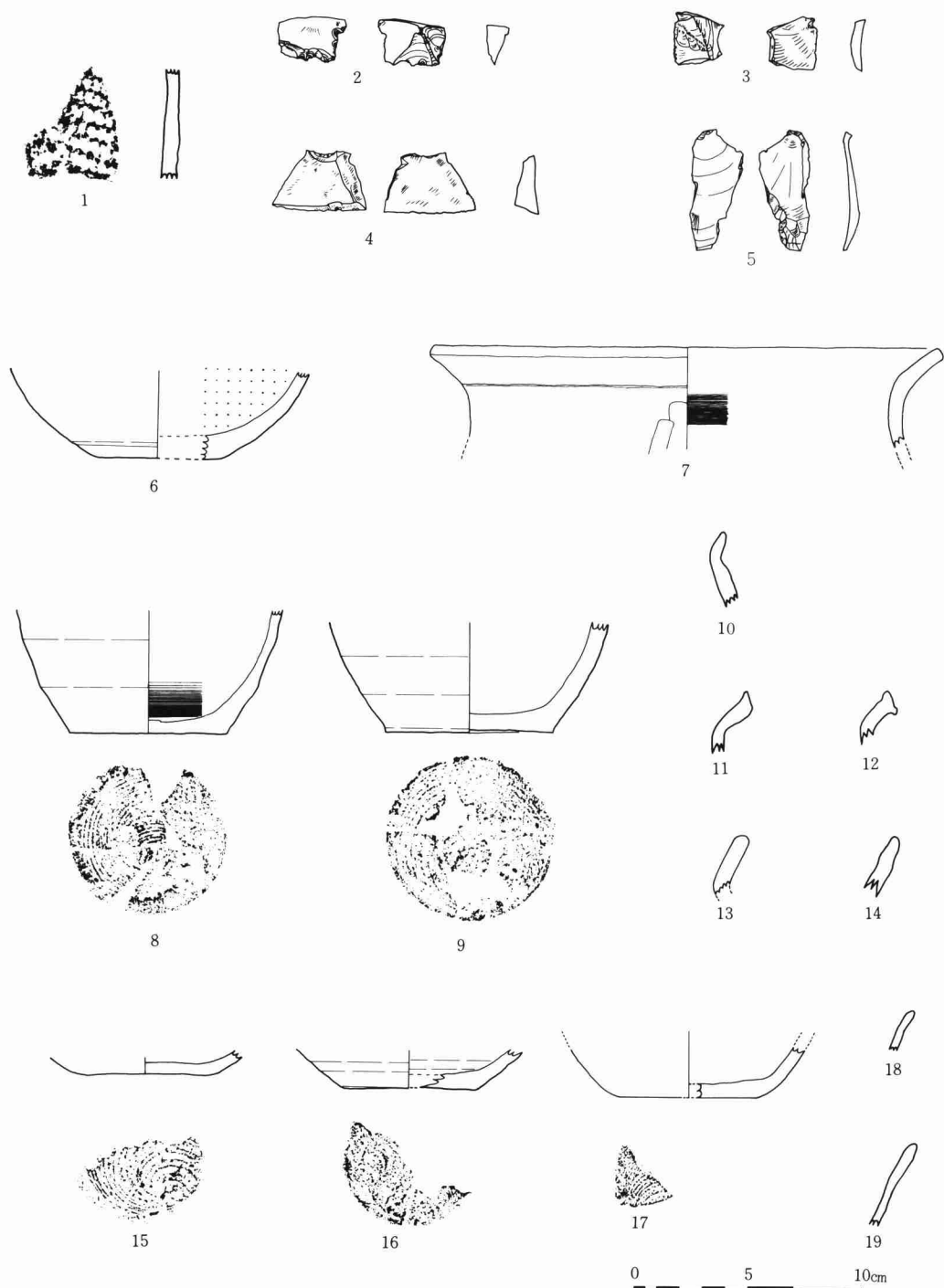
第6図7の甕は、器内に空気孔が生じ、器面の凹凸が激しい。口縁部は外反し、口唇部が立ち上がる。体部～底部には、内面刷毛目、ナデ、外面ヘラケズリが施されている。

第6図8の甕は大形である。頸部が単調に外反しつつのびて口縁部に至り、口縁部は極端な程上下につまみ出されている。

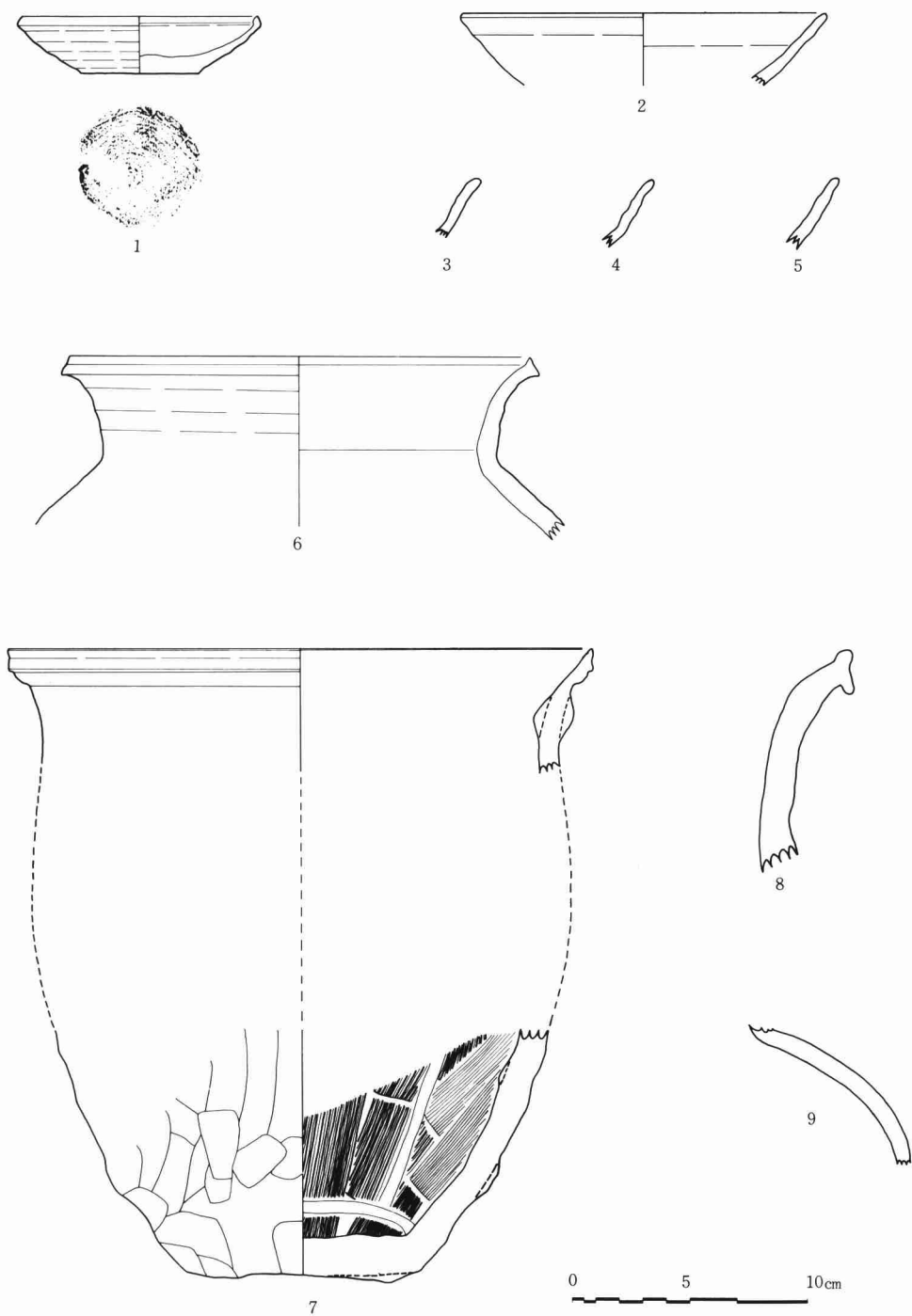
その他3個体の体部破片を観察すると、内面にロクロ痕、アテ目、アテ目のあとのナデ、外面にナデ、タタキ目が施されている。

壺（第6図9）

体部の破片であり、全体の器形が不明である。外面は灰かぶりを受けているため、調整技法が不明であるが、内面はロクロ調整されている。



第5図 繩文土器片(1) 剥片石器・剥片(2~5)
土師器(6~14) B類坏(15~19)



第6図 須恵器

表 宮田A遺跡の出土土器

遺構名	種別	器形	実測番号	写真番号	調						整						器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	頸径 (cm)	色	備考
					口縁部		体部上半		体部下半		底部		外部		内部								
					内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面	内面	外面							
第1号 焼土遺構	土師器	坏	5-6	6	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	ヘラミ ガキ	回転糸切り 不	回転糸切り 不	5.2	-	-	橙	内黒		
	B類	坏	5-15	18	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	回転糸切り 無	回転糸切り 無	(5.2)	-	-	橙			
	B類	坏	5-18	16	ロクロ 痕												-	-	-	橙			
	B類	坏	5-17	17											回転糸切り 無	回転糸切り 無	(6.0)	-	-	橙			
	須恵器	坏	6-3	22	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	回転糸切り 不	回転糸切り 不	-	-	-	灰白			
	須恵器	坏	6-4	21	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕			-	-	-	緑灰			
	土師器	甕	5-10	9	横ナデ		横ナデ	ヘラケ ズリ	ナ	ナ	ヘラケ ズリ	ナ	ナ	ヘラケ ズリ	ヘラケ ズリ	ナ	不	不	-	-	にふい 橙		
	土師器	甕						ヘラケ ズリ	ナ	ナ	ヘラケ ズリ	ナ	ナ	ヘラケ ズリ	ヘラケ ズリ	ナ	ナ	ナ	-	-	橙		
	土師器	甕	5-7	14	不明	不明	不明	ヘラケ ズリ	ナ	ナ	ヘラケ ズリ	ナ	ナ	ヘラケ ズリ	ヘラケ ズリ	ナ	ナ	(22.1)	(19.0)	-	浅黄橙		
	須恵器	甕	6-7	25	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	刷毛目 ナ	刷毛目 ナ	ヘラケ ズリ	ヘラケ ズリ	刷毛目 ナ	刷毛目 ナ	ヘラケ ズリ	ヘラケ ズリ	不	明	(26.9)×(24.9)× (23.0)	10.0	(22.0)	灰	口縁部 自然釉	
	須恵器	甕	6-6	26	ロクロ 痕	ロクロ 痕	青海波 文	青海波 文	青海波 文	青海波 文	青海波 文	青海波 文	青海波 文	青海波 文	青海波 文			(19.7)	(16.8)	-	にふい 赤楊		
	須恵器	甕					ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ロクロ 痕	ナ						灰赤		
須恵器	甕						アテ目	アテ目	アテ目	アテ目	アテ目	アテ目	アテ目	アテ目						灰			
須恵器	甕	6-8	27	ロクロ 痕	ロクロ 痕	アテ目 ナ	アテ目 ナ	アテ目 ナ	アテ目 ナ	アテ目 ナ	アテ目 ナ	アテ目 ナ	アテ目 ナ	アテ目 ナ						暗緑灰 (内、灰)			

4 まとめ

本遺跡から出土している縄文土器片は、縄文時代早期末～前期初頭に位置づけられる。剥片石器・剥片もおそらく同時期のものであろう。

土師器・B類坏・須恵器について项目的に述べると、

①土師器の坏は、B類・須恵器の坏に比較して非常に少なく、回転糸切り、調整不明のもの1個体のみである。

土師器の甕は、ロクロ不使用のものが1個体分で、大部分がロクロ使用である。その中に、回転糸切り、無調整の小型甕が含まれる。

氏家氏の土師器の編年によると、「表杉ノ入式」に比定されるものと思われる。

②B類坏は、秋田城跡出土の「赤褐色土器」、多賀城跡出土の「須恵系土器」、胆沢城跡出土の「土師質土器」に比定されうる可能性をもつ土器である。

B類坏は、須恵器の坏と共伴し、量的にはほぼ同量の出土をみている。

③須恵器の坏は、切り離し技法のみわかるのが1片（回転糸切り）だけである。

須恵器の皿は、器形が異なるが技法上、糸切りでロクロから離し、調整を行なわないもので、岡田・桑原氏らによる9類（9世紀後半～11世紀初頭）に類似し、口縁部を除く器形が、野形遺跡の第1号住居跡出土の須恵器の坏、胆沢城跡出土の土師質土器の皿、多賀城跡出土の10-1b類（須恵系土器）に似ている。また、器形的に、極楽寺遺跡出土のものに近似している。須恵器の長頸壺と思われるもの（第6図9）及び甕（第6図6）は秋子沢遺跡・葛西壇遺跡出土のものに似ている。

なお、土師器的な要素をもつ須恵器の甕（内面刷毛目調整）が1個体出土している。

完形品が少なく、破片から時期を推定するのは、危険を伴うが、①～③を総合的に考えると10世紀～11世紀初頭に位置づけられると思う。

土師器・B類・須恵器等が出土している第1号・第2号・第4号焼土遺構及び第4号ピットは、10世紀～11世紀初頭の遺構と推定される。第3号焼土遺構は、第1号焼土遺構と近接しているので、おそらく同時期のものであろう。

焼土遺構の性格は、廃棄された焼土跡・炉・かまど跡等考えられるが、不明である。第4号焼土遺構は、第4号ピットと共伴する住居跡のかまど跡と考えられるが、根拠に欠ける。

第1号～第3号ピットは、浅く、伴出遺物もないので、時期並びに性格が不明である。

溝は、地形的に自然のものと考えにくく、排水溝、周溝等考えられるが、性格不明である。

なお、これと似た遺構が、湯沢B遺跡から発見されている。

<付記> 発掘担当者と整理報告者が異なったため、不備な点があるかと思ひます。

<注記>

- (1)中川久夫 他 「北上川中流沿岸の第4系および地形」 『地質学雑誌』第69巻第811号
1963年4月
- (2)氏家和典 「陸奥国分寺跡出土の丸底杯をめぐって—奈良・平安期土師器の諸問題—」
『柏倉亮吉教授還暦記念論文集 山形県の考古と歴史』 山教史学会 1967年
- (3)岡田茂弘・桑原滋郎「多賀城周辺における杯形土器の変遷」 『研究紀要I』
宮城県多賀城跡調査研究所 1974年3月
- (4)「野形遺跡 昭和51年度」 秋田県立博物館 昭和52年3月
- (5)「胆沢城跡 昭和51年度発掘調査概報」 岩手県水沢市教育委員会 1977年3月
- (6)前出注(2)
- (7)板橋源・司東真雄・佐々木博康 「北上市稲瀬町極楽寺遺跡調査略報」
『北上市史 第1巻 原始・古代(1)』 北上市史刊行会 昭和43年3月
- (8)菊池啓治郎・桜井清彦・玉口時雄 「北上市二子町秋子沢遺跡調査報告(第1・2次)」
『北上市史 第1巻 原始・古代(1)』 北上市史刊行会 昭和43年3月
- (9)沼山源喜治 「北上市相去町葛西壇遺跡発掘調査報告」 『北上市史 第1巻 原始・古代(1)』
北上市史刊行会 昭和43年3月
- (10)昭和50年 岩手県教育委員会文化課で調査

みや 田 (B) 遺 跡

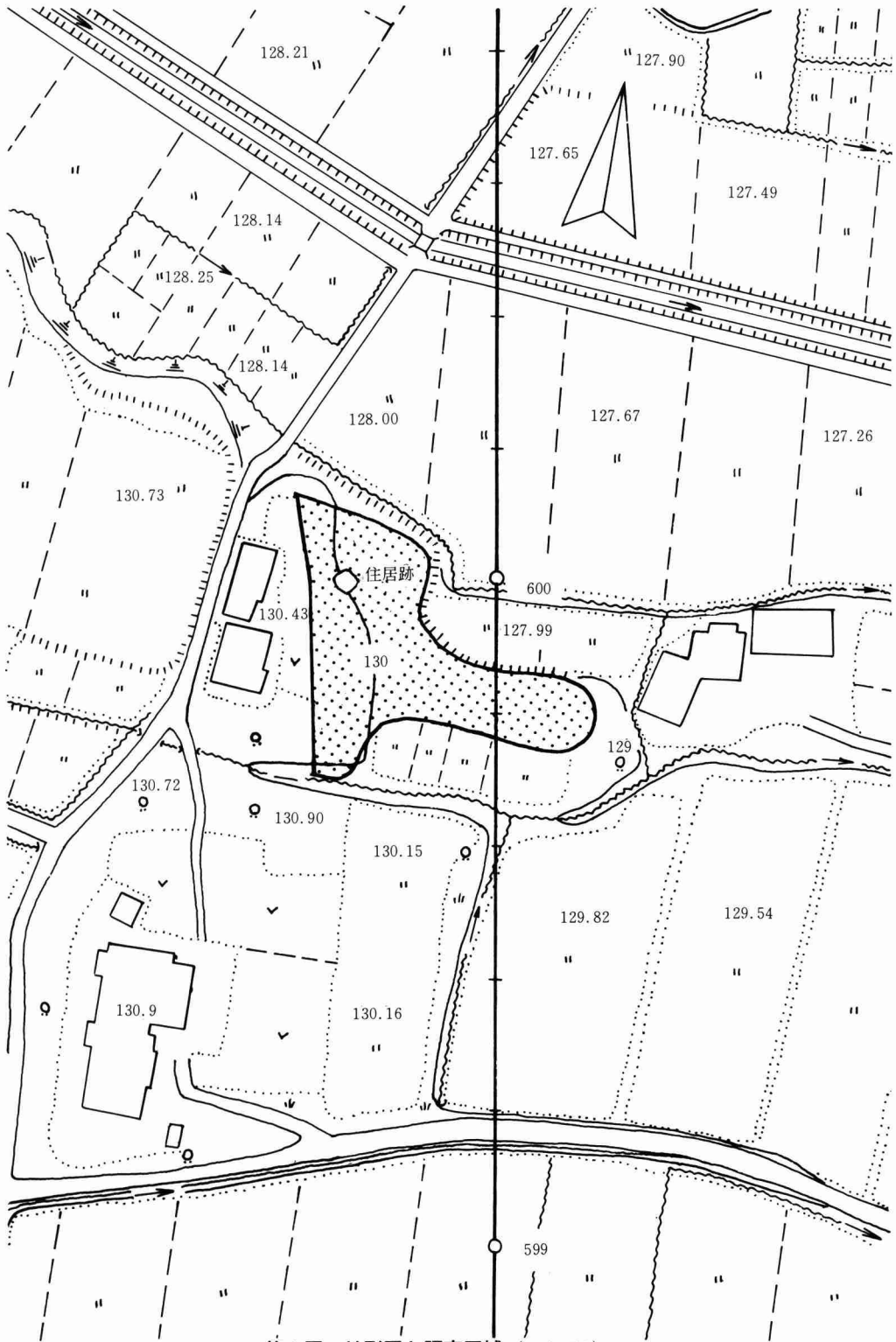
遺 跡 名：宮田B (略号MT-B74)

遺 跡 所 在 地：紫波郡矢巾町広宮沢第6地割字宮田

調 査 期 間：昭和49年9月10日～9月30日

調査対象面積：1,125m²

発掘調査面積：1,120m²



第1図 地形図と調査区域 (1:1000)

1 調査経過

路線にかかる遺跡の範囲約1,120mを発掘調査した。路線の中心杭599+80と600+00を結ぶ線を基準とし、それに直交する線を設け3mグリットを組んだ。中心杭600+00の地点をBa50グリットとし、東西南北にそれぞれ延長してグリット名を付した。

遺跡の基本的層序は、第Ⅰ層黒色土(表土)・第Ⅱ層黄褐色シルト・第Ⅲ層灰白色粘土・第Ⅳ層礫となっている。

表土の除去は、全面をブルドーザーで行ない、除々に掘り下げていった。その結果、住居跡1棟を発見した。

2 調査結果

(1) 発見された遺構

Aj 24住 (第2図)

(遺構の確認) 第Ⅱ層黄褐色シルト上面で確認された。

(平面形・方向) 平面形は不整な方形を呈し、長軸は北西—南東方向で、長さ3.6m(推定)である。短軸長は3.4mで、床面積は約10.7㎡である。

(堆積土) 削平をうけていて、単層である。黒褐色土で軟質、やや粘性がある。

(床面) 床面は平坦、軟質で貼床は認められなかった。なお、長軸方向に床面が若干傾斜している。壁の高さは2cm程度で、南東の壁は完全に壊されている。

(柱穴) 3個のピットが検出され、深さはP₁14cm・P₂25cm・P₃23cmである。P₂とP₃は後世の作為(住居廃絶後の掘り込み)によるものである。P₁は柱穴としては浅く、ほかにピットがないので、この住居跡の柱穴は不明である。

(かまど) 住居跡の東コーナーに35×30cmの焼土の分布が認められた。焼土をとり除いた結果、約10cmの浅い皿状のくぼみになり、焼けた硬い面があらわれた。周辺には、直径5cm大の小礫と小ピットが存在する。これがカマドか否かは確証に欠ける。あるいは、削平をうけた南東の壁にカマドがあった可能性もある。

(その他の施設) 壁に沿って幅約10cm~20cm、深さ約2cm~9cmの周溝がめぐっている。なお、南東壁の削平をうけた部分に周溝があったか否かは不明である。

住居跡の中心部に焼土の分布が認められたが、床面より若干浮いていて、しかも床面が焼けていない。

(年代決定資料) 床面から出土したものに、土師器の甕5個体(第3図2・3)・須恵器の坏1個体(第3図14)・高台付坏1個体(第3図15)・甕1個体がある。なお、縄文片が1片出土しているが、これは住居跡の埋没過程に混入したものと思われる。

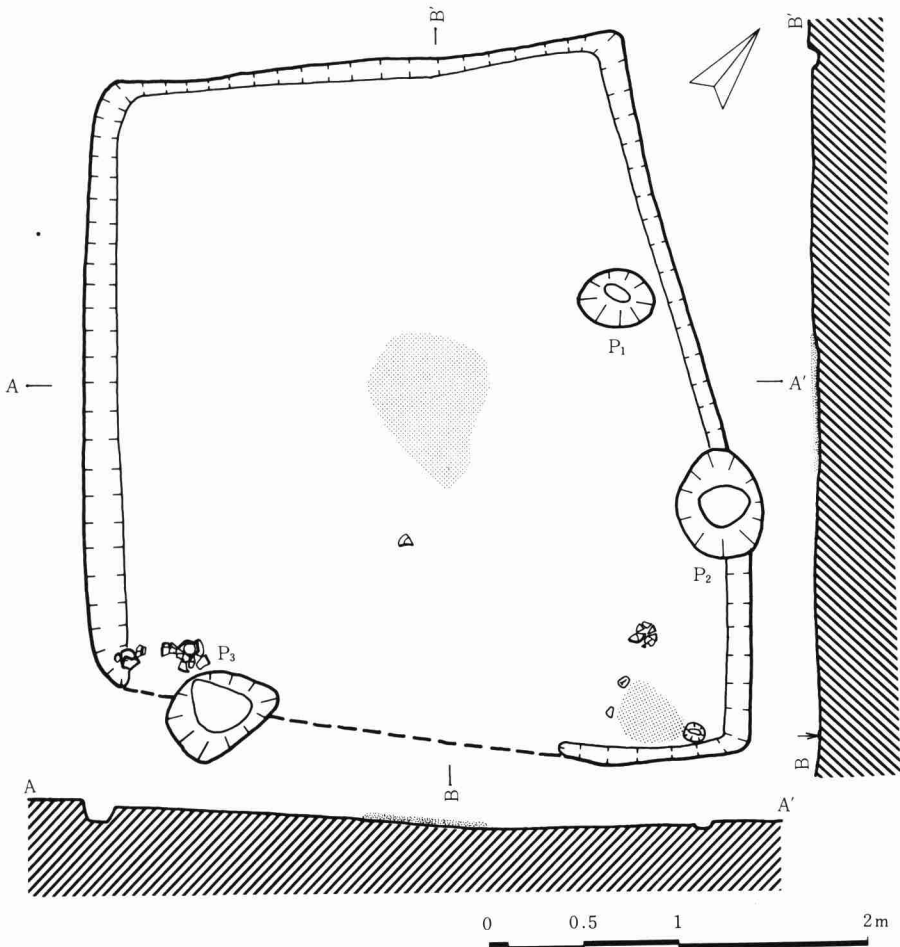
焼土から出土したものに、土師器の甕1個体・B類の坏（宮田A遺跡出土遺物の項参照 第3図8・9・10・11）・須恵器の甕1個体がある。

床面出土のものは、居住最終のものか、住居廃絶後に廃棄されたものか明らかではないが、住居の使用されていた年代からはなほだしく隔たるものではない。焼土から出土したものは、住居跡の使用年代を推定する上で、有効な資料と考えられる。

このほか、推積土層から、土師器の坏1個体・甕4個体（第3図4・5・6）・B類の坏4個体（第3図7・12・13）・須恵器の坏1個体（第3図16）・甕1個体が出土している。

(2) 出土遺物

遺物はすべて住居跡から出土したものである。その内容は、縄文土器・土師器・B類坏・須恵器である。坏形土器の分類（A類・B類・C類）は、宮田A遺跡と同じである。



第2図 住居跡

・縄文土器（第3図1）

胎土に繊維を含む体部の破片で、器質が比較的硬く、内面は平滑である。外面には斜行縄文（L-R）が施されている。

・土師器

坏（C類）

体部の破片で、内面がヘラミガキされ、黒色処理されている。外面にはかすかにロクロ痕が観察される。底部が欠損していて切り離し技法等は不明である。

甕（第3図2・3・4・5・6）

9個体分出土しているが、全体を復元実測できるものはなかった。ロクロ使用のものが7個体で、そのうち口縁部のあるものが5個体ある。口縁部が外傾して口唇部が立ち上がるものと口縁部が内彎しているものに分類される。ロクロ使用したかどうか不明のものが2個体ある。内面ヘラナデ、外面ヘラケズリ調整された体部下端の破片と、内面刷毛目、外面調整不明の体部破片である。

・B類坏（第3図7・8・9・10・11・12・13）

8個体分出土しているが、全体を復元実測できるものは1個体である。体部及び口縁部の形態は、丸味をもってしだいに立ち上がりきみである。切り離し技法は、回転糸切りで調整は加えられていない。このほか底部をもつものが5個体あるが、いずれも回転糸切り無調整である。なお、体部下端に回転ヘラケズリ調整されたものが1個体あるが、底部が欠損しているため、切り離し技法等は不明である。

・須恵器

坏 A類（第3図14・16）

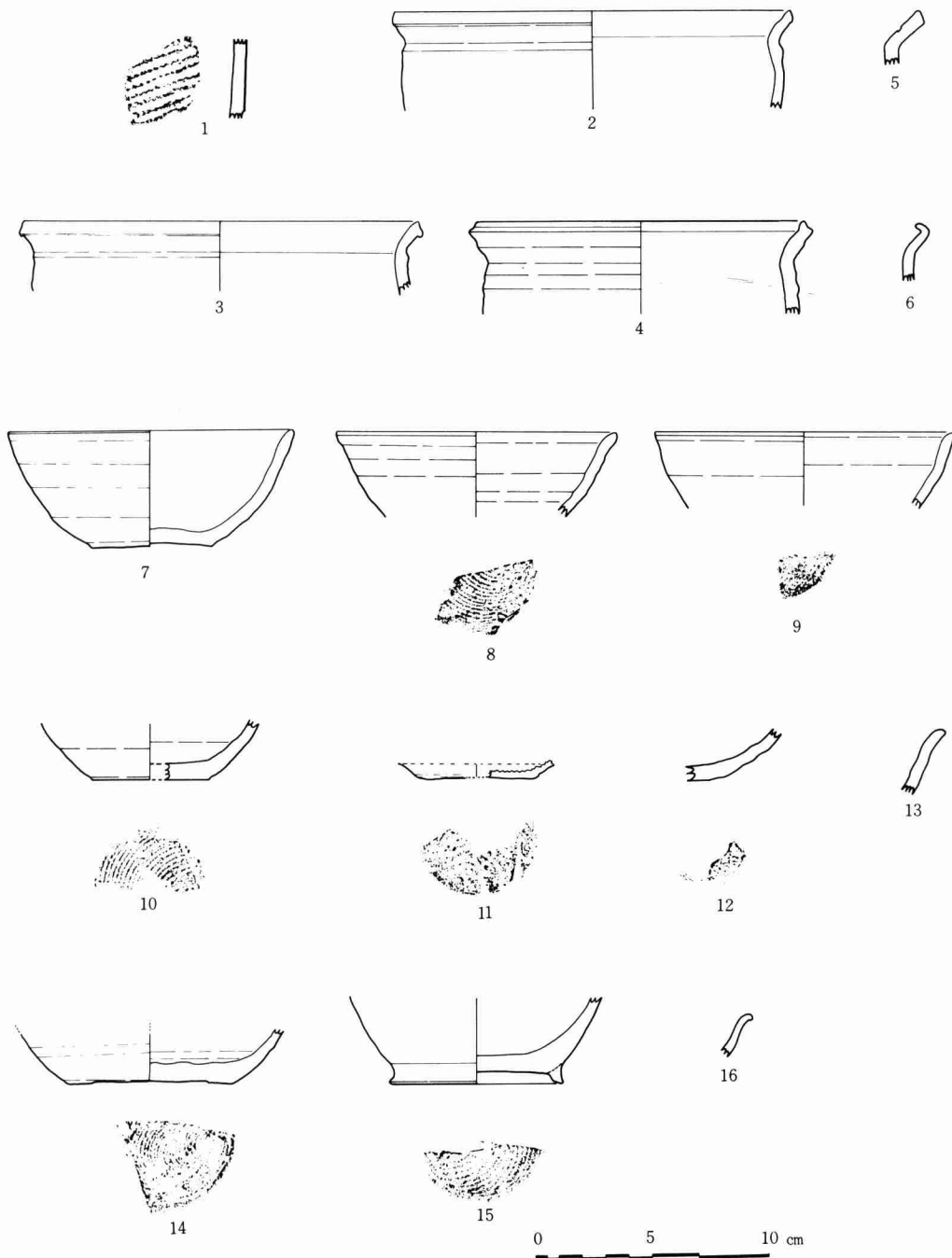
2個体分出土している。口縁部破片は、口唇部が外反しているのが特徴的である。体部下半～底部の破片は、回転糸切りで調整は加えられていない。

高台付坏（第3図15）

回転糸切り後、下びらきに台をつけてナデ調整を加えている。切り離し後の調整の有無は不明である。

甕

体部の破片が3個体分出土している。内面にロクロ痕があるものと、内面アテ目、アテ目のあとナデ調整、外面タタキ目のものである。



第3図 縄文土器片(1) 土師器(2~6)
B類坏(7~13) 須恵器(14~16)

須惠器	高台 付坏	3-15	20	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	回転糸切り			—	—	灰 白	
土師器	甕	3-2	3	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	不 明	(17.0)×(16.4)	(16.0)	(16.0)	浅黄橙		
土師器	甕	3-3	5	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕		(17.0)	(16.0)	(16.0)	にぶい橙		
土師器	甕	3-4	4	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕		(14.0)	(13.1)	(13.1)	橙 内 浅黄橙	推積層	
土師器	甕	3-6	6	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕					にぶい橙	推積層	
土師器	甕	3-5	7	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ナ	ナ	ロクロ痕	ロクロ痕					橙	推積層	
土師器	甕		8		ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ナ	ナ	ナ	ヘラケ ズリ	ナ	ナ				浅黄橙		
土師器	甕		11					ナ	ナ	ナ	ヘラケ ズリ	ナ					橙 内 にぶい橙		
土師器	甕		9		ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕	ロクロ痕					浅黄橙		
土師器	甕		10		刷毛目	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明					にぶい橙 (内・橙)	推積層	
須惠器	甕		22		ロクロ痕	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明					黄 灰 (内・暗灰黄)		
須惠器	甕		23						アテ目	タタキ目	タタキ目	タタキ目					灰	推積層	
須惠器	甕		24		ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ					灰		

AJ 24
住居跡

※色調は「新版標準土色帖」農林省農林水産技術会議事務局及び財団法人日本色彩研究所色票監修による

3 まとめ

本遺跡の住居跡の特徴は、平面形が不整形である、柱穴が不明であることがあげられる。遺物は、すべて住居跡から出土したものである。

①縄文土器片は、縄文早期末～前期初頭に位置づけられる。

②土師器の坏は、ロクロ使用のもの1個体分である。

土師器の甕は、大部分ロクロ使用のものである。

氏家氏の土師器の編年によると「表杉ノ入式」に属するものと思われる。

③B類坏は、8個体分出土しているが、大部分回転糸切り、無調整である。破片が多く、全体を
⁽¹⁾実測できたのが1個体で、回転糸切り、無調整、体部が丸味のある坏である。知見によれば、
これと似た器形、技法のものが、紫波町の上平沢新田遺跡からまとまって出土している。

なお、体部下端の破片で、回転ヘラケズリ調整が施されたものが1個体分出土している。破
⁽²⁾片なので全体の器形が不明であるが、技法的には、秋田城跡から出土した「赤褐色土器B」
⁽³⁾に似ている。また、払田柵跡から嘉祥2年(849)銘のある木簡と共に、回転糸切り後、底
⁽⁴⁾面から口縁部にかけて体部ヘラケズリの再調整を施している土器が出土している。

本遺跡から出土した再調整のあるB類坏は、無調整のB類坏より古いであろうと思われる。
須恵器の坏と量的に比較すると、B類坏が多い。

④須恵器の坏は、切り離し技法がわかるものが1個体である。全体の器形は不明であるが、技
法上糸切りでロクロから離し、調整を行わない岡田・桑原氏らの9類(9世紀後半～11世
⁽⁵⁾紀初頭)に類似する。

須恵器の高台付坏の切り離し技法は、回転糸切りであるが、調整は不明である。

完形品が少なく、破片から時期を推定するのは、危険であるが、②～④を総合的に考えると10世紀～11世紀初頭に位置づけられると思う。

したがって、本住居跡は10世紀～11世紀初頭の遺構と推定される。

今回の調査では、住居跡1棟の発見に終わったが、調査対称地区の西側ないし南側に遺構の存在が推定される。

<付記>

発掘担当者と整理報告者が異なったため、不満な点があると思います。

<注記>

(1)氏家和典 「陸奥国分寺跡出土の丸底杯をめぐって—奈良・平安期土師器の諸問題—」

『柏倉亮吉教授還暦記念論文集 山形県の考古と歴史』 山教史学会 1967年

(2) 1975 年岩手県教育委員会文化課で調査

(3) 「秋田城跡一昭和50年度秋田城跡発掘調査概報」 秋田市教育委員会 1976 年

(4) 「払田柵跡一昭和50年度発掘調査概要」 秋田県教育委員会 払田柵跡調査事務所 1976 年

(5) 岡田茂弘・桑原滋郎「多賀城周辺における古代杯形土器の変遷」『研究紀要』I

宮城県多賀城跡調査研究所 1974 年 3 月

みなみの野遺跡

遺跡名：南野(略号MN74)

遺跡所在地：岩手県紫波郡矢巾町煙山17の43

調査期間：昭和49年9月12日～9月13日

調査対象面積：5,500m²

発掘調査面積：1,800m²

1 遺跡の位置と立地

本調査地は、国鉄東北本線矢巾駅の北西約 2.1 km の所にある。

北上川中流域の西岸、奥羽山脈山麓までのほぼ中間に位置し、花巻段丘（中川ら1963）相当の段丘面に立地する。

山麓際には、湯沢遺跡のある二枚橋段丘（中川ら同）相当面がある。東側の北上川よりには、徳田城跡のある都南段丘（飯岡野段丘）同）があり、河岸低地へと続く。

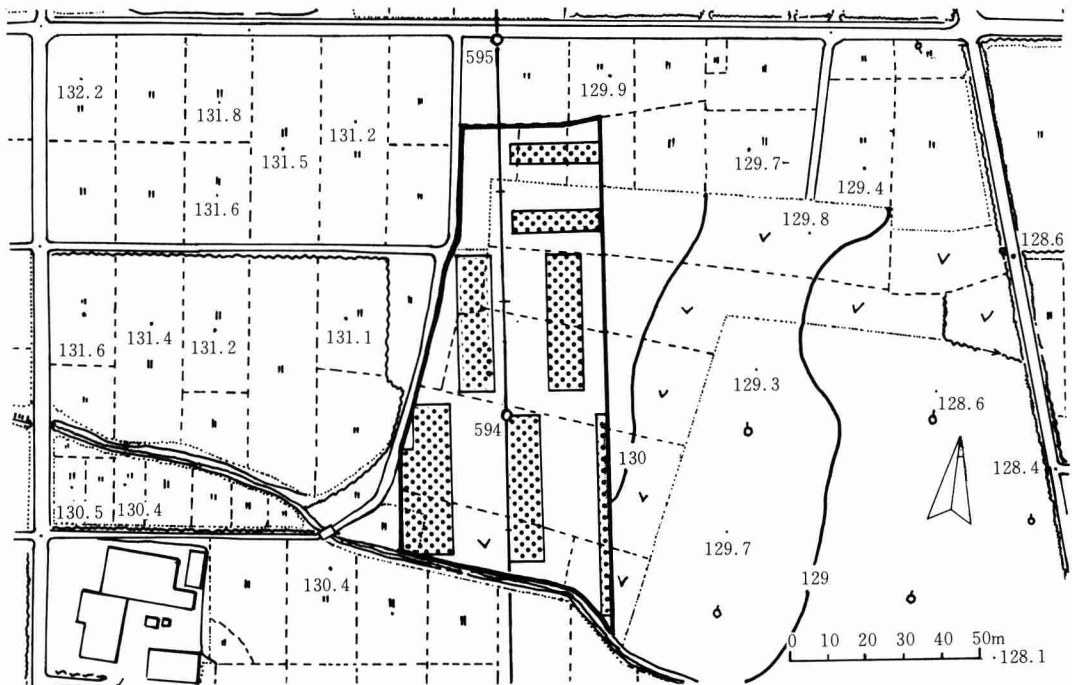
南昌山に源を発する、北側の芋沢川と南側の岩崎川にはさまれた舌状部である。

2 調査経過と結果

本調査に先立つ分布調査においては、草地上より土師片が採集された。

表土の除去は、ブルドーザーにより、下図の黒丸で示した範囲で行なわれた。

地山面における、遺構、遺物の確認を行ったが、存在は認められなかった。



南野遺跡地形及び調査範囲図

3 まとめ

本調査においては、前述の通り遺構、遺物等、存在は認められなかったが、分布調査時に土師片が、発見された。これらの事より、路線域外の西方に関連遺跡が存在する可能性が強い。

又、芋沢川に隔てられているが、北側 300 m のところに、東北縦貫自動車道関連、宮田 A 遺跡があり、平安時代のもと考えられている。以上の事より遺跡の性格、時期は確定できないが、本調査地の周囲に関連遺跡の存在する事が、十分に考えられる。

桜屋遺跡

遺跡名：桜屋(略号SY74)

遺跡所在地：紫波郡矢巾町北伝法寺第19地割字並柳54

調査期間：昭和49年9月25日～10月28日

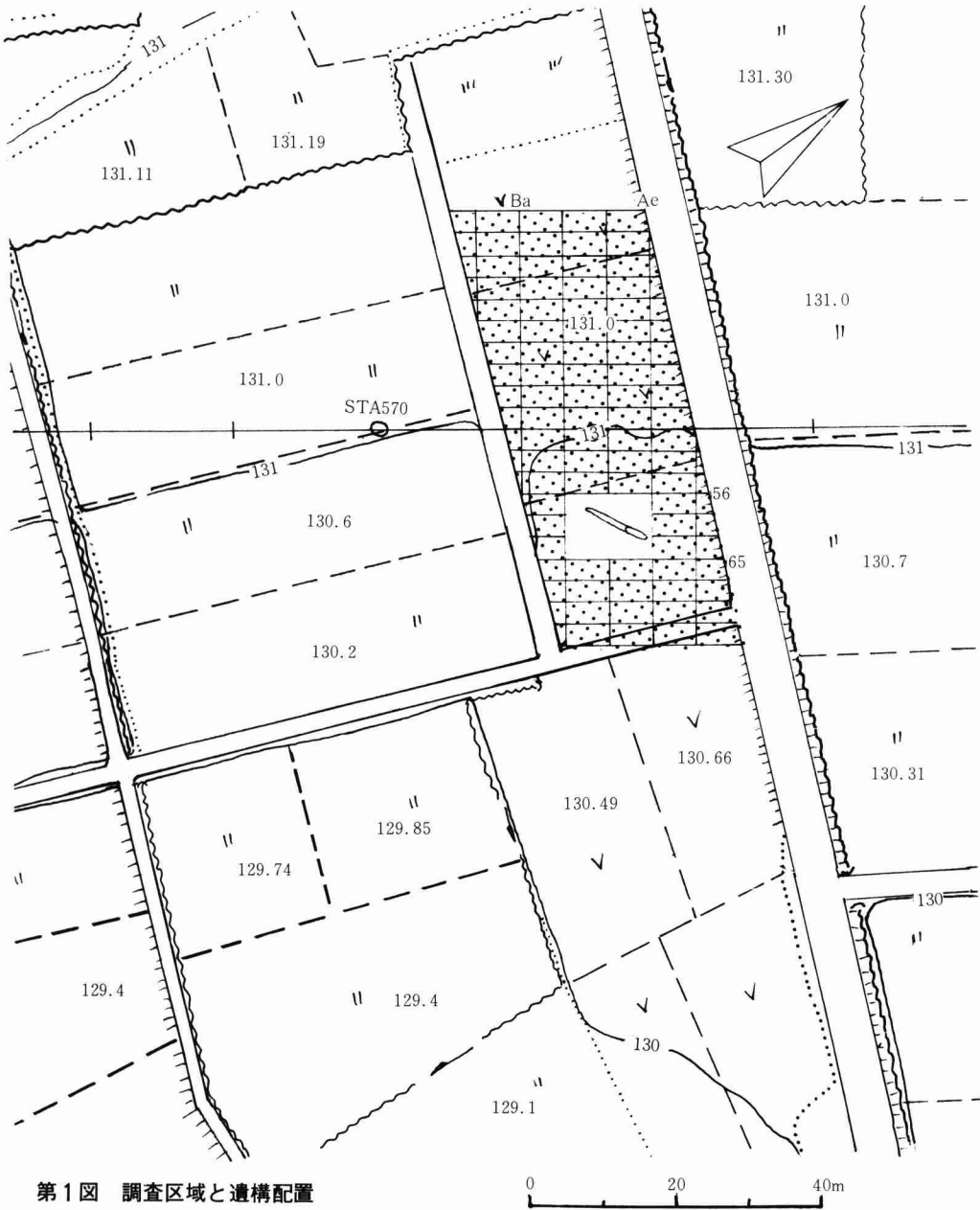
調査対象面積：750m²

発掘調査面積：750m²

1 位置と立地

南北に走る志和街道から桜屋付近で分岐し、西に走る町道赤川線がある。この分岐点から西へ約400m、町道沿いに位置する。

遺跡は、低位の花巻段丘上の平坦地に立地し、現状は水田地帯の中にわずかに残された畑地であった。



第1図 調査区域と遺構配置

2 経過と内容

昭和47年8月、用地域内の巾50mで現地確認調査が実施され磨滅した土師器の小破片が採取されたことから、町道沿い畑地を遺跡の範囲としている(第1図)

調査は対象地全面をブルドーザーによる表土除法をおこない、更に人力によって、遺物との関連探査のための作業をすすめた。その結果、地山シルト面で溝1条を確認、平板による実測をおこなった。他に遺構および遺物は検出されなかった。

3 遺構

検出したAe65溝(第2図)は北東-南西に走り、検出規模は、長さ約10m、掘りこみはシルト面より上の黒色土である可能性もあるが不明である。したがって、南西端は切れるものか掘り過ぎによる消滅が判然としない。幅は上端が約70~95cm、下端で約50~80cm、深さは8cm内外で浅い。

底は北東端で若干落ちこむが、ほぼ平坦であって、覆土は自然埋土の一層で、黒色腐植土に若干シルトが混在しやわらかく、全体に水酸化鉄が見られたが、遺物等は全く包含されていない。

4 まとめ

今回の調査では、表土および遺構からも全く遺物の検出はなく、溝の年代、性格は不明であるが、確認調査時点で土師器の小破片を採取していること、更に調査地の東方約200mに周知の「桜屋遺跡」が所在し、水田から須恵器の長頸壺が出土していること^{註1}から、周辺に遺構の存在する可能性が強い。

註1 岩手県埋蔵文化財包蔵地調査カード

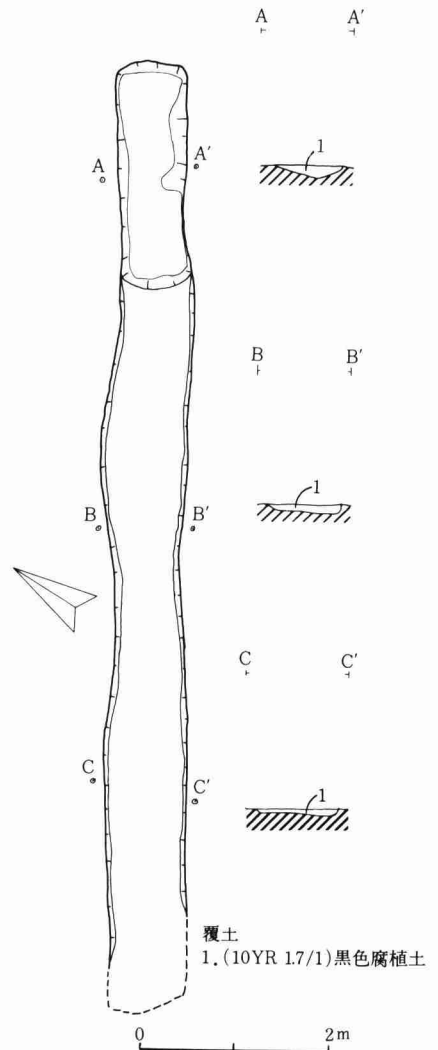
遺跡番号 10.035 矢巾町大字北合法寺桜屋

昭和42年11月30日調査 川村 仁左エ門

佐々木 博 康

註2 上記カード所載 盛岡農業高校

矢巾分校保管



第2図 Ae65溝

久保屋敷遺跡

遺跡名：久保屋(略号 KBY76)

遺跡所在地：岩手県紫波郡矢巾町室岡字久保5地割

調査期間：昭和51年4月5日～7月5日

調査対象面積：2,500m²

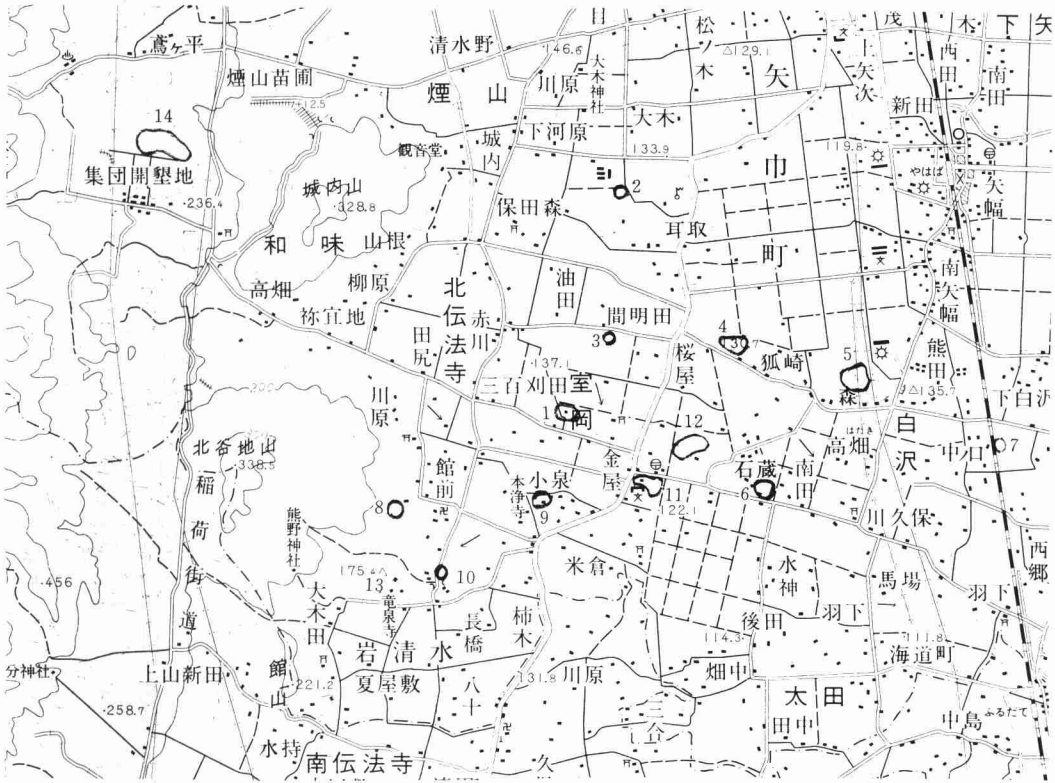
発掘調査面積：2,460m²

I 遺跡の位置と立地

久保屋敷遺跡は、矢巾町の西部、矢巾町室岡字久保に所在し、東北本線矢巾駅の西南約3 kmに位置している。

西部の奥羽後背山地の東麓部に存する城内山・北谷地山の間に開析された谷を扇頂として開けた花巻段丘（金ヶ崎段丘面相当）に属する合成された複合扇状地に立地しており、土壤統群分類の上からも、水積性の堆積様式を示す褐色低地土壌からなっている。

現在では、大白沢川、赤川等、鹿妻堰の水を入れ、更に、多くの用水堰を分流して遺跡周辺は、広く水田地帯となっている。

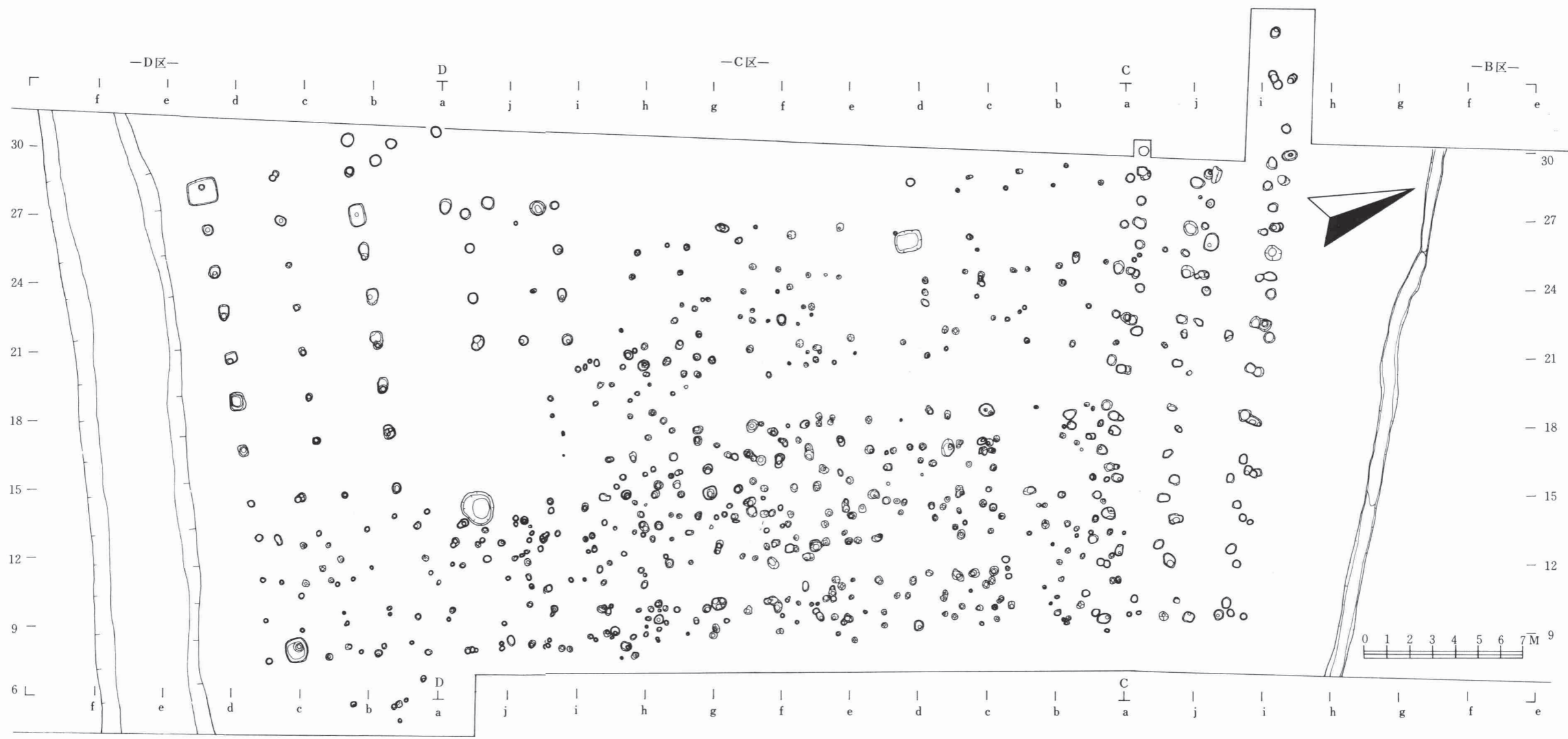


第1図 遺跡の位置

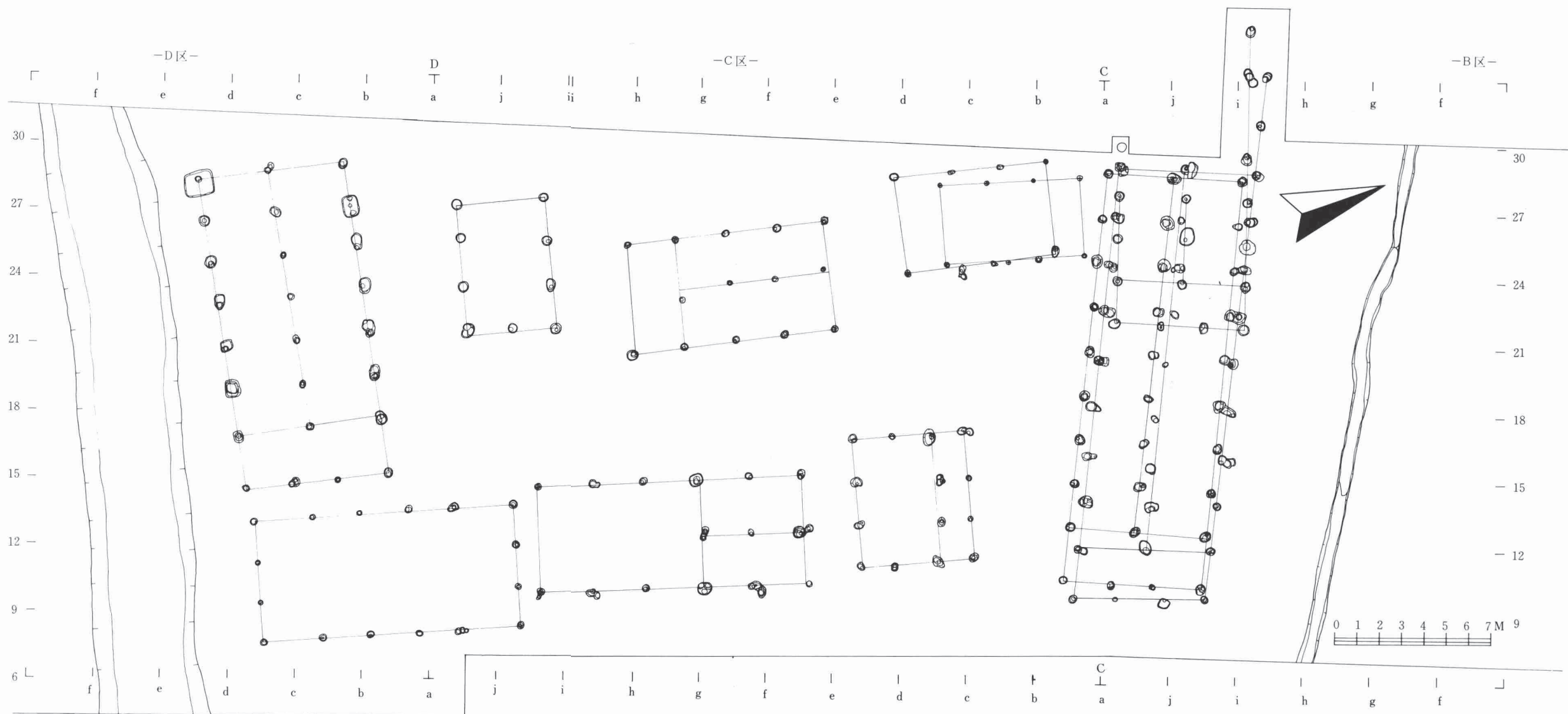
- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1. 久保屋敷遺跡 | 6. 石蔵遺跡（平安） | 11. 煙山Ⅱ遺跡（縄文） |
| 2. 東長岡上大平遺跡（縄文） | 7. 白沢遺跡（平安） | 12. 煙山Ⅲ遺跡（縄文） |
| 3. 桜屋遺跡（平安） | 8. 釈迦堂遺跡（寺院跡） | 13. 岩清水Ⅰ遺跡（縄文） |
| 4. 白山経塚 | 9. 久保屋敷Ⅱ遺跡 | 14. 月ヶ森遺跡（縄文） |
| 5. 白沢森遺跡（縄文） | 10. 長仙寺院遺跡（平安） | |



第2図 地形と調査区域



第3図 調査区と遺構全体図



第4図 遺構配置図

II 調査の経過と方法

当遺跡の発見の端緒は、旧不動村分について不働土地改良区が、土地改良工事を実施中に、偶然発見された柱脚の現地踏査にあった。調査員は、川村仁左衛門氏である。氏は従前より徳丹城跡の研究とともに、周辺遺跡の確認顕彰に努力してこられ、たまたま、この工事中に柱脚らしきものが発見されたという風聞を聴取して、現地の確認にあたったものである。

そこで、この発見された柱脚の性格、その出土状況等、ひいては、この遺跡の歴史的な性格を究明しておくことの緊急性が問われるに至り、矢中村教育委員会が主体となって発掘調査が実施された。調査は、昭和36年3月25日より、3月27日までの3日間であり、調査員は、下記のスタッフである。

調査員、	岩手大学教授	県文化財専門委員	板橋 源
			川村仁左衛門
	徳田小学校 教諭		佐藤 正雄
	岩手大学文部技官		佐々木博康
	岩手大学板橋史学研究室卒業生		近藤 宗光
	岩手大学板橋史学研究室学生		菅原啓二、山崎茂二、石川誠、齊藤真弘

調査は、4箇所で行われたが、これらのうち、当遺跡である室岡久保5地割大坊三蔵氏の宅地内において掘立式柱脚をもつ建物遺構が発見された。調査結果の略報によると、次の如くである。

「発見された柱脚は5本、掘立式柱脚のあった掘り方は2カ所で、柱脚の一本は掘り上げて大坊三蔵氏に保管を委嘱し、他の4本は、そのまま現在置に埋戻しておいた。遺構は南を正面とした奥行2間のもので、正面は3間以上あるものと想定される。正面の柱間数を明確にすることができなかったのは、遺跡の西に接して農機具や、農作物を収蔵する大きな倉庫があるので調査が出来かねたからである。したがって、今回発見されたのは遺構の東部だけであったのである。柱間は9尺5寸内外で、南北中軸線は磁北よりみて、約9度東偏している。また、掘上げた柱脚の材質は栗で、高さ1.5尺、長さ径7寸、短径6寸、目途穴がある。」

そして、これら柱脚の形状、遺構の方位などからみて、蝦夷征討開拓期のものと想定し、胆沢城出土の柱脚と同じ手法をもつ等から、徳田城跡で発見された倉庫跡に対比できるものとみて、おそらくその頃の郷におかれた倉庫跡であろうと考察されている。

この遺跡の東端を東北縦貫自動車道が通ることとなり、今回の事前調査をすることになった。調査にあたっては、当遺跡のうち路線敷地内、南北100m、東西25mの範囲を調査対象として、その全域にグリッドを設定した。グリッドは地形を考慮し、東北自動車道の中心杭STA560+80と、STA561+40を選び、両者を結ぶ線および、これに直交する線を基準線とし、STA560

+80を原点として南北30mごとに区分して北よりA・B・C・Dの調査区を設定し、更に、その中を3m単位に割り付けた。地区名は南北方向をアルファベット、東西方向を算用数字であらわし、両者の組合わせて呼ぶこととした。

調査は、まず、調査対象範囲内における基本的な層序を把握することからはじめ、遺構の分布状況を出来るだけ広範に確認するために対象区の全面発掘を実施した。また、調査の粗掘段階における表土の除去作業には重機を併用したが、検出面までの掘り下げと検出作業は、調査作業員によって実施し、遺構の輪郭をできるだけ上層で検出するように留意した。

調査の進行は、水路に係る構造物の築工の関係からD区を4月中に終了し、ひき続き、全面の調査へと移行した。

調査の結果、発見された主な遺構は、建物11棟、柵状柱穴列2条、ほかに土壇3基と柱穴群がある。建物は、いずれも掘立柱建物である。

Ⅲ 遺跡の層序

遺跡の立地地面は、南接する水田面からの比高約1mの、東に向かって緩傾していく微高地上に立地しており、その層序は、地点によって幾分の相違があるが、ほぼ均一であり、全域に共通する基本的な層序は、およそ次の通りである。

第Ⅰ層 黒褐色腐植土

表土で、有機質混りの耕作土である。

第Ⅱ層 黄褐色砂質シルト

小礫、砂を多く混入するシルトで構成される層で比較的しまりがあり堅い。微量ながら炭化物も含まれている。

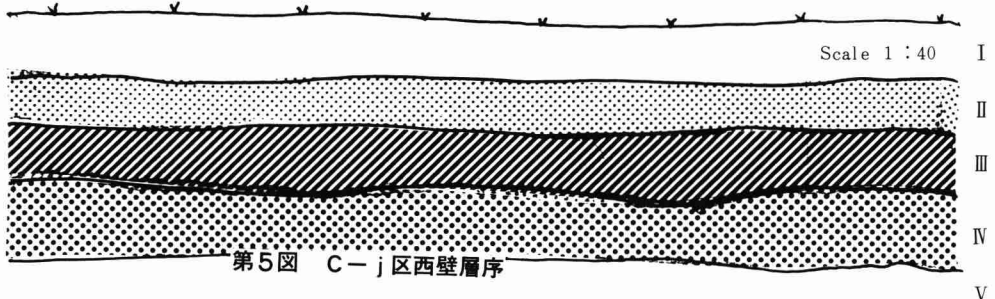
第Ⅲ層 暗～灰褐色粘土質シルト

粘性があり、固くしまっている。細かいシルトで構成されている。

第Ⅳ層 砂質シルト（グライ化している。）

第Ⅴ層 基盤の段丘礫層

遺構の検出面は、第Ⅰ層下部～第Ⅱ層上面である。



IV 検出された遺構と遺物

検出した主な遺構は建物11棟、ほかに、溝1条、土壇3基、それに多数の柱穴群がある。建物は、いずれも掘立柱建物であり、以下、南方から北方へ向かって遺構の説明を行なう。

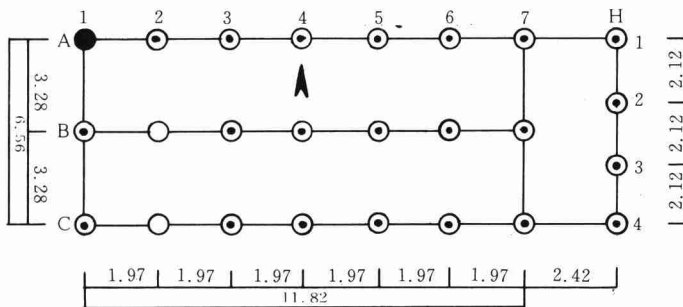
1 遺構

(1) 掘立柱建物跡

DB30建物（第20図・図版2）

東西棟6間（11.82 m）×2間（6.56 m）の東廂つき掘立柱建物である。身舎柱間寸法は桁行1.97 m（現尺で6.5尺）、梁行3.28 m（現尺で10.7尺）の等間であり、東廂は桁行2.42 m（現尺で8尺）で、梁行は2.12 m（現尺で7尺）前後のほぼ等間の3間である。

身舎の柱掘り方は、桁行南列、北列とも、80×50 cm前後の楕円形ないし隅丸方形で、直径20 cm前後の柱痕跡がある。これに比して棟通り柱列の掘り方は、直径30 cm前後の円形で、直径20 cm前後の柱痕跡が認められ、一様に浅くなっている。また、廂の柱掘り方も直径30 cm前後の円形で、柱痕跡（柱据え方）も径20 cm内外である。



第6図 DB30建物模式図

A1柱掘り方には、柱根が残存していた。この柱根（第35図・図版11）は、この建物に使用された柱であり、上部はなく根部近くのみ遺存していた。元の口径は17.8×16.5 cmの円形で、現存長は37.5 cmである。側面から底部にかけて、鋏（ちょうな）状工具によって面調整され、底面は、まさかり状工具による切断痕があり、その後を、鉞状工具で平らに調整している。材質は「ヒノキ科ヒバ」である。また、A2柱掘り方には、柱痕跡（柱据え方）をはさんで人頭大の川原石2個が掘り方下部に据付けられていた（図版6）。この掘り方は北西から南にのびる、旧溝を埋めて整地された部分にあたり、この軟弱地盤に柱を立て支持する工法として、おそらく、柱足元に方孔を穿ち角材を通し、その角材を両側の川原石で支えたものと想定される。

※建物模式図凡例

- 柱穴（柱掘り方）に柱根が実在するもの。
- 柱穴に柱痕跡（柱据え方）が認められるもの。
- 柱穴のみのもの。
- ▲ 柱穴が推定されるもの。
- ▲ は方位（北）をしめす。

また、側柱A列(3.4.5.6)、C列(3.4.5)柱穴の柱痕跡の位置は、東側に偏在し、特にA列(3.5.6)、B列(1)、C列(4)と、H列(3)の柱穴の状態から、同一地点での建替の可能性はある。

なお、建物方向は、梁行方向の方位でN-11.5°-Eで、それに対して桁行方向は、88.4°でほぼ直角である。

柱掘り方の埋土は黒褐色攪乱土が主体で、焼土・炭化物が少量含まれる。伴出遺物はない。

C I 15 建物 (第21図、図版2-上・中)

南北棟5間(11.5m)×3間(5.46m)の掘立柱建物である。

柱間寸法は桁行で

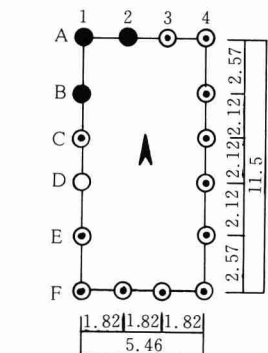
$$2.57 + 2.12 + 2.12 + 2.12 + 2.57 \quad (m)$$

$$(8.5) \quad (7) \quad (7) \quad (7) \quad (8.5) \quad (現尺)$$

となり、なか3間が7尺となり両端が8.5尺となっている。梁行は、1.82m(現尺で6尺)の等間である。

柱穴(柱掘り方)は、径30cm内外の円形であり、柱痕跡(柱据え方)の径は15cm内外である。

B1柱穴には、柱根の小残片が遺存していたが、元口の径、材質等は未詳である。



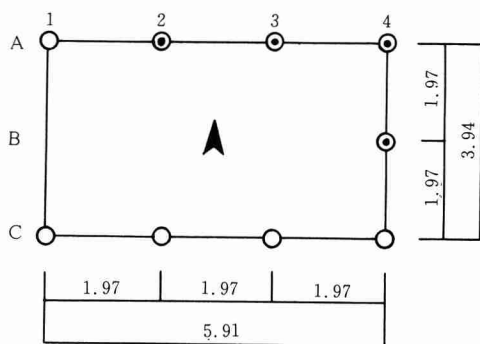
第7図 C I 15建物模式図

建物方向は、桁行方向の方位でN-12.5°-Eで、それに対して梁行方向は直角である。

柱掘り方の埋土は黒褐色攪乱土が主体で、炭化物・焼土が少量含まれている。伴出遺物はない。なお、周辺柱穴(Cj 15 Pit)埋土からは、16世紀前半に係る中国明代の舶載品と想定される染付けの皿破片が出土している。(第36図、図版13・15)

C I 30 建物 (第22図、図版3-1)

東西棟3間(5.91m)×2間(3.94m)の掘立柱建物である。柱間寸法は桁行で1.97m、



第8図 C I 30建物模式図

桁行で1.97m(現尺で6.5尺)の等間である。

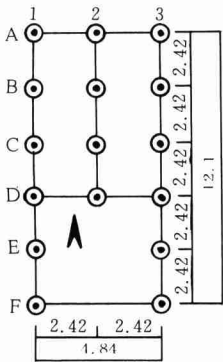
柱穴(柱掘り方)は、径50cm内外の円形で、柱痕跡は径18~20cmである。

建物方向は、梁行方向の方位でN-14.5°-Eでそれに対して桁行方向は87.3°と、ほぼ直角である。

柱掘り方の埋土は黒褐色攪乱土で、炭化物・焼土が少量含まれている。C列3柱穴埋土下層か

ら鉄製釘が出土した。(第36図、図版15)

CE15 建物 (第23図)



第9図 CE建物模式図

南北棟5間(12.1m)×2間(4.84m)の掘立柱建物である。

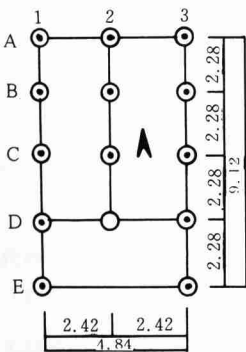
柱間寸法は桁行・梁行ともに、2.42m(現尺で8尺)の等間である。柱穴(柱掘り方)は、径50cm前後の円形で、柱痕跡は径15cm内外である。なお、棟通り柱列の柱穴は一樣に小さくて浅く、E2・F2は確認できなかった。建物方向は、桁行方向の方位でN-15.0°-Eで、それに対して梁行方向は、ほぼ直角である。

柱掘り方の埋土は、黒褐色攪乱土で、炭化物・焼土が少量含まれている。伴出遺物はない。

この建物周辺柱穴群から検出される柱根は、径10~18cmの円柱で、柱根底部にかけて、鋏状工具によって面取り調整がなされ、底部は、まさかり状工具によって切離後、鉋状工具で平らに調整されている。中には、柱足元に、くびれ状の削り込みがあるものが2本検出されている。(第35図、図版11)これらは、柱ねがらみ工法に係るもの、ないしは、丸太材運搬に係るものと推察される。材質は、「ヒノキ科ヒバ」である。

また、この建物と同地区の柱穴(Ca15Pit)埋土下層より、焼けて歪曲した「永楽通宝」(図版11)1個が出土し、その他柱穴からは、鉄鍋の底部残片、刀子片、モモの実などが検出された。(図版16)

CE27 建物 (第24図)



第10図 CE27建物模式図

南北棟4間(9.12m)×2間(4.82m)の掘立柱建物である。

柱間寸法は、桁行で2.28m(現尺で7.5尺)、梁行2.42m(現尺で8尺)のほぼ等間である。

柱穴(柱掘り方)は、径30~40cmの円形で、柱痕跡は径15cm内外である。なお、棟通り柱列の柱穴は、側柱柱穴に比して小さくなり、しかも浅くE2柱穴は検出されなかった。

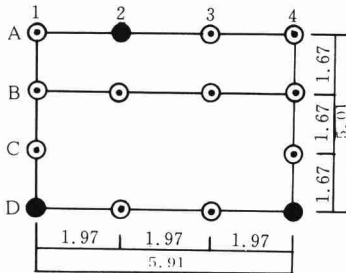
建物方向は、桁行方向の方位でN-10.8°-Eで、それに対して梁行方向は88.5°と、ほぼ直角である。

柱掘り方の埋土は、黒褐色攪乱土が主体であり、炭化物・焼土が若干含まれている。C列3柱穴埋土上層から小碗ないし小皿の、淡黄緑色を呈する灰釉陶器(瀬戸)小片が検出された(第36図、図版15)。また、E5柱穴埋土下層からモモの種子(1個)が出土した。なお、同地区の表土除去作業中には「洪武通宝」(明銭)1個が発見されている。

また、同地区に重複している柱穴群の中から検出した柱根は、径10cm内外のもので側面は斬

状工具で調整され、底部はまさかり状工具で切断後、更に鉦状工具で、平らに調整されている。
材質は、「ヒノキ科ヒバ」と「栗」材が混在している。

CC18 建物 (第25図)



第11図 CC18建物模式図

東西棟3間(5.91m)×3間(5.01m)の掘立柱建物である。

柱間寸法は、桁行で1.97m(現尺で6.5尺)等間、梁行は1.67m(現尺で5.5尺)のほぼ等間である。なかにはB列の間仕切がある。

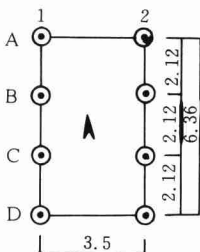
柱穴(柱掘り方)は、径30~40cmの円形で、柱痕跡は径16cm内外である。

柱穴に残存していたD1・D4・A2柱根は、材質はいずれも「ヒノキ科ヒバ」であり、元口径16cm前後の丸太材を、まさかり状工具で切断し、その後を、鉞状工具で平らに調整している。また、側面は、鉦状工具によって11~12面の上から底部へ向かって面取り調整をおこなっており、特に、D1・D4のすみ柱は、柱足に、くびれ状の削り込みがなされている(第34図、図版10)。これは、CE15建物周辺で検出された柱根と同形状で、柱がらみ工法ないしは運搬に係る施工と推察される。

埋土は、黒褐色攪乱土が主体で、炭化物・焼土を若干含む。伴出遺物にはA2柱穴埋土より須恵質陶磁器の甕の小片(1)がある。なお、北に隣接する柱穴(Ca18Pit)埋土中層から「永楽通宝」1個が検出された(図版12・14)。

建物方向は、梁行方向の方位で、N-13°Eであり、桁行方向は、これとほぼ直交する。

CA30-1 建物 (第26図)



第12図 CA30-1建物模式図

南北棟3間(6.36m)×1間(3.5m)の掘立柱建物である。

柱間寸法は、桁行で2.12m(現尺で7尺)の等間と梁行3.5m(現尺で11.5尺)である。

柱穴(柱掘り方)は、径20~30cmの円形で、柱痕跡は、径10cm内外である。

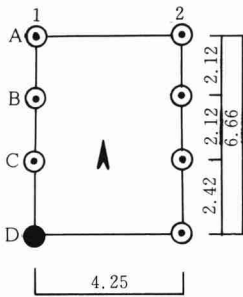
建物方向は桁行方向の方位でN-14.1°Eで、梁行は、ほぼこれと直交する。

CA30-2建物と、同地区で方位を異にして重複する同構造の建物である。

柱穴埋土は、黒褐色攪乱土を主体にし、炭化物・焼土を少量含んでいる。伴出遺物はない。

CA30-2 建物 (第30図)

南北棟3間(6.66m)×1間(4.25m)の掘立柱建物である。



第13図 CA 30-2建物模式図

柱間寸法は、桁行で北側より $2.12\text{ m} + 2.12\text{ m} + 2.42\text{ m}$ 、現尺で、
7尺 + 7尺 + 8尺となり、梁行は 4.25 m 、現尺で14尺となりCA
30-1建物より大きい。

柱穴（柱掘り方）は、径 $20 \times 30\text{ cm}$ の円形で、柱痕跡は、径 10 cm 内
外である。

柱穴に残存していたD 1柱根は、径 12.8 cm の丸太材で、側面は樹
皮をはいだままであり、底部は鋸による二方向からの切断面を示し、

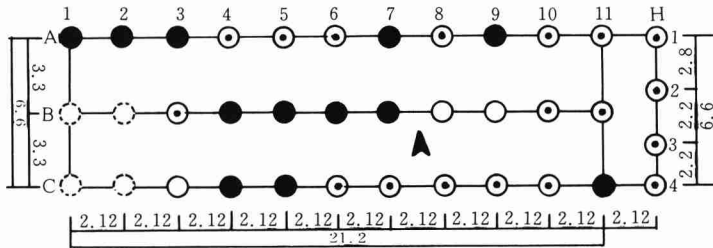
段差が残っている。材質は栗の若木である。

埋土は、黒褐色攪乱土が主体で、炭化物を少量含んでいる。A 2柱穴底部からは、炭化モミ
が少量出土した。

建物方向は、桁行方向の方位で $N - 11.8^\circ - E$ で、梁行方向は、ほぼこれと直交する。

CA 30-1建物とは、同構造であるが、建物方位と規模の異なる重複遺構であるが、その新旧
関係については、柱穴の切合関係等が認められないことから未詳である。

BH 33 建物（第27図、図版4）



第14図 BH 33建物模式図

東西10間（ 21.2 m ） \times 2間（ 6.6 m ）の東廂つき掘立柱建物である。身舎の柱間寸法は桁行
 2.12 m （現尺で7尺）、梁行 3.3 m （現尺で10尺）等間であり、東廂は桁行 21.2 m （現尺で7
尺）、梁行は $1.97\text{ m} + 2.64\text{ cm} + 1.97\text{ m}$ （現尺で6.5尺 + 8.7尺 + 6.5尺）の3間である。

身舎の柱穴（柱掘り方）は、桁行A列、C列とも径 $40 \times 60\text{ cm}$ 前後の円形ないし隅丸方形で、
直径 15 cm 内外の柱痕跡がある。棟通り柱列および廂柱穴は、これらより小さく浅くなる。柱
穴底部には、柱根の根固めに人頭大から、こぶし大の川原石を多数使用しているものが多く中
には木片なども使用しているものがある。

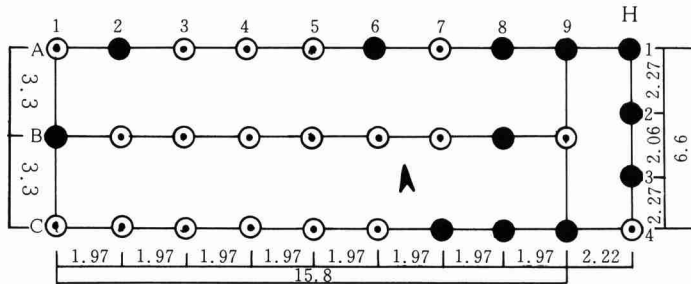
検出した柱根は、元口径が $11.4 \sim 20.5\text{ cm}$ の丸太材で、いずれも栗材である。底部は、まさか
り状工具で切断、その後平らに調整している。側面は鉞状工具によって面取り調整をおこなっ
ている。（第31図、図版7）

建物方向は、梁行方向の方位で $N - 23.5^\circ - E$ で、それに対して桁行方向は 93.5° でほぼ直角
である。

柱穴埋土は、黒褐色攪乱土が主体であり炭化物・焼土を少量含んでいる。柱穴埋土からは、釘（第36図、図版15）およびオニグルミ、キヤラの種子の破片が検出された。（図版15）

また、柱穴A列5.6.7.8は、BH30建物柱穴A列3.4.5.6と重複しており、その切合関係から、明らかに、BH30建物の前身建物であることがわかり、この建物自体も、柱穴の切合関係から、最低一度の建替がなされている。

BH30建物（第28図、図版4）



第15図 BH30建物模式図

東西棟8間（15.8m）×2間（6.6m）の東廂つき掘立柱建物である。身舎の柱間寸法は桁行で1.97m（現尺で6.5尺）、梁行は3.3m（現尺で10尺）の等間である。東廂は桁行2.22m（現尺で7.3尺）、梁行は2.27m+2.06m+2.27m（現尺で約7.5尺+6.8尺+7.5尺）の3間である。

柱穴（柱掘り方）は径50×40cmの円形で、底部には一様に径40×30cm内外の扁平な（厚さ10cm内外）川原石を一個ずつ据付け、礎盤として使用、その上に柱を立てる構造をとっている。（図版5・6）

また、B列1柱根は、柱穴底部の川原石礎盤の上に更に、23×11.6cm、厚さ3.2cmのアカツの板を礎板として使用、その上に立てられていた。（第32図、図版5・8）

柱根の遺存状態は良好で12本検出した。これらは元の口径がいずれも15cm前後のヒノキ科ヒバ材であり、底部は一様に歯のこまかい鋸によって切断されている。側面は、鉞状工具によって4～7面の面取りがなされ、中にはA列2.6.8.9、H列2柱根のように、調整された面の一部に直線的な切痕をしっているものもある。（第32図）

建物方向は、梁行方向の方角でN-23.5°-Eで、それに対して桁行方向は89°で、ほぼ直角である。

柱穴埋土は、黒褐色攪乱土が主体であり、炭化物・焼土を少量含んでいる。B列3柱穴埋土上層から鉄製釘（第36図、図版15）、H2柱穴からは須恵質陶磁の甕片(1)、それにB2柱穴からモモの種子、A3柱穴からはオニグルミの破片が出土している。

また、柱穴A列3.4.5.6は、BH33建物柱穴A列5.6.7.8を、それぞれ切って掘削しており、

(3) 土 壙 (3基)

Cd 27 Pit ; 110 × 80 cm の隅丸方形で深さが検出面から60cmあり底部は平らである。埋土は表土からの攪乱土であり、ガラス片が混入する等、新しいものである。

Cj 15 Pit ; 150 × 120 cm の不整円形で深さが50cmほど掘りくぼめられている。埋土は表土からの攪乱土で、伴出遺物はない。新しいものである。

Db0 9 Pit ; 110 × 100 m の隅丸方形で深さが約20cmあり底面は平らである。埋土は黒褐色土が主体であり伴出遺物はない。C I 15建物に付帯する可能性もある。

(4) 溝 (一条)

B区を東西に、B H33建物の北側約3 mに、これとほぼ平行して検出された。幅が60cmで、深さが、検出面から25cmの鍋底状の断面形を有する溝跡である。埋土は黒色土が主体で、伴出遺物には、須恵質の陶磁片が一片ある。これから北側には、調査区内では、遺構は検出されなかった。

2 出土遺物

出土遺物の主要なものは、柱穴埋土から検出したもので、柱根、陶磁器片、古銭・鉄製品それに植物の種子などがあり、その外に表土除外作業中に発見された古銭等がある。

(1) 柱 根 (第31～35図、図版5～11)

11棟の建物、その他柱穴より検出された柱根は43本にもおよぶ。これらは上部は腐植してなく根部近くのみ遺存していた。元口の径は20～10cmで、15cm内外のものが最も多い。

材質は、「ひのき科ひば」と「栗」材に大別される。「ひのき科ひば」材を使用している建物にはB H30、C C 18、C B 30建物があり、C E 15建物も隣接して検出された柱根が「ひば材」なので、その可能性が大である。栗材使用の建物にはB H33、B H36、C A 30-2建物がある。なお、B H36建物には1本だけ「ひば」材が混用されており、C E 27建物区かく内検出柱根には「ひば」、「栗」の両材が混入して検出されている。ひとつの建物に使用される柱材は同一の傾向が強い。

また、柱根に施行された工具の加工痕より観察して、柱の切断方法には、まさかり状工具による切断と、比較的歯のこまかい鋸状工具による切断と二種類ある。

検出柱根の切断面が、まさかり状工具によってなされている建物には、B H33、B H36、C C 18、D B 30建物があり、C E 15、C E 27建物も、その可能性が大である。鋸状工具によって切断されている建物には、B H30、C A 30-2建物がある。なお、B H36建物には鋸状工具によって切断されたもの1本が含まれる。

柱根の側面は、一様に斬状工具によって、浅い面取り状の調整をおこなっているが、柱上部

まで、ひとつの建物として一貫した面取り工法を加えているとは考えにくい。

また、柱足元に、周辺から「くびれ」状の削り込みをほどこした柱根が4本検出されている。これはC C 18建物（2本）と、C E 15建物周辺（2本）で検出され、その形状から柱がらみ工法ないしは運搬に係る施工と推察される。

(2) 陶磁器片

青花（染付）皿片（第36図、（第36図、図版15）

C I 15建物地区内Cj 15柱穴より出土したもので、底部は中央をまるく削りこんだ碁笥底風の皿片で、内面、外面にそれぞれ二重の円線をめぐらし、内面底部中央と外面に絵が描かれているが小破片のため、文様は不詳である。明中期（16世紀前半）の舶載品と推定される。

瀬戸（灰釉陶器）片（第36図、図版15）

C E 27建物C列3柱穴埋土上層から出土した小碗ないし小皿の口縁部細片である。これによってこの建物は、すくなくとも古代のものではなく中世ないし中世以降のものとなる。

須恵質陶磁片（第36図、図版15）

C C 18建物A列2柱穴とB H 30建物H 2柱穴埋土よりそれぞれ一片ずつ出土している。いずれも甕の小片である。

(3) 古 銭（図版14）

柱穴埋土より検出された「永楽通宝」2枚と、表土除去作業中に発見された「永楽通宝」、「洪武通宝」、「寛永通宝」、「文久永宝」各1枚がある。

Ca 18柱穴埋土および、Ca 15柱穴埋土より、それぞれ一枚ずつ検出した「永楽通宝」（明銭）はいずれも焼けて破損している。

(4) 鉄製品

釘（第36図、図版15）

B H 30建物B 3柱穴・B H 33建物A 3柱穴、C I 30建物3 C柱穴の埋土からそれぞれ出土している。その他Cg 12柱穴からも小片が検出されている。

刀子（第36図、図版15）

Cf 15柱穴、Cg 24柱穴埋土下層より刀子破片がそれぞれ1個ずつ出土した。

その他

Ch 15柱穴埋土下層から鍋の底部小片が検出されている。

(5) 植物の種子（図版15）

柱穴埋土から検出された植物種子は20個ある。うち、もっとも多いのはモモで10個あり、ついでオニグルミ3個、アンズ1個、ツノハシバミ1個、キヤラ1個、バラ科1個、不明3個となっている。いずれも食用に供される木の実である。

V 考察とまとめ

650個にもおよぶ柱穴より検出確認された建物は、規模未詳を含めて11棟あり、そのうちの5棟は建物と建物が重複している位置にあった。

建物はすべて掘立柱による。地面に掘込んだ穴に直接柱を立てたものであるが、中には、柱の下や周辺に川原石を挿入して根固めをしているBH33建物があり、更に柱穴の切合関係から、これの後身の建物であることが判明しているBH30建物は、柱穴底部に扁平な川原石を据付けて柱の礎盤として使用している。多くの建物身舎の柱穴は20×30cm～40×60cmで深さも検出面から50～80cmである。柱穴内には、柱根の残存するものもあったが、大部分は腐朽してしまい、旧柱の痕跡をとどめているにすぎない。比較的柱根の残存数の多かった建物にはBH33、BH30、BH36があり、柱根の径は20～10cmで15cm内外のものが多い。これらの材質はヒノキ科ヒバと栗に大別され、建物によって一貫した使い方がなされている。つまり、ヒバ材のみの柱を使用したBH30、CC18建物等と、栗材のみを柱に使用したBH33、CA30-2建物等がある。また、柱に施工された工具痕より柱の切断の方法に、まさかり状工具によるものと、鋸状工具によるものと二種類あり、新旧関係が明らかになっているBH33建物に使用されている柱はまさかり状工具によって切断されており、BH30建物は歯のこまかい鋸状工具によって切断されている。

また、廂の柱穴は、大きさや深さが身舎のものよりやや小さく浅い。これは廂柱が一般に身舎柱より細いため、柱穴もそれに従ったと解される。

建物身舎の平面形は、次の表の通りである。

桁行 梁行	3間	4間	5間	6間	7間	8間	9間	10間	註
1間	CA30-1 CA30-2								未詳BH36
2間	CI30	CE27	CE15	DB30		BH30		BH33	DB30 BH30 BH33 東一面廂 BH36
3間	CC18		CI15						

第17図 建物分類表

建物の大部分は切妻造となり、東一面廂の建物が四例検出されている。

建物身舎の柱間寸法は、次の表の通りで、桁行は、8.5尺より6尺の間となっており、7尺と6.5尺に集中している。また、CE15・CE27建物からは棟通りから床束とみられる小柱穴の痕跡が梁行と柱をそろえて3個ずつ検出された。土間と板敷きの建物であったかもしれない。

また、建物方向についてみると、大きく3つのグループに大別出来る。

寸法	1.82 m (6尺)	1.97 m (6.5尺)	2.12 m (7尺)	2.28 m (7.5尺)	2.42 m (8尺)	2.57 m (8.5尺)	2.73 m (9尺)	3.3 m (10尺)	3.5 m (11.5尺)	4.25 m (14尺)
桁行	BH 36	DB 30 CI 30 CC 18 BH 30	CI 15 CA 30-1 CA 30-2 BH 33	CE 27	CE 15 CA 30 -2	CI 15				
梁行	CI 15 5.5尺 (CI 18)	CI 30	CA 30-2		CE 15 CE 27		BH 36	BH 33 BH 30	DB 30 CA 3-1	CA 30-2

第18図 身舎柱間寸法表

方位	N- $\left(\begin{matrix} 10^\circ \\ \text{?} \\ 12.5^\circ \end{matrix}\right)$ -E	N- $\left(\begin{matrix} 12.6^\circ \\ \text{?} \\ 15.0^\circ \end{matrix}\right)$ -E	N- $\left(\begin{matrix} 15.1^\circ \\ \text{?} \\ 17.5^\circ \end{matrix}\right)$ -E	N- $\left(\begin{matrix} 17.6^\circ \\ \text{?} \\ 20.0^\circ \end{matrix}\right)$ -E	N- $\left(\begin{matrix} 20.1^\circ \\ \text{?} \\ 22.5^\circ \end{matrix}\right)$ -E	N- $\left(\begin{matrix} 22.6^\circ \\ \text{?} \\ 25.0^\circ \end{matrix}\right)$ -E
建物	DB 30 CI 15 CE 27 CA 30-2	CI 30 CE 15 CC 18 CA 30-1		BH 36		BH 33 BH 30

第19図 建物方位表

これら建物群の新旧関係については、その重複関係、切合関係、柱間寸法、柱穴構築の構造、方位、残存柱根の工具痕等から検討されなければならないが、ここでは建物が3棟重複関係にあるBH33・BH30・BH36建物について概述する。

これらの3棟は、DB30建物と同様、東廂東西棟建物であり、棟通りの柱穴から板敷の倉庫的機能を備えた建物と想定される同構造の建物である。

BH33とBH30では、前述の通り柱穴の切合関係からBH30が新しい後身の建物である。この両者を比較してみた場合、BH30の方が規模、柱間寸法等縮小されており、掘立柱の技法もBH33にみられる根固め石の挿入から、扁平な川原石を柱穴底部に据付けて礎盤として使用する構造にかわっている。また、柱の材質も栗材からヒバ材にかわり、柱根の切断方法もまさかり状工具によるものから、歯のこまかい鋸状工具にかわっている。この両者の比較からBH36について検討した場合に、まず柱間寸法が両者のいずれよりも縮小されていることと、柱穴の構造が、直接底に柱を立てるものが大部分であるが、1か所、川原石を礎盤として使用しているものと、埋土に扁平な川原石1個が挿入されている事実、それに柱の材質が栗材でまさかり状工具で切断されているが、1本ヒバ材で歯のこまかい鋸状工具で切断したものが混入使用さ

れていることから、両者よりは、少なくとも新しい建物と想定される。つまり、3棟の建物の新旧関係は、BH33建物→BH30建物→BH36建物となると想定される。このように、これら建物群には、おのおのの新旧関係ないし併存関係が存すると推定されるが、大まかに、これらが構築された年代は何頃に比定できるのだろうか。

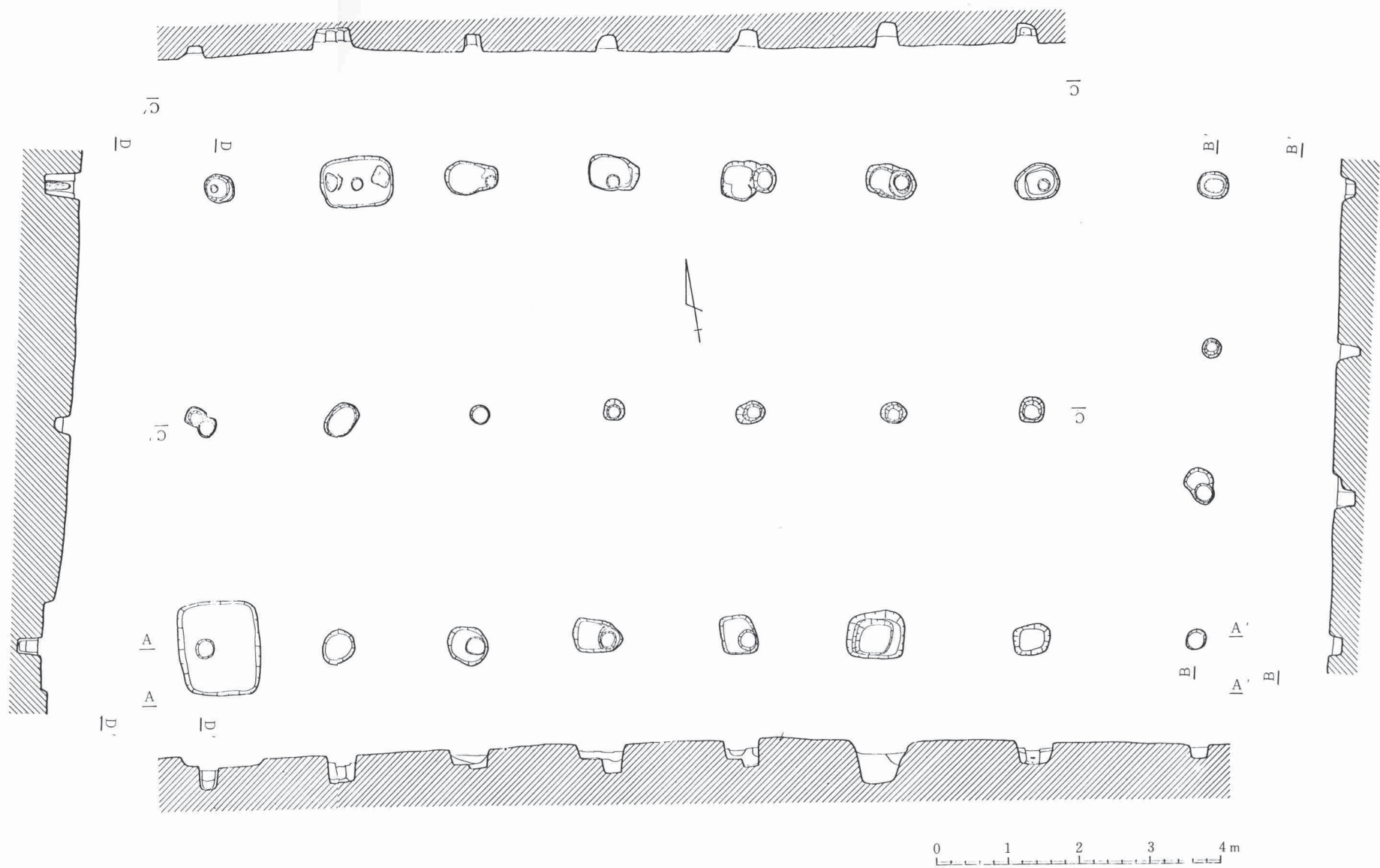
これら建部群は掘立柱建物である。柱穴（柱掘り方）は50×40cm～30×20cmのはぼ円形であり、古代にみられる掘立柱建物の柱穴と比較して形状が異なり規模も小さい。しかも、中には柱穴底部に礎盤石を据えたものもある。柱根も径10～20cmとほそく、切断方法に歯のこまい鋸状工具を使用した建物があらわれている。

また、これら建物群の身舎柱間寸法が、桁行で6尺～8.5尺で、特に6.5尺、7尺に集中している。これらは古代の掘立柱建物身舎柱間寸法と異なり縮少された寸法となっている。

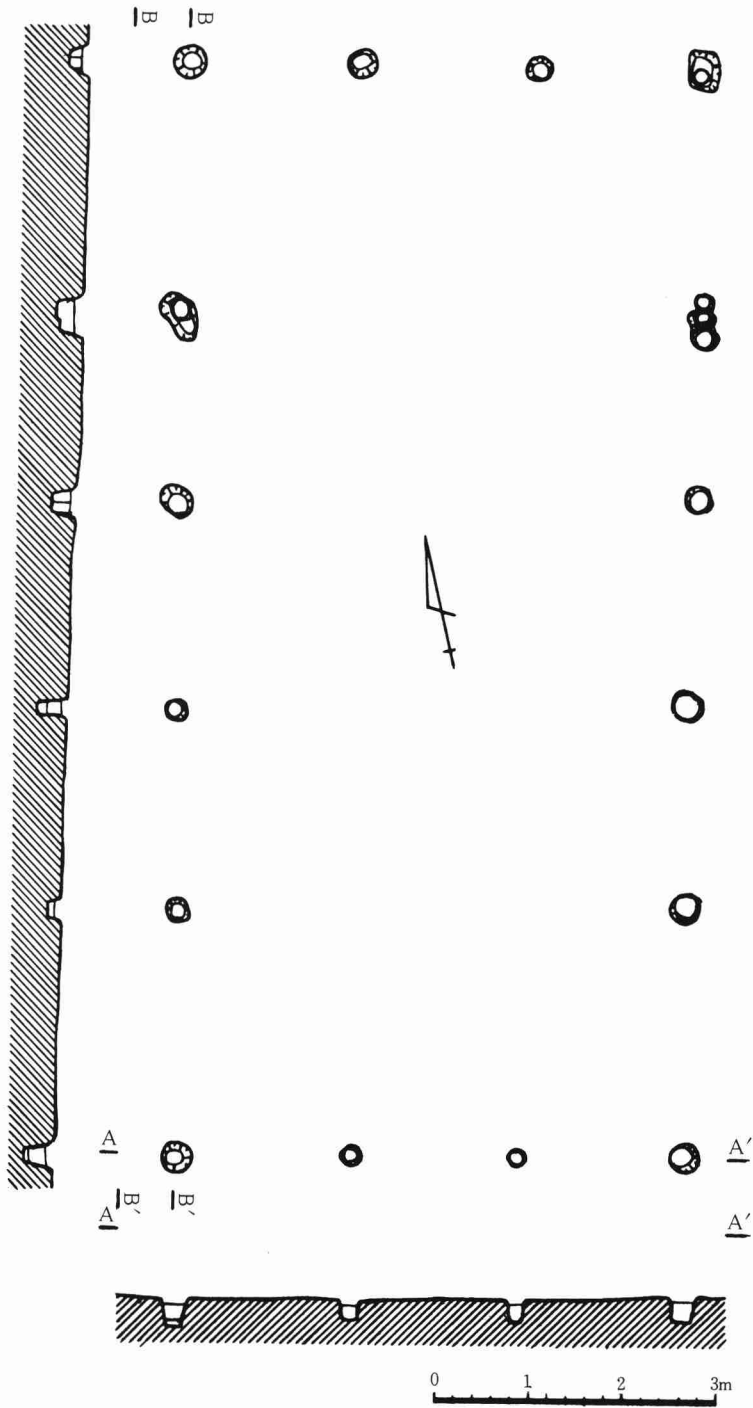
柱穴埋土から検出された遺物の主要なものに「永楽通宝」（2枚）・明中期（16世紀前半）の舶載品と推定される青花皿片・瀬戸（灰釉陶器）片がある。等から勘案して、中世後半からそれ以降にかかる地方豪族の「やかた」の一部建物群であると想定される。

これら建物遺構群は、地形等より判断して、更に西へ延び、その中枢部は現在の大坊三蔵氏宅地身舎付近と推定される。

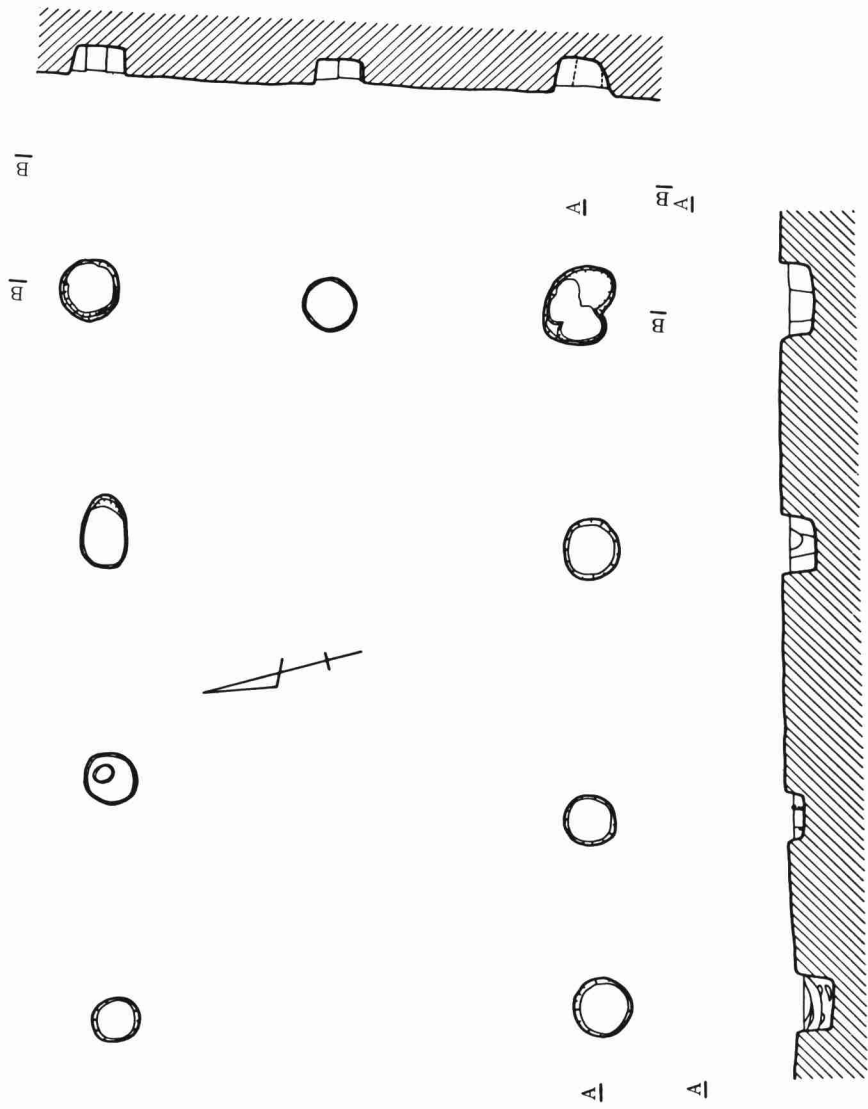
建物の性格、配置等を、その前後関係から検討することによって、当時の地方豪族の生活の実相が、より鮮明に究明されるものと期待される。



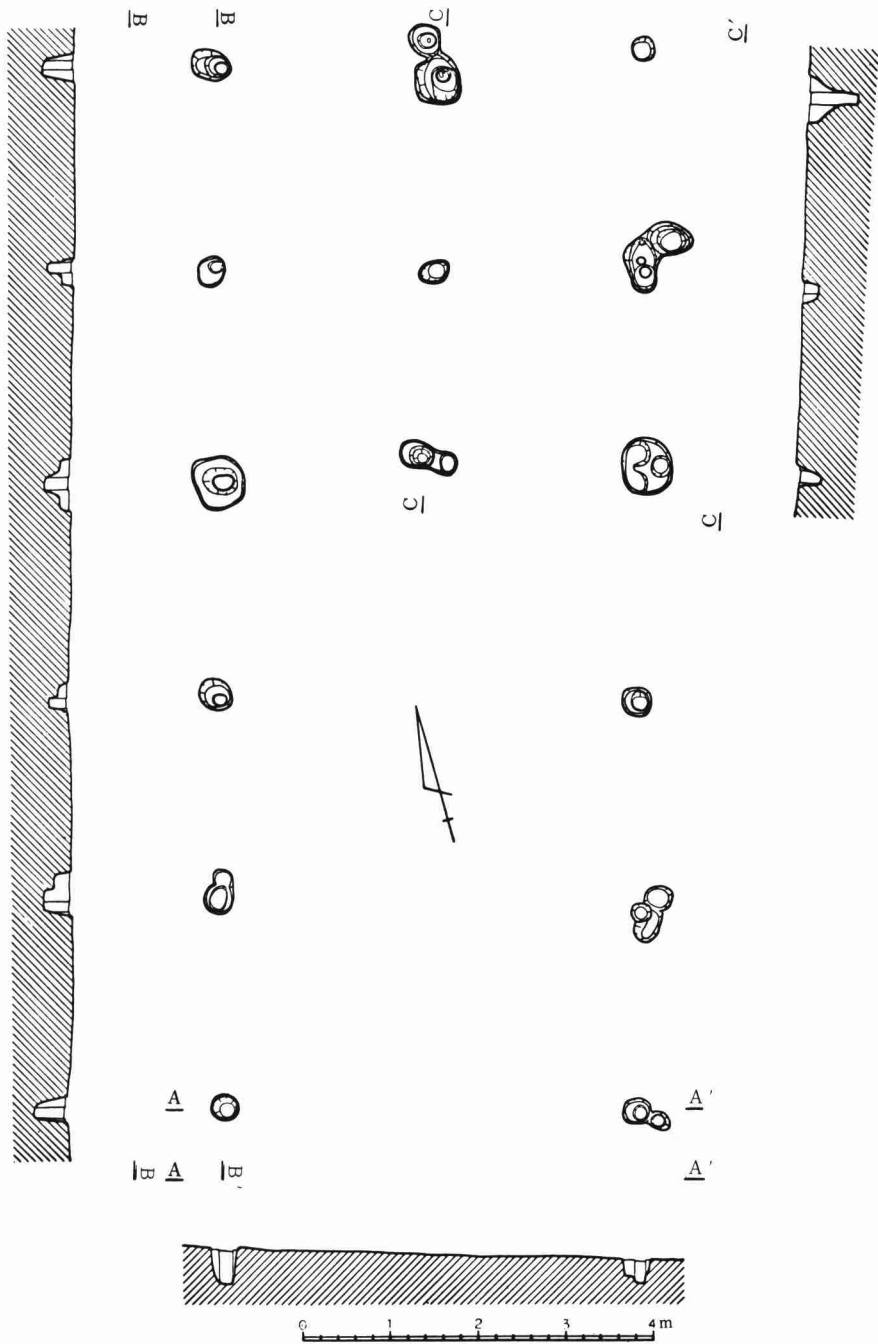
第20図 DB30建物実測図



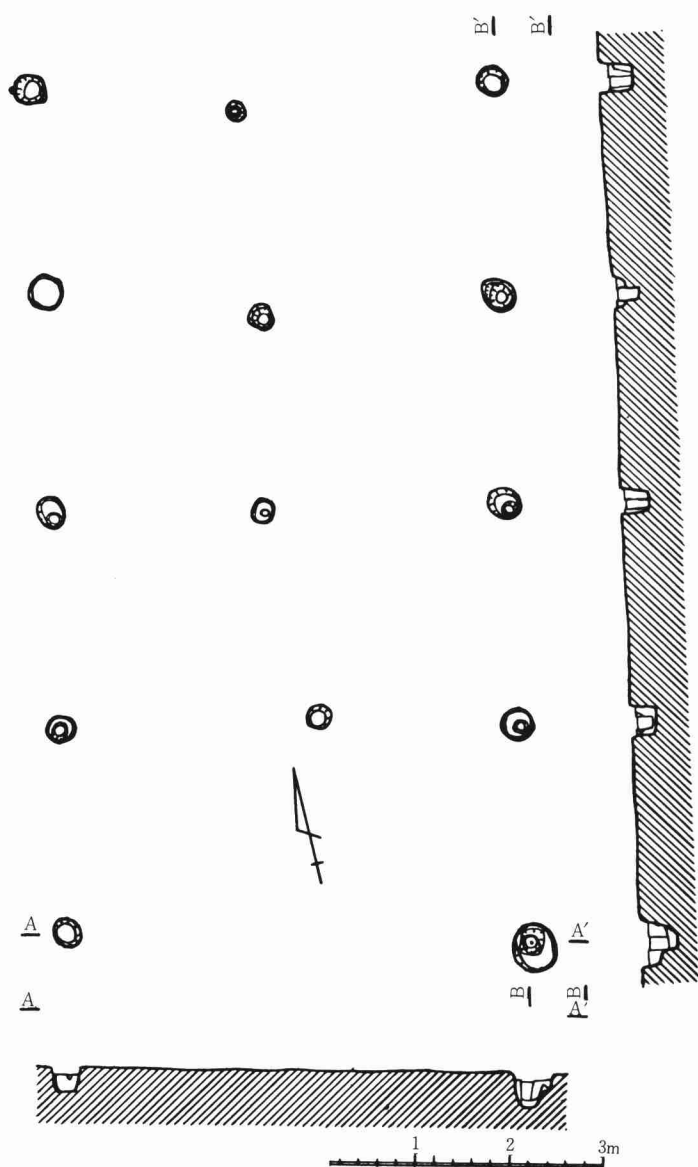
第21图 C I 15建物实测图



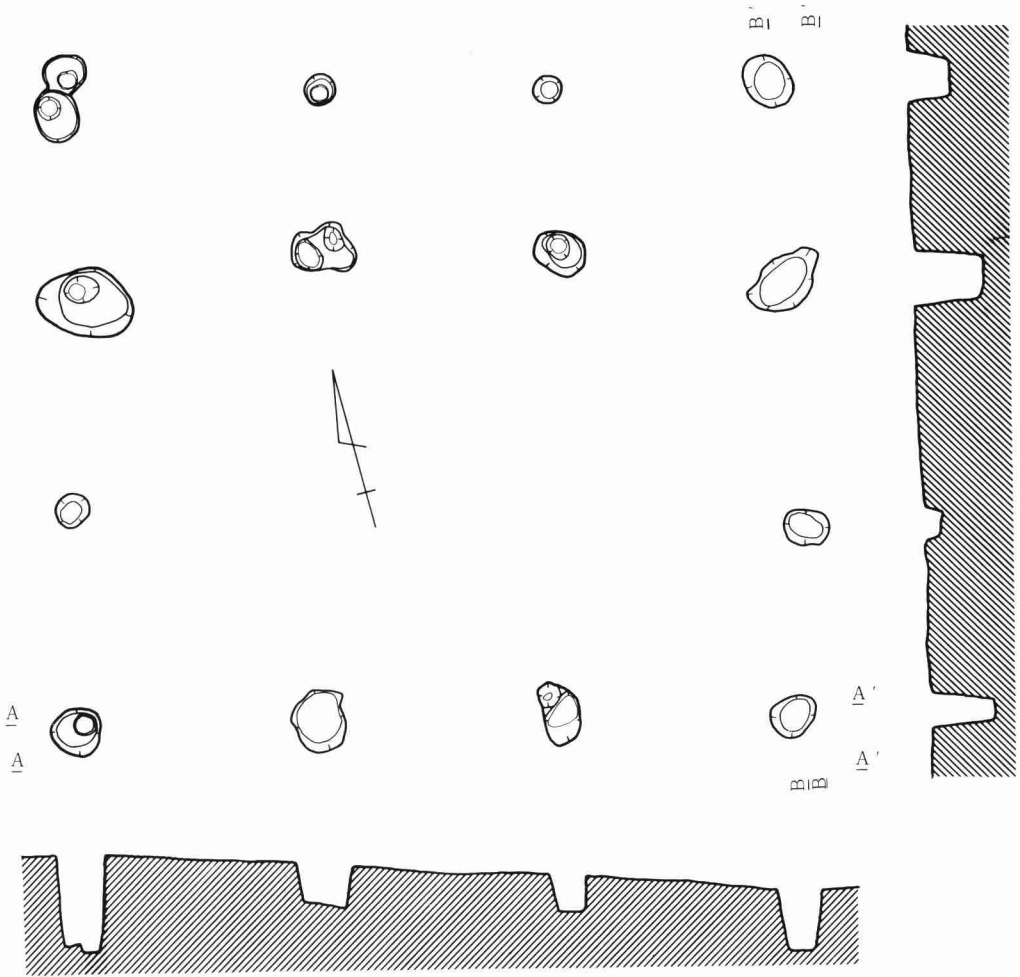
第22图 C130建物実測図



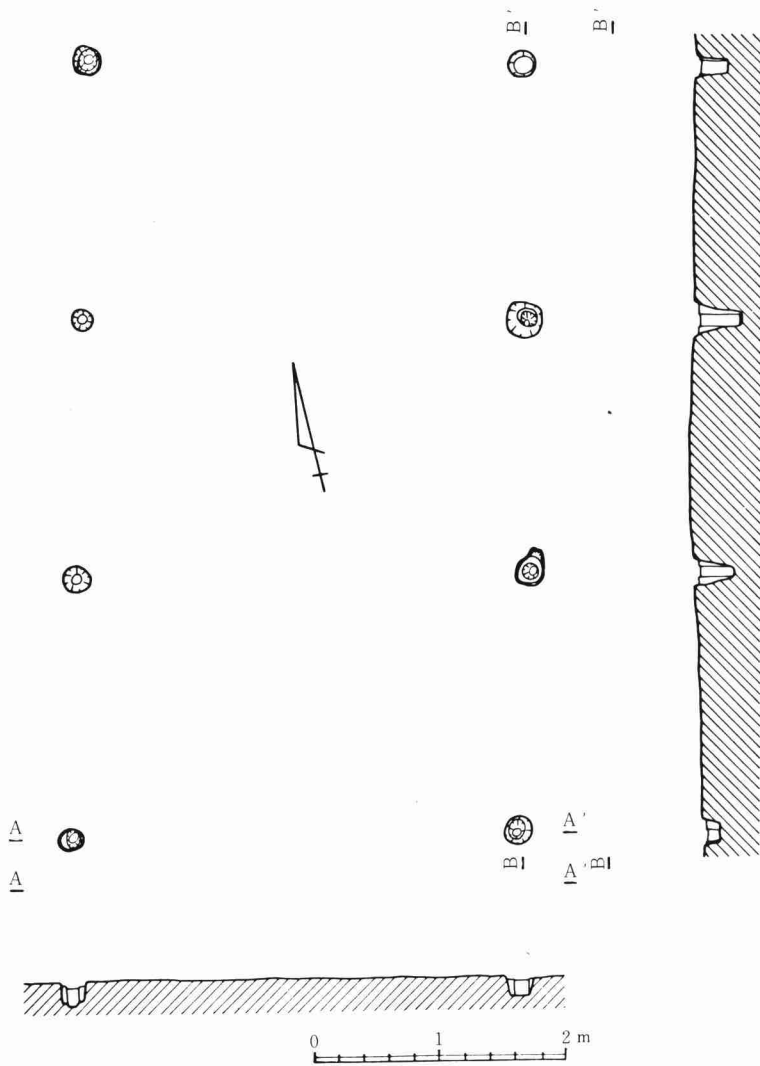
第23图 CE15建物实测图



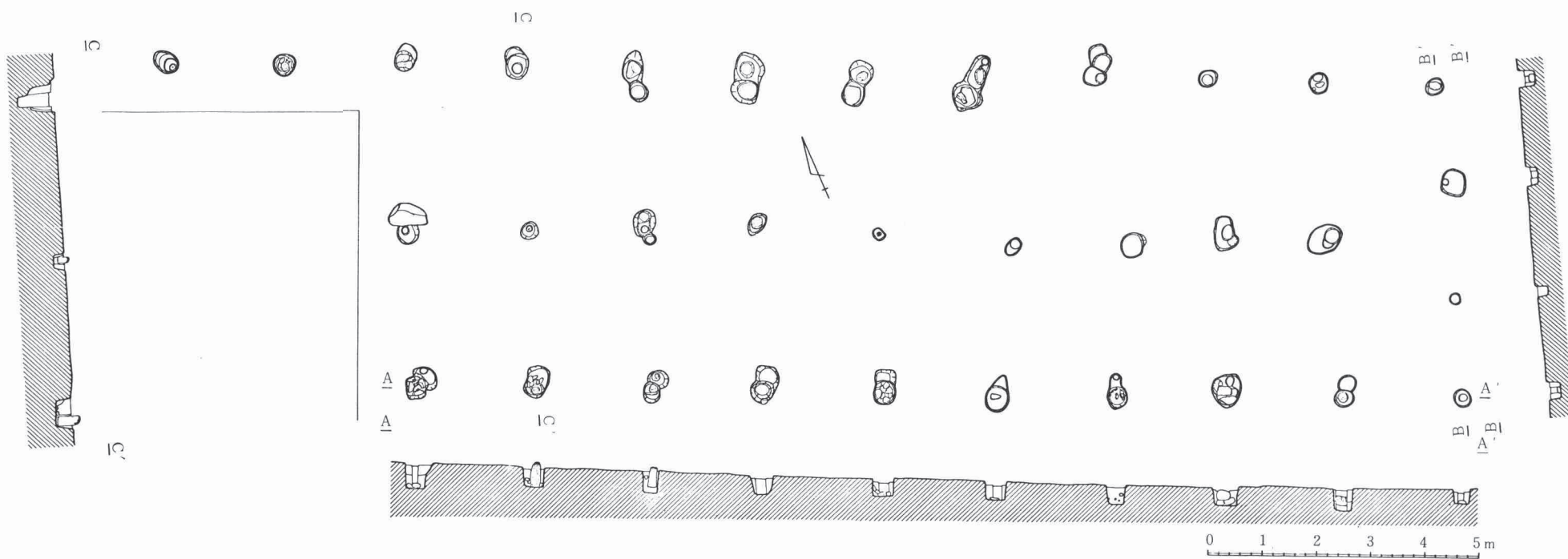
第24图 CE 27建物实测图



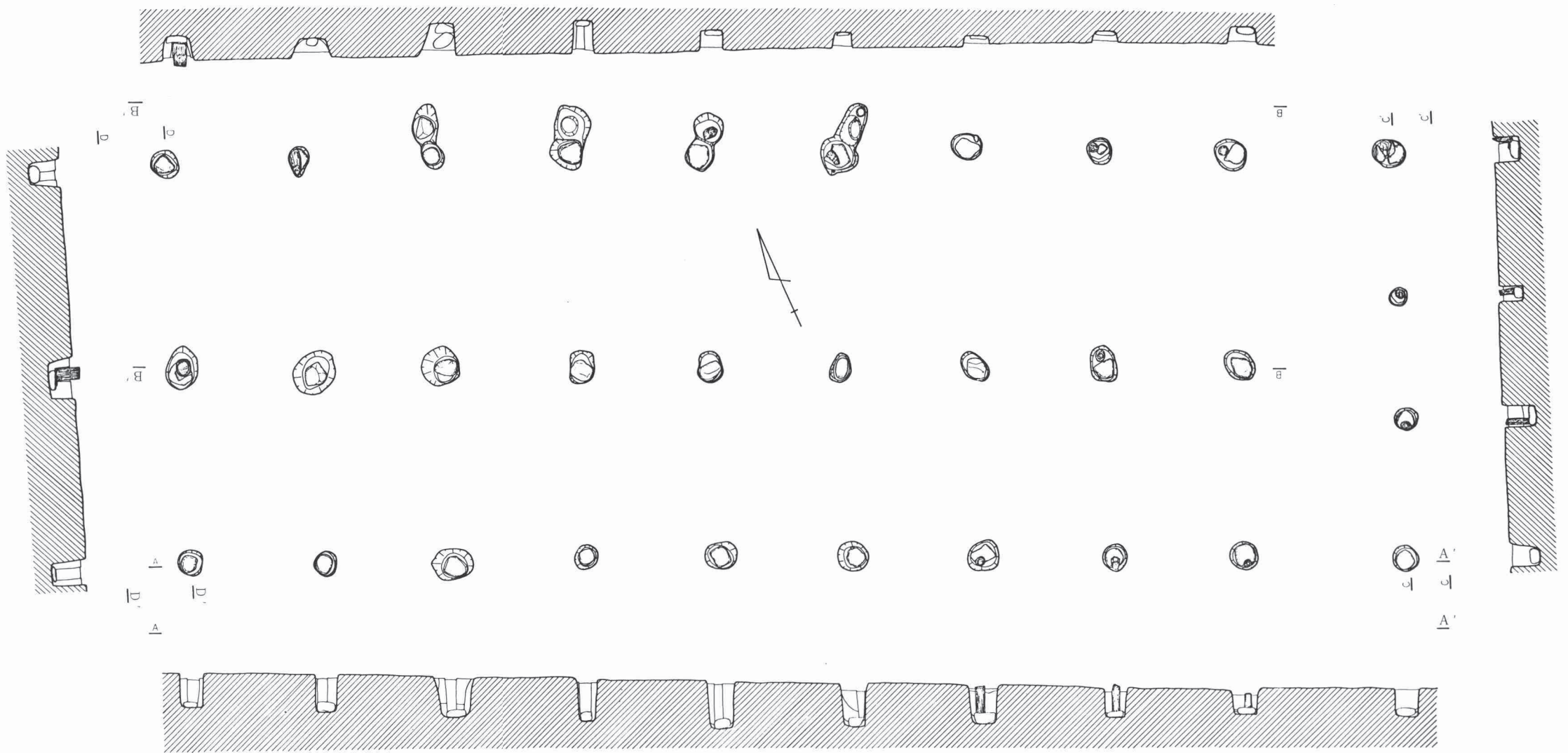
第25図 CC18建物実測図



第26图 CA30-1 建物实测图

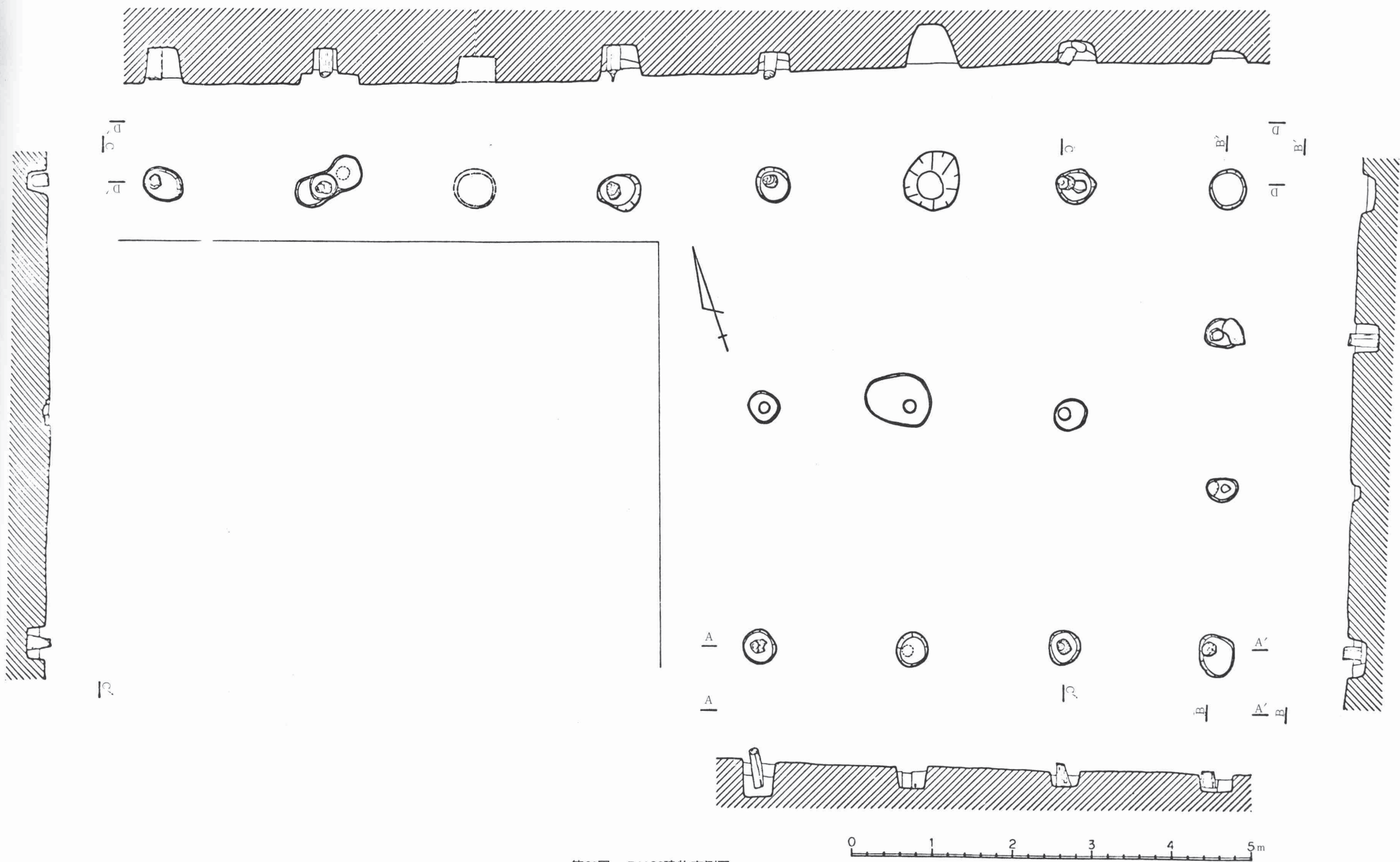


第27图 BH33建物实测图

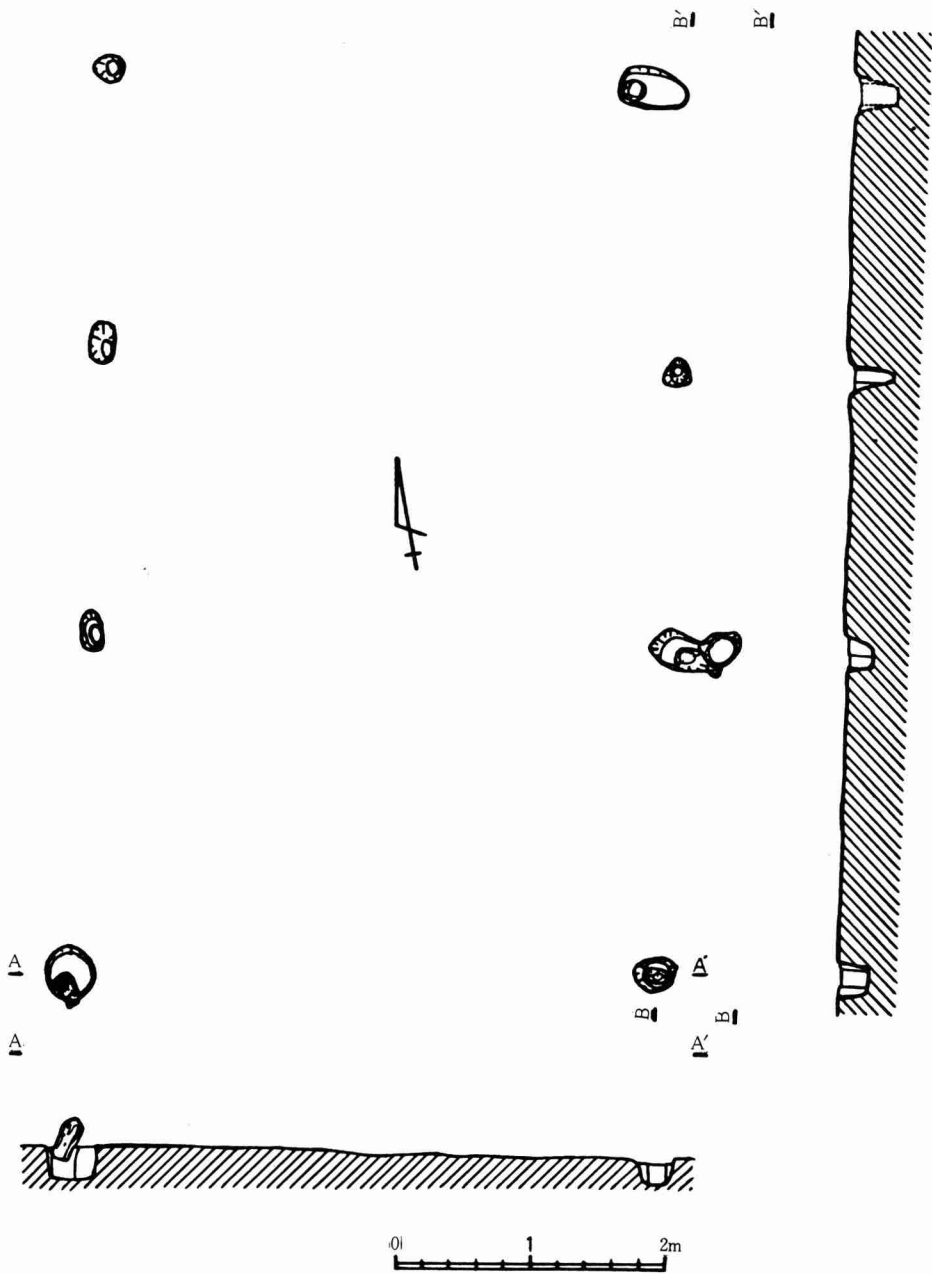


第28图 BH30建物实测图





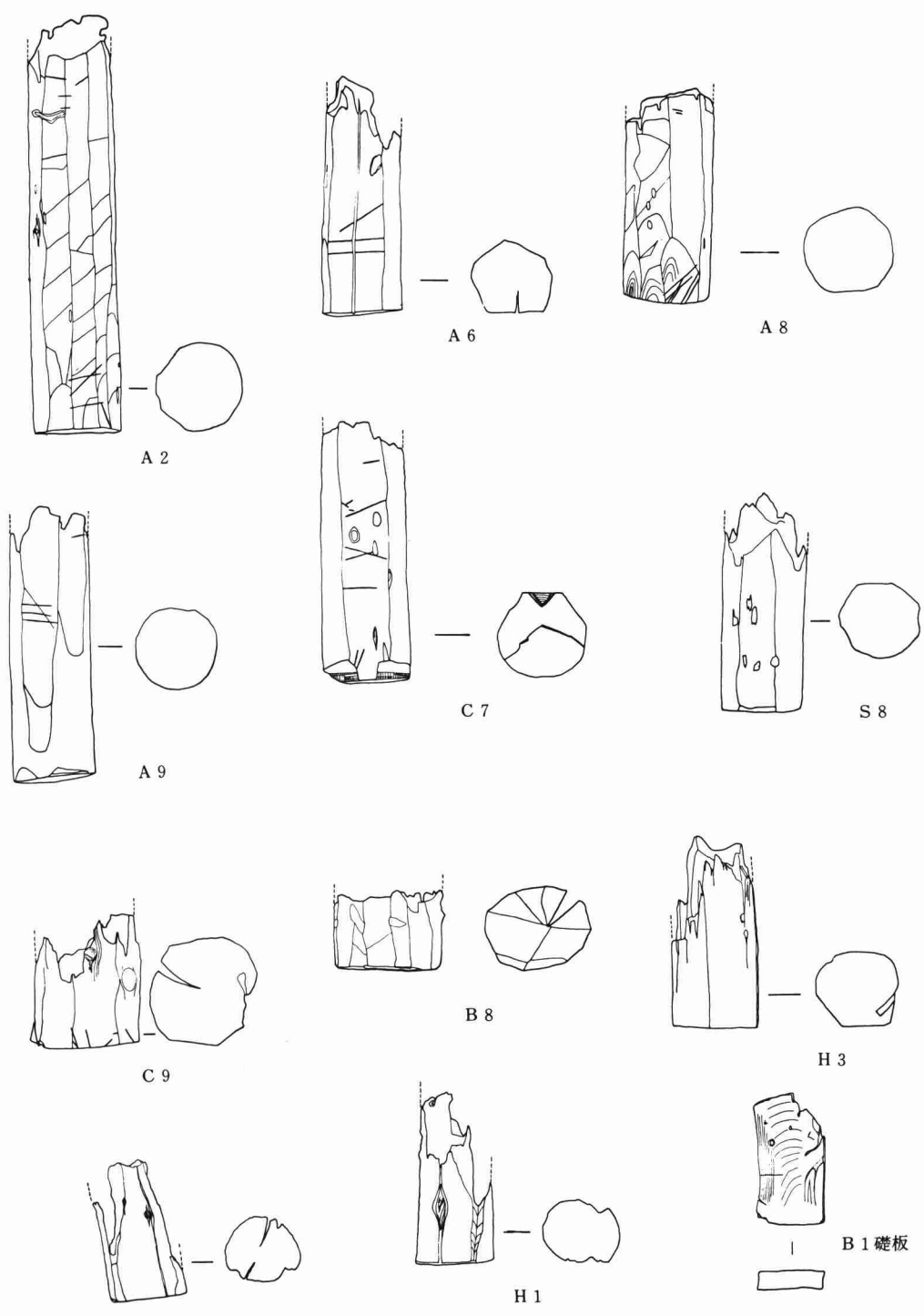
第29图 BH 36建物实测图



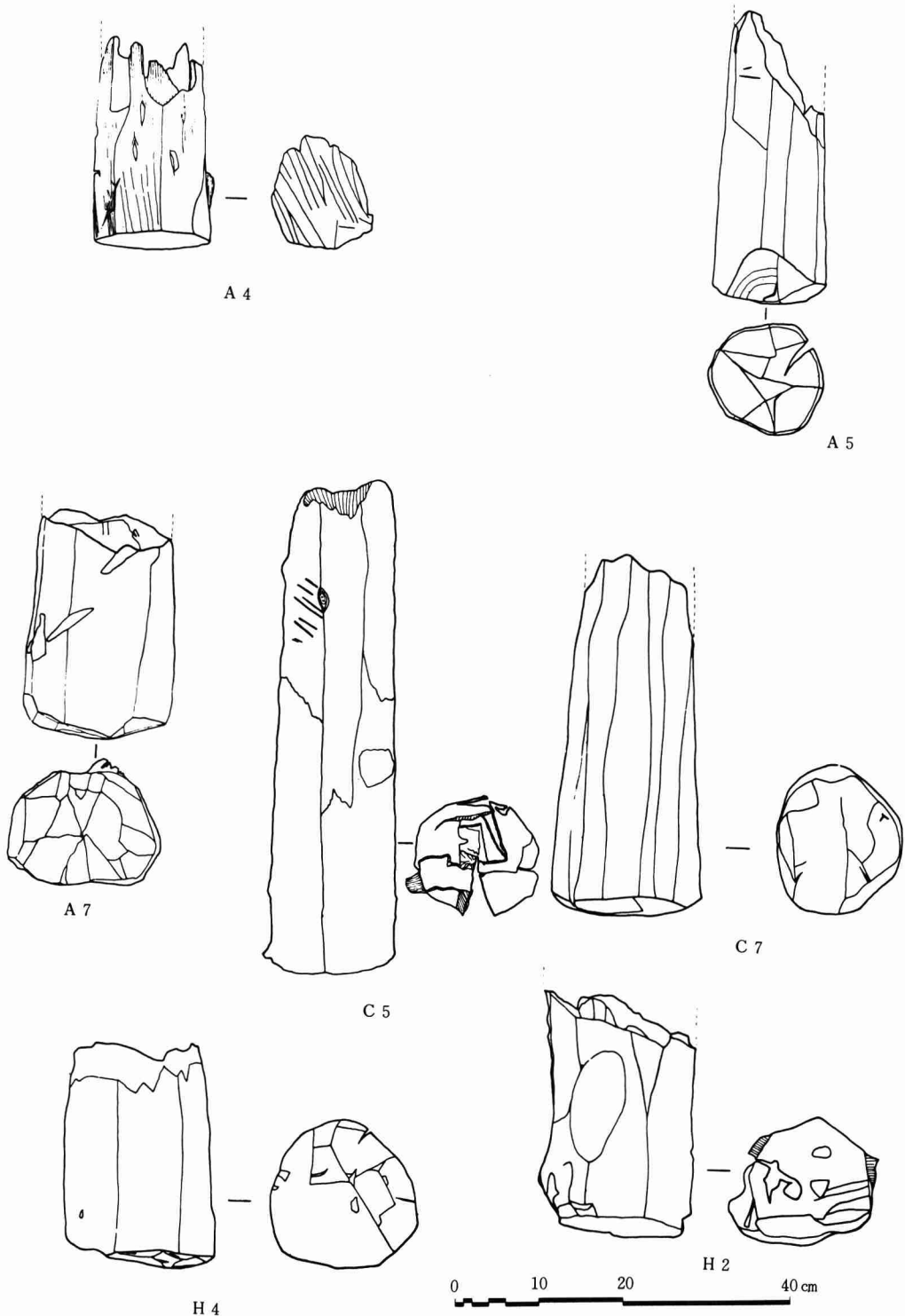
第30图 CA 30-2建物実測图



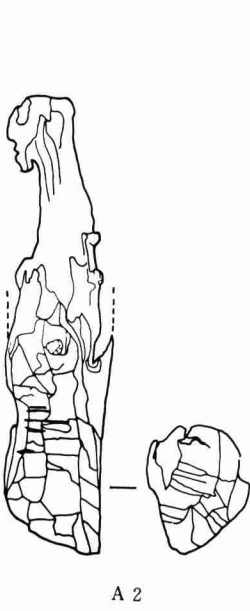
第31図 BH33建物柱根実測図



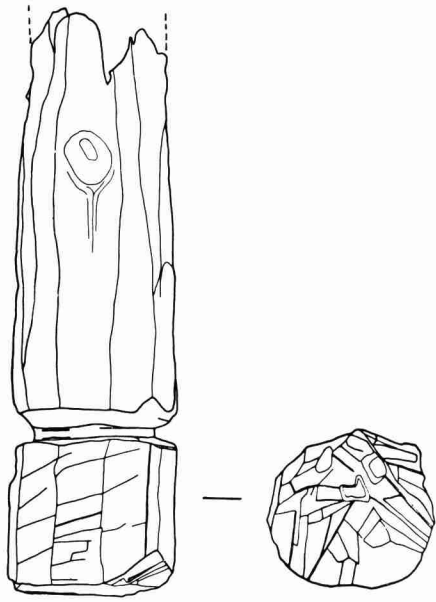
第32図 BH30建物柱根実測図



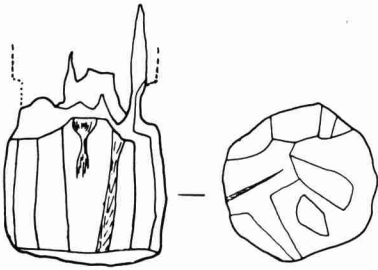
第33图 BH36建物柱根実測图



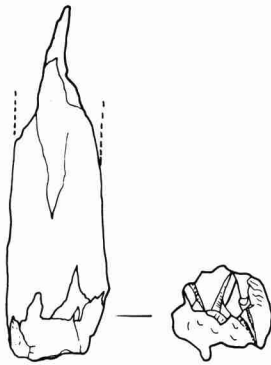
A 2



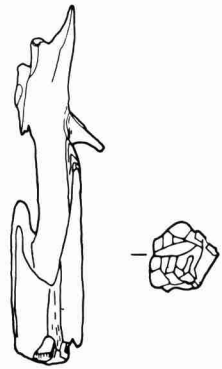
D 1



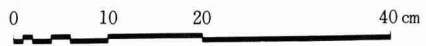
D 4



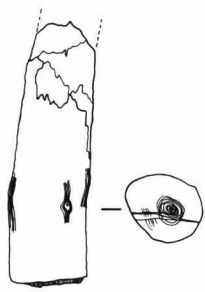
A 2



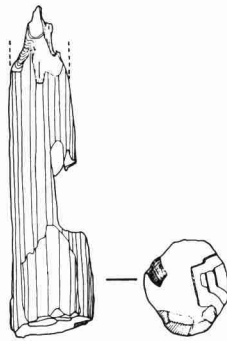
A 2 (北柱穴)



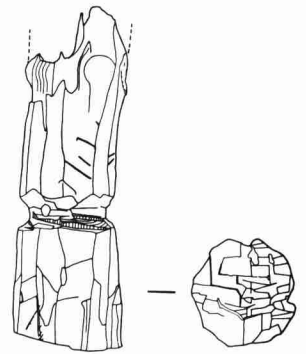
第34图 CC18建物柱根実測图



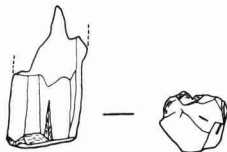
CA30-2 · D 1



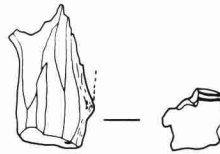
CE15 · C 1 (西)



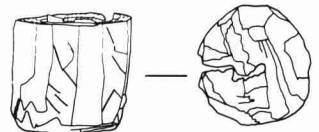
CE15 · E 1 (西)



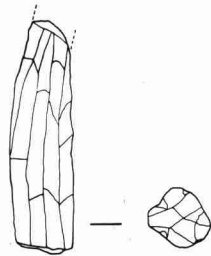
CE15 · D 2 (東)



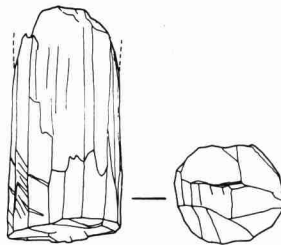
CE15 · D 2 (東)



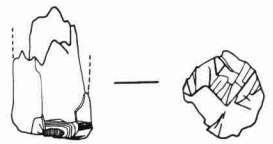
CE15 · F 3 (南)



Ci27



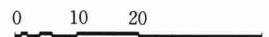
DB30 · A 1



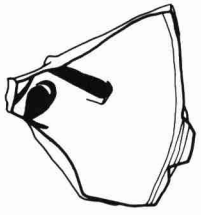
B区



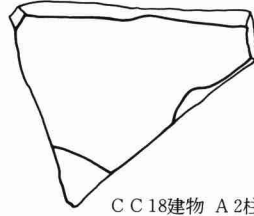
Db09



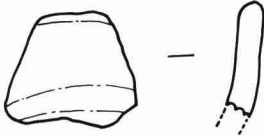
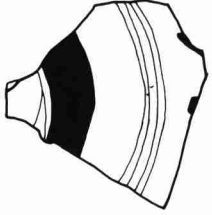
第35图 柱根实测图



Cj15柱穴出土青花皿片



C C 18建物 A 2柱穴出土
須恵質陶磁片



CE27建物 C3柱穴出土
瀬戸片



BH30建物 H2柱穴出土
須恵質陶磁片



刀子
(C区柱穴埋土)



刀子
(C区柱穴埋土)



釘
(C区柱穴埋土)



釘
(CI30建物 C3埋土)



釘
(BH30建物 B3埋土)



釘
(BH33建物 A3埋土)



釘
(BH33建物 A3埋土)



第36図 出土遺物実測図

图

版

しも 下 羽 場 遺 跡

写真1
下羽場遺跡全景



写真2
第1号住居跡

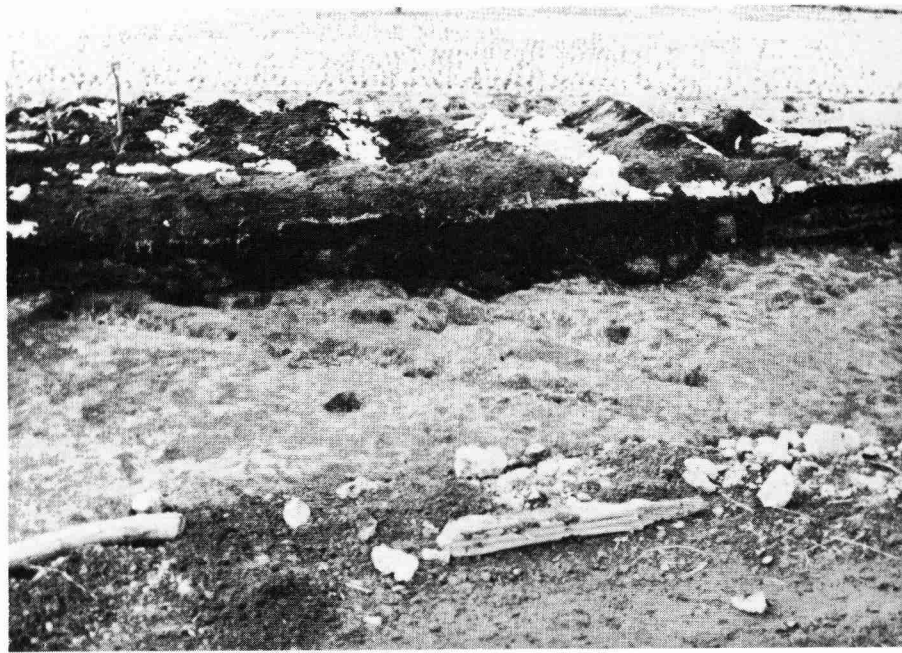


写真3
第1号住居跡内
東壁カマド部分

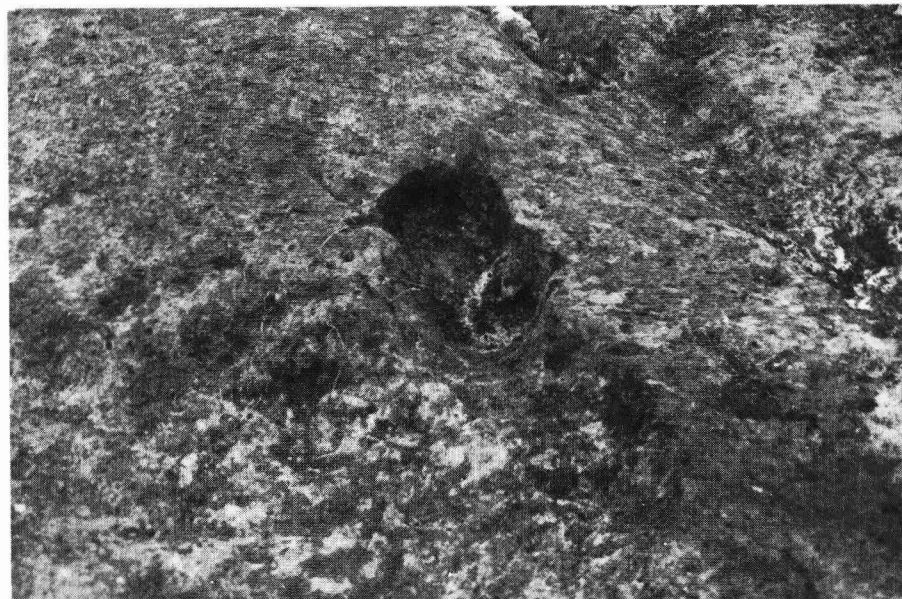




写真4
第1号住居跡ピット内
遺物出土状況



写真5
第2号住居跡



写真6
第2号住居跡
カマド部分焼土

写真7
第2号住居跡
カマド部分
(写真6の焼土除去後)



写真8
第3号住居跡

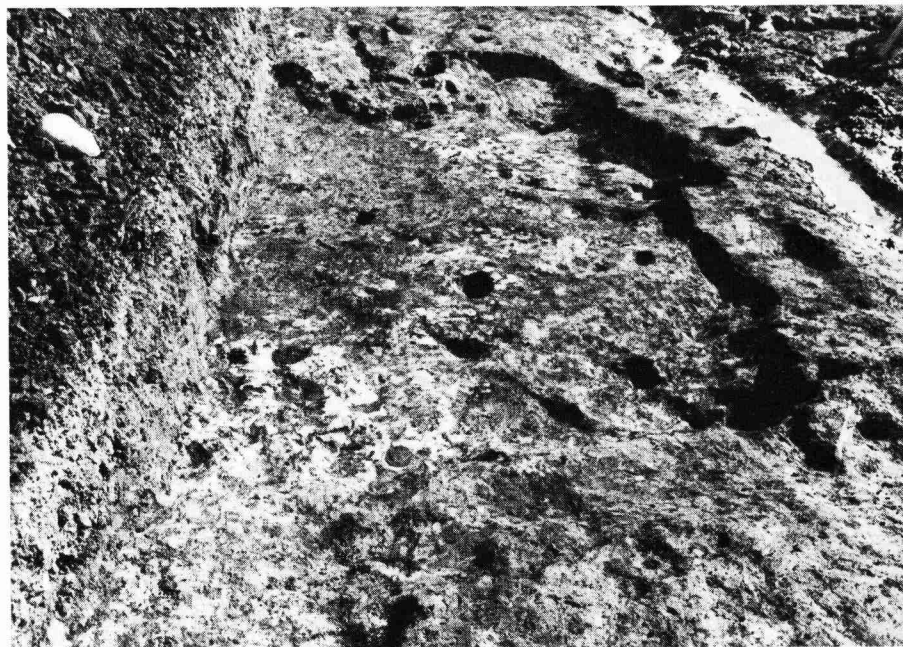
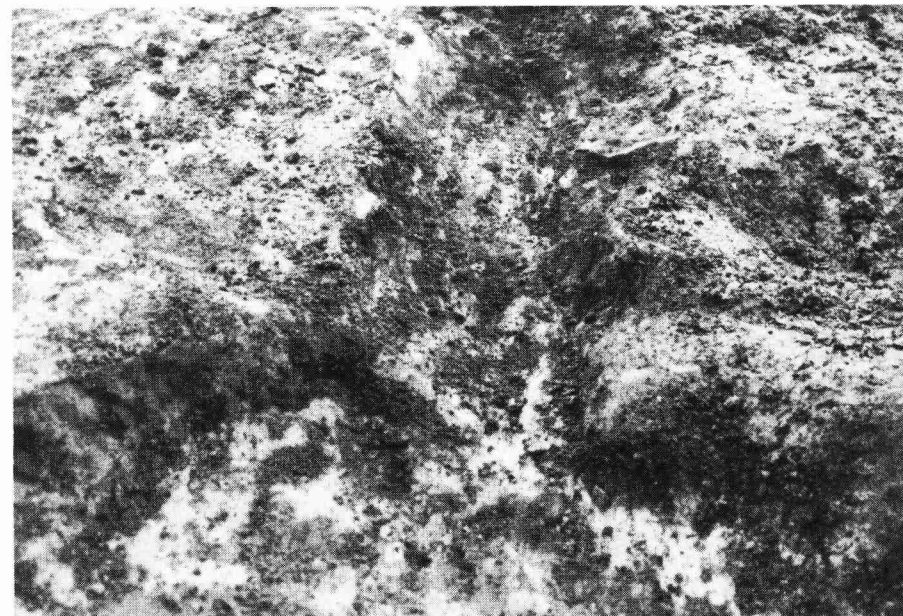


写真9
第3号住居跡
カマド



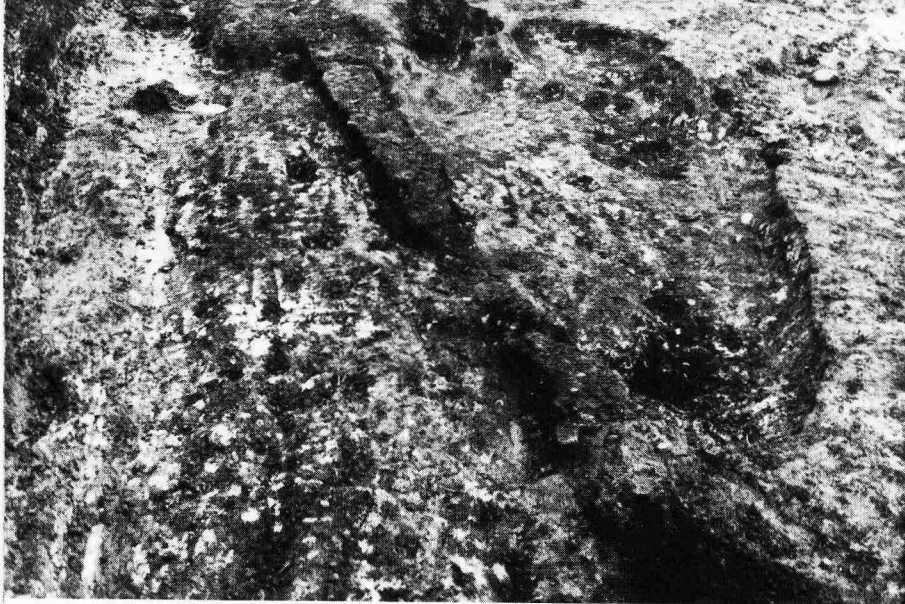


写真10
第4号住居跡

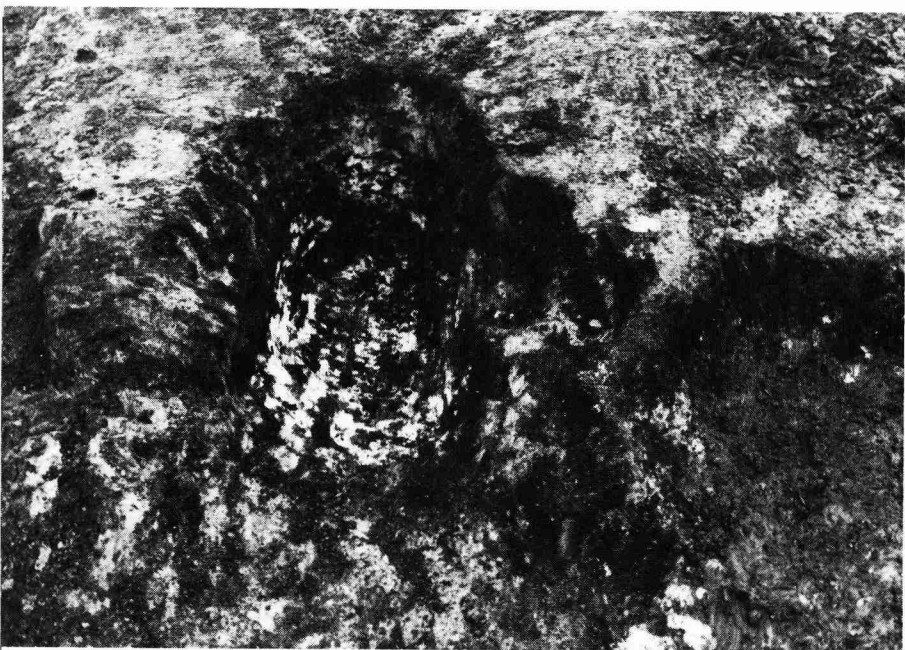


写真11
第4号住居跡
カマド部分



写真12
第4号住居跡
遺物出土状況

写真13 第4号住居跡
カマド周辺の遺物



写真14
第5号住居跡



写真15
第6号住居跡





写真16
第5号・第6号
住居跡の切合い

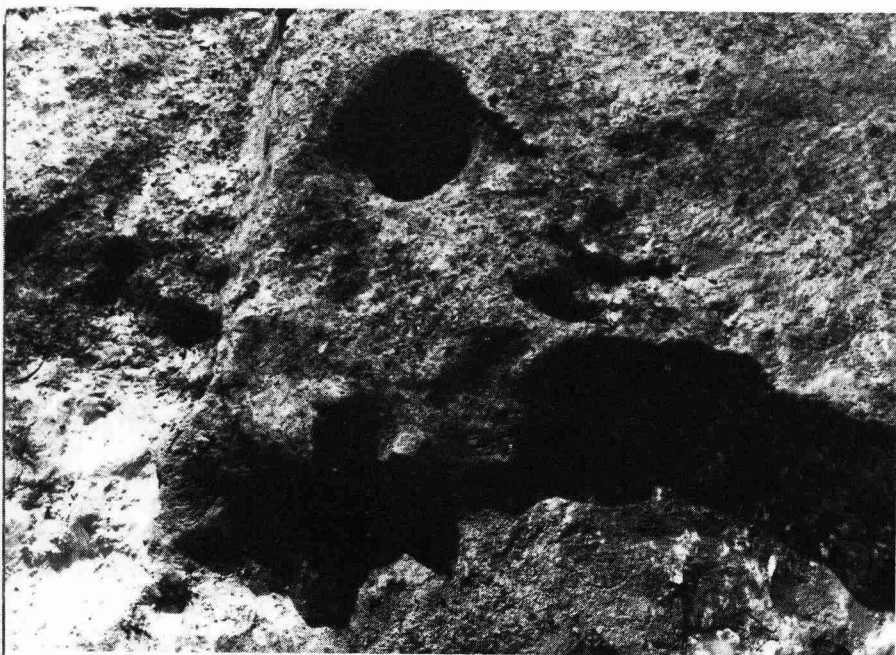


写真17
第5号住居跡南カマド



写真18
第6号住居跡東カマド
煙道部分

写真19 第6号住居跡
東カマド焼土部分



写真20 第6号住居跡
鉄製紡錘車出土状況

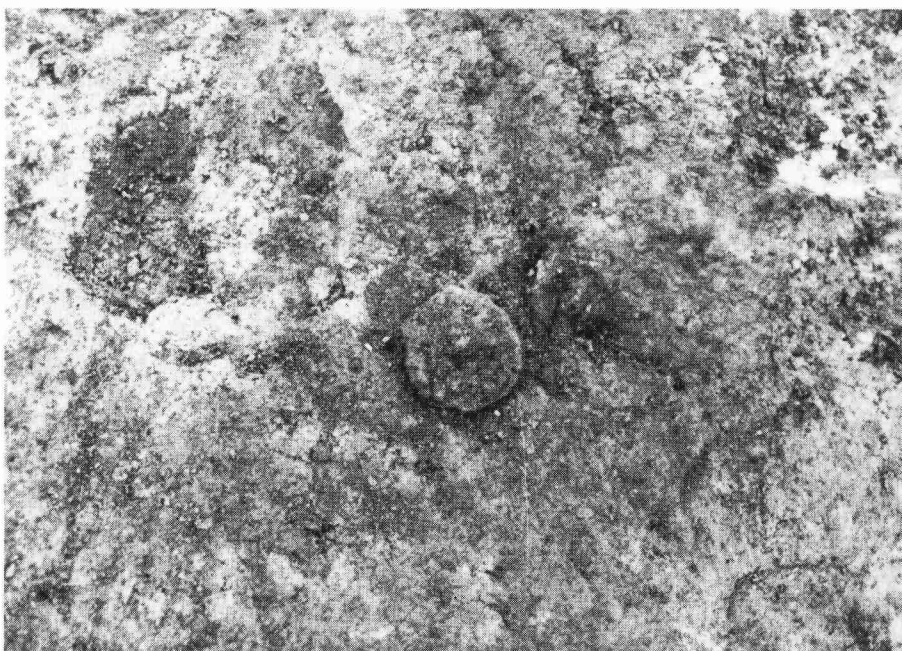


写真21
第7号住居跡





写真22 第7号住居跡
カマド煙道部分

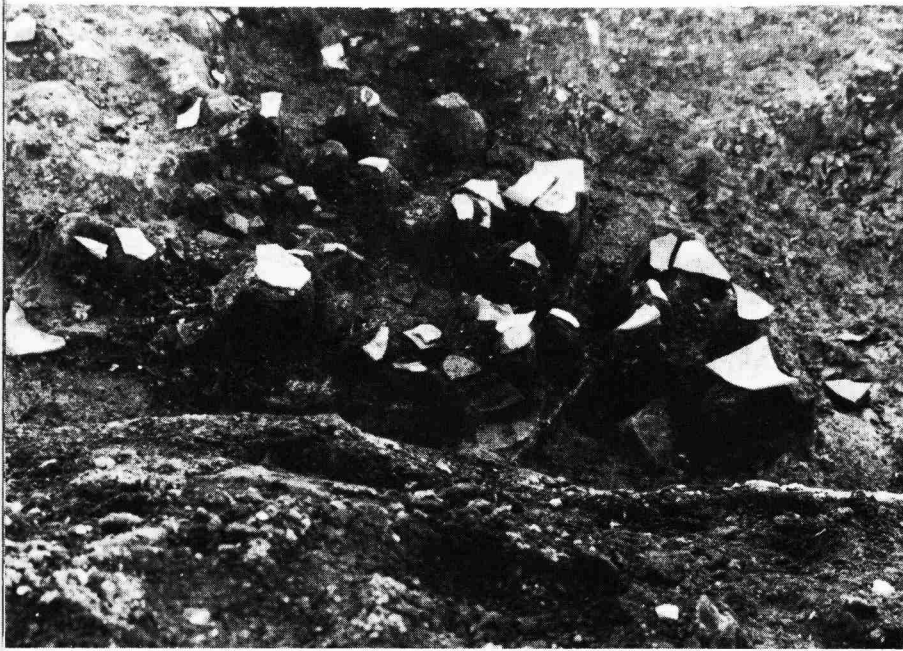


写真23 第7号住居跡
遺物出土状況



写真24 上同

写真25
第8号住居跡



写真26
第8号住居跡
カマド焚口・煙道部分

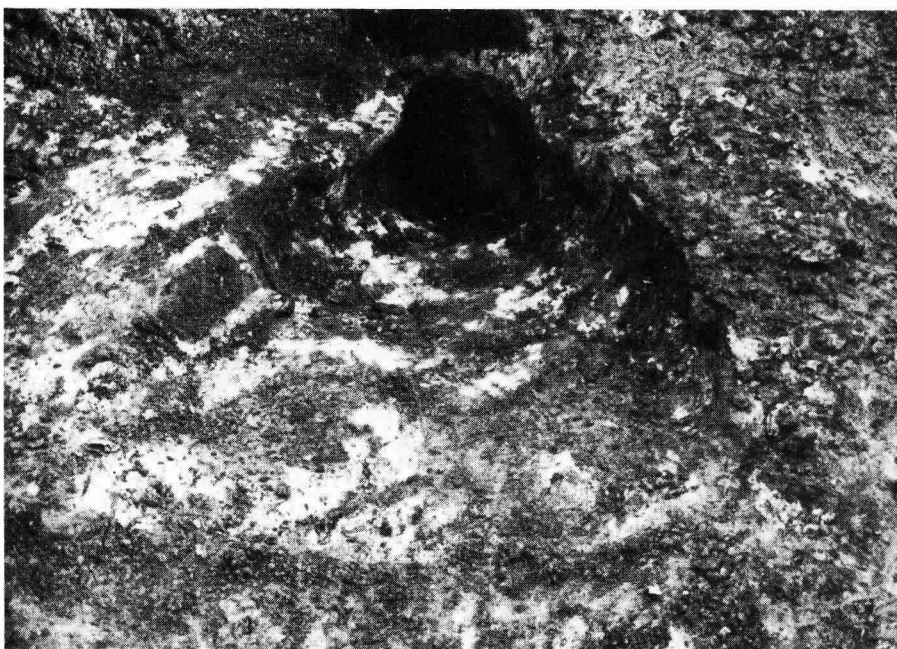


写真27
第8号住居跡
遺物出土状況





写真28

第8号住居跡

鉄製紡錘車出土状況

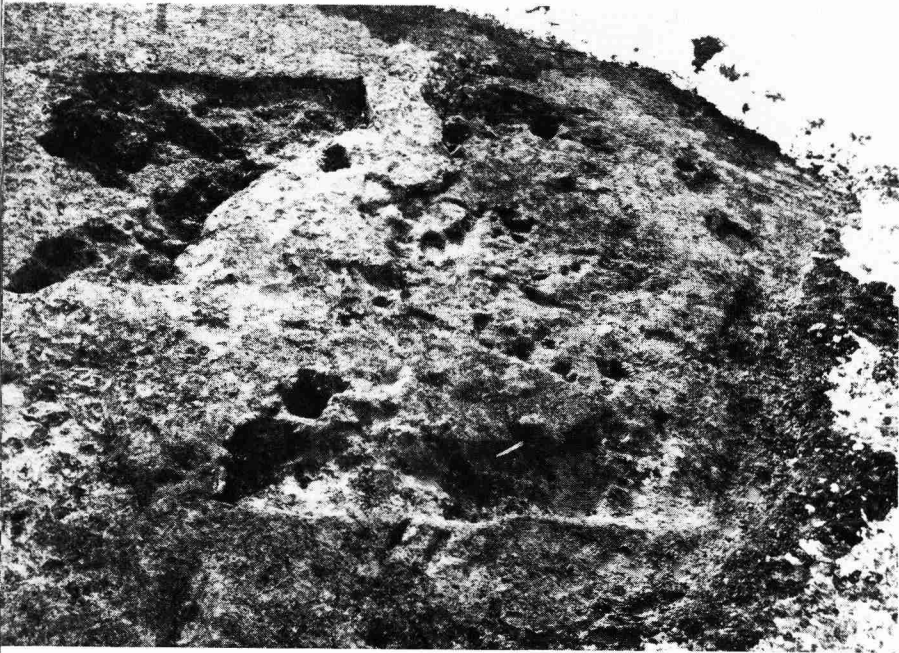


写真29

第9号住居跡



写真30

第10号住居跡

写真31
第10号住居跡
カマド焚口・煙道部分



写真32
第10号住居跡
須恵器坏出土状況



写真33
第11号住居跡





写真34
第11号住居跡
カマド焚口・煙道部分



写真35
第12号住居跡



写真36
第12号住居跡
カマド焚口・煙道部分

写真37
第12号住居跡
遺物出土状況



写真38
第13号住居跡

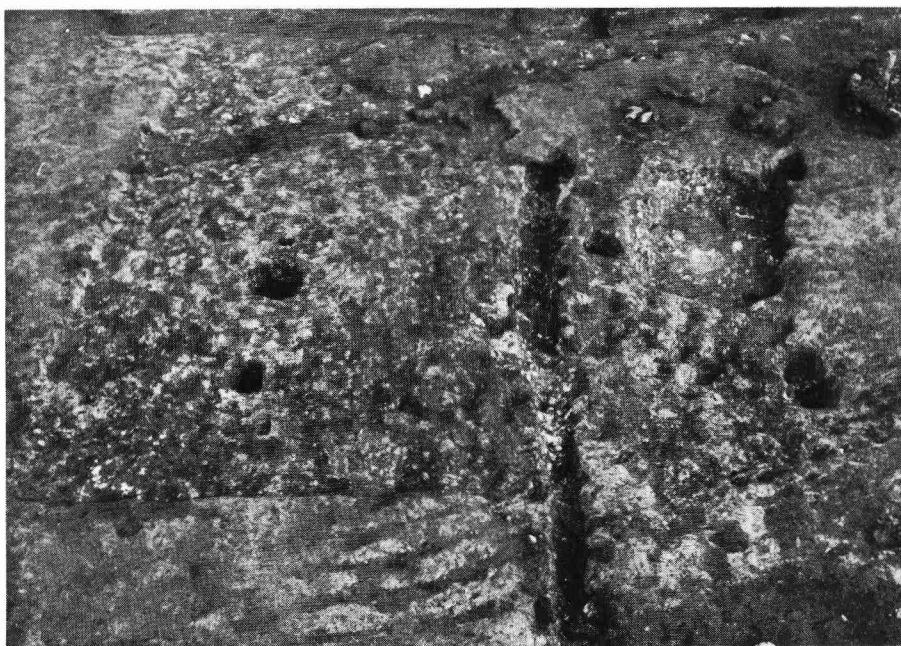


写真39
第13号住居跡
遺物出土状況





写真40
第14号住居跡

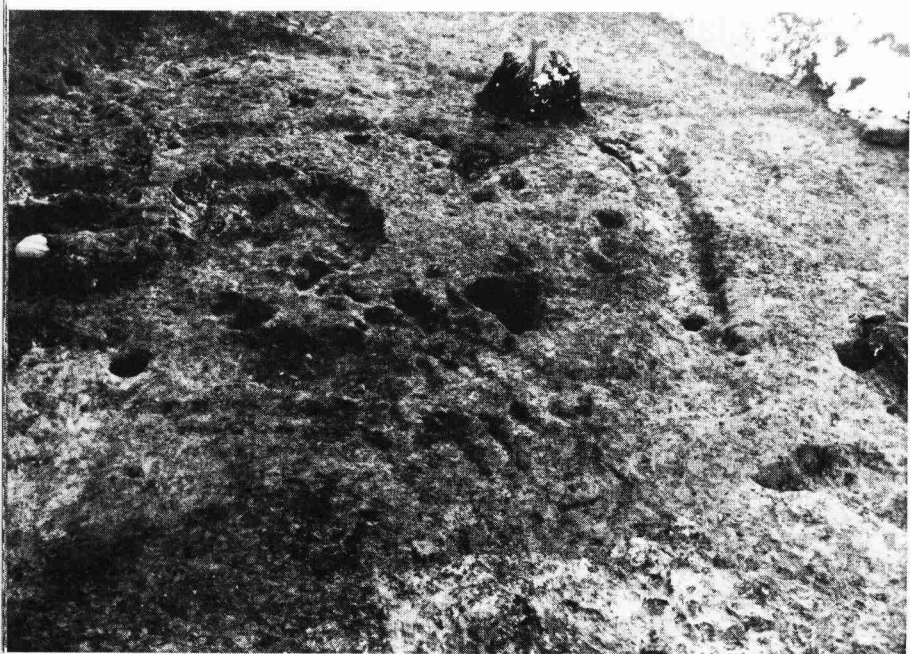


写真41
第16号住居跡



写真42
第16号住居跡
カマド焚口・煙道部分

写真43
第17号住居跡



写真44
第17号住居跡
炭化材一部

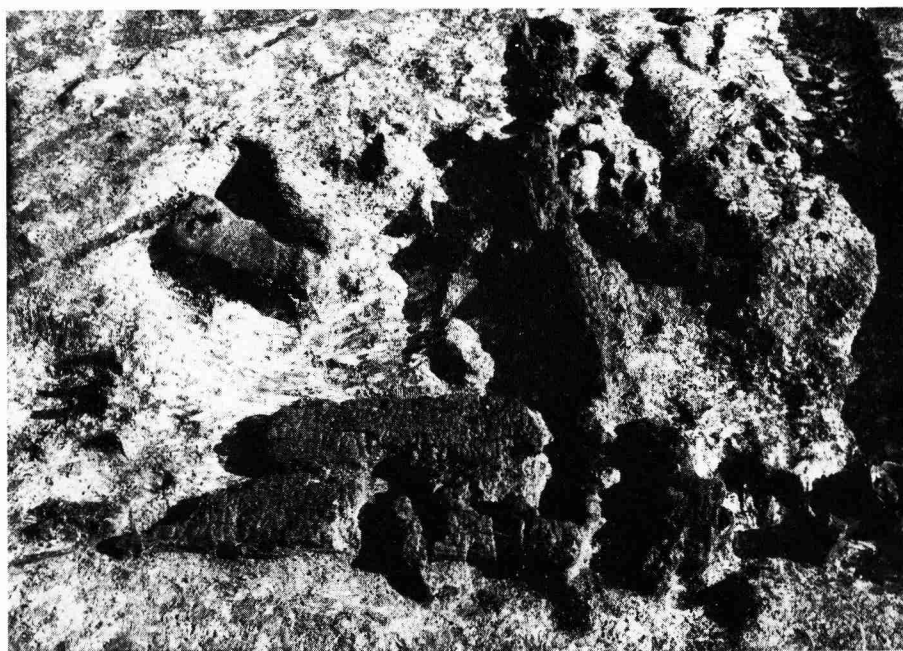


写真45
第17号住居跡
炭化材除去後





写真46

第17号住居跡

炭化材除去後の

遺物の様子



写真47

第22号住居跡



写真48

第23号住居跡

写真49
第23号住居跡
焼土除去後

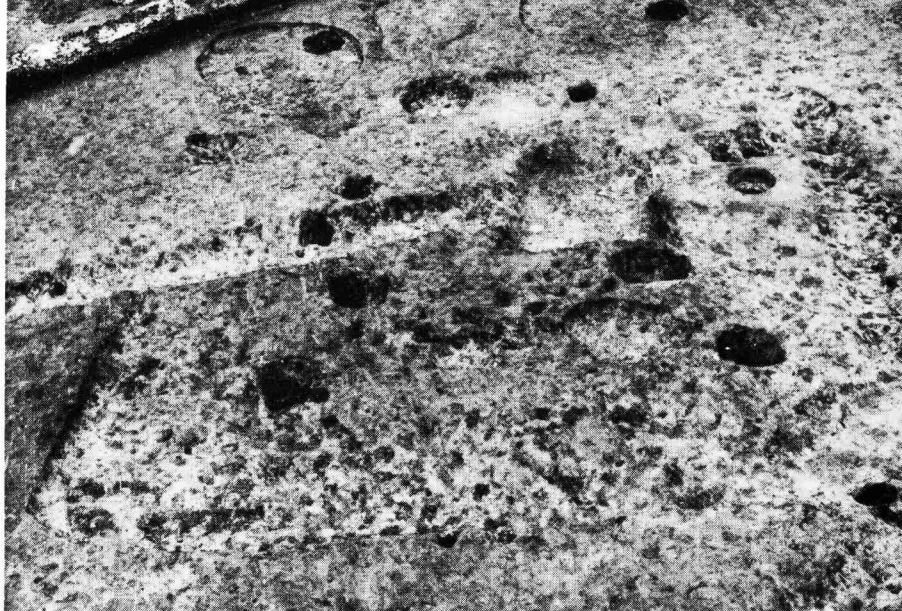


写真50
第23号住居跡内
焼土部分

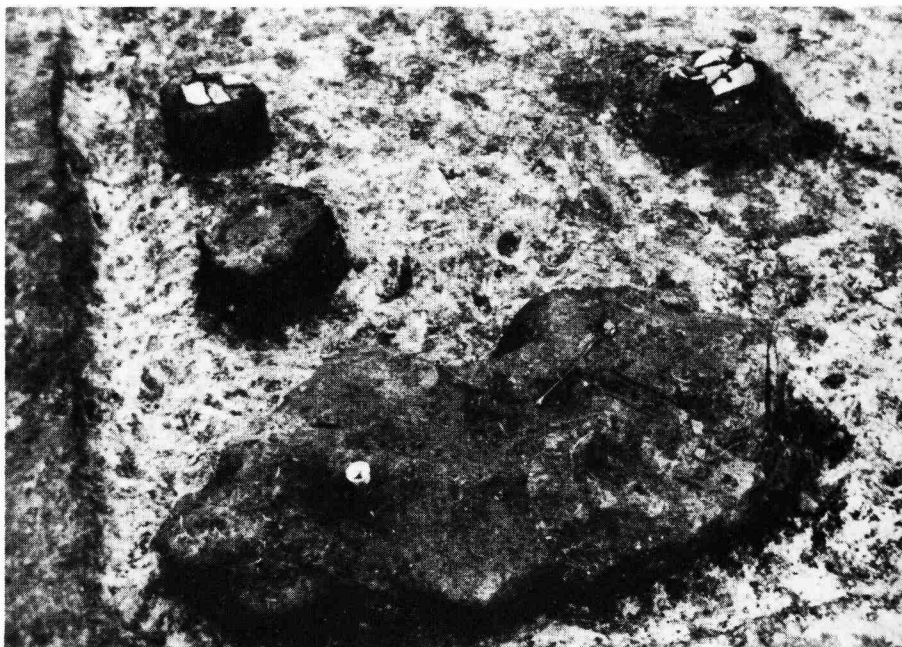


写真51
第1号竪穴状遺構

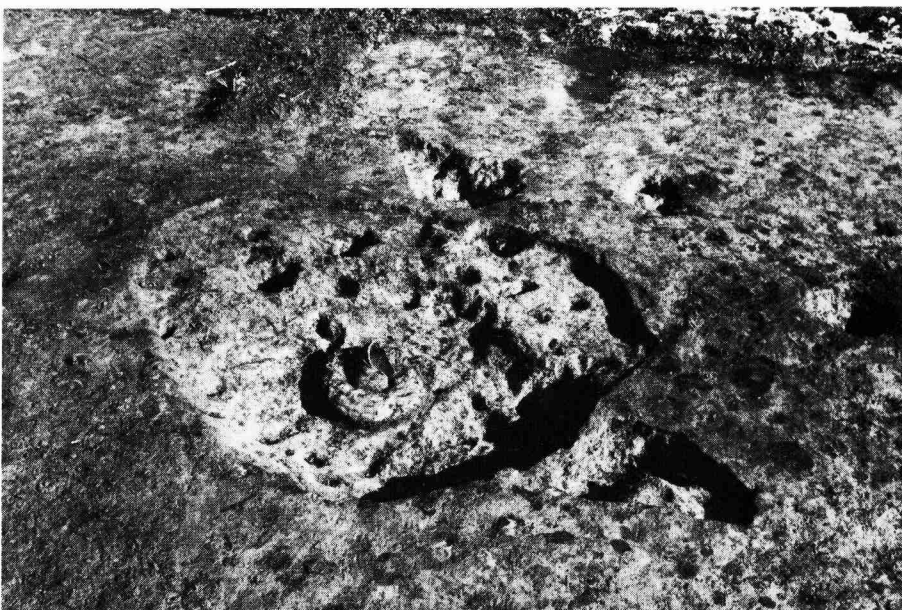




写真52

第1号竪穴状遺構
遺物出土状況

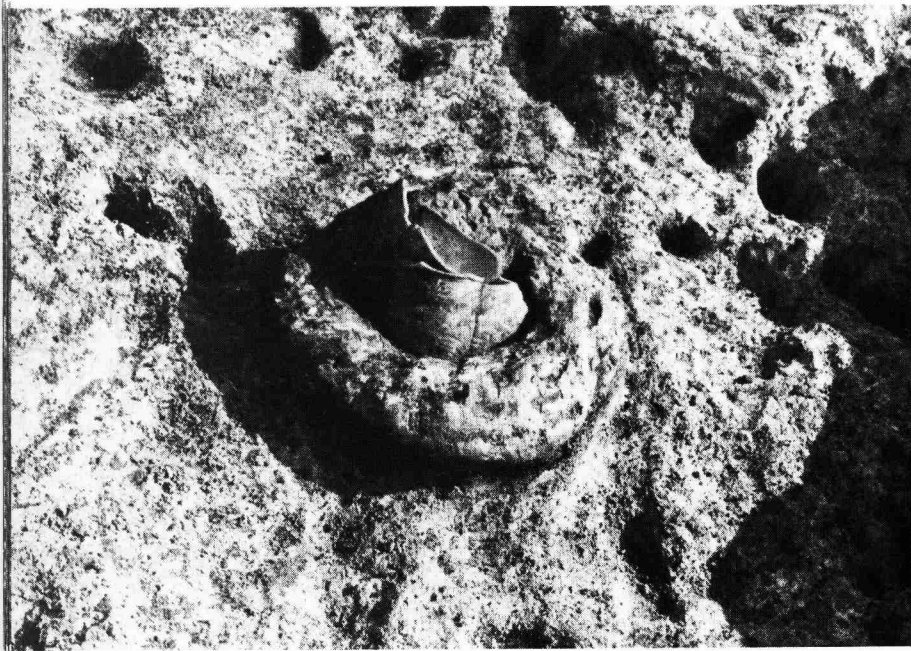


写真53

第1号竪穴状遺構

粘土に囲まれた遺物

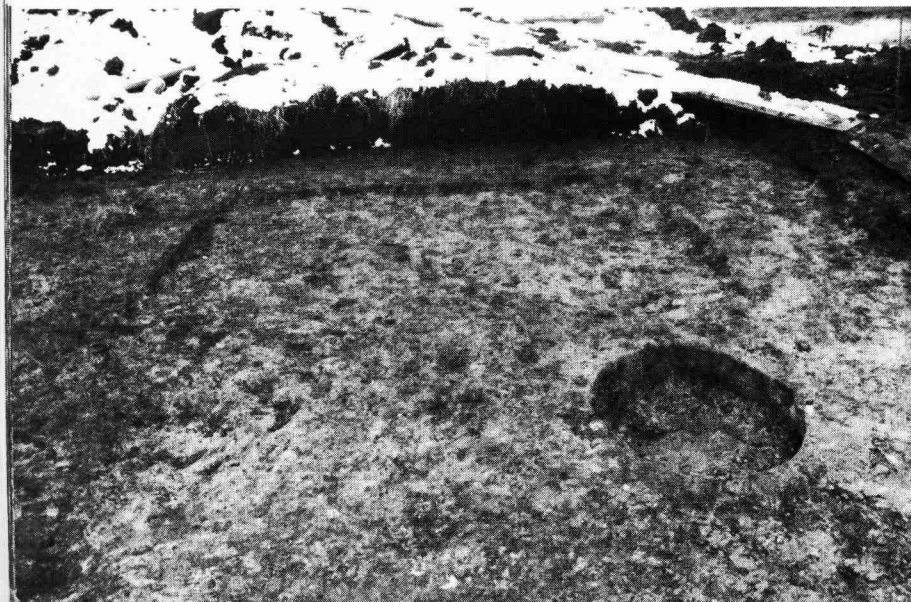


写真54

第19号竪穴住居跡

写真55
第21号豎穴住居跡

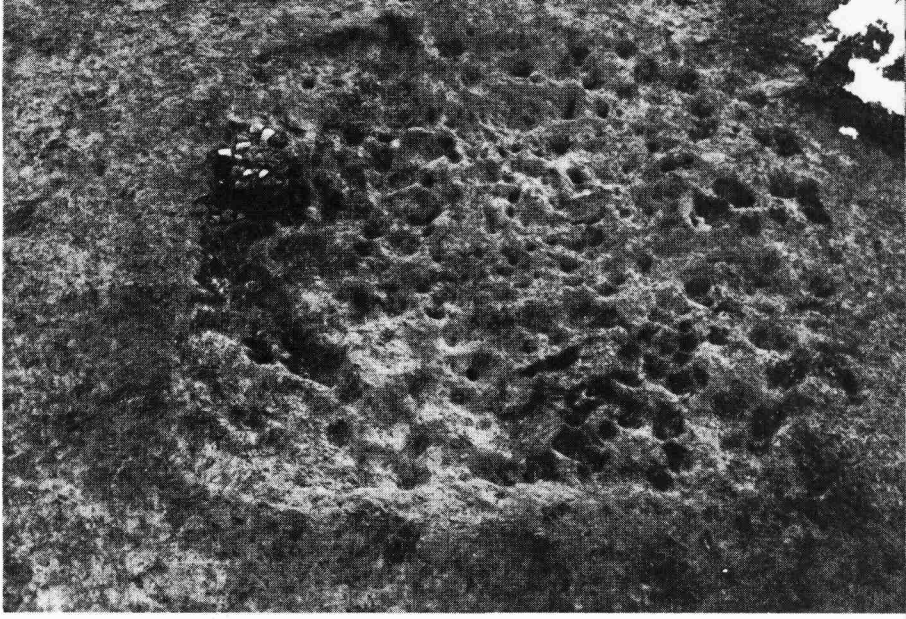
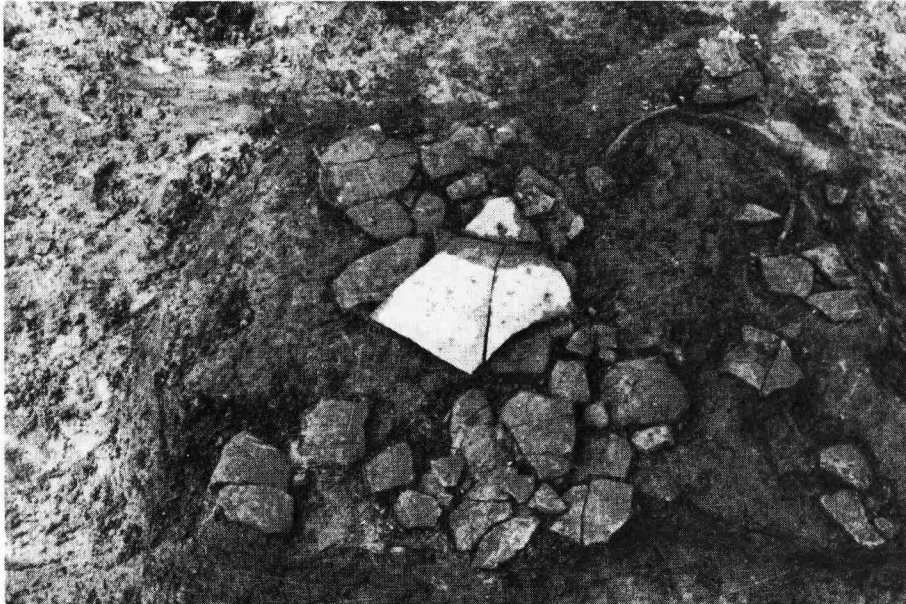


写真56
第21号住居跡内
遺物出土状況(焼土上)



写真57 上同



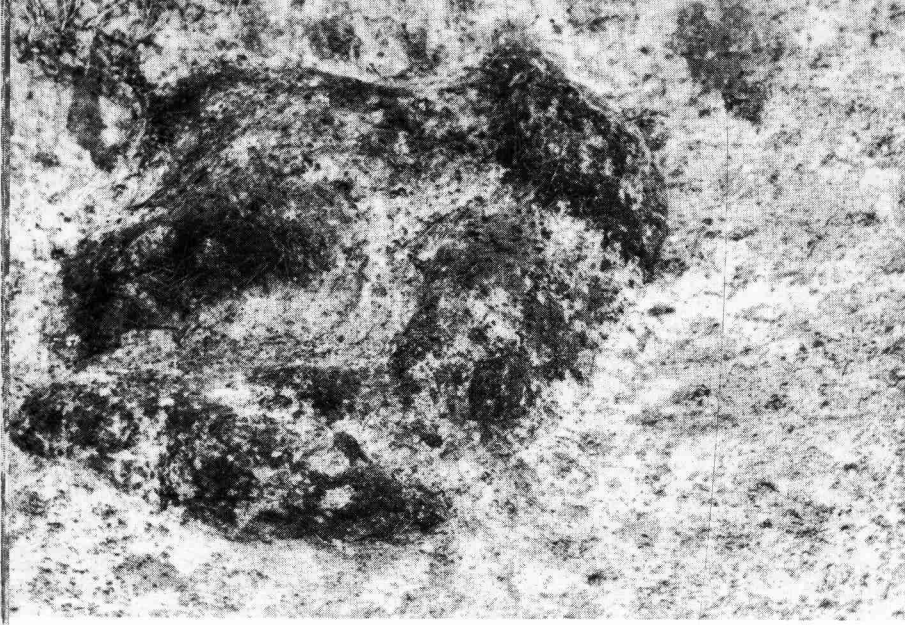


写真58
第12号ピット



写真59
第5号ピット
遺物出土状況

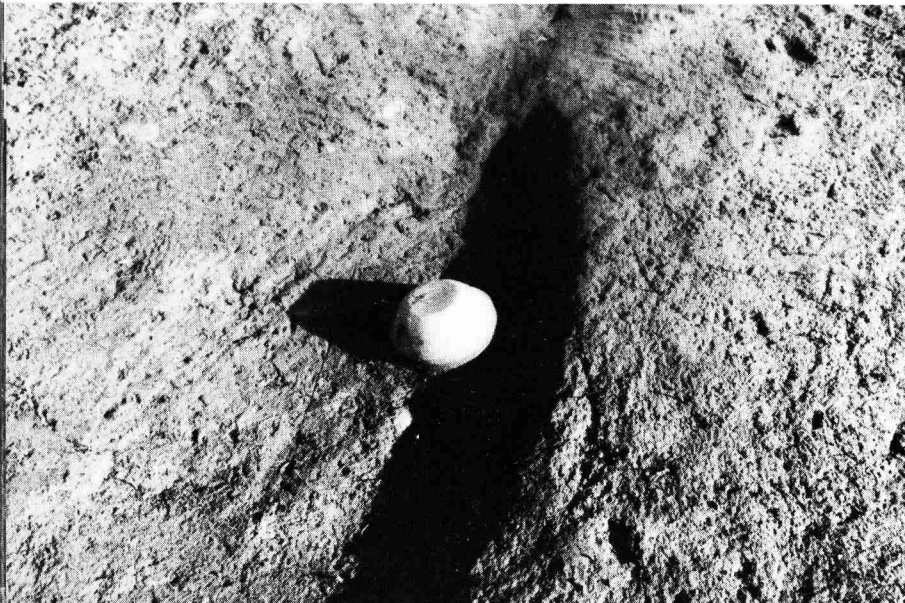


写真60 上同

写真61
第1号焼土遺構
遺物出土状況



写真62 上同
遺物除去後の粘土部分

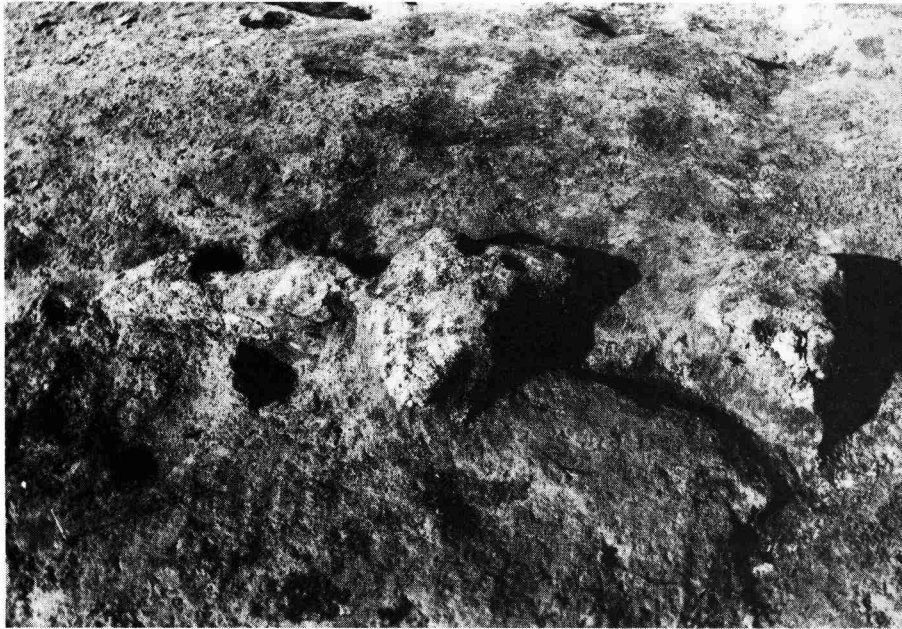


写真63
第10号焼土遺構



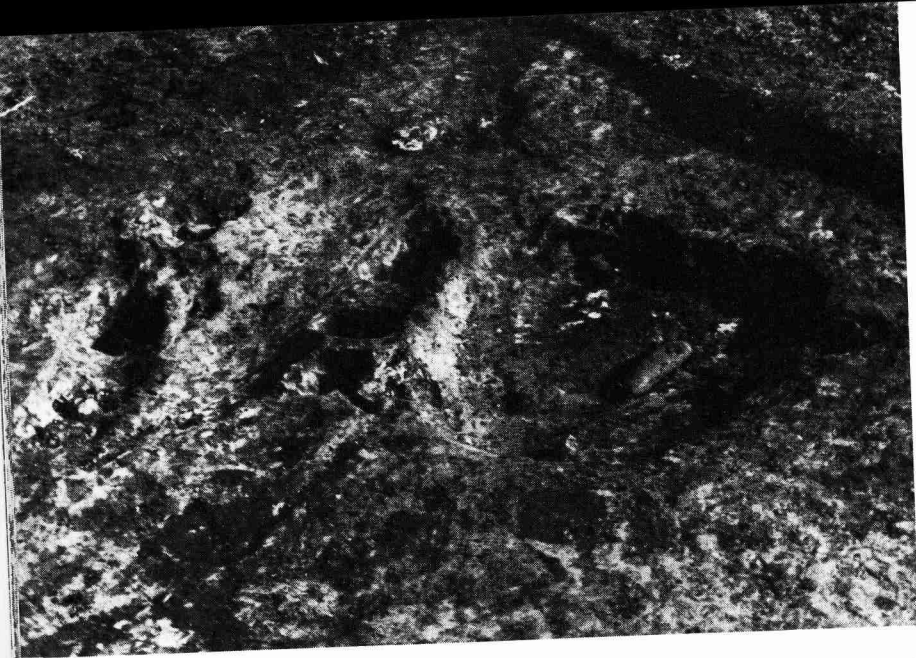


写真64
第9号ピット



写真65
Bf65焼土遺構断面



写真66
第6号溝（南側から）

写真67
第10号溝 (北側より)



写真68
手前が第10号溝
中央部第8号溝
第23号住居跡にかかる



写真69
第10号溝と
第12号住居跡
(西側から)

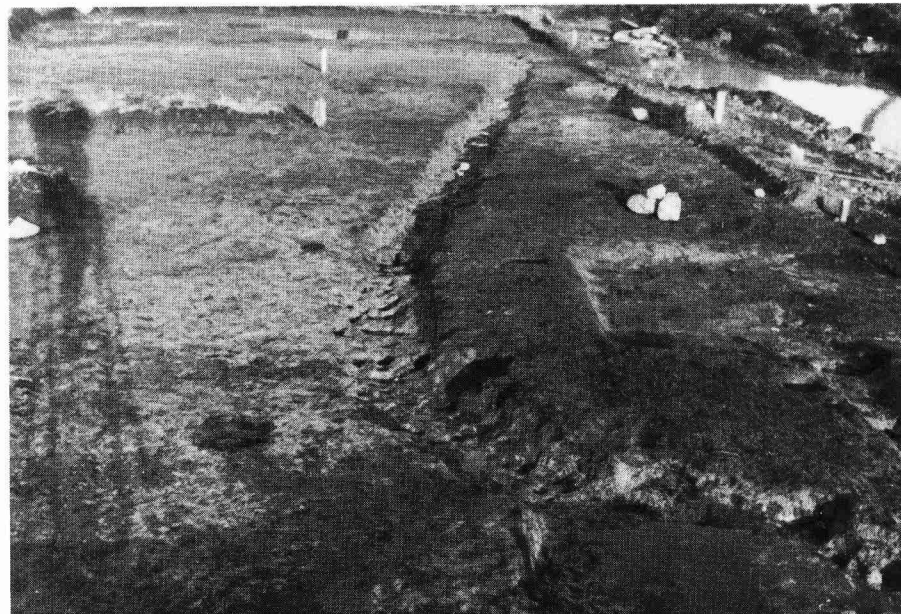




写真70

第4・5号溝

中間は15号住居跡



写真71

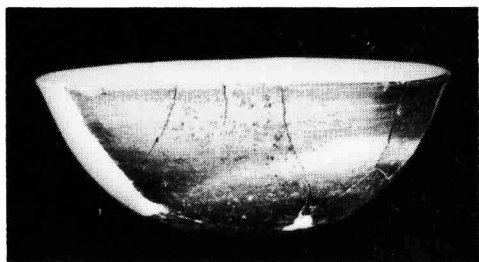
現地説明会

S51年12月3日PM2:00

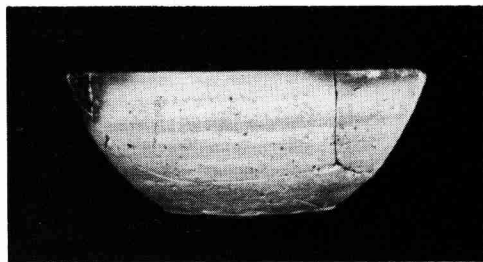
17号住居跡付近にて



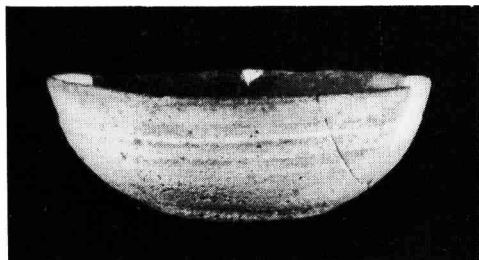
写真72 発掘風景



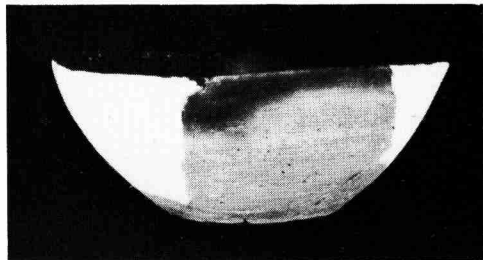
No.1 C-b-4-ホ



No.6 C-b-1



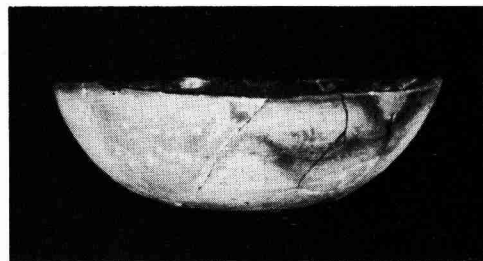
No.2 C-不明



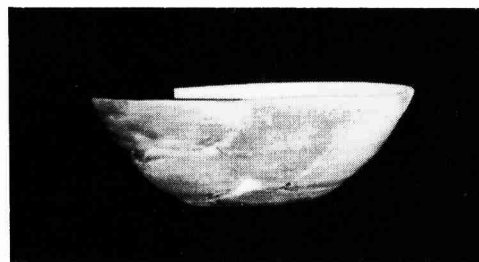
No.7 C-b-1



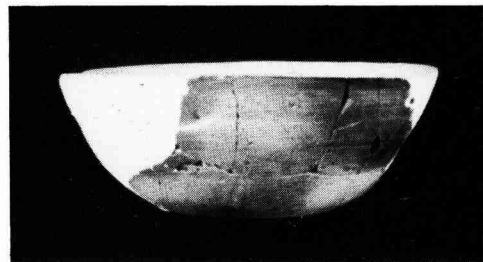
No.3 C-b-3-口



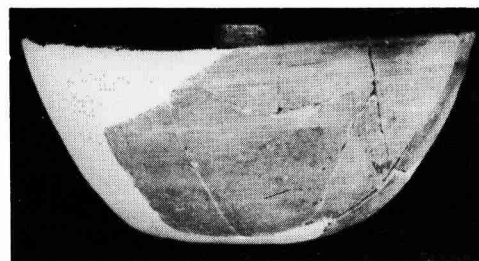
No.8 C-b-2-口



No.4 C-b-3-口



No.9 C-b-4-2



No.5 C-b-1



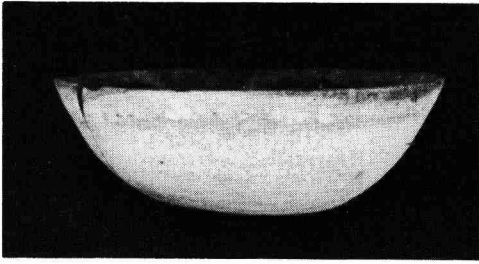
No.10 C-b-4-2

1~2 : 第6号住居跡出土

5~10 : 第13号住居跡出土

3~4 : 第15号住居跡出土

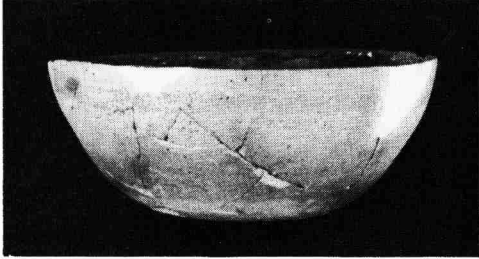
Scale 1/3



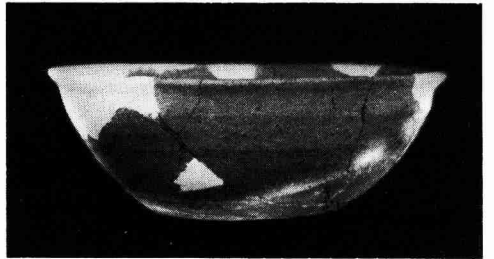
No.11 C-b-3・4-ホ



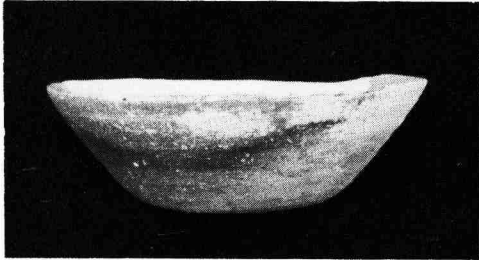
No.16 B-不明



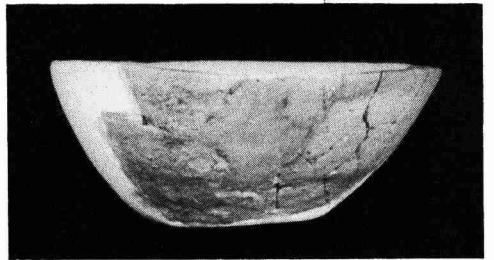
No.12 C-b-4-二



No.17 C-b-1



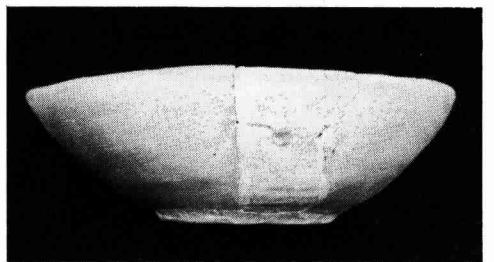
No.13 C-A-b-1



No.18 C-不明



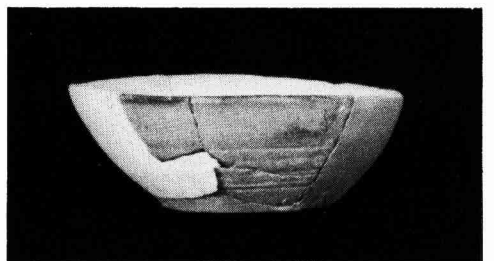
No.14 A-不明



No.19 B-b-1

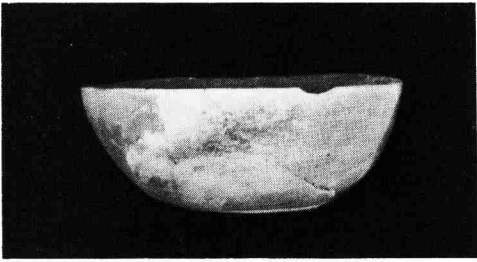


No.15 B-b-1



No.20 C-b-1

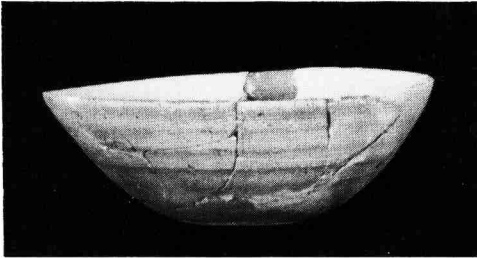
11~16: 第13号住居跡出土 18~19: 第16号住居跡出土
17: 第17号住居跡出土 20: 第2号住居跡出土 Scale 1/3



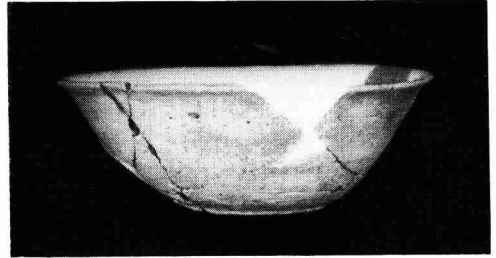
No.21 B-b-1



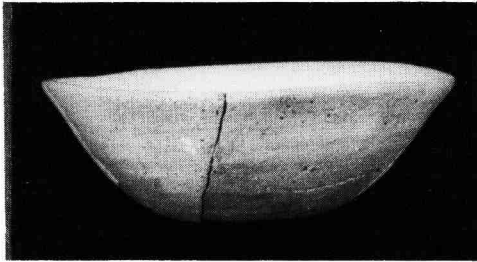
No.26 B-b-1



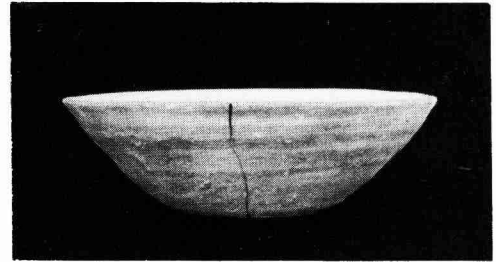
No.22 B-b-1



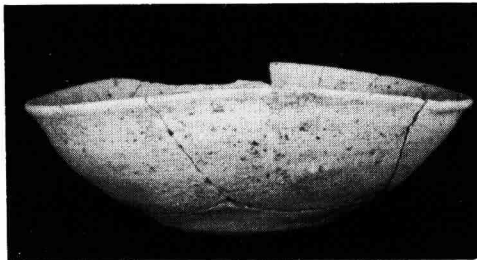
No.27 B-b-1



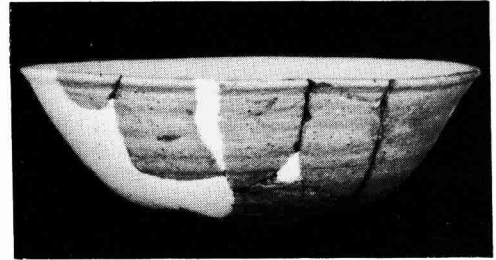
No.23 B-b-1



No.28 A-b-1



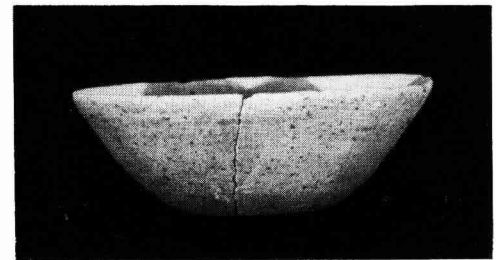
No.24 B-b-1



No.29 B-b-1

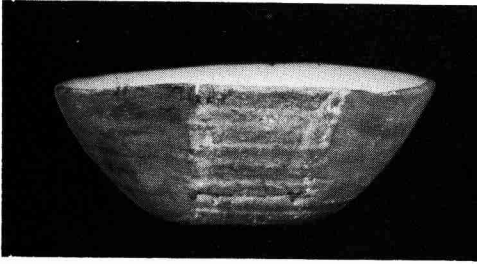


No.25 A-b-1

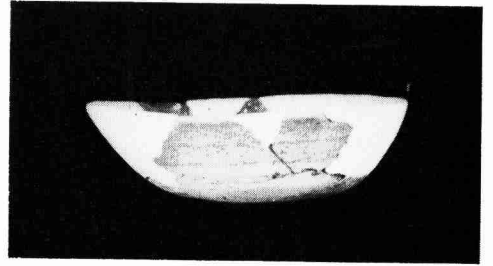


No.30 B-b-1

21：第2号住居跡出土 25～27：第19号住居跡出土
22～24：第4号住居跡出土 28～30：第7号住居跡出土 Scale1/3



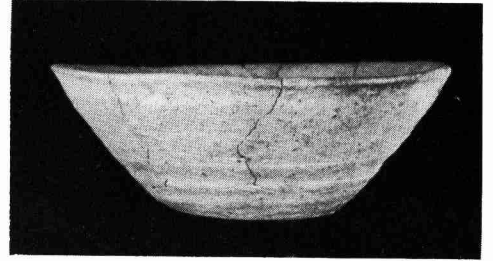
No.31 A-b-1



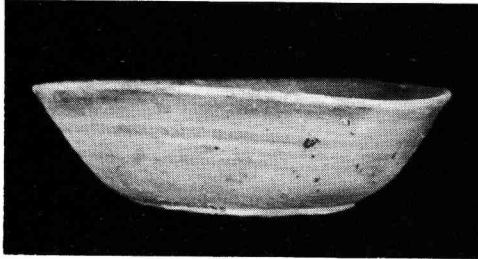
No.36 A-a-1



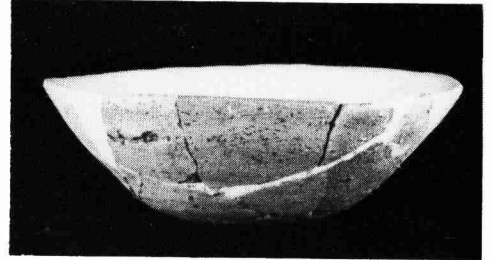
No.32 B-b-1



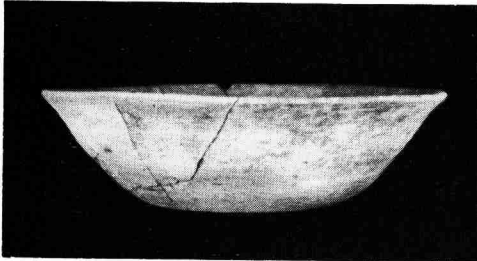
No.37 B-b-1



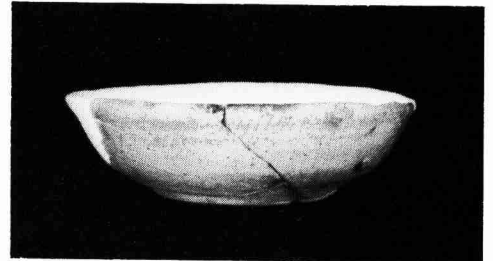
No.33 A-b-1



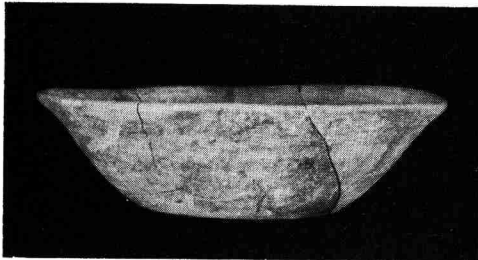
No.38 B-b-1



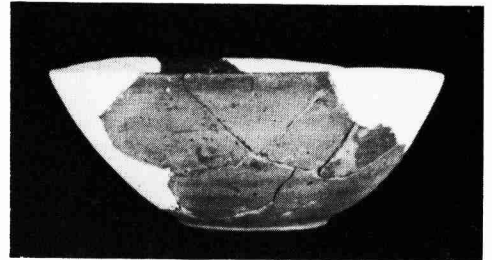
No.34 A-a-1



No.39 B-b-1



No.35 A-a-1



No.40 C-b-1

31：第21号住居跡出土

37：第1号住居跡出土

40：第1号烧土遺構出土

32：第5号住居跡出土

38：第9号住居跡出土

33~36：第10号住居跡出土

39：第1号豎穴状出土

Scale 1/3